

病院年報

第25卷「2015」



中村正義 夕陽 1949 豊橋市民病院蔵

「病院年報」

表紙題字 名譽院長 故 森 泰 樹

序



院長 加藤 岳 人

我が国では、超高齢社会となる2025年に向けて医療の制度設計の見直しが行われ、病院経営は強い逆風にさらされています。2年ごとの診療報酬改定のたびに医業収益は厳しさを増し、日常臨床業務はさまざまな制約を受け、医療人材不足に苦しみ、いっそう質の高いレベルの医療安全に迫られています。

このような状況の中、当院は職員一同の努力により安定した経営状況にあり、2015年度は過去最高の医業収支を達成し、5年連続の黒字決算となりました。当院の経営の健全性、従来からの地域医療への貢献が評価され、2016年度自治体立優良病院受賞の榮譽に浴することができました。

医療機能の面では、これまで当院の行ってきたレベルの高さが評価され、2016年4月にDPC II群病院に選定されました。この位置づけは、大学病院と同等の高い診療密度を持つ病院であることを意味し、地域に誇ることのできる評価を得たこととなります。

さて、2015年のトピックスとして、新しく設置した入院支援センターがあります。ここは、入院業務を集約して行う部門で、それまで各外来で行っていた入院手続きを一カ所で行うことで患者さんの利便性を高めるとともに、持参薬のチェックやクリニカルパスの説明を行うなど、外来や病棟での看護業務の一部を担います。このようなセンターの設置は県内でもまだ少なく、患者サービスだけでなくスタッフの負担軽減に大いに役立っています。

2016年秋には、念願の高度放射線棟が竣工しました。今回、2台の最新式放射線治療機器に加え、検査機器としてPET-CT、SPECT-CTを設置してまいりました。放射線診療の拠点となるべく、当院の新たな進化の出発点にしたいと思っています。

さてこの年報は、当院各部署の1年間の活動内容や業績を整理したものです。以上述べたような当院の医療の質の一端を感じ取っていただければ幸いです。職員の皆さんには年報に示された成績をもとに1年間を振り返り、今後の抱負や目標達成に向け改善に取り組んでいただきたいと思っています。

最後に、忙しい日々の業務の傍ら、多くの部署の膨大な業績をまとめ、この年報を作成するために尽力して頂いた各部門の皆さんと医療情報課を中心とする編集委員の皆さんに深く感謝し、巻頭の挨拶とします。

豊橋市民病院の理念

信頼に応える技術、人に優しい思いやりのある心、
地域に開かれた安らぎのある病院

豊橋市民病院の基本方針

1. 地域に開かれた信頼のある病院、患者に優しい思いやりのある医療を目指します。
2. 地域の基幹病院としてふさわしい高度な医療を提供するとともに、特殊医療、救急医療等を積極的に受け持ちます。
3. 基幹病院としての役割を担いながら、他の医療機関との間の有機的な連携のもとに当院の行うべき医療活動を推進します。
4. 医学及び医療技術の研鑽に努めるとともに、医学・医療の進歩に寄与します。
5. 研修医、医学部学生、看護学生、コメディカル、救急救命士などの教育を積極的に行います。
6. 地域住民の保健知識の普及に努め、健康増進活動に参加します。
7. 公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます。
8. 安全医療の推進に努めます。

患者の権利と責任

豊橋市民病院は、十分に説明され、理解し納得した上での同意を基本姿勢として、患者さんと信頼関係で結ばれた医療を目指しています。ここに患者さんの権利と責任について明らかにし、病院と患者さんが協力して理想的な医療を行うために以下のことを確認します。

1. 最善の医療を受ける権利

患者さんは、生命の尊重と人間愛に基づいた最善の医療を受ける権利を有します。

2. 知る権利

患者さんは、病名、病状、予後、検査と治療の内容と危険性、薬の効果と副作用などについて十分に理解できるまで説明を受けることができます。医師は、薬の治験など、研究途上にある医療行為を行う場合には事前に患者さんに説明をする義務があります。患者さんは、治療に要する見込みの費用や、要した費用の明細について説明を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によりご家族、代理の方に説明することがあります。

3. 自己決定の権利

患者さんは、緊急時などの場合を除き、十分な情報と医療従事者の助言を得た上で、ご自分の意志により、検査、治療などの医療行為に同意、選択或いは拒否する権利を有し、その場合に医学的にどのような結果になるかを知らされる権利を有します。

また、患者さんは担当医などの医療従事者を選択すること、紹介状を請求して別の病院にかかわること及び患者さんの求める他の医師の意見を聞くことができます。

4. プライバシーが保護される権利

患者さんは、個人の情報を直接医療にかかわる医療従事者以外の第三者に開示されない権利を有します。また、私的なことに干渉されない権利を有します。

5. 参加と共同の責任

これらの権利を守るため、患者さんは医療従事者と力を合わせて医療に参加、協力する責任があります。

目 次

I	沿革	1
II	現況	3
	1. 施設の概要	3
	2. 承認事項・診療科の状況	4
	3. 病床の状況	4
	4. 機構図	5
	5. 職員数	6
	6. 病棟別病床数	6
	7. 施設案内	7
	8. 指定医療機関及び専門医研修施設等	8
III	患者動向	11
	1. 入院科別患者数	11
	2. 外来科別患者数	12
	3. 病棟別患者数	13
	4. 救命救急センター患者数	14
	5. 地域別患者割合	14
	6. 紹介・逆紹介患者数及び率	14
	7. 手術件数	15
	7-2. 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数	15
	8. 分娩件数	15
IV	疾病統計	17
	1. 入院患者の疾病分類別（大分類）患者数	17
	2. 年代別年間死亡患者数	17
	3. 悪性新生物新患者数	18
	4. 死亡要因上位件数	18
	5. 24時間以内死亡患者数	19
V	診療業務概要、活動報告	21
	総合内科	21
	呼吸器内科・アレルギー内科	22
	消化器内科	24
	循環器内科	26
	腎臓内科	29
	糖尿病・内分泌内科	31
	神経内科	33
	血液・腫瘍内科	35
	一般外科・小児外科・肛門外科	37
	呼吸器外科	43
	心臓外科・血管外科	45
	移植外科	47
	整形外科	50
	リウマチ科	52
	脊椎外科	55
	脳神経外科	57

小児科	59
小児科（新生児）	61
産婦人科	64
産婦人科（生殖医療）	68
女性内視鏡外科	70
耳鼻いんこう科	71
眼科	73
皮膚科	76
泌尿器科	78
放射線科	80
麻酔科（ペインクリニック）	82
リハビリテーション科	85
病理診断科	87
臨床検査科	88
歯科口腔外科	90
医療安全管理室	92
卒後臨床研修センター	93
救急外来センター	94
救急入院センター	96
集中治療センター	97
周産期母子医療センター（母体・胎児部門）	98
周産期母子医療センター（新生児部門）	99
総合生殖医療センター	100
リハビリテーションセンター	101
血液浄化センター	102
予防医療センター	103
輸血・細胞治療センター	105
感染症管理センター	107
外来治療センター	109
手術センター	111
口唇口蓋裂センター	113
患者総合支援センター	114
入院支援センター	117
診療技術局	119
放射線技術室	120
中央臨床検査室	125
リハビリテーション技術室	136
臨床工学室	139
栄養管理室	148
薬局	151
看護局	157
事務局	167
ドクタークラーク	175
VI 研究・業績	179
VII 院内委員会の活動記録	237

I 浴 革

I 沿 革

明治21 (1888) 年	6月	私立豊橋慈善病院として開業
明治35 (1902) 年	6月	社団法人豊橋病院と改組
昭和7 (1932) 年	6月	社団法人豊橋病院を買収して、市立豊橋病院を開院
昭和21 (1946) 年	7月	豊橋市立豊橋市民病院と改称
昭和26 (1951) 年	7月	豊橋市民病院改称 (医療法による総合病院に指定)
昭和46 (1971) 年	3月	人工腎臓センター新設
昭和57 (1982) 年	3月	救命救急センター完成 (地下1階、地上6階)
	3月	リハビリテーションセンター完成 (地下1階、地上3階)
平成5 (1993) 年	4月	「臨床研修病院」の指定
平成8 (1996) 年	5月	豊橋市民病院桜ヶ岡分院を統合し、青竹町地内に移転
	5月	健診センター新設
	6月	病診連携室新設
	11月	「地域災害医療センター」の指定 (災害拠点病院の指定)
平成9 (1997) 年	12月	(財)日本医療機能評価機構より「病院機能評価」の認定を受ける
平成10 (1998) 年	4月	輸血センター新設
	7月	「地域周産期母子医療センター」の認定を受ける
平成11 (1999) 年	4月	「第2種感染症指定医療機関」の指定
	4月	不妊センター新設
平成12 (2000) 年	8月	許可病床数 910 床に変更
平成13 (2001) 年	4月	人工腎臓センターを血液浄化センターに変更
平成14 (2002) 年	4月	「へき地医療拠点病院」の指定
	4月	未熟児センターを新生児医療センターに変更
	8月	治験管理センターを設置
平成15 (2003) 年	2月	(財)日本医療機能評価機構より2回目の「病院機能評価 (一般病院)」の認定を受ける
	4月	感染症管理センターを設置
	8月	「地域がん診療拠点病院」の指定
平成16 (2004) 年	4月	健診センターを予防医療センターに変更
平成17 (2005) 年	4月	機構改革により医療安全管理室の設置
	6月	「DPC (診断群分類による包括医療制度) 調査協力病院」の認定を受ける
平成18 (2006) 年	4月	院内保育所開設
	5月	外来治療センターを設置
	6月	「DPC対象病院」に認定されDPC制度による診療報酬請求の開始
平成19 (2007) 年	12月	(財)日本医療機能評価機構より3回目の「病院機能評価 (審査体制区分4)」の認定を受ける
平成20 (2008) 年	2月	「地域がん診療連携拠点病院」の指定 (2回目)
平成21 (2009) 年	2月	「豊橋市民病院改革プラン」を策定
平成22 (2010) 年	4月	患者総合支援センター開設
	5月	病院総合情報システム (電子カルテシステム) 稼働

	7月	「7対1看護基準」の取得
平成23（2011）年	2月	「豊橋市民病院改革プラン（改訂版）」を策定
	12月	「NPO法人卒後臨床研修評価機構」の認定を受ける〔認定期間 2011.12.1～2013.11.30〕
平成24（2012）年	4月	許可病床数836床に変更（一般病床811床・結核病床15床・感染症病床10床）
	12月	（財）日本医療機能評価機構より4回目の「病院機能評価（審査体制区分6）」の認定を受ける
平成25（2013）年	10月	手術支援ロボットシステム「ダヴィンチ」を導入
	11月	救命救急センターを、救急外来センター、救急入院センター及び集中治療センターに変更
	12月	地域連携登録医制度の導入
	12月	「NPO法人卒後臨床研修評価機構」の更新認定〔認定期間 2013.12.1～2017.11.30〕
平成26（2014）年	2月	「第2次豊橋市民病院改革プラン」を策定
	4月	許可病床数820床に変更（一般病床800床・結核病床10床・感染症病床10床）
	4月	総合周産期母子医療センター及びバースセンター開設
	9月	「地域医療支援病院」の名称承認を受ける
	10月	輸血センターを輸血・細胞治療センターに変更
平成27（2015）年	3月	「地域がん診療連携拠点病院」の指定（3回目）
	5月	入院支援センターを設置

Ⅱ 現 況

Ⅱ 現 況

平成28年3月31日

1. 施設の概要

所在地	豊橋市青竹町字八間西50番地	
施設規模	敷地面積（企業会計財産）	92,204.52㎡
	建物延面積	57,083.18㎡
	建物	地上9階 鉄骨・鉄筋コンクリート造
	診療部門	13,621.75㎡
	病棟部門	21,376.79㎡
	（感染症病床422.78㎡を含む）	
	救命救急センター	2,620.90㎡
	（集中治療室1,451.72㎡を含む）	
	新生児医療センター	525.55㎡
	リハビリテーションセンター	818.97㎡
	血液浄化センター	418.03㎡
	予防医療センター	199.15㎡
	外来治療センター	257.60㎡
	患者総合支援センター	235.15㎡
	サービス部門	10,946.79㎡
	管理部門	6,062.50㎡

2. 承認事項・診療科の状況

(1) 承認事項

開業開始年月日	法適用年月日	法適用区分	救急告示の有無
昭和7年6月1日	昭和39年4月1日	当然財務	有(30床) (平成23年7月5日)

(2) 診療科

内 科	呼 吸 器 内 科	消 化 器 内 科	循 環 器 内 科
ア レ ル ギ ー 科	感 染 症 内 科	腎 臓 内 科	糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科
神 経 内 科	血 液 ・ 腫 瘍 内 科	外 科	呼 吸 器 外 科
心 臓 外 科	血 管 外 科	小 児 外 科	肛 門 外 科
移 植 外 科	整 形 外 科	リ ウ マ チ 科	形 成 外 科
脳 神 経 外 科	小 児 科	小 児 科 (新 生 児)	産 婦 人 科
産 婦 人 科 (生 殖 医 療)	耳 鼻 い ん こ う 科	眼 科	皮 膚 科
泌 尿 器 科	放 射 線 科	精 神 科	麻 酔 科
救 急 科	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	病 理 診 断 科	歯 科 口 腔 外 科

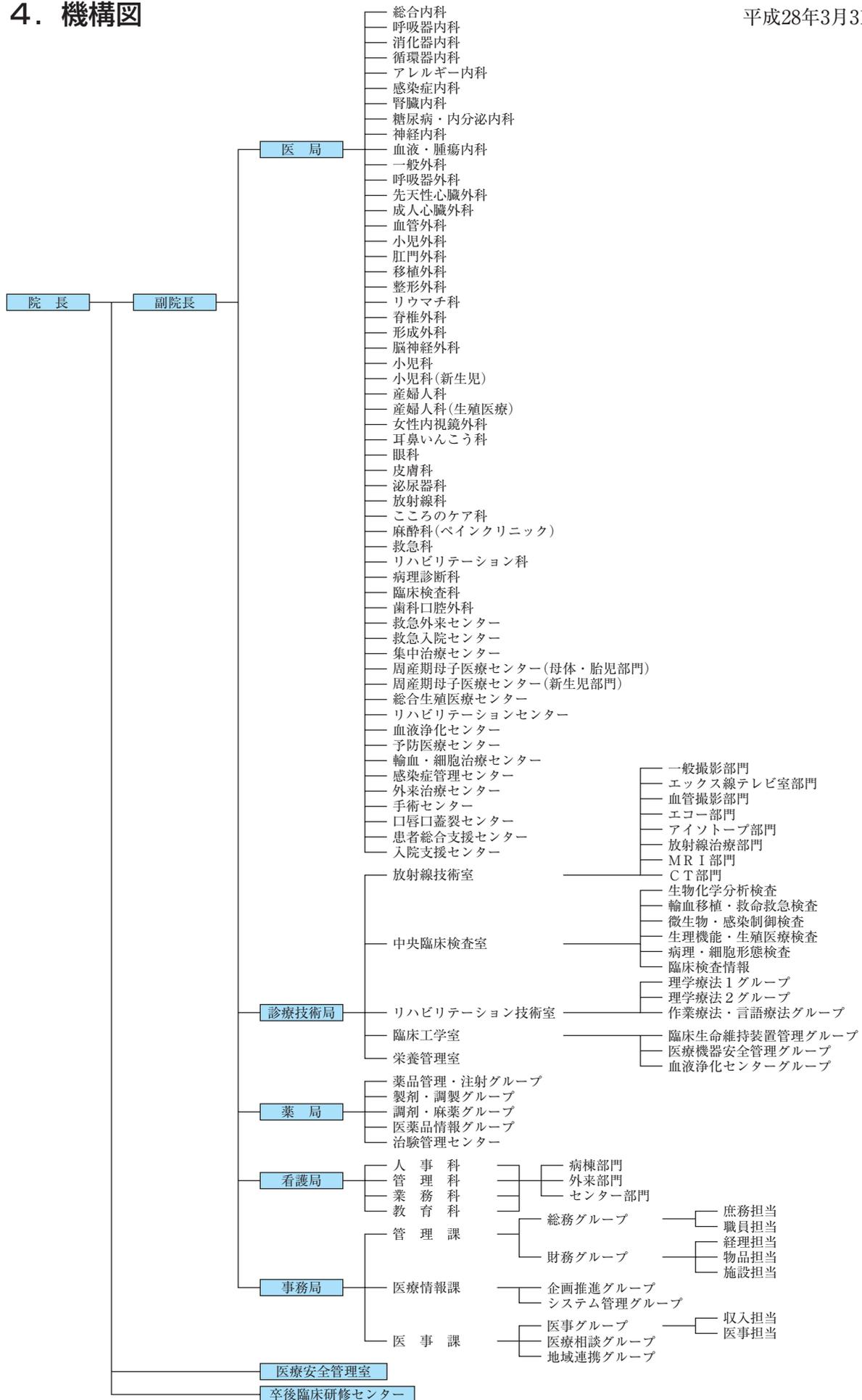
3. 病床の状況

許 可 病 床 数	一 般	精 神	結 核	感 染 症	合 計
	800床	—	10床	10床	820床

特 定 入 院 料 算 定 病 床	救 急 入 院	I C U	M F I C U	N I C U	小 児 (N M C)	小 児 (東 2)
	24床	6床	6床	12床	23床	43床

4. 機構図

平成28年3月31日



5. 職員数

平成28年3月31日

区 分		人数(人)
医 師 職	医 師	177
医療技術職	薬 剤 師	44
	臨床検査技師	43
	臨床工学技士	10
	放射線技師	37
	歯科衛生士	3
	理学療法士	21
	作業療法士	8
	言語聴覚士	5
	視能訓練士	3
	栄 養 士	4

区 分		人数(人)
看護保健職	看 護 師	693
	准 看 護 師	3
一般行政職	管 理 課	24
	医 療 情 報 課	7
	医 事 課	17
	医療安全管理室	2
	栄 養 管 理 室	1
	医 局	1
技能労務職	事務労務職助手	2
合 計		1,105

※ 研修医及び臨時職員は除く。

6. 病棟別病床数

平成28年3月31日

区 分		許可(稼動)病床(床)	病 床 内 訳(床)
東病棟	2階	43	小児科35 小児外科4 耳鼻いんこう科(小児)4
〃	3階	50	循環器内科28 呼吸器外科8 心臓・血管外科9 腎臓内科5
〃	4階	26	産婦人科26
〃	5階	50	一般外科39 消化器内科7 形成外科2 移植外科2
〃	6階	52	消化器内科47 呼吸器内科5
〃	7階	51	呼吸器内科36 耳鼻いんこう科15
〃	8階	51	整形外科・リウマチ科48 産婦人科(生殖医療)3
〃	9階	49	糖尿病・内分泌内科11 産婦人科22 眼科16
西病棟	2階	46	脳神経外科28 神経内科10 腎臓内科8
〃	3階	30	全科30(集中治療6 救急入院24)
〃	4階	24	産婦人科24
〃	5階	50	一般外科37 皮膚科10 消化器内科3
〃	6階	52	消化器内科49 糖尿病・内分泌内科3
〃	7階	52	呼吸器内科44 歯科口腔外科8
〃	8階	48	泌尿器科35 整形外科13
〃	9階	51	血液・腫瘍内科51
南病棟	1階	40	神経内科24 整形外科・リウマチ科16
〃	2階	20	結核10 感染症10
新生児医療センター		35	小児科(新生児)35
計(19単位)		820	

診療科別病床数

呼 吸 器 内 科	85床	小 児 外 科	4床	耳 鼻 い ん こ う 科	19床	
消 化 器 内 科	106	移 植 外 科	2	眼 科	16	
循 環 器 内 科	28	整 形 外 科	77	皮 膚 科	10	
腎 臓 内 科	13	形 成 外 科	2	泌 尿 器 科	35	
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	14	脳 神 経 外 科	28	歯 科 口 腔 外 科	8	
神 経 内 科	34	小 児 科	35	集 中 治 療	6	
血 液 ・ 腫 瘍 内 科	51	小 児 科 (新 生 児)	35	救 急 入 院	24	
一 般 外 科	76	産 婦 人 科	72	感 染 症 病 棟	10	
心 臓 血 管 ・ 呼 吸 器 外 科	17	産 婦 人 科 (生 殖 医 療)	3	結 核 病 棟	10	
					計	820

7. 施設案内

平成28年3月31日

名称	各階	主な施設
診療棟	1階	総合内科 呼吸器内科・アレルギー内科 消化器内科 循環器内科 腎臓内科 神経内科 血液・腫瘍内科 整形外科 リウマチ科 形成外科 産婦人科（生殖医療）・総合生殖医療センター 脊椎外科 移植外科 放射線科 一般外科 小児外科 呼吸器外科 心臓外科・血管外科 肛門外科 麻酔科（ペインクリニック） 脳神経外科 泌尿器科 救急外来センター 救急外来・入院受付 外来治療センター エックス線撮影室 CT室 テレビカメラ室 MRI室 内視鏡・エコー室 アイソトープ室 放射線治療室 薬局 医事課 総合案内所 防災センター
	2階	糖尿病・内分泌内科 こころのケア科 皮膚科 耳鼻いんこう科 産婦人科 小児科 病理診断科 臨床検査科 歯科口腔外科・口唇口蓋裂センター 眼科 血液浄化センター 予防医療センター 中央臨床検査室 感染症管理センター 輸血センター 薬局 臨床工学室 中央滅菌材料室 中央倉庫 カルテ室 中央監視室 レストラン 売店
	3階	新生児医療センター 手術センター 院長室 医療安全管理室 副院長室 医 局長室 医局 看護局長室 人事科 管理科 業務科 教育科 事務局長室 管理課 医療情報課 医学情報室 診療記録管理室 講堂 応接室 会議室 当直室 仮眠室 更衣室 電話交換室 サーバ室 職員食堂
管理棟	1階	院内保育所
	2階	情報研修室 レセプト点検室
	3階	研修医室
更衣棟	1階	清掃控室 委託業者用更衣室
	2階	組合事務所 更衣室
東病棟	1階	給食調理室 栄養管理室 理容室
	2階	小児科 小児外科 耳鼻いんこう科（小児）
	3階	呼吸器外科 心臓外科・血管外科 循環器内科 腎臓内科
	4階	産婦人科・バースセンター
	5階	一般外科 消化器内科 形成外科 移植外科
	6階	消化器内科 呼吸器内科
	7階	呼吸器内科 耳鼻いんこう科
	8階	整形外科 産婦人科（生殖医療） リウマチ科
	9階	糖尿病・内分泌内科 産婦人科 眼科
西病棟	1階	リハビリテーションセンター 栄養指導室 解剖室 霊安室 患者総合支援セ ンター・がん相談支援センター・入院支援センター 喫茶室
	2階	脳神経外科 神経内科 腎臓内科
	3階	集中治療センター（ICU）・救急入院センター
	4階	産婦人科・母体胎児集中治療室
	5階	一般外科 皮膚科 消化器内科
	6階	消化器内科 糖尿病・内分泌内科
	7階	呼吸器内科 歯科口腔外科
	8階	泌尿器科 整形外科
	9階	血液・腫瘍内科
南病棟	1階	整形外科 神経内科 リウマチ科
	2階	結核病床 感染症病床

8. 指定医療機関及び専門医研修施設等

(1) 機関指定

- ・ 保険医療機関
- ・ 労災保険指定病院
- ・ 更生医療指定病院
- ・ 育成医療指定病院
- ・ 母体保護法指定医
- ・ 被爆者一般疾病医療機関
- ・ 児童福祉施設(助産施設)
- ・ エイズ治療拠点病院
- ・ 日本病院会・優良短期人間ドック施設
- ・ 救命救急センター
- ・ 地域がん診療連携拠点病院
- ・ 総合周産期母子医療センター
- ・ 特定不妊治療指定医療機関
- ・ 特定医療(指定難病)指定医療機関
- ・ 救急病院
- ・ 生活保護法等指定医療機関
- ・ 養育医療指定病院
- ・ 結核指定医療機関
- ・ 身体障害者福祉法指定医
- ・ 公害医療機関
- ・ 基幹型臨床研修病院
- ・ 単独型臨床研修施設(歯科)
- ・ 災害拠点病院
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ へき地医療拠点病院
- ・ DMAT指定医療機関
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 指定小児慢性特定疾病医療機関

(2) 施設基準届出事項

○基本診療料

- ・ 一般病棟入院基本料(7対1入院基本料)
- ・ 結核病棟入院基本料(7対1入院基本料)
- ・ 総合入院体制加算2
- ・ 臨床研修病院入院診療加算(医科・歯科)1
- ・ 救急医療管理加算
- ・ 超急性期脳卒中加算
- ・ 妊産婦緊急搬送入院加算
- ・ 診療録管理体制加算2
- ・ 医師事務作業補助体制加算2(30対1)
- ・ 急性期看護補助体制加算(50対1)
- ・ 重症者等療養環境特別加算
- ・ 無菌治療室管理加算1
- ・ がん診療連携拠点病院加算
- ・ 栄養サポートチーム加算
- ・ 医療安全対策加算1
- ・ 感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算
- ・ 患者サポート体制充実加算
- ・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ・ ハイリスク妊娠管理加算
- ・ ハイリスク分娩管理加算
- ・ 退院調整加算
- ・ 新生児特定集中治療室退院調整加算1及び2
- ・ 新生児特定集中治療室退院調整加算3
- ・ 救急搬送患者地域連携紹介加算
- ・ 救急搬送患者地域連携受入加算
- ・ 呼吸ケアチーム加算
- ・ データ提出加算2
- ・ 救命救急入院料1
- ・ 救命救急入院料注3に掲げる加算
- ・ 救命救急入院料注7に掲げる小児加算
- ・ 特定集中治療室管理料4
- ・ 特定集中治療室管理料注2に掲げる小児加算
- ・ 新生児特定集中治療室管理料1
- ・ 総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料)
- ・ 小児入院医療管理料2
- ・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料
- ・ 歯科外来診療環境体制加算
- ・ 歯科診療特別対応連携加算

○特掲診療料関係

- ・ 高度難聴指導管理料
- ・ 糖尿病合併症管理料
- ・ がん性疼痛緩和指導管理料
- ・ がん患者指導管理料1
- ・ がん患者指導管理料2
- ・ がん患者指導管理料3
- ・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- ・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
- ・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
- ・ 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
- ・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2

- ・移植後患者指導管理料(臓器移植後)
- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・院内トリアージ実施料
- ・外来放射線照射診療料
- ・開放型病院共同指導料
- ・地域連携診療計画管理料(大腿骨頸部骨折・脳卒中)
- ・がん治療連携計画策定料
- ・がん治療連携管理料
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・薬剤管理指導料
- ・医療機器安全管理料 1
- ・医療機器安全管理料 2
- ・医療機器安全管理料(歯科)
- ・歯科治療総合医療管理料
- ・持続血糖測定器加算
- ・造血器腫瘍遺伝子検査
- ・H P V 核酸検出
- ・H P V 核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
- ・検体検査管理加算(Ⅳ)
- ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- ・植込型心電図検査
- ・時間内歩行試験
- ・ヘッドアップティルト試験
- ・皮下連続式グルコース測定
- ・長期継続頭蓋内脳波検査
- ・神経学的検査
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・内服・点滴誘発試験
- ・センチネルリンパ節生検(併用)
- ・C T 撮影及びMR I 撮影
- ・大腸C T 撮影加算
- ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・外来化学療法加算 1
- ・無菌製剤処理料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・歯科口腔リハビリテーション料 2
- ・医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に掲げる処置の休日加算 1
- ・医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に掲げる処置の時間外加算 1
- ・医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に掲げる処置の深夜加算 1
- ・透析液水質確保加算 1
- ・経皮的冠動脈形成術
- ・経皮的冠動脈ステント留置術
- ・経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- ・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
- ・経皮的大動脈遮断術
- ・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
- ・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
- ・ダメージコントロール手術
- ・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
- ・体外衝撃波胆石破碎術
- ・腹腔鏡下肝切除術
- ・腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
- ・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
- ・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
- ・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
- ・同種死体腎移植術
- ・生体腎移植術
- ・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
- ・膀胱水圧拡張術
- ・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
- ・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
- ・人工尿道括約筋植込・置換術
- ・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
- ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 12 に掲げる手術の休日加算 1
- ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 12 に掲げる手術の時間外加算 1
- ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 12 に掲げる手術の深夜加算 1
- ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 (歯科点数表第 2 章第 9 部の通則 4 を含む。)に掲げる手術
- ・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
- ・輸血管管理料 Ⅰ
- ・輸血適正使用加算、貯血式自己血輸血管理体制加算
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・内視鏡手術用支援機器加算
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- ・麻酔管理料(Ⅰ)
- ・麻酔管理料(Ⅱ)
- ・放射線治療専任加算
- ・外来放射線治療加算

- ・一酸化窒素吸入療法
- ・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
- ・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
- ・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)
- ・及び脳刺激装置交換術
- ・高エネルギー放射線治療
- ・1回線量増加加算
- ・定位放射線治療
- ・病理診断管理加算1
- ・口腔病理診断管理加算1
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料

(3) 専門医研修施設等

- ・日本内科学会認定教育病院
- ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設
- ・日本消化器集団検診学会認定指導施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定医認定施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本手外科学会手外科認定研修施設
- ・日本小児科学会専門医研修施設
- ・日本眼科学会専門医研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本病理学会認定施設
- ・日本救急医学会認定医指定施設
- ・日本神経学会認定教育施設
- ・日本血液学会認定医研修施設
- ・日本口腔外科学会認定専門医研修施設
- ・日本乳癌学会研修認定関連施設
- ・日本臨床腫瘍学会専門医研修認定施設
- ・日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・日本周産期・新生児医学会周産期(新生児)専門医基幹研修施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期(母体・胎児)専門医基幹研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本消化器病学会認定医認定施設
- ・日本呼吸器学会認定医認定施設
- ・日本アレルギー学会認定教育施設
- ・日本外科学会認定医修練施設
- ・日本呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設
- ・日本形成外科学会認定医教育関連施設
- ・日本脳神経外科学会専門医訓練施設
- ・日本産科婦人科学会認定医卒後研修施設
- ・日本産科婦人科学会生殖補助医療実施登録施設
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医制度規則指定修練施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本透析医学会認定施設
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST実地修練認定教育施設
- ・日本精神神経学会精神科専門医研修施設
- ・日本総合病院精神医学会専門医研修施設
- ・日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設

(4) 研修施設等(名称・認定団体)

①放射線技術室

マンモグラフィ検診施設認定
日本消化器がん検診学会認定指導施設

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
日本消化器がん検診学会

②中央臨床検査室

日本臨床検査標準協議会精度保障施設
日本臨床細胞学会認定施設
認定臨床微生物検査技師制度研修施設
認定輸血検査技師制度指定施設
骨髓検査技師認定制度研修施設
日本病理学会研修認定施設
臨床輸血看護師制度指定研修施設
日本輸血・細胞治療学会 I&A 認証施設

日本臨床検査標準協議会
日本臨床細胞学会
日本臨床微生物学会
日本輸血細胞治療学会
日本検査血液学会
日本病理学会
日本輸血・細胞治療学会
日本輸血・細胞治療学会

③栄養管理室

NST(栄養サポートチーム)稼働施設
「栄養サポートチーム専門療法士」認定教育施設
NST稼働施設

日本静脈経腸栄養学会
日本静脈経腸栄養学会
日本栄養療法推進協議会

Ⅲ 患者動向

Ⅲ 患者動向

1. 入院科別患者数

区 分	平成27年度			平成26年度			平成25年度		
	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)
内 科	117,602	321	45.5	119,018	326	46.0	123,276	338	46.4
総合内科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
呼吸器内科	26,498	72	22.5	28,152	77	23.7	31,189	85	25.3
消化器内科	39,676	108	33.7	40,222	110	33.8	40,391	111	32.8
循環器内科	8,328	23	7.1	10,155	28	8.5	10,811	30	8.8
アレルギー内科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
感染症内科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
腎臓内科	5,752	16	4.9	6,779	19	5.7	5,264	14	4.3
糖尿病・内分泌内科	3,228	9	2.7	3,964	11	3.3	3,545	10	2.9
神経内科	17,066	47	14.5	14,190	39	11.9	14,337	39	11.6
血液・腫瘍内科	15,633	43	13.3	14,022	38	11.8	15,956	44	12.9
結 核	1,421	4	1.2	1,534	4	1.3	1,783	5	1.4
外 科	24,124	66	9.3	25,004	68	9.7	27,003	74	10.2
呼吸器外科	2,263	6	0.9	4,032	11	1.6	3,476	9	1.3
心臓・血管外科	3,456	9	1.3						
移植外科	752	2	0.3	627	2	0.2	490	1	0.2
整形外科	23,740	66	9.2	24,319	67	9.4	26,729	73	10.1
形成外科	0	0	0.0	207	1	0.1	334	1	0.1
脳神経外科	10,973	30	4.2	10,691	29	4.1	10,910	30	4.1
小 児 科	21,744	59	8.4	20,739	57	8.0	20,710	57	7.8
産 婦 人 科	20,096	55	7.8	19,936	55	7.7	19,349	53	7.3
耳鼻いんこう科	7,921	22	3.1	6,675	18	2.6	6,612	18	2.5
眼 科	5,797	16	2.2	6,326	17	2.5	5,388	15	2.0
皮 膚 科	4,467	12	1.7	4,033	11	1.6	3,516	10	1.3
泌 尿 器 科	13,078	36	5.1	14,217	39	5.5	14,626	40	5.5
放 射 線 科	—	—	—	—	—	0.0	0	0	0.0
麻 酔 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リハビリテーション科	—	—	—	—	—	—	—	—	—
こころのケア科	—	—	—	—	—	—	—	—	—
歯科口腔外科	2,720	7	1.1	2,668	7	1.0	3,066	8	1.2
計 ①	258,733	707	100	258,492	708	100	265,485	727	100
前 年 度 ②	258,492	708	—	265,485	727	—	263,136	721	—
比 較 (① - ②)	241	△ 1	—	△ 6,993	△ 19	—	2,349	△ 6	—

2. 外来科別患者数

区 分	平成27年度			平成26年度			平成25年度		
	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)
内 科	166,843	687	34.4	163,083	668	33.7	160,409	657	33.1
総合内科	9,264	38	5.6	10,436	43	6.4	10,306	42	7.3
呼吸器内科	25,739	106	15.4	24,417	100	15.0	22,773	93	13.2
消化器内科	54,084	223	32.4	50,799	208	31.2	48,245	198	30.1
循環器内科	16,981	70	10.2	17,446	72	10.7	17,267	71	10.7
アレルギー内科	206	1	0.1	166	1	0.1	1,098	5	1.3
感染症内科	7	0	0.0	41	0	0.0	43	0	0.0
腎臓内科	13,315	55	8.0	12,794	52	7.8	12,056	49	6.9
糖尿病・内分泌内科	20,227	83	12.1	20,343	83	12.5	21,680	89	13.9
神経内科	12,615	52	7.6	12,127	50	7.4	12,511	51	7.6
血液・腫瘍内科	14,405	59	8.6	14,514	59	8.9	14,430	59	9.0
外 科	35,284	145	7.3	34,081	140	7.0	34,383	141	7.1
呼吸器外科	2,444	10	0.5	4,772	20	1.0	4,835	20	1.0
心臓・血管外科	2,674	11	0.6						
移植外科	1,232	5	0.3	1,120	5	0.2	971	4	0.2
整形外科	45,790	189	9.4	46,591	191	9.6	47,174	193	9.7
形成外科	2,175	9	0.4	6,565	27	1.4	7,102	29	1.5
脳神経外科	12,205	50	2.5	13,043	53	2.7	14,626	60	3.0
小児科	32,610	134	6.7	32,050	131	6.6	33,833	139	7.0
産婦人科	46,056	190	9.5	48,302	198	10.0	46,161	189	9.5
耳鼻いんこう科	25,503	105	5.3	23,351	96	4.8	25,674	105	5.3
眼 科	25,763	106	5.3	28,321	116	5.8	28,571	117	5.9
皮 膚 科	26,726	110	5.5	24,637	101	5.1	23,075	95	4.8
泌尿器科	27,537	113	5.7	27,152	111	5.6	26,316	108	5.4
放射線科	11,203	46	2.3	10,778	44	2.2	11,467	47	2.4
こころのケア科	465	2	0.1	1,502	6	0.3	1,747	7	0.4
麻 酔 科	285	1	0.1	237	1	0.1	216	1	0.0
リハビリテーション科	5,338	22	1.1	5,572	23	1.2	5,229	22	1.1
歯科口腔外科	14,559	60	3.0	13,192	54	2.7	12,716	52	2.6
計 ①	484,692	1,995	100	484,349	1,985	100	484,505	1,986	100
前 年 度 ②	484,349	1,985	-	484,505	1,986	-	496,486	2,026	-
比較 (① - ②)	343	10	-	△ 156	△ 1	-	△ 11,981	△ 40	-

3. 病棟別患者数

(人)

区 分	平成27年度		平成26年度		平成25年度	
	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
東 病 棟 2 階	12,448	34	12,485	34	11,786	32
西 病 棟 2 階	16,329	45	16,253	45	15,472	42
東 病 棟 3 階	16,481	45	16,980	47	17,607	48
西 病 棟 3 階	5,032	14	5,296	14	5,339	15
東 病 棟 4 階	6,661	18	6,655	18	4,922	13
西 病 棟 4 階	6,664	18	6,854	19	5,392	15
東 病 棟 5 階	15,641	43	15,904	44	16,801	46
西 病 棟 5 階	16,772	46	16,588	45	16,699	46
東 病 棟 6 階	18,377	50	18,622	51	18,987	52
西 病 棟 6 階	18,075	49	18,304	50	18,450	51
東 病 棟 7 階	17,473	48	17,470	48	17,954	49
西 病 棟 7 階	17,579	48	17,464	48	18,908	52
東 病 棟 8 階	16,807	46	16,626	46	17,466	48
西 病 棟 8 階	16,950	46	17,295	47	17,332	47
東 病 棟 9 階	15,412	42	16,451	45	16,697	46
西 病 棟 9 階	15,694	43	14,513	40	16,221	44
新生児医療センター	11,009	30	9,536	26	10,699	29
南 病 棟 1 階	13,908	38	13,662	37	16,970	47
南 病 棟 2 階	1,421	4	1,534	4	1,783	5
計	258,733	707	258,492	708	265,485	727

4. 救命救急センター患者数 平成27年度

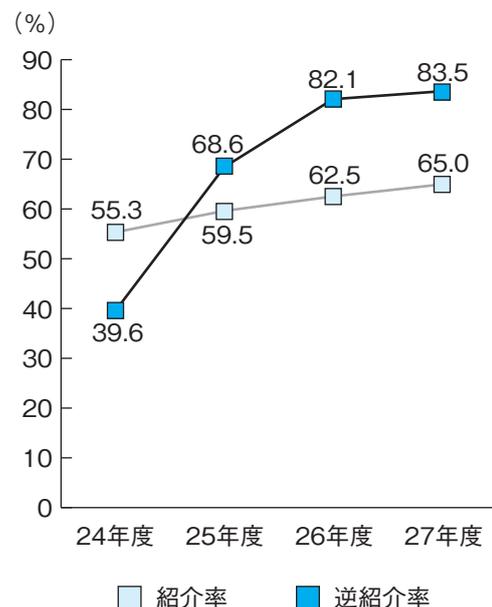
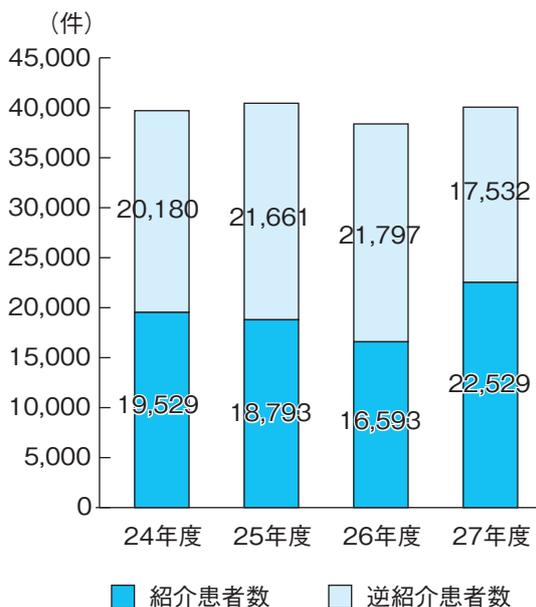
区 分	病床数 (床)	実患者数 (人)	延患者数 (人)	平均在院日数 (日)	1日当たり患者数 (人)
内 科	11	1,500	2,373	1.6	7
外 科	11	472	843	1.8	2
心臓血管・呼吸器外科	3	224	700	3.1	2
脳 神 経 外 科	5	463	768	1.7	2
そ の 他	-	294	555	1.9	2
計	30	2,953	5,239	1.8	14
内訳:集中治療センター	6	643	1,581	2.5	4

5. 地域別患者割合

(%)

区 分	入 院			外 来			
	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度	
豊 橋 市	72.6	72.0	70.9	72.2	71.1	71.3	
豊 川 市	9.1	10.2	12.1	10.6	11.8	12.3	
蒲 郡 市	3.7	4.0	4.0	3.6	3.7	3.4	
田 原 市	7.7	6.6	6.3	7.2	7.0	6.8	
新 城 市	2.6	2.8	2.8	2.6	2.6	2.6	
その他	県内	2.3	2.1	1.8	1.9	2.0	1.6
	県外	2.0	2.3	2.1	1.9	1.8	2.0
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

6. 紹介・逆紹介患者数及び率



7. 手術件数

区 分		平成 27 年度		平成 26 年度		平成 25 年度	
		件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)
外科	一般外科	1,444	99.7	1,448	95.6	1,514	101.3
	心臓血管・呼吸器外科	332	136.1	244	122.0	200	118.3
	小児外科	138	106.2	130	87.8	148	93.1
	肛門外科	36	225.0	16	61.5	26	113.0
整形外科		1,385	94.2	1,470	99.5	1,477	125.0
リウマチ科		33	126.9	26	78.8	33	103.1
形成外科		8	11.9	67	85.9	78	90.7
脳神経外科		344	105.5	326	110.5	295	84.3
産婦人科		1,752	100.9	1,736	105.9	1,640	91.5
耳鼻いんこう科		411	109.3	376	119.0	316	88.8
皮膚科		101	120.2	84	98.8	85	70.8
泌尿器科		567	102.2	555	109.7	506	103.9
眼科		1,081	99.3	1,089	123.9	879	110.0
歯科口腔外科		410	105.9	387	104.9	369	102.8
その他		137	86.2	159	126.2	126	163.6
計		8,179	100.8	8,113	105.5	7,692	102.8

7-2. 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

区 分		平成 27 年度		平成 26 年度		平成 25 年度	
		件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)
外科	一般外科	355	95.9	370	121.7	304	120.6
	(内:ダヴィンチ)	27	900.0	3	-	-	-
	心臓血管・呼吸器外科	128	114.3	112	95.7	117	134.5
	小児外科	63	108.6	58	305.3	19	950.0
整形外科		101	98.1	103	81.1	127	104.1
リウマチ科		1	-	-	-	1	-
産婦人科		508	115.5	440	194.7	226	1,255.6
(内:先進医療、自費診療)		21	131.3	16	200.0	8	-
(内:ダヴィンチ)		0	0.0	8	-	-	-
泌尿器科		122	105.2	116	110.5	105	97.2
(内:ダヴィンチ)		52	185.7	28	186.7	15	-
その他		10	142.9	7	100.0	7	700.0
計		1,288	106.8	1,206	133.1	906	153.6

8. 分娩件数

区 分		平成 27 年度		平成 26 年度		平成 25 年度	
		件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)
産婦人科		1,000	104.4	958	103.1	929	87.4

IV 疾病統計

IV 疾病統計

1. 入院患者の疾病分類別（大分類）患者数

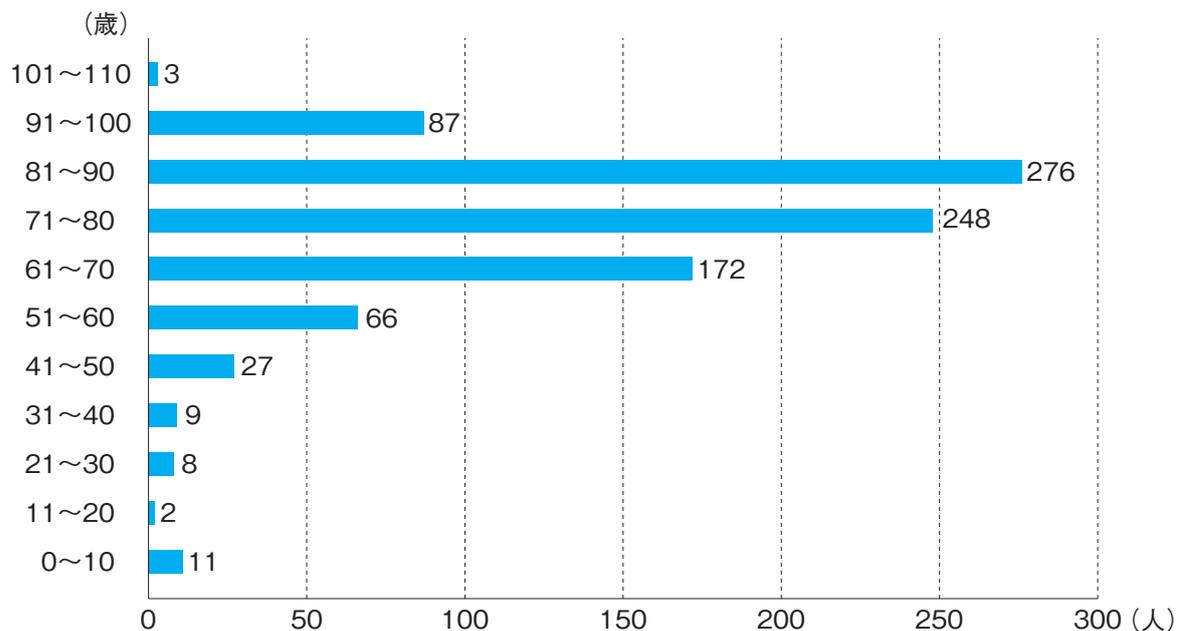
(人)

MDC2桁	疾患名	2015年	2014年	2013年
01	神経系疾患	1,099	992	847
02	眼科系疾患	382	459	656
03	耳鼻咽喉科系疾患	643	485	434
04	呼吸器系疾患	2,248	2,075	1,908
05	循環器系疾患	1,023	1,063	1,018
06	消化器系、肝臓・胆道・膵臓疾患	3,421	3,384	3,387
07	筋骨格系疾患	638	656	516
08	皮膚・皮下組織の疾患	237	203	253
09	乳房の疾患	185	124	93
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	485	408	416
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	1,279	1,202	1,310
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	1,655	1,641	1,575
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	647	635	592
14	新生児疾患、先天性奇形	561	566	501
15	小児疾患	267	222	176
16	外傷・熱傷・中毒	914	969	861
17	精神疾患	1	2	3
18	その他	186	210	182
計		15,871	15,296	14,728

※DPC対象患者より集計しています。

2. 年代別年間死亡患者数

総数：909人

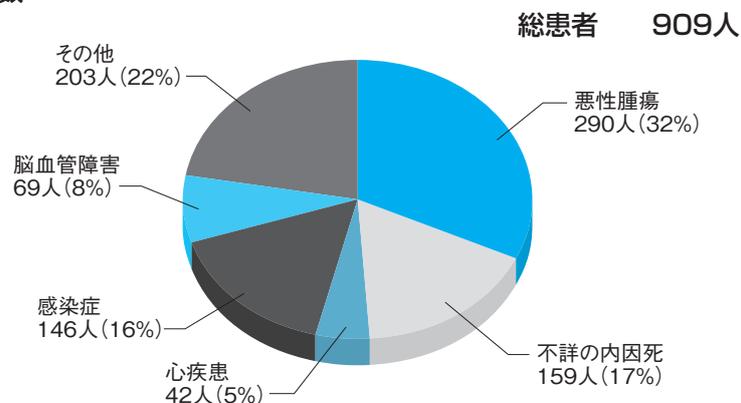


3. 悪性新生物新患者数

部 位	診断年症例(件)		
	2015年	2014年	2013年
口腔咽頭	76	63	51
食道	45	56	33
胃	241	275	239
大腸	344	339	322
(結腸)	(206)	(216)	(208)
(直腸)	(138)	(123)	(114)
肝臓	54	73	73
胆嚢胆管	40	37	46
膵臓	64	87	66
喉頭	14	24	16
肺	271	246	232
骨軟部	2	1	3
皮膚	103	79	76
乳房	191	137	128
子宮頸部	97	87	105
子宮体部	58	61	48
子宮	0	2	0
卵巣	45	32	30
前立腺	197	177	148
膀胱	112	93	84
腎尿路	73	73	65
脳神経	48	36	44
甲状腺	23	31	31
悪性リンパ腫	77	85	82
多発性骨髄腫	18	28	28
白血病	31	41	46
他の造血器腫瘍	45	30	43
その他	71	60	49
計	2,340	2,253	2,088

※がん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計への報告件数

4. 死亡要因上位件数



※死亡診断書・検案書の「直接死因」より集計

5. 24 時間以内死亡患者数 186 人

V 診療業務概要・ 活動報告

～解説～

①概要について

1年間の活動内容等を掲載しています。

②ICD-10による疾患別頻度について

2015年に登録した病名を診療科別に抽出し、ICD-10（国際疾病分類）中分類で集計を行い円グラフで掲載しています。

1. 抽出条件：
 - ① 2015年1月1日～2015年12月31日に受診した患者。
 - ② 診療科別で対象患者に登録した病名（疑いは除外）を抽出。
 - ③ ICD-10中分類で集計、上位10位まで表記し、それ以下はその他と表記。
2. 留意事項：
 - ① 複数の病名が登録されている患者については病名ごとに集計（延べ）。
 - ② 比率については小数点第2位 四捨五入。

③活動報告について

この項目は、各々の希望に応じた資料を掲載しています。

V 診療業務概要、活動報告

総合内科

1. 概要

高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病は狭心症や心筋梗塞など虚血性心疾患の強力な危険因子であり、総合内科では特に糖尿病をメインのテーマとして、さらには内臓脂肪の過剰蓄積・耐糖能障害・高血圧・高中性脂肪血症をあわせもつメタボリックシンドロームも含めて診療を行ってきた。

長らく総合内科では糖尿病・耐糖能障害、高血圧症、脂質異常症などの外来診療と糖尿病体験入院を行ってきたが、2010年4月より糖尿病・内分泌内科新設にともなって総合内科の入院病床は無くなり、現在、糖尿病外来や教育入院などの糖尿病診療は主に糖尿病・内分泌内科にて行われている。

2010年4月以降は、新規を除く糖尿病、高血圧症、脂質異常症、肥満症などの外来診療を継続するとともに、原因不明の発熱、専門科に振り分けられない初診患者の診療をおこなっている。

(部長 鳥居 俊男)

呼吸器内科・アレルギー内科

1. 概要

2015年度は、権田呼吸器内科部長をはじめ、副部長3名（竹山、菅沼、真下）、医員3名（高橋、安井、三竹）の、専任スタッフ7名で診療を行った。

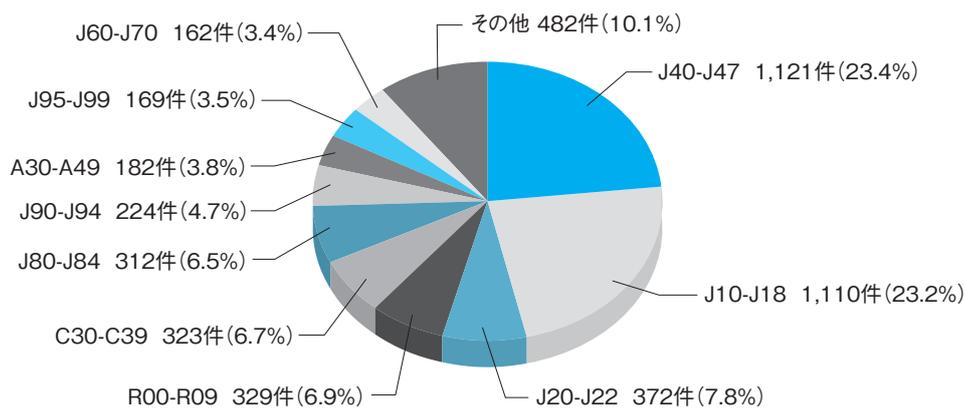
患者中心の医療を心掛け、外来・病棟看護師、薬剤師、リハビリテーション技師と協力して診療に当たっている。また、呼吸器外科医師、放射線科医師とも連携を密にし、治療方針決定のために定期的に合同でカンファレンスを行っている。

日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本アレルギー学会の教育認定施設として、研修医や専攻医の教育にあたるばかりでなく、スタッフ一同もより良い医療ができるよう日々研鑽を積んでいる。また、東三河地区の地域がん診療連携拠点病院の役割を担い、名古屋大学呼吸器内科の関連病院として臨床研究にも努めている。

（第一副部長 竹山 佳宏）

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：4,786件

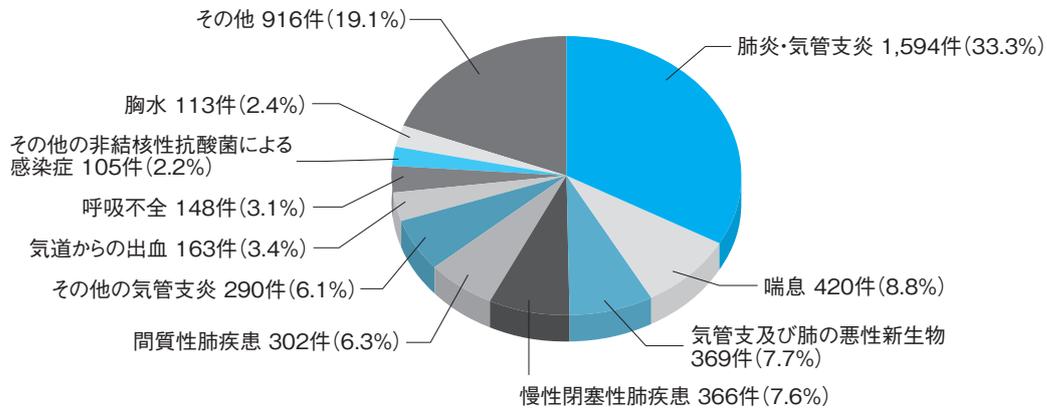


ICD-10 中間分類項目
J40-J47：慢性下気道疾患
J10-J18：インフルエンザ及び肺炎
J20-J22：その他の急性下気道感染症
R00-R09：循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候
C30-C39：呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物
J80-J84：主として間質を障害するその他の呼吸器疾患
J90-J94：胸膜のその他の疾患
A30-A49：その他の細菌性疾患
J95-J99：呼吸器系のその他の疾患
J60-J70：外的因子による肺疾患

3. 活動報告

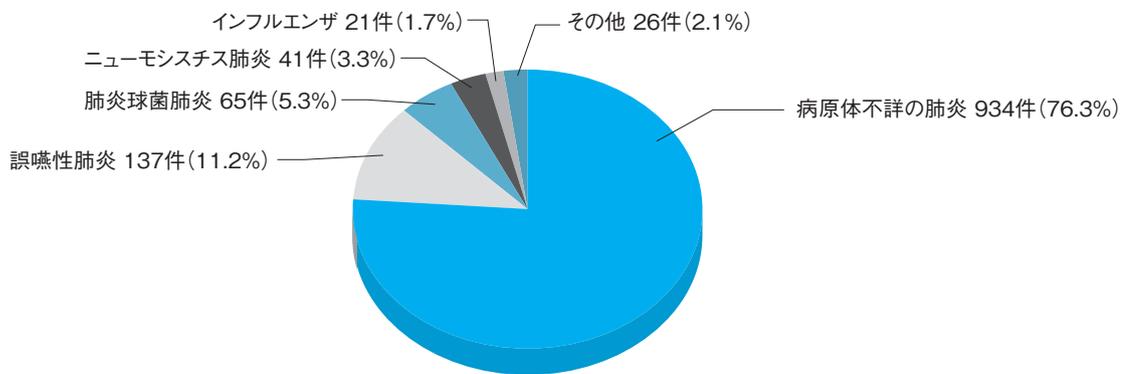
(1) 疾患別頻度

総件数：4,786件



(2) 肺炎別頻度

総件数：1,224件



(3) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	肺炎	1,224	4	間質性肺炎	275
2	気管支喘息	458	5	慢性閉塞性肺疾患	168
3	肺癌	322		計	2,447

消化器内科

1. 概要

岡村前院長を筆頭に8名のスタッフと、専攻医5名、後期研修医1～2名で診療にあたっている。岡村、山田、山本が上下部消化管、浦野、内藤が肝臓、藤田、松原が胆道・膵を担当し、

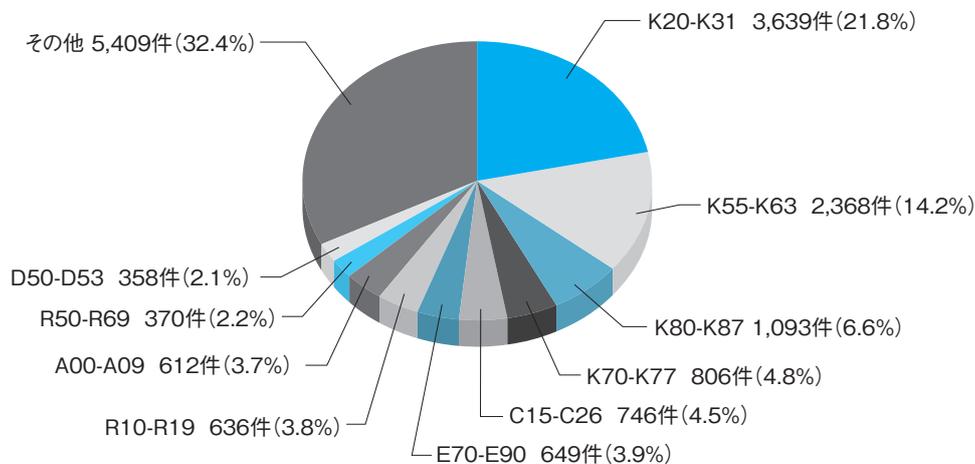
- ① 消化器癌のX線・内視鏡・US診断
- ② 食道・胃・大腸腫瘍に対する内視鏡的治療の検討
- ③ IBDに対する内科的治療
- ④ 胆道・膵疾患におけるEUS、IDUS、CEUSの検討
- ⑤ 閉塞性黄疸に対するEST、EPD、ERBD、EMSなどの経乳頭的内視鏡治療と、EUS下胆道・膵嚢胞ドレナージ術、経皮経肝胆道ドレナージ術の治療成績の検討
- ⑥ ウイルス性肝炎の治療と長期経過観察
- ⑦ 肝癌の画像診断と内科的治療—TACE、RFA、リザーバーを用いた化学療法など

を研究テーマとして診療に従事している。この他、食道静脈瘤に対してはEISとEVL、胃・十二指腸潰瘍の出血に対してはクリッピング止血法を積極的に行い救命救急医療に貢献しているほか、脳血管障害などによる嚥下困難患者に対する内視鏡的胃瘻造設術の依頼にも随時対応している。

(第一部長 浦野 文博)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：16,686件



ICD-10 中間分類項目
K20-K31：食道、胃及び十二指腸の疾患
K55-K63：腸のその他の疾患
K80-K87：胆のう<嚢>、胆管及び膵の障害
K70-K77：肝疾患
C15-C26：消化器の悪性新生物
E70-E90：代謝障害
R10-R19：消化器系及び腹部に関する症状及び徴候
A00-A09：腸管感染症
R50-R69：全身症状及び徴候
D50-D53：栄養性貧血

3. 活動報告

(1) 当科で経験した主な疾患の新規症例数

胃癌	204例
大腸癌	281例
(深達度分類 ss ないし a1 以深 : mp : sm : m 139 : 22 : 39 : 81)	
肝細胞癌	39例
(進行度分類 I : II : III : IV 8 : 16 : 8 : 7)	
(JIS 0 : 1 : 2 : 3 : 4 : 5 7 : 14 : 9 : 3 : 6 : 0)	
膵癌	49例
胆道癌	46例

(2) 主な検査治療実績

胃内視鏡検査	7,054件
大腸内視鏡検査	4,503件
造影エコー検査	193件
消化管超音波内視鏡検査	88件 (うち穿刺生検 5件)
内視鏡的粘膜下層切開剥離術	胃108件、大腸 37件
胆膵超音波内視鏡検査	313件 (うち穿刺生検 42件)
PTCDならびに関連手技	35件 (PTBD 1件、PTGBD 24件)
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	506件
うち ERBDあるいはENBD	212件
内視鏡的金属ステント留置術	26件
管腔内超音波検査	36件
腹部血管造影検査	164件
うち 動脈塞栓術	128件
動注化学療法	8件
リザーバー留置による動注化学療法	1件
ラジオ波焼灼術	51件

(3) 学会活動受賞

山本 崇文	日本消化器病学会東海支部第123回例会	若手医師研究奨励賞
飛田 恵美子	第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	若手研究者優秀演題奨励賞

循環器内科

1. 概要

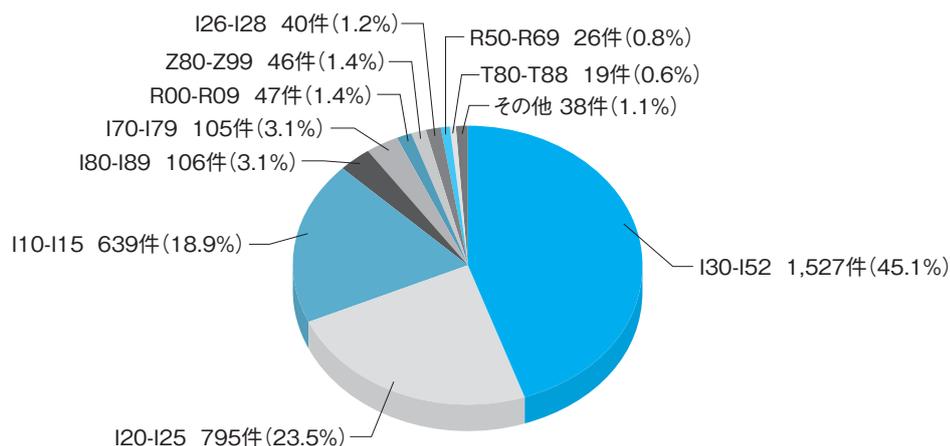
2015年は心血管/造影カテーテル検査を774件（うち緊急検査193件）に施行した。経皮的冠動脈インターベンションは253例（成功率94.9%）で、その内、血管内超音波を243例に、ステント留置術は215例に施行した。再狭窄防止のための薬剤溶出性バルーンを9件に使用した。また、血行動態の悪い症例には、大動脈内パンピングを29例に施行した。心原性ショック例・心停止例（来院時心肺停止も含む）には、経皮的心肺補助装置を装着した（6例）。一方、不整脈診断の為の心臓電気生理学的検査を51例に、カテーテルアブレーションを28例に施行した。64列多列検出器CTによる冠動脈CT検査を109例に施行した。

2015年4月1日付で名古屋大学大学院医学研究科病態内科学講座循環器内科学から島津修三が赴任した。2015年10月1日付で岡崎敬正が循環器内科医員となった。

（第二部長 成瀬 賢伸）

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：3,388件



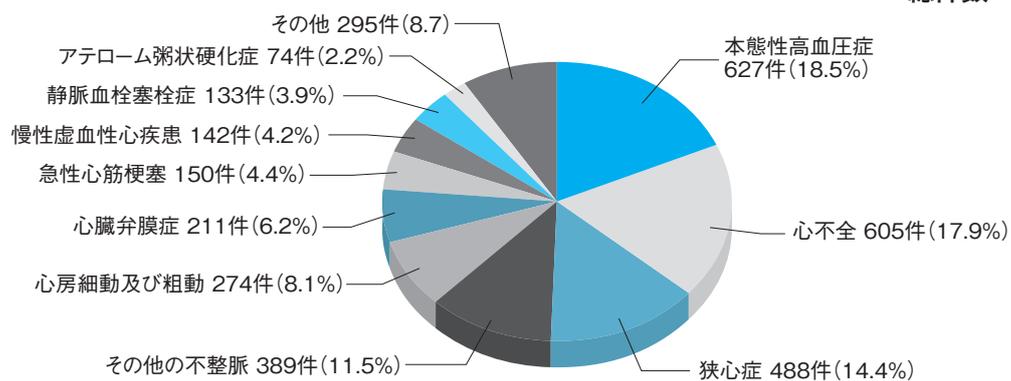
ICD-10 中間分類項目

I30-I52：その他の型の心疾患
I20-I25：虚血性心疾患
I10-I15：高血圧性疾患
I80-I89：静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの
I70-I79：動脈、細動脈及び毛細血管の疾患
R00-R09：循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候
Z80-Z99：家族歴、既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者
I26-I28：肺性心疾患及び肺循環疾患
R50-R69：全身症状及び徴候
T80-T88：外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの

3. 活動報告

(1) 疾患別頻度

総件数：3,388件

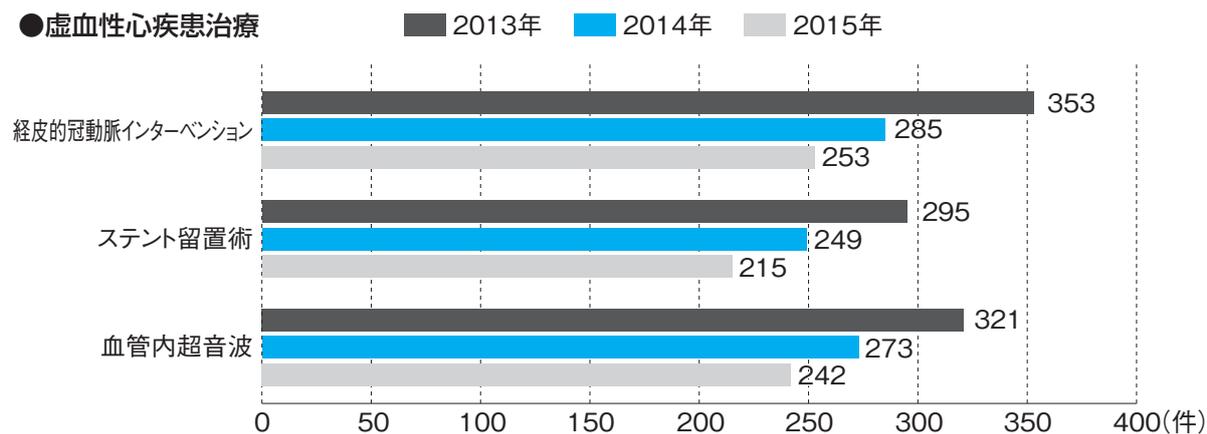


(2) 科指定4疾患

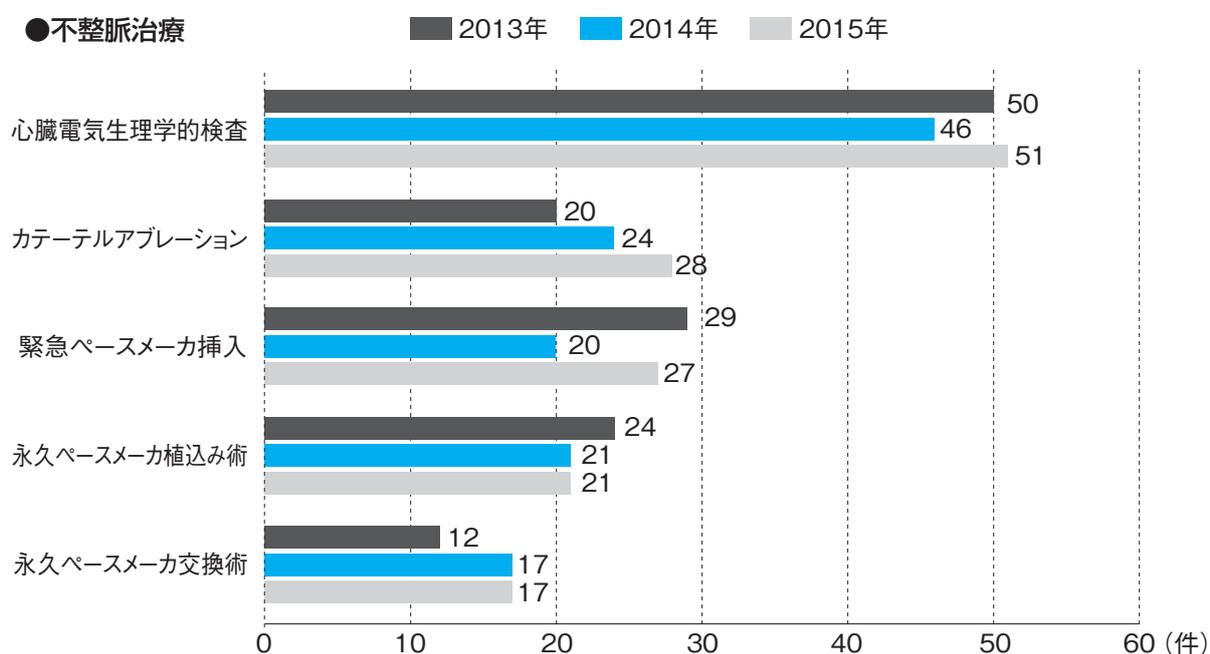
	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	心不全	605	4	肺血栓塞栓症	26
2	狭心症	488		計	1,269
3	急性心筋梗塞	150			

(3) 治療実績

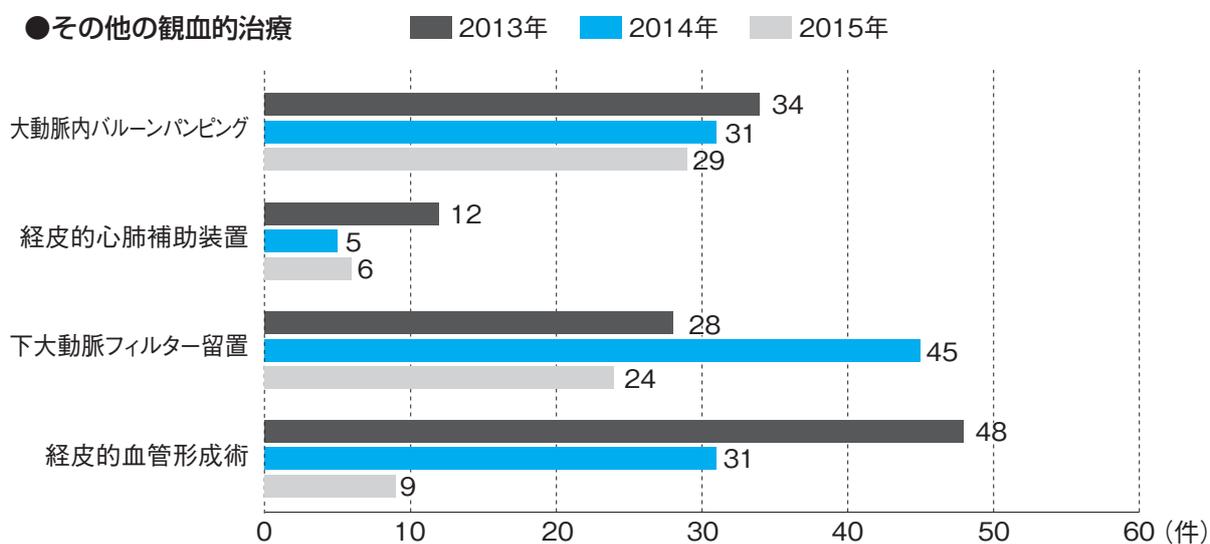
●虚血性心疾患治療



●不整脈治療



●その他の観血的治療



腎臓内科

1. 概要

当科の主な診療領域は、腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全（腎後性以外）などの内科的腎臓病一般の他に、透析を含む血液浄化である。尿路結石・腫瘍・感染症は、取り扱っていない。また、透析患者のシャントトラブルも扱っていない。

豊橋市民病院は東三河地域の基幹病院であるが、その中で当科は常勤医師がわずか4人と内科の中で一番小さな科であるものの、多種多様な病態の診療に携わっている。実際、急性腎不全（AKI）を始めとする重症患者の血液浄化の依頼やコンサルトは多く、保存期の慢性腎不全（CKD）や維持透析患者の合併症の治療にも関わっている。

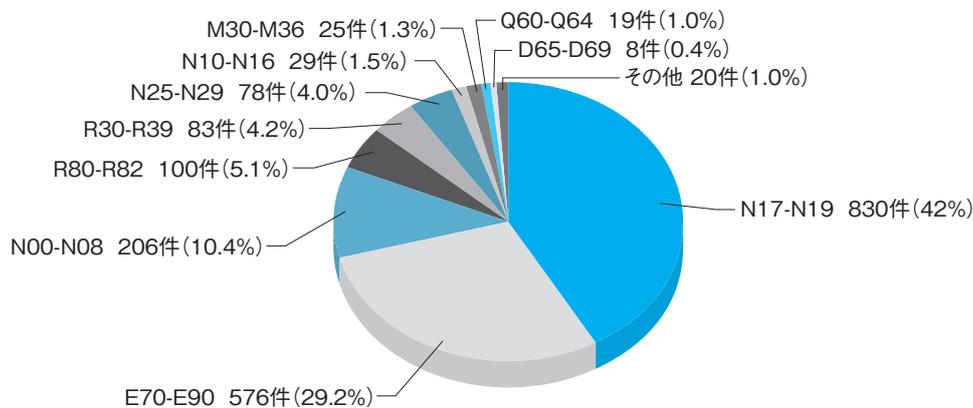
腎炎やネフローゼ症候群には、名古屋大学腎臓内科の御支援の下、積極的に腎生検を行い診断・治療に役立っている。末期慢性腎不全に対しては、血液透析のみならず、院内の移植外科と連携して腎移植にも対応可能である。また、腹膜透析（CAPD）も、小規模であるが再開にこぎつけた。

その他に、MEや看護師の協力により、血漿交換・免疫吸着・持続的血液ろ過透析（CHDF）などを、病態に応じて施行している。

（部長 山川 大志）

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：1,974件



ICD-10 中間分類項目
N17-N19：腎不全
E70-E90：代謝障害
N00-N08：糸球体疾患
R80-R82：尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの
R30-R39：腎尿路系に関する症状及び徴候
N25-N29：腎及び尿管のその他の障害
N10-N16：腎尿管間質性疾患
M30-M36：全身性結合組織障害
Q60-Q64：腎尿路系の先天奇形
D65-D69：凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態

3. 活動報告

(1) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	慢性腎不全	777	4	IgA腎症	22
2	ネフローゼ症候群	122	5	急性進行性糸球体腎炎	10
3	急性腎不全	53		計	984

糖尿病・内分泌内科

1. 概要

当科の診療内容は、糖尿病と各種内分泌・代謝疾患である。日本糖尿病療養指導士15名他の協力で、糖尿病教育入院の他、療養指導外来、フットケア外来を設置している。インスリンポンプ療法（CSII）、CGM（持続血糖測定）に続き、SAP（CGMつきCSII）も運用開始した。

日本糖尿病協会の支部として友の会があり、5月には初のウォーキングイベントを、11月の全国糖尿病週間に合わせて院内での啓発活動を実施した。6月には歯科・口腔外科とともに豊橋市歯科医師会主催の「歯の健康フェスティバル」に出展した。

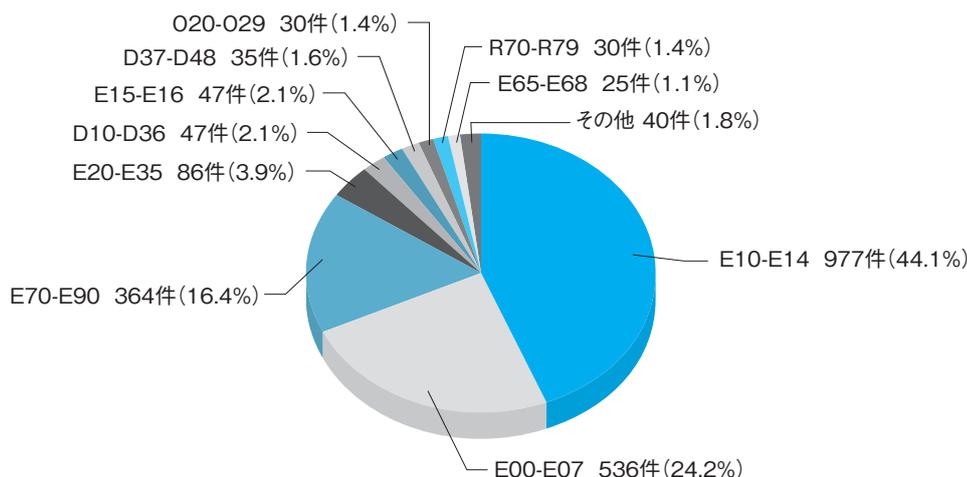
各種内分泌疾患に対しては各種負荷試験、画像診断を元に正確な診断を行い、一般外科、泌尿器科、移植外科、脳神経外科、放射線科などとの密接な連携の元に治療を行っている。なお放射線科には原発性アルドステロン症に対する選択的副腎静脈サンプリングも依頼している。

人事面では、3月末で村瀬正敏医師が退職し、4月に長谷川義高医師が赴任した。

(部長 山守 育雄)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：2,217件

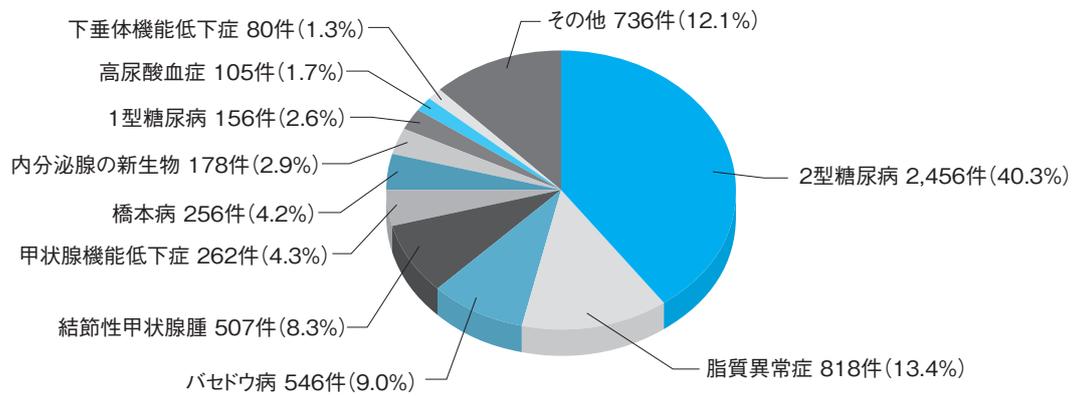


ICD-10 中間分類項目
E10-E14：糖尿病
E00-E07：甲状腺障害
E70-E90：代謝障害
E20-E35：その他の内分泌腺障害
D10-D36：良性新生物
E15-E16：その他のグルコース調節及び膵内分泌障害
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
O20-O29：主として妊娠に関連するその他の母体障害
R70-R79：血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの
E65-E68：肥満(症及びその他の過栄養<過剰摂食>

3. 活動報告

(1) 疾患別頻度

特有疾患件数：6,100件



神経内科

1. 概要

2015年のスタッフは、4名でスタート、4月に1名入れ替わり、9月から1名加わり5名になったが、その分仕事量も増えた。

入院診療：総入院患者数は、昨年より90人ほど増加し689人だった。主なトピックは、以下のとおりである。

- ① 細菌性髄膜炎の起炎菌としては比較的少ない、リステリア菌や肺炎桿菌などの例があった。
- ② ALS治療に、従来脳梗塞の治療薬として使われていたラジカットが認められ、初回治療のため数名入院した。
- ③ 昨年同様、高齢者のてんかんが多く、最近話題になっている、非けいれん性てんかん重積状態（NCSE）と考えられる例もあった。

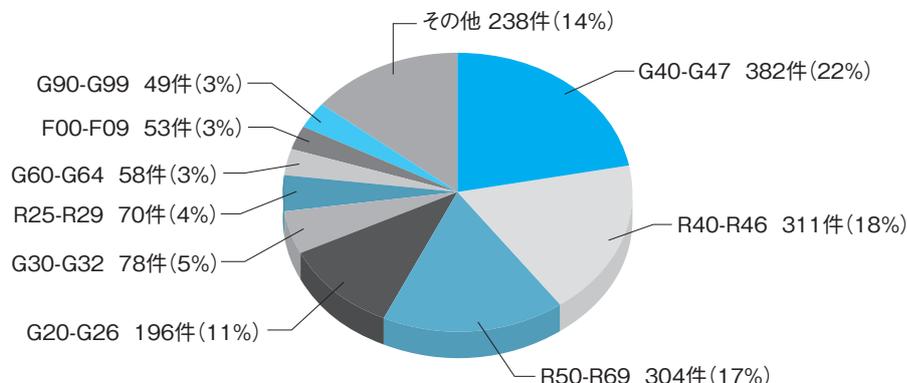
退院・転院に際し、家族背景や社会的背景の難しい人が増えており、患者総合支援センターは無くてはならない存在である。

外来診療：年間の外来患者数は8,876人で、その内初診者数は1,334人とほぼ昨年と同様だった。周辺地域の神経疾患患者が当院に集中する傾向は、昨年と変わらない。ALSの新規発症者の多い年だった。

(部長 李野 謙次)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：1,739件



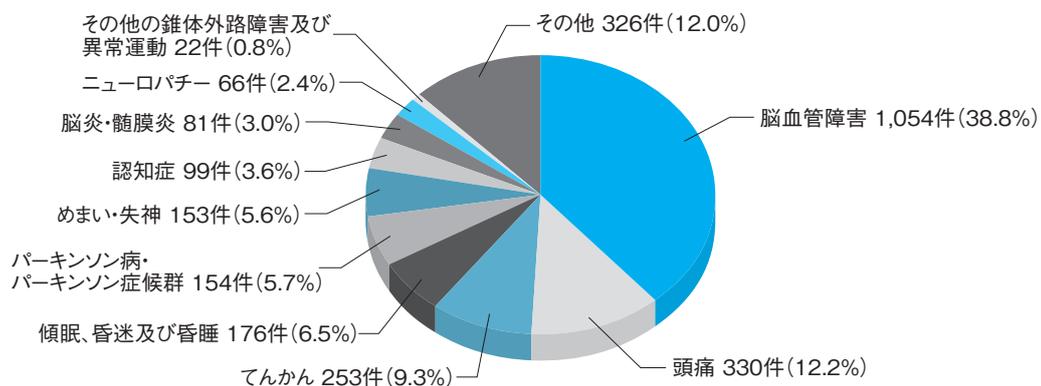
ICD-10 中間分類項目

G40-G47：挿間性および発作性障害
R40-R46：認識、知覚、情緒状態および行動に関する症状および徴候
R50-R69：全身症状および徴候
G20-G26：錐体外路障害および異常運動
G30-G32：神経系のその他の変性疾患
R25-R29：神経系および筋骨格系に関する症状および徴候
G60-G64：多発（性）ニューロパチ〈シ〉—およびその他の末梢神経系の障害
F00-F09：症状性を含む器質性精神障害
G90-G99：神経系のその他の障害

3. 活動報告

(1) 疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：2,714件



(2) 神経難病6疾患

	疾患名	件数(件)
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群	154
2	多系統萎縮症	8
3	脊髄小脳変性症	15
4	筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	17
5	重症筋無力症	18
6	多発性硬化症	13
	計	225

血液・腫瘍内科

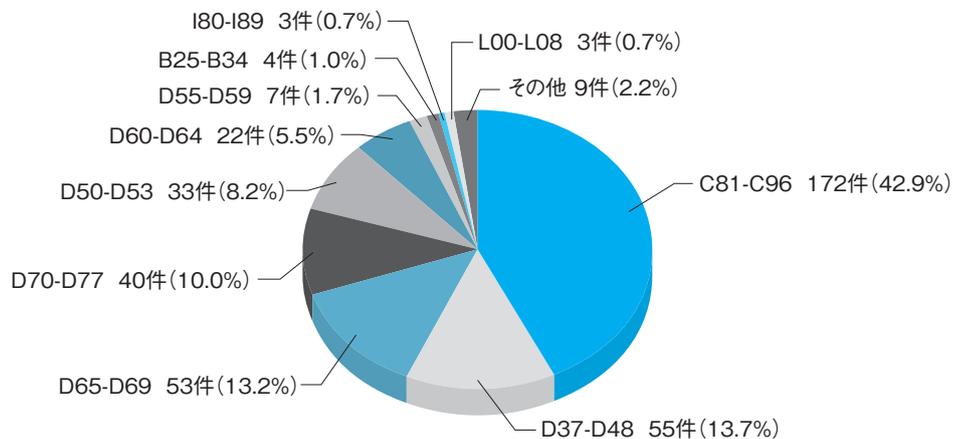
1. 概要

1997年に専門医1名で開設し、2001年に病棟（西9階）を独立、次第にスタッフを増員し、本年度は5-6名のスタッフで診療を行った。かねてより同種造血幹細胞移植の準備を進めていたが、2014年に4床の新たなクリーンルーム（class100）を増設し、また同胞間同種造血幹細胞移植の症例数が一定に達したことで、本年度は日本骨髄バンク非血縁者間骨髄移植や臍帯血バンクの認定を受けることができ、当科でも非血縁者からの同種造血幹細胞移植を行うことが可能となった。これにより、造血器腫瘍に対する化学療法や自家および同種造血幹細胞移植、免疫療法、凝固疾患に対する治療など、ほぼ全ての血液疾患に対する治療が当科で行えるようになった。

（第二部長 倉橋 信悟）

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：401件



ICD-10 中間分類項目

C81-C96	リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患
D50-D53	栄養性貧血
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血
D55-D59	溶血性貧血
B25-B34	その他のウイルス疾患
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症

3. 活動報告

(1) 感染症

延べ総件数：191件

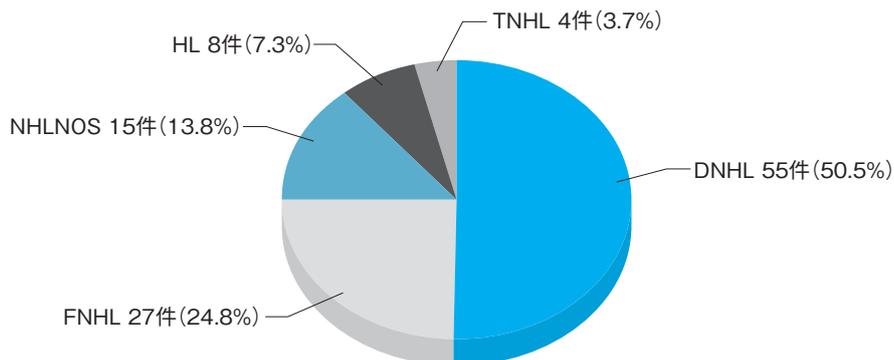
	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	敗血症	53	5	ヘルペス感染症	16
2	カンジダ症	62	6	ニューモシスチス症	4
3	真菌症	22	7	アスペルギルス症	14
4	サイトメガロウイルス病	20		計	191

(2) 造血幹細胞移植

種 類			件数(件)
自家移植			16
同種移植	血縁者間	同胞	10 (骨髄：6 末梢血：4)
		半合致	0
	非血縁者間	骨髄バンク	1
		臍帯血バンク	0

(3) 悪性リンパ腫の組織分類 (ICD10 C81-85)

総件数：109件



略語	疾患名
DNHL	びまん性非ホジキンリンパ腫
FNHL	ろく濾胞性 [結節性] 非ホジキンリンパ腫
NHLNOS	非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型
HL	ホジキン病
TNHL	末梢性及び皮膚T細胞リンパ腫

一般外科・小児外科・肛門外科

1. 概要

(1) 一般外科・小児外科

2015年の手術総数は1,621件で、そのうち15歳以下の小児手術は177例。緊急手術は296件（18%）。対象疾患は、虫垂炎やヘルニアといった日常的な疾患から消化器・乳腺の悪性腫瘍まで幅広い。

腹腔鏡下手術は、胃癌切除106件中43件（41%）、大腸癌切除185件中71件（38%）、肝部分切除31件中9件（29%）、肝外側区域切除2件中1件に対し行われた。2014年11月より直腸癌に対するロボット支援下手術を臨床研究として開始し、2015年には16件行った。また2015年4月からは早期胃がんに対してもロボット支援手術が開始され2件行った。

乳癌手術は134件で、乳房温存手術は63件、センチネルリンパ節生検陰性は97件であった。

肝切除は49件で、疾患別内訳は、原発性肝癌17、転移性肝癌22、胆道癌8、その他2。膵頭十二指腸切除は19例全例が亜全胃温存で行われ、疾患別内訳は、膵癌8、胆嚢・胆管癌3、乳頭部癌5、十二指腸癌1、I P MN 1、漿液性嚢胞腺腫1であった。

上部消化管潰瘍穿孔19例のうち9例に大網充填術が施行され、非手術的保存療法は10例だった。腸閉塞入院は165例のうち47例（28%）に手術が施行された。

小児外科手術は名古屋大学小児外科と連携し治療にあたっており、新生児手術は10例であった。

一般外科全体の入院総数は2,203人と昨年の2,105人よりやや増加し、平均入院期間は11日とこちらは昨年の12.2日より減少していた。

（第一部長 平松 和洋）

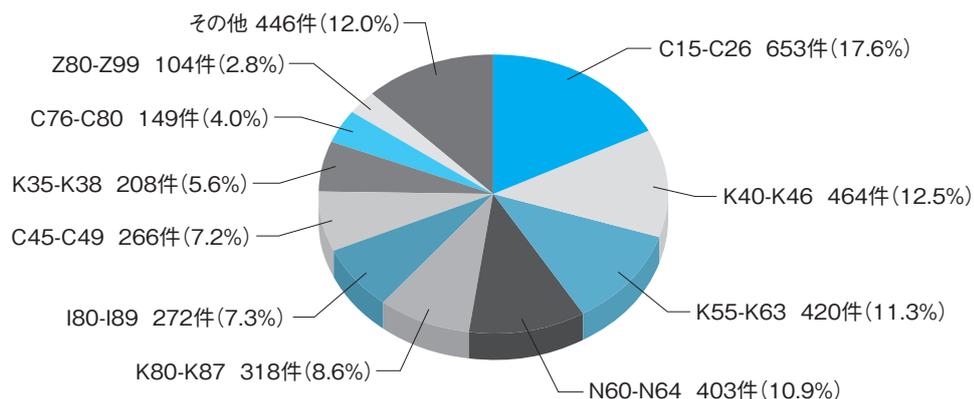
(2) 肛門外科

“肛門外科”は当院移転新設に伴い一般外科から離れ単科（こう門科）と標榜されたが、診療・治療は一般外科と共同で運営している。外科としての外来診療で、痔核を筆頭に肛門疾患、症状にて受診される患者様は多いが、専門性を必要とした治療においてはやはり専門家での診療・治療を希望される方も多い。肛門外科として標榜している診療日は木曜日の日だが、常勤の外科医でもあるため日々肛門外科として診察や治療に当たっている。外来診察の際は、患者様が安心して受診できるような応対・環境整備を心掛け、診察で患者様に不自由・不快な思いを持たれないように努力している。良性疾患であり、外来処置や生活指導・薬物療法など保存治療に重きを置き、患者様の症状によって手術適応を決めている。一方、手術に伴う“ストーマ外来”で人工肛門患者様のサポートを継続して認定看護師とともにしている。

（部長 柴田 佳久）

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：3,703件



ICD-10 中間分類項目

C15-C26：消化器の悪性新生物

K40-K46：ヘルニア

K55-K63：腸のその他の疾患

N60-N64：乳房の障害

K80-K87：胆のう<嚢>，胆管及び膵の障害

I80-I89：静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの

C45-C49：乳房の悪性新生物

K35-K38：虫垂の疾患

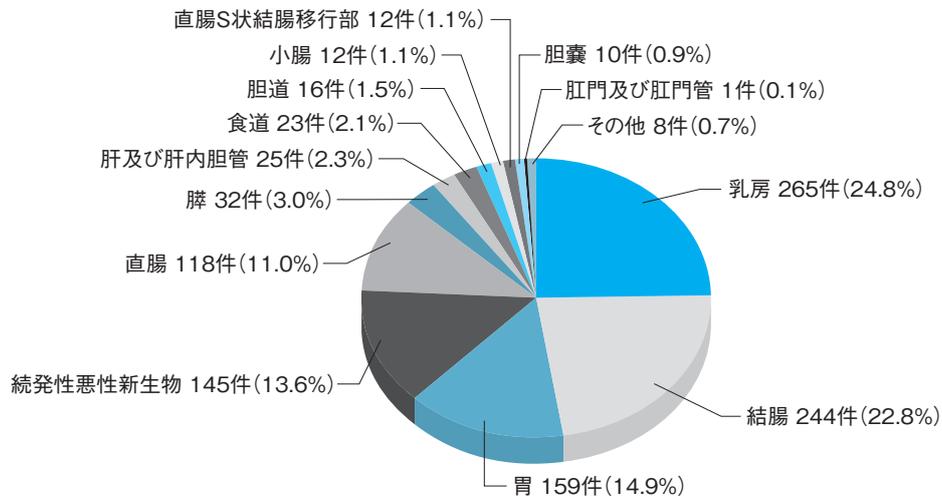
C76-C80：部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物

Z80-Z99：家族歴，既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者

3. 活動報告

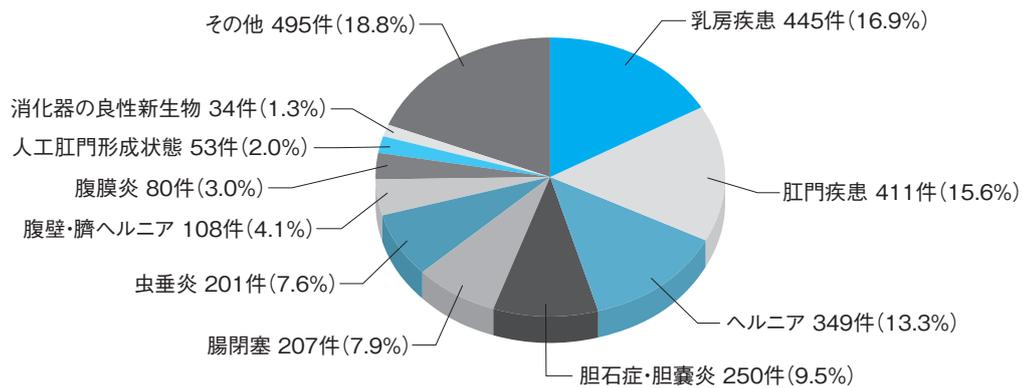
(1) 悪性新生物の疾患別頻度

総件数：1,070件



(2) 悪性新生物以外の疾患別頻度

総件数：2,633件



(3) 一般外科・小児外科手術数(2015年) 1,621例

①一般外科	1,444	(b)腸瘻造設	1
全身麻酔	1,045	(c)腸瘻閉鎖	19
脊髄麻酔	84	(d)腸吻合	0
局部麻酔	315	(e)結腸・直腸切除	9(2)
(ア)甲状腺		(f)大腸垂全摘	1
a 良性疾患		(g)癒着剥離	17
(a)部分切除	0	(h)経肛門／経仙骨	0
(b)葉切、垂全摘、全摘	19	(i)単開腹／その他	3
b 悪性疾患		b 悪性疾患	
(a)部分切除、垂全摘、他	5	(a)腸瘻造設	26
(b)全摘	4	(b)腸吻合	2
(イ)乳 腺		(c)小腸切除	3
a 良性疾患 摘出	7	(d)結腸切除	125(33)
b 悪性疾患		(e)直腸切除(高位、低位)	57(38)
(a)定型乳切	0	(f)経肛門／仙骨的切除	0
(b)非定型乳切(Bt+Ax)	30	(g)骨盤内臓全摘	2
(c)Bt±SLNB	34	(h)大腸垂全摘	1
(d)乳房温存手術±SLNB	63	(i)単開腹／その他	0
(e)Tm他	0	(カ)虫垂炎(虫垂／回盲部切除)	113(27)
(ウ)食 道		(キ)肝/胆/膵/脾	
a 良性疾患	0	(a)肝部分切除	31(9)
b 悪性疾患		(b)肝区域／葉切除	18(1)
(a)胸部食道切除	3	(c)胆嚢床切除	3
(b)その他	0	(d)開腹胆嚢摘出術	19
(エ)胃・十二指腸		(e)腹腔鏡下胆嚢摘出術	147
a 良性疾患		(f)開腹胆管切開術	8
(a)胃切除、胃全摘	0	(g)胆管消化管吻合	1
(b)体網充填	10	(h)胆管切除	0
b 悪性疾患		(i)膵頭十二指腸切除(PD)	0
(a)幽門側胃切除	64(34)	(j)垂全胃温存PD	19
(b)胃全摘	41(9)	(k)膵尾部切除	7
(c)噴門側胃切除	1	(l)膵全摘	1
(d)腹腔鏡下胃切除	43	(m)膵部分切除	1
(e)胃腸吻合	9	(n)膵管空腸吻合	1
(f)楔状切除／十二指腸切除	10(5)	(o)脾摘	8(6)
(g)PD	0	(p)胃腸吻合	2
(h)単開腹／その他	3	(q)単開腹／その他	3
(オ)小腸／大腸		(ク)内分泌	
a 良性疾患		(a)副甲状腺	0
(a)小腸切除	23	(b)副腎	1

(ケ)ヘルニア	
(a)鼠径大腿	211
(b)腹壁・臍・閉鎖孔など	14
(コ)痔核痔瘻	21
(サ)局麻手術	
(a)摘出、生検	45
(b)その他	86
(シ)外傷／医原性	11
(ス)腹膜炎	24

(セ)腹腔内癌再発	19
(ソ)その他	26
②小児外科(全例全身麻酔)	177
(ア)新生児手術	10
(イ)鼠径ヘルニア	72
(ウ)虫垂切除	28(9)
(エ)その他	67

()内はその内の鏡視下手術件数

(4) 一般外科 疾患・治療法別入院患者数・平均入院日数 (2015年)

入院患者総数 2,203人 (昨年2,105人)、平均入院日数11.0日 (昨年12.2日)

中央値7日 (昨年7日)

疾患名	治療法	患者数	平均入院期間(日)
イレウス	手術	47	10.9
	保存療法	118	11
外傷	手術	11	10.8
	保存療法	19	10.9
合併症治療・抗がん剤有害事象	保存療法	59	9
その他	手術	20	5.3
	保存療法	40	8.2
その他／悪性	手術	11	20.1
	保存療法	5	10.6
甲状腺／良性	手術	18	5.5
	保存療法	0	0
甲状腺／悪性	手術	10	6
	保存療法	0	0
内分泌	予定手術	1	7
非新生児	手術	143	3.2
	保存療法	9	5.9
腹腔内癌再発	手術	4	12.8
	保存・緩和療法	2	4.5
腹膜炎	手術	27	24.6
	保存療法	22	11.5
ヘルニア	手術	229	3
	保存療法	4	2.3
痔核・痔瘻	手術	22	6
虫垂	手術	112	5.2
	保存療法	22	10.4
胃十二指腸／良性	手術	9	12.8
	保存療法	10	12.1

疾患名	治療法	患者数	平均入院期間(日)
胃十二指腸／悪性	手術	140	18.2
	化学療法	6	5.8
	放射線療法	0	0.0
	緩和療法	20	20.0
	保存療法	43	16.2
肝胆膵脾	手術	255	10.8
	保存療法	93	11.2
	緩和療法	14	22.9
	化学療法	10	6.9
小・大腸／悪性	手術	259	18.3
	化学療法	21	5.1
	緩和療法	42	20.1
	保存療法	65	12.3
小・大腸／良性	手術	30	12.0
	保存療法	7	8.0
食道／悪性	手術	3	28.3
	保存療法	5	28.6
	化学/放治	9	6.9
	緩和療法	1	3.0
食道／良性	保存療法	1	11.0
乳腺／その他	手術	4	6.3
乳腺／悪性	手術	134	7.3
	保存療法	26	15.6
	緩和療法	8	25.3
	化学/放治	6	19

呼吸器外科

1. 概要

心臓と食道、乳がんを除く胸部疾患を対象としている。主対象の肺癌は、死因の第1位で増加の一途をたどっている。ヘビースモーカーの多い団塊の世代が、肺癌好発年齢の中心を占め、今後しばらく減少する気配がない。

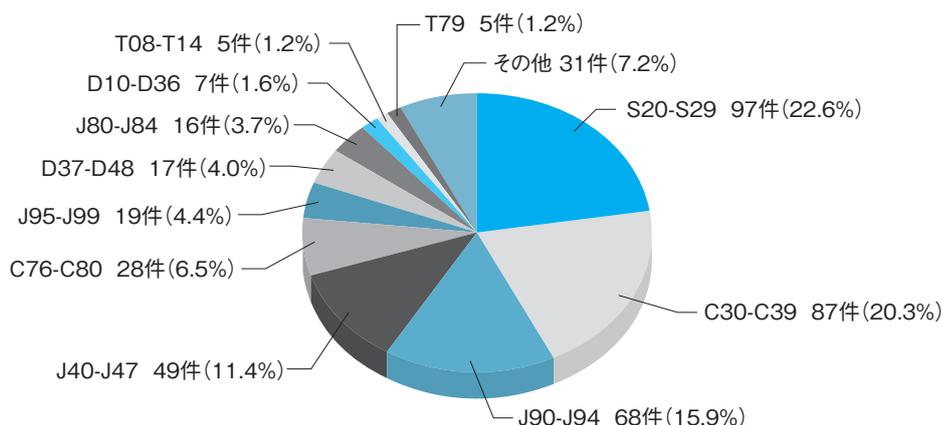
近年では胸腔鏡を用いて開胸創をより小さく、手術浸潤を軽減することで、標準的な肺癌手術でも、手術前日の入院から退院まで5～7日間の治療が可能である。残念ながら、定期健診を受けずに進行癌となってから来院されるケースもあり、この場合はすでにリンパ節や他臓器に転移していることも多く、再発の危険が増すばかりか抗癌剤投与や放射線治療の追加を必要としている。早期発見のため、無症状のうちに受ける住民健診等による定期的なスクリーニングが極めて重要である。

毎週定期的に、呼吸器内科・放射線科と合同カンファレンスを行って、個々の症例に関して治療方針を検討しており、各科と共同で治療にあたっている。

(部長 成田 久仁夫)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：429件



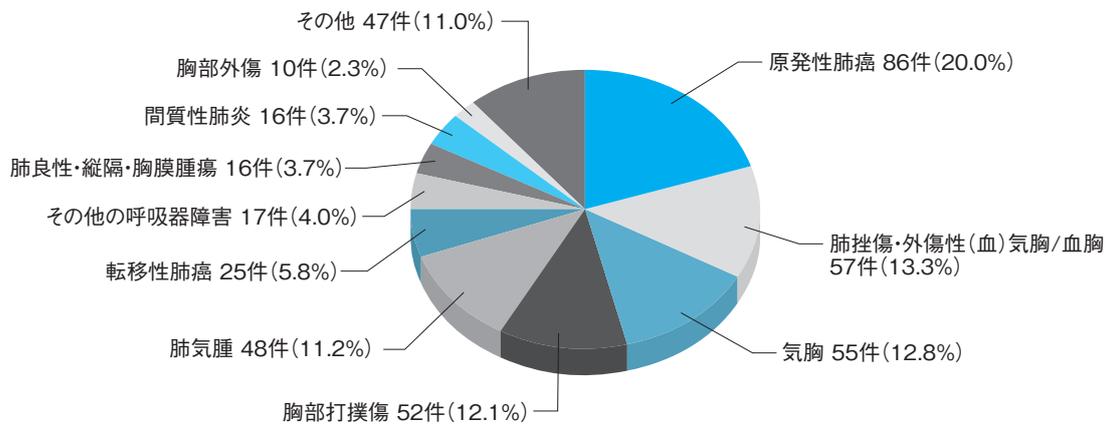
ICD-10 中間分類項目

S20-S29	: 胸部<郭>損傷
C30-C39	: 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物
J90-J94	: 胸膜のその他の疾患
J40-J47	: 慢性下気道疾患
C76-C80	: 部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物
J95-J99	: 呼吸器系のその他の疾患
D37-D48	: 性状不詳又は不明の新生物
J80-J84	: 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患
D10-D36	: 良性新生物
T08-T14	: 部位不明の体幹もしくは四肢の損傷又は部位不明の損傷
T79	: 外傷の早期合併症

3. 活動報告

(1) 疾患別頻度

総件数：429件



心臓外科・血管外科

1. 概要

先天性心疾患：NMCにおいて1kgに満たない小さな子たちに救命的な手術を行っている。救命率は非常に高く安定した手術が実現でき、それ以外の症例については他院へお連れして手術を行っている。

後天性心疾患：外山医師が主体となっており、手術症例数はいまだ多くなく、スタッフの教育にもかなりの労力を要している現状である。

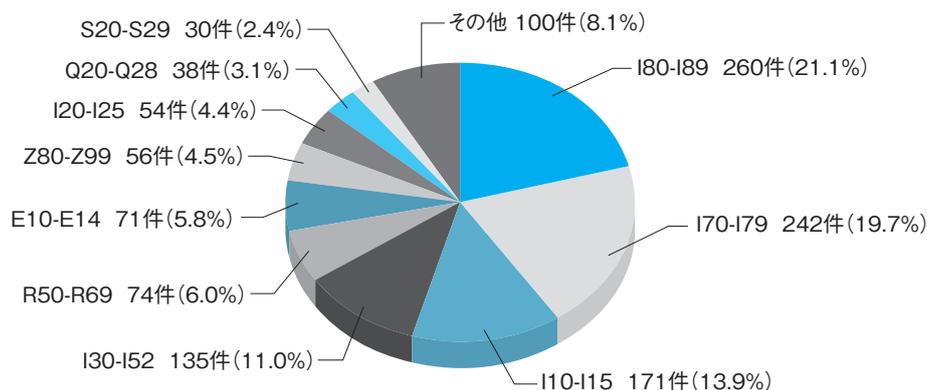
血管外科：腹部大動脈疾患や閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤などの静脈疾患が対象となり、昨年は約90例の手術件数で年毎に増えている。スタッフの不足はかなり深刻である。

現在、三年後の予定で、大動脈瘤や大動脈解離等に対してステント治療が実施できるよう、施設増設の準備をしている。これは多くの労力を要するプランで、非常に重要な計画である。実現には院内院外を含めた多くの方々の協力が不可欠である。日々のご協力に対して厚くお礼を申し上げますとともに、今後ともご協力をお願いしたい。

(部長 中山 雅人)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：1,231件



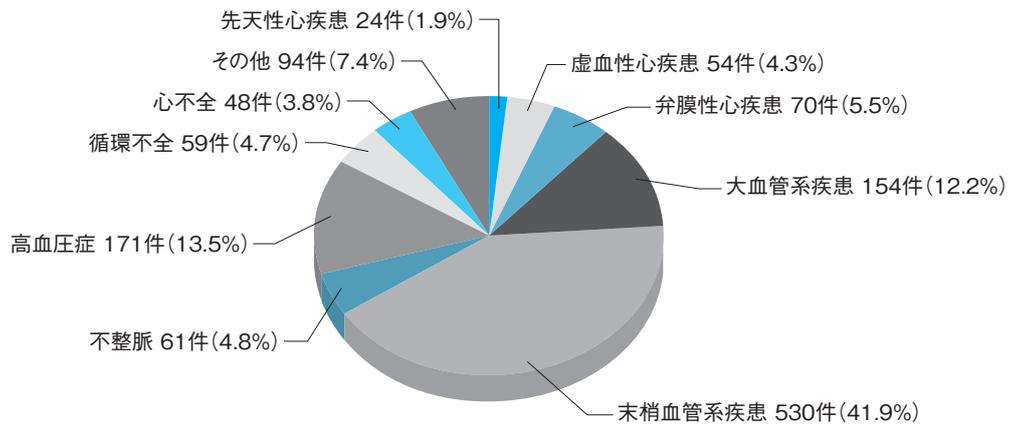
ICD-10 中間分類項目

I80-I89：静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの
I70-I79：動脈，細動脈及び毛細血管の疾患
I10-I15：高血圧性疾患
I30-I52：その他の型の心疾患
R50-R69：全身症状及び徴候
E10-E14：糖尿病
Z80-Z99：家族歴，既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者
I20-I25：虚血性心疾患
Q20-Q28：循環器系の先天奇形
S20-S29：胸部<郭>損傷

3. 活動報告

(1) 疾患別頻度

総件数：1,265件



移植外科

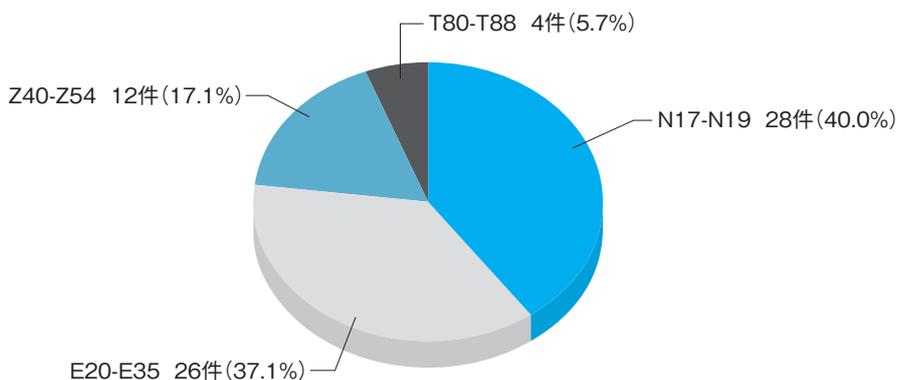
1. 概要

2010年4月より移植外科が標榜されて以来、移植外科医2人体制であったが、2012年5月に大塚聡樹医師（15年間勤務）が異動となり、移植外科医は1名となった。2012年10月からは東三河において唯一の腎移植認定施設となってしまったため当地域の献腎移植登録患者の待機期間中のフォローアップは当院のみで行っている。また他院で移植された腎移植患者や肝移植患者の定期通院も受け入れており、東三河だけでなく全国の移植施設との間で病診連携がなされている。2015年の腎移植症例は生体腎移植6例、献腎移植2例であったが、生体腎移植目的の紹介患者は年々増加しており、今後、腎移植症例はさらに増えてゆくものと思われる。また、長期透析に伴う二次性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺手術も年々増加しており、近隣透析施設との病診連携も密に行われている。

（部長 長坂 隆治）

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：70件



ICD-10 中間分類項目

N17-N19：腎不全

E20-E35：その他の内分泌腺障害

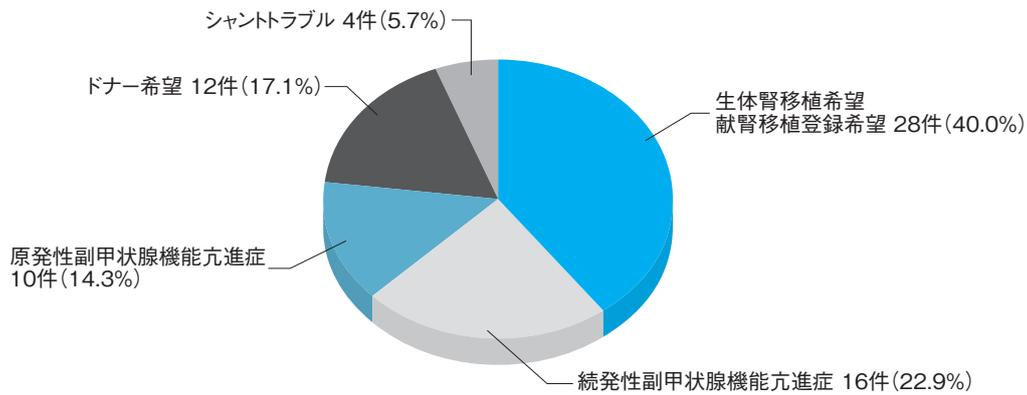
Z40-Z54：特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者

T80-T88：外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの

3. 活動報告

(1) 疾患別頻度

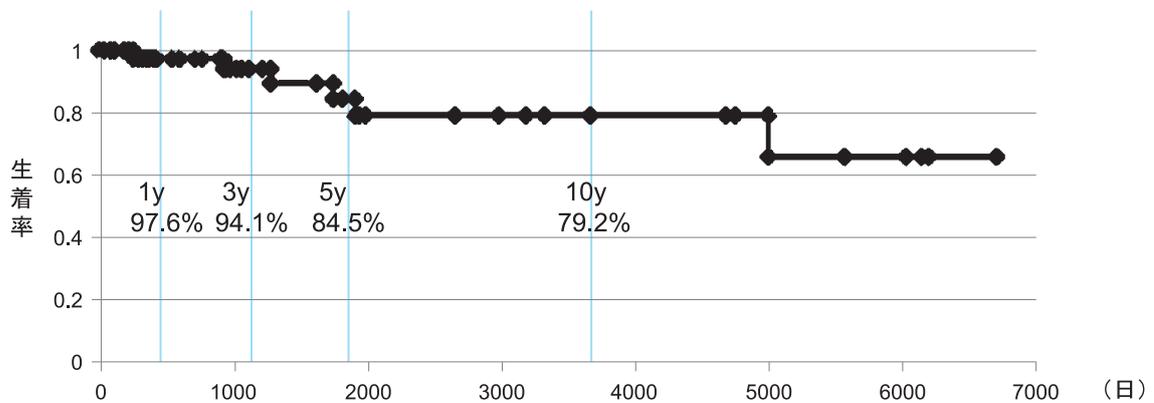
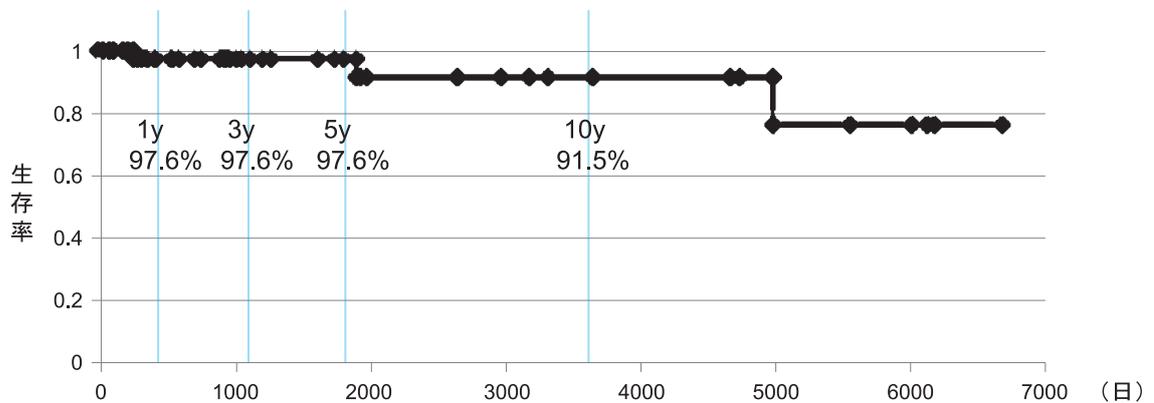
総件数：70件



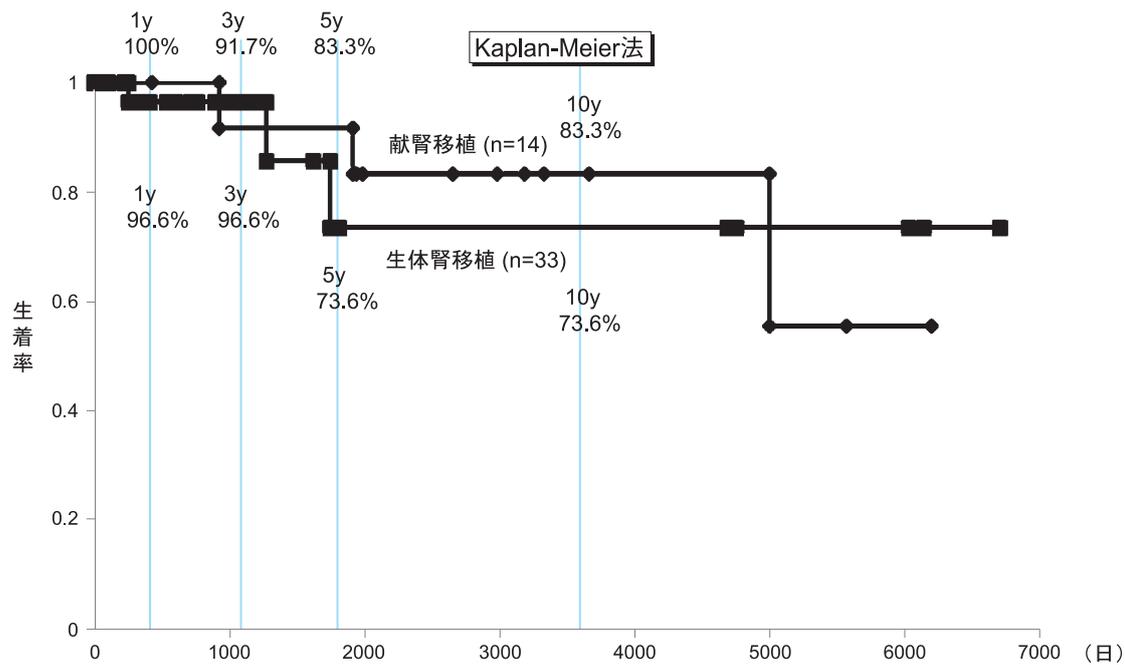
(2) 外来患者の状況 (2016年4月現在)

	外来種別	患者数 (人)		外来種別	患者数 (人)
1	腎移植後	58	4	献腎移植登録外来	109
2	肝移植後	6	5	副甲状腺手術後	31
3	脾移植後	1		計	205

(3) 当院腎移植症例の生着率と生存率 (2016年4月現在)



(4) 当院腎移植症例の生着率 (生体腎移植 vs 献腎移植) (2016年4月現在)



整形外科

1. 概要

2015年12月31日のスタッフは、常勤医【三重野琢磨（小児）、山内健一（関節、外傷）、藤田護（膝肩、外傷）、三矢聡（手外科、外傷）】で専攻医【岡田貴士、磯野正晶、三矢未来、宮入祐一、長谷川純也、福井順】である。専攻医は、6か月毎に整形外科、脊椎外科、リウマチ科をローテートしており、名大整形外科と人事交流を行っている。

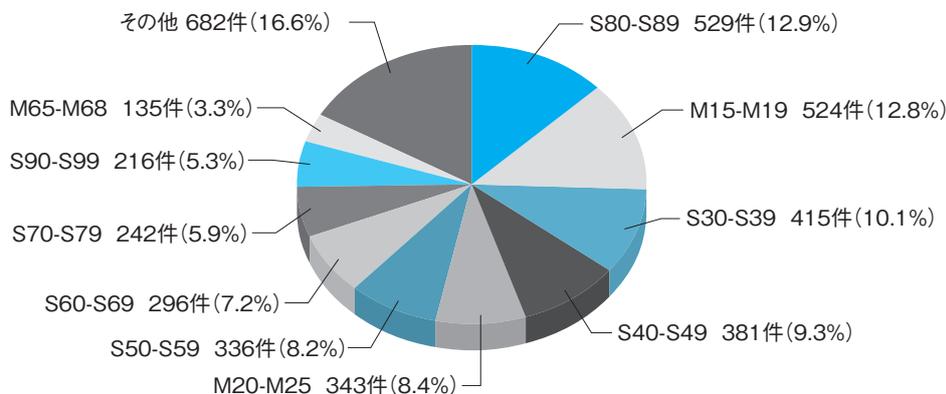
専門外来は、小児整形（名大整形 鬼頭准教授）、骨軟部腫瘍（名大整形 浦川講師）が月1回で行っている。手足の先天異常の手術は、井上五郎先生や申正樹先生の指導を受けている。また、大腿骨頸部骨折地域連携パスを使用し、市内の急性期・回復期病院と連携しているほか、豊橋市こども発達センター（ほいっぷ）に三重野が週1回出張している。

豊橋整形外科研修セミナーを主催し、2月は名大中央感染制御部の加藤大三先生、8月は名大整形の舟橋康治先生に講演して頂いた。東三整会、三河関節、三河骨軟部、名静会などの研究会にも積極的に参加している。

（第一部長 三重野 琢磨）

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：4,099件



ICD-10 中間分類項目
S80-S89：膝及び下腿の損傷
M15-M19：関節症
S30-S39：腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷
S40-S49：肩及び上腕の損傷
M20-M25：その他の関節障害
S50-S59：肘及び前腕の損傷
S60-S69：手首及び手の損傷
S70-S79：股関節部及び大腿の損傷
S90-S99：足首及び足の損傷
M65-M68：滑膜及び腱の障害

3. 活動報告

(1) 骨折頻度

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	下腿 (足首を含む)	38	5	手首及び手	40
2	大腿骨	19	6	その他	11
3	肩及び上腕	22		計	148
4	前腕	18			

(2) 患者状況

年間外来患者数 32,743人 (整形外科、脊椎外科)

年間入院患者数 1,298人 (整形外科のみ)

(3) 手術実績

手術症例 1,193件

麻酔別症例件数

名 称	件 数 (件)
全身麻酔	246
腰椎麻酔	473
伝達麻酔	295
局所麻酔	124
その他	8
計	1,146

②手の外科 (重複あり)

名 称	件 数 (件)
(ア) 肘・前腕	151
(イ) 手関節	24
(ウ) 手指	126
(エ) マイクロサージャリー	51
(オ) 手指、足趾、多合指(趾)	7
計	359

①関節外科 (ア+イ+ウ) 199件

(ア)人工関節

名 称	件 数 (件)
股関節	108
膝関節	27
肩関節	1
計	136

③骨軟部外傷

名 称	件 数 (件)
(ア) 鎖骨-上腕	49
(イ) 骨盤-大腿骨頸部	36
(ウ) 大腿-膝	155
(エ) 下腿	69
(オ) 足関節-足	24
(カ) 抜釘	121
計	454

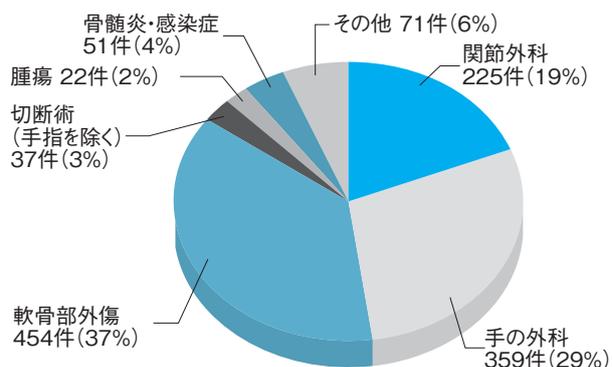
(イ)関節形成術

名 称	件 数 (件)
股関節	0
膝関節	2
肩関節	1
計	3

- ④切断術 (手指を除く) 37件
- ⑤腫瘍 22件
- ⑥骨髄炎・感染症 51件
- ⑦その他 71件

(ウ)関節鏡視下手術

名 称	件 数 (件)
肩関節	12
膝関節	35
手関節	13
足関節	0
計	60



リウマチ科

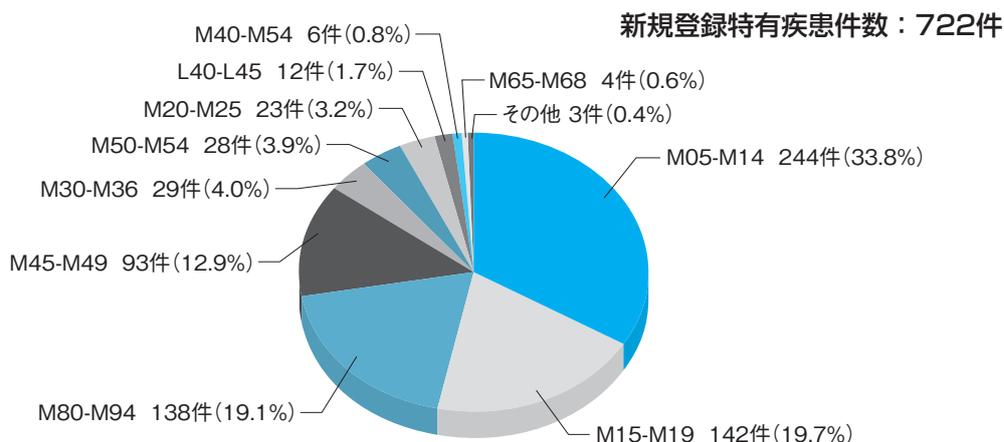
1. 概要

当科は整形外科から発展したが内科的治療を基本とし、外科的治療もおこなっている。当科の診療の4本柱について記す。現在は平野、磯野の2人のリウマチ科常勤医を中心に、研修中の整形外科若手医師の助けも借りて診療にあたっている。

- (1) 関節リウマチ（RA）の薬物治療：MTXを中心とした古典的抗リウマチ薬を早期から使用し、効果不十分例には生物学的製剤を導入し関節破壊の防止に努めている。新薬の治療も行っている。
- (2) 各種リウマチ性疾患（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、SAPHO症候群）：比較的珍しい疾患群であるが対応し、疾患ごとの適切な治療を行っている。
- (3) 骨粗鬆症の診療：古典的薬剤に加え、新規薬剤（テリパラチド、デノスマブ）が出現し、パラダイムシフトが起こっている。骨折診療の潮流は治療から予防に向かっている。
- (4) RAの外科的治療：長期罹病RA患者には外科的治療が必要であり、薬物治療とのコンビネーションこそが最高の結果をもたらす。人工関節置換術、関節固定術、関節形成術を行っている。

(部長 平野 裕司)

2. ICD-10による疾患別頻度



ICD-10 中間分類項目
M05-M14：炎症性多発性関節障害
M15-M19：関節症
M80-M94：骨障害及び軟骨障害
M45-M49：脊椎障害
M30-M36：全身性結合組織障害
M50-M54：その他の脊柱障害
M20-M25：その他の関節障害
L40-L45：丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害
M40-M54：脊柱障害
M65-M68：滑膜及び腱の障害

3. 活動報告

(1) 実績

2015年度関節リウマチ患者背景		
症例数(件)		930
新患者数(各年)(人)		60
性別	男(人)	224
	女(人)	706
	女性率(%)	75.9
平均年齢(歳)		65.3
平均罹病期間(年)		13.6
罹病期間分類(%)	2年以下	15.6
	3年～9年	30.4
	10年以上	54.0
Stage(%)	I	22.7
	II	16.5
	III	22.7
	IV	38.1
Class(%)	1	35.7
	2	47.9
	3	13.2
	4	3.2
RF陽性率(%)		76.7
ACPA陽性率(%)		81.6

2015年度関節リウマチ薬物治療	
MTX投与者	601
MTX投与率(%)	64.6
投与例の平均MTX投与量(mg/w)	8.7
アザルフィジン投与者	187
アザルフィジン投与率(%)	20.1
プログラフ投与者	163
プログラフ投与率(%)	17.5
PSL投与率(%)	21.5
投与例の平均PSL投与量(mg/day)	3.9
生物学的製剤経験者	309
生物学的製剤経験率(%)	33.3

2015年度関節リウマチ臨床成績		
平均CRP(mg/dl)		0.69
平均DAS28(ESR)		2.93
DAS28(ESR)疾患活動性分類(%)	High	5.5
	Moderate	30.1
	Low	19.0
	Remission	45.5
平均SDAI		7.0
SDAI疾患活動性分類(%)	High	2.7
	Moderate	16.3
	Low	42.6
	Remission	38.4
Boolean4(%)		31.0
平均mHAQ		0.427
mHAQ<0.5(%)		66.8

2015年リウマチ科手術	
合計手術件数	26
人工膝関節置換術	9
人工股関節置換術	5
足趾形成術	5
RA手関節手術	1
足関節固定術	1
人工膝関節片顆置換術	1

脊椎外科

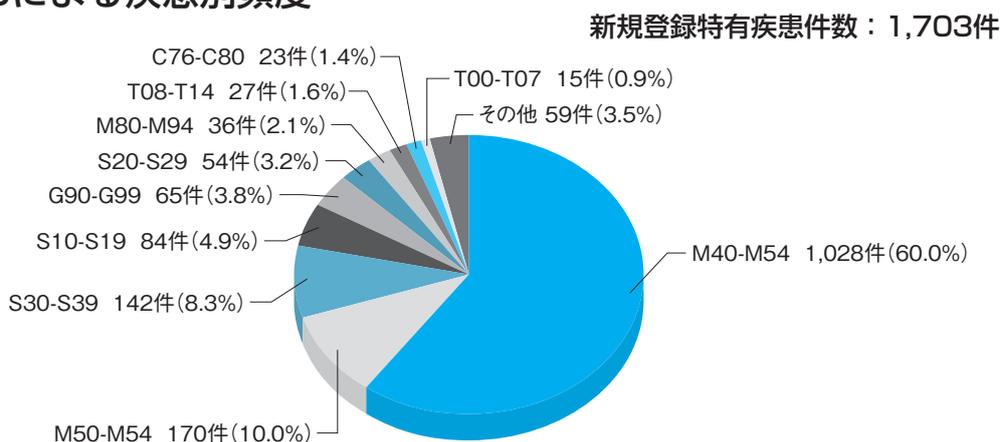
1. 概要

脊椎外科は、2005年4月1日より院内標榜科として新設された。現在、脊椎外科医は吉原 永武（部長）、富田 浩之、宮入 祐一の3名であり、整形外科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。年間200件ほどの手術治療を行っているが、頸髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアが脊椎外科における3大疾患であり、手術例のほとんどを占める。稀な疾患においては、名古屋大学整形外科脊椎グループと連携をとりながら、できるだけ当院内で高いレベルでの治療が行えるよう対処している。

脊椎疾患の治療には、保存的治療と手術的治療を病態に応じて選択し、的確に実施して行くことが重要である。保存的治療もさることながら、とりわけ手術的治療が必要な方に対する十分な治療の提供が当院の使命と考えている。当院での治療成績より得られた貴重な医学的知見について、脊椎外科の発展に寄与すべく国内外の学会および医学雑誌上での発表も行っている。

（部長 吉原 永武）

2. ICD-10による疾患別頻度



ICD-10 中間分類項目

M40-M54	： 脊柱障害
M50-M54	： その他の脊柱障害
S30-S39	： 腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷
S10-S19	： 頸部損傷
G90-G99	： 神経系のその他の障害
S20-S29	： 胸部<郭>損傷
M80-M94	： 骨障害及び軟骨障害
T08-T14	： 部位不明の体幹もしくは四肢の損傷又は部位不明の損傷
C76-C80	： 部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物
T00-T07	： 多部位の損傷

3. 活動報告

(1) 主な対象疾患

腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 頸椎症性頸髄症 腰椎迂り症・分離症 頸椎椎間板ヘルニア 後縦靱帯骨化症・黄色靱帯骨化症・黄色靱帯石灰化症 リウマチ脊椎 透析脊椎 脊髄腫瘍・脊椎腫瘍 脊椎感染症 脊椎外傷 その他

(2) 手術実績（2015年1月～12月）

術式	件数(件)
頸椎椎弓形成術	39
頸椎椎間孔拡大術	7
頸椎前方除圧固定	10
頸椎後方固定術	13
胸椎除圧固定	3
胸椎椎弓切除	9
椎間板ヘルニア摘出	30
椎弓切除（腰椎除圧術）	61
脊椎固定術	29
胸腰椎前方固定	4
胸腰椎後方固定	17
胸腰椎前方後方同時固定	10
脊椎脊髄腫瘍	2
その他	12
計	246

脳神経外科

1. 概要

当科では各専門領域の医師を配置し、新生児から超高齢者まで脳神経外科疾患のほぼ全ての領域を対象として、可能な限り当院にて治療が完結できるよう努めている。近年の低侵襲手術への傾向を踏まえ、血管内治療（脳動脈瘤コイル塞栓術、頸動脈狭窄ステント拡張術など）や神経内視鏡手術（脳内血腫除去術、経鼻下垂体腫瘍摘出術、水頭症手術など）などの低侵襲かつ最先端の治療の導入も進んでいる。特に最近では、急性期脳梗塞におけるカテーテル血栓除去術を積極的に行い、従来の治療では救えなかった症例に対して良好な成績を築きつつある。

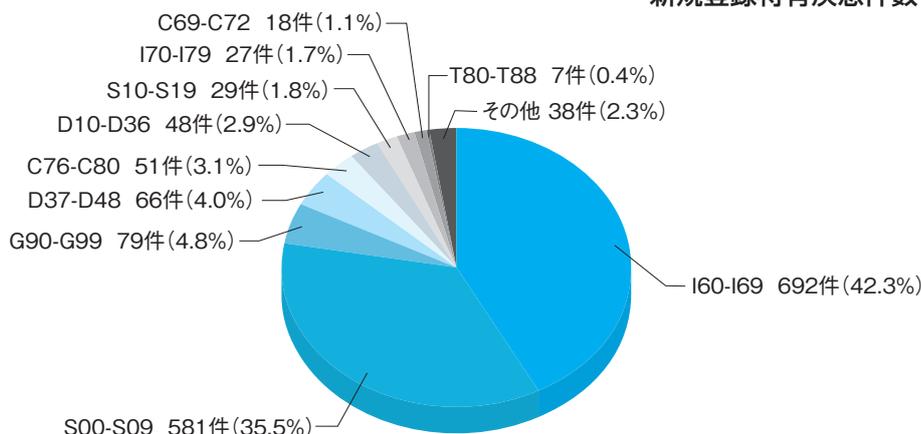
またNavigationシステムや電気生理学的モニター（体性感覚誘発電位、運動誘発電位、聴性脳幹反応、顔面神経誘発電位など）を駆使して、術後の神経障害の出現を可能な限り抑えることにも取り組んでいる。

今後の高齢化医療に対しては、「穂の国脳卒中地域連携パス」をさらに発展させて、この地域の円滑な医療連携の向上に努めて行きたい。

（第二部長 若林 健一）

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：1,636件

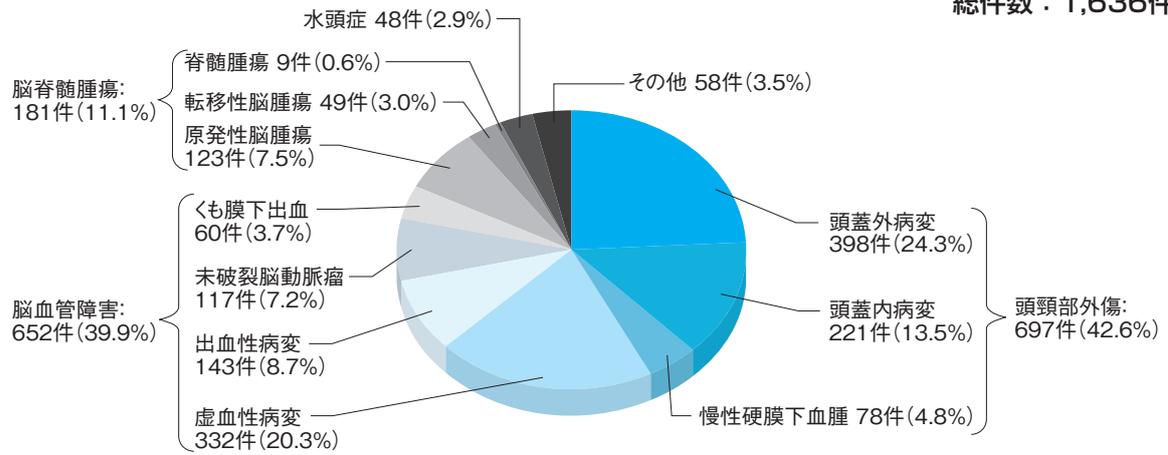


ICD-10 中間分類項目
I60-I69：脳血管疾患
S00-S09：頭部損傷
G90-G99：神経系のその他の障害
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
C76-C80：部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物
D10-D36：良性新生物
S10-S19：頸部損傷
I70-I79：動脈、細動脈及び毛細血管の疾患
C69-C72：眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物
T80-T88：外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの

3. 活動報告

(1) 疾患別頻度 (詳細)

総件数：1,636件



小児科

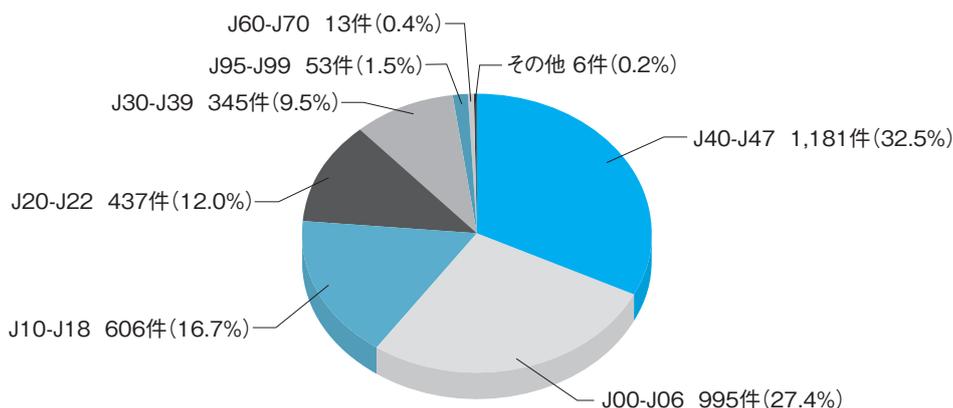
1. 概要

当小児科病棟スタッフは皆、東三河地域の最後の砦を担うという誇りと緊張感を持って日夜対応している。サブスペシャリティとしてはアレルギー疾患、神経疾患、循環器疾患、腎疾患、内分泌疾患、血液腫瘍疾患をカバーし、高度特殊医療を除けば各分野ともに専門施設と比べても引けを取らない医療レベルを提供できている。また、患者さんには最善の医療を提供すべく、各分野で対応困難な症例については惜しみなく専門施設との連携をとって対応している。このような体制を維持する意義は、極力地域で医療が完結することが患者さんご家族への最高のサービスの一つとなることにある。特に長期入院を必要とする場合、月に何度も専門外来にかかる必要がある場合には切実な問題である。一方で、周囲の一次医療、二次医療、休日夜間診療所の業務、健診医療の充実に支えられてこそ当院が二次、三次医療に集中することが可能であるということも忘れてはならない。

(第二部長 伊藤 剛)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：3,636件



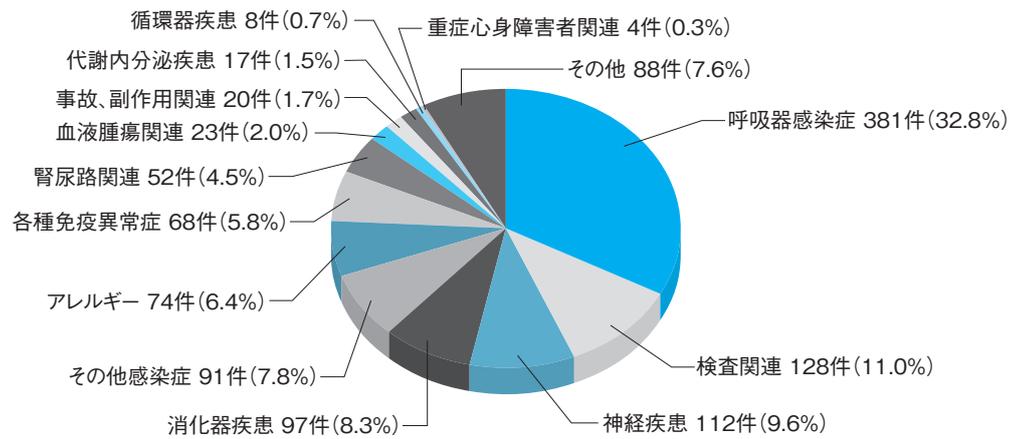
ICD-10 中間分類項目

J40-J47：慢性下気道疾患
J00-J06：急性上気道感染症
J10-J18：インフルエンザ及び肺炎
J20-J22：その他の急性下気道感染症
J30-J39：上気道のその他の疾患
J95-J99：呼吸器系のその他の疾患
J60-J70：外的因子による肺疾患

3. 活動報告

(1) 入院患者疾患別頻度

総件数：1,163件



小児科（新生児）

1. 概要

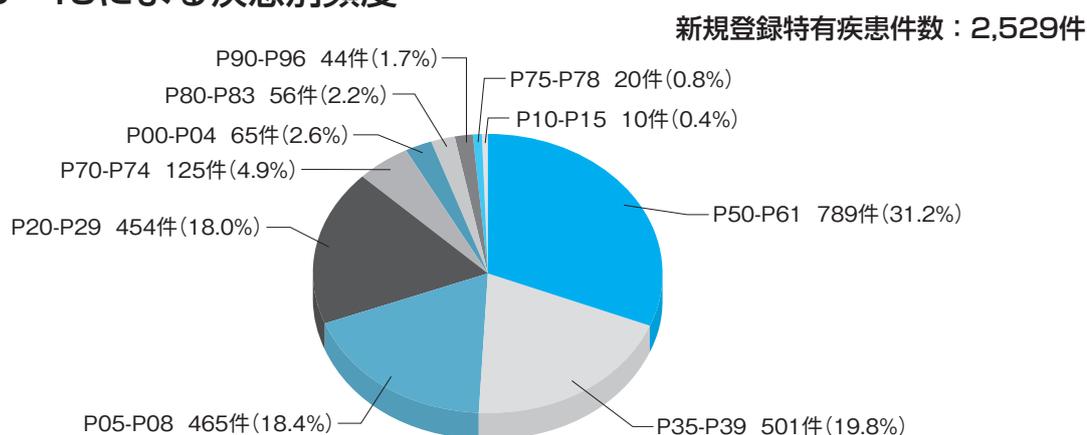
豊橋市民病院新生児医療センターは、東三河地区唯一の総合周産期母子医療センターに指定されている。

2015年の入院数は447例で内328例は院内出生であった。院外出生例においては医師が救急車に同乗して搬送しており、24時間体制で高度な医療を迅速に提供している。一部の外科的治療が必要な例は他施設への搬送を要する例もあるが、その場合も医師が同乗し責任をもって搬送にあたっている。NO吸入療法や低体温療法など最先端の医療技術を提供し、東三河地区の新生児救命率の向上に貢献しているが、2015年には超低出生体重児を中心に救命困難例も経験しており、更なる救命率の向上が望まれる。新生児期の医療提供以外に、医師、看護師、理学療法士、臨床心理士が連携し、患児発達支援や両親の心のサポートも提供している。

臨床面のみでなく学術面においても、当センターで得られた貴重な医学的知見を学会及び医学誌で積極的に発表している。

（第二部長 幸脇 正典）

2. ICD-10による疾患別頻度



ICD-10 中間分類項目
P50-P61：胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害
P35-P39：周産期に特異的な感染症
P05-P08：妊娠期間及び胎児発育に関連する障害
P20-P29：周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害
P70-P74：胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害
P00-P04：母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児
P80-P83：胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態
P90-P96：周産期に発生したその他の障害
P75-P78：胎児及び新生児の消化器系障害
P10-P15：出産外傷

3. 活動報告

(1) 出生在胎週数別入院患者数

出生在胎(週)	症例数(件)
22～23	3
24～27	13
28～33	68
34～36	125
37～	238
計	447

(2) 出生体重別入院患者数

出生体重(g)	症例数(件)
～499	0
500～999	22
1000～1499	30
1500～1999	74
2000～2499	116
2500～	205
計	447

(3) 出生院別入院患者数

出生院	症例数(件)
豊橋市民病院	328
パークベルクリニック	27
小石マタニティクリニック	30
マミーローズクリニック	17
中岡レディースクリニック	15
今泉産婦人科医院	2
豊川市民病院	10
ジュンレディースクリニック豊橋	5
渡辺レディースクリニック	4
愛知厚生連 渥美病院	5
オレンジベルクリニック	2
静岡厚生連 遠州病院	1
蒲郡市民病院	1
計	447

(4) NMC 入院児 死亡退院例

	在胎週数	出生体重 (g)	死亡日齡(日)	死亡原因
1	24 週 2 日	7 3 0	9	壊死性腸炎
2	25 週 3 日	7 9 6	1 4	Wilson-Mikity 症候群
3	23 週 0 日	5 0 4	3 4	壊死性腸炎
4	39 週 2 日	3, 7 1 5	3 0	帽状腱膜下出血
5	26 週 6 日	5 2 7	9 8	壊死性腸炎
6	25 週 3 日	8 5 0	4 2	壊死性腸炎
7	38 週 1 日	2, 8 3 0	0	帽状腱膜下出血
8	24 週 1 日	5 6 3	1 4	早発型大腸菌敗血症

(5) 蘇生時死亡例

	在胎週数	出生体重 (g)	死亡日齡(日)
1	29 週 6 日	1, 3 3 8	0
2	24 週 4 日	6 1 8	0

産婦人科

1. 概要

周産期分野では総合周産期センター開設後、約2年が経過した。生殖年齢人口の減少に伴い、当地域の出生数は減少しているが、当院の分娩数、母体搬送数は減少していない。むしろ超早産、極低出生体重児の出生数は増加傾向にある。院内各科と連携し、母児の安全を第一に診療を行っている。

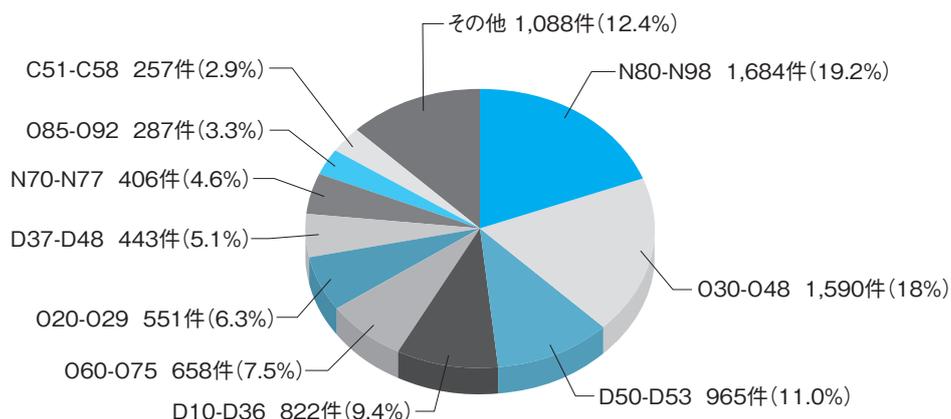
婦人科悪性腫瘍については、患者の状態や進行期を考慮した治療を心がけ、全国的にも高い成績を示している。子宮体癌では、保険適応となった腹腔鏡下手術の症例が増加した。現在子宮頸癌に対する腹腔鏡下手術の先進医療認定に向け準備中である。

子宮筋腫をはじめとした良性疾患は、ほぼ腹腔鏡下手術に移行した。妊娠を希望される症例では総合生殖医療センターと連携し、よりよい治療方法、時期を選択するとともに術後早期の妊娠を目指し、妊娠後は周産期部門で一貫した治療が可能となっている。また、子宮脱に対しては低侵襲かつ再発も少ない腹腔鏡下手術を導入し症例数が飛躍的に増加した。

(第二部長 岡田 真由美)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：8,751件



ICD-10 中間分類項目
N80-N98：女性生殖器の非炎症性障害
O30-O48：胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題
D50-D53：栄養性貧血
D10-D36：良性新生物
O60-O75：分娩の合併症
O20-O29：主として妊娠に関連するその他の母体障害
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
N70-N77：女性骨盤臓器の炎症性疾患
O85-O92：主として産じょく<褥>に関連する合併症
C51-C58：女性生殖器の悪性新生物

3. 活動報告

(1) 実績

分娩統計(2015.1-12)	(件)
正常	478
バースセンター正常	4
選択の帝王切開	212
緊急帝王切開	158
緊急帝王切開死産	0
超緊急帝王切開	20
鉗子分娩	6
吸引分娩	55
未受診正常	2
未受診緊急帝王切開	1
死産	3
双胎選択帝王切開	37
双胎緊急帝王切開	11
双胎緊急帝王切開一児死産	1
計	988
中期中絶	14
中期流産	9
中期中絶帝王切開	4
中期流産帝王切開	1
双胎中期中絶	1
計	29
母体搬送	242

産婦人科悪性腫瘍治療症例数(2015.1-12)	(件)
◎子宮頸部CIN II	計16
円錐切除	10
腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)	5
複式単純子宮全摘術(TAH)	1
◎子宮頸部CIN III	計70
円錐切除	47
レーザー蒸散	1
TLH	20
TAH	2
◎子宮頸癌	計37
①子宮頸癌(扁平上皮癌)初回手術例	21
IA期	6
IB1期	12
IB2期	2
IIA期	1
②子宮頸癌(腺癌他)初回手術例	4
0期	2
IB1期	1
IIB期	1
③子宮頸癌化学放射線療法後手術 IIIB期	1
④子宮頸癌化学放射線療法 (放射線科と共同治療)	8
IIA1期	1
IIB期	2
IIIA期	1
IIIB期	1
IVB期	3
⑤子宮頸癌放射線療法(主に放射線科)	3
IIB期	1
IIIA期	1
IVB期	1

◎子宮体癌（癌肉腫含む）	計	53
I A期		32
I B期		12
II期		2
III A期		2
III C期		1
IV B期		4
◎子宮肉腫	計	3
子宮平滑筋肉腫		
I B期		1
IV B期		1
未分化肉腫 III C期		1
◎子宮腺肉腫 I C期	計	1
◎STUMP	計	1
◎子宮内膜異型増殖症	計	5
◎卵巣癌	計	35
I A期		4
I C期		15
II A期		1
II B期		2
III B期		5
III C期		6
IV B期		2
◎卵巣境界悪性腫瘍	計	12
I A期		7
I C期		5
◎Krukenberg腫瘍	計	2
◎卵管癌 I A期	計	2

◎化学療法

卵巣癌	60人	のべ358コース
子宮頸癌	39人	のべ129コース
子宮体癌	38人	のべ167コース
腹膜癌	6人	のべ29コース
子宮肉腫	4人	のべ19コース
卵管癌	2人	のべ16コース
その他	3人	のべ18コース
計	152人	に対してのべ736コース施行

産婦人科当直帯救急患者数（夜間休日）（2015.1-12）（件）

経陰分娩	402
緊急帝王切開	100
その他手術	49

救急外来患者数再診

8：30-17：00（休日のみ）	132
17：00- 0：00	254
0：00- 8：30	126
計	512

救急外来患者数初診

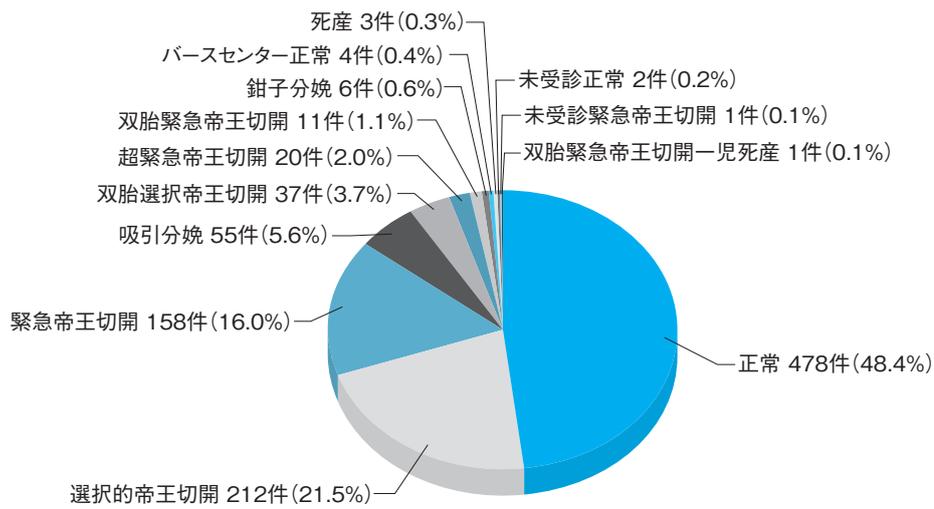
（カッコ内は本来他の施設で診察すべき患者数）

8：30-17：00（休日のみ）	70	（8）
17：00- 0：00	202	（23）
0：00- 8：30	90	（15）
計	362	（46）

救急外来患者総数 874

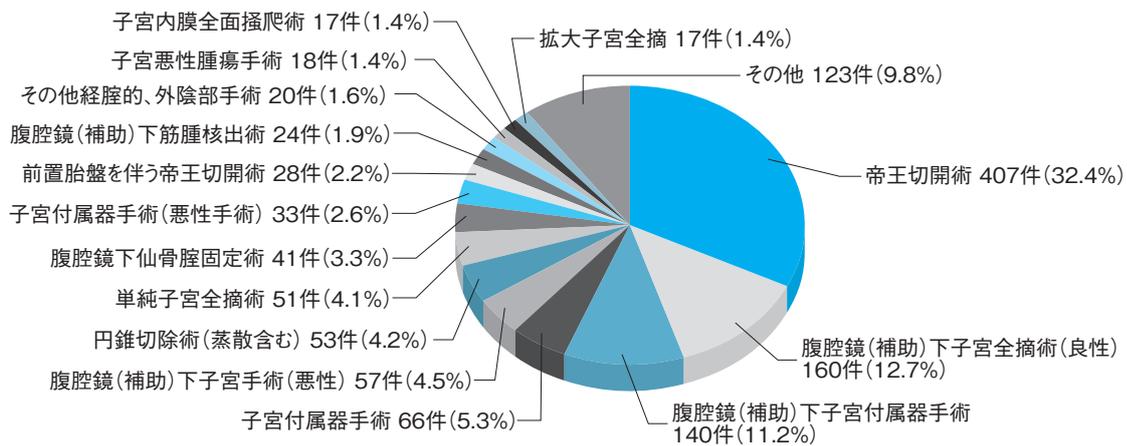
●分娩統計

総件数：988件



●手術件数

総件数：1,255件



産婦人科（生殖医療）

1. 概要

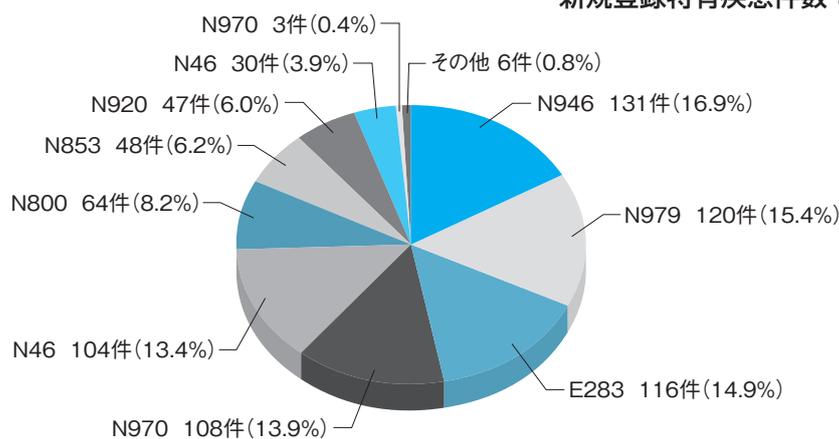
世界に先駆けて全受精卵への臨床応用を開始したタイムラプス胚培養も9年目となり、多胎防止を含む生殖補助医療の質的維持を今年も達成できた。国内外の学会での新知見発表には聴衆も多く集まり、若手産婦人科医師や臨床検査技師のモチベーションを高めている。矢吹医師が、日本不妊カウンセリング学会で優秀賞を受賞した。

2015年は、生殖医療で思うような結果が出ない事の背景としての肥満・痩せへの着目を高め、健康な体作りは安全妊娠への必要条件であることの患者さん向け教育を徹底した。難治性の患者さんが当院に集中するという理想的な傾向は続いている。このような患者さんが繰り返し治療を行い見かけ上の数値を低く抑えているが、他院での不成功例がすんなり成功するなど、スタッフが技術の高さを確認できる機会も多かった。頻回不成功例に肥満や痩せが多いことにも着目し、妊娠分娩の安全性や生涯の健康増進にもつながる健康な体作りを推進した1年でもあった。

(部長 安藤 寿夫)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：777件



ICD-10 分類
N946：月経困難症
N979：女性不妊症
E283：卵巣機能不全
N970：排卵障害
N46：男性不妊症
N800：子宮腺筋症
N853：子宮退縮不全
N920：過多月経
N46：精子減少症
N970：卵巣性不妊症

3. 活動報告

(1) 生殖補助医療

2015年	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	26	23	12	15	4	12	2
2月	26	24	12	18	5	11	2
3月	15	13	9	7	2	17	6
4月	18	16	10	5	1	9	0
5月	27	24	17	18	11	7	1
6月	29	24	15	11	2	9	2
7月	30	25	14	12	1	8	3
8月	19	16	11	10	2	4	0
9月	26	25	12	20	3	8	4
10月	22	19	12	8	1	4	0
11月	21	21	7	13	3	11	2
12月	25	24	17	12	0	7	1
計	284	254	148	149	35	107	23
妊娠率					23.5%		21.5%

多胎は0例。異所性妊娠0例。

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

(2) 不妊症妊娠例（カッコ内は多胎妊娠例）（件）

体外受精－新鮮胚移植	37 (0)
融解胚移植	25 (0)
排卵誘発	10 (2)
人工授精	9 (1)
習慣流産	4 (0)
タイミング法・その他	29 (1)
計（重複例を除く）	100 (2)

女性内視鏡外科

1. 概要

産婦人科の中で、主に腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術全般に関わる手術を担当している。

東三河においては、婦人科手術に関してこれまで開腹術が中心であったが、良性疾患のほとんどで腹腔鏡下手術が可能のため今後置き換わっていく予定である。この手術は傷も小さく、早期退院、社会復帰可能な手術で患者さんに負担が少ない手術である。2013年に着任して以来、順調に手術件数を伸ばし、2015年度は腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術合わせて400件となり、愛知県内でも有数の鏡視下手術件数を誇るまでになった。入院期間は腹腔鏡下手術で5日間前後、子宮鏡手術では3日間である。退院後特に制限なく活動が可能となるので、とても有効な治療法である。現在、子宮体がんは腹腔鏡下手術が保険適用となり、子宮頸がんに対しては東海地方で初めての先進医療施設に認定され治療を行っている。また高齢化に伴い、子宮脱や膀胱脱といった骨盤臓器脱の患者さんが増えている。臓器脱に伴い社会活動の低下や膀胱機能障害が出現するために、その治療法として腹腔鏡による最新式のメッシュ手術を導入した。ロボット手術も合わせて導入しており、今後ますます低侵襲化手術に向けて展開していく。

(部長 梅村 康太)

耳鼻いんこう科

1. 概要

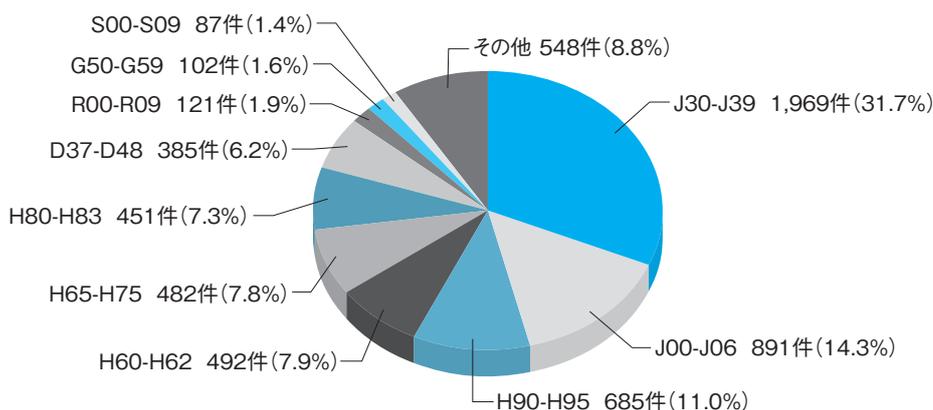
1日の外来受診患者数は約100～110人であった。年間の入院患者数は653人であった。手術室を使用した手術療方は年間412件であった。

中耳炎、めまい、難聴、顔面神経麻痺に対して投薬治療を行い、改善を認めない場合は当院にて外科的治療を行った。また、耳鳴り専門外来を新設し、専門的な治療を開始した。アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症に対して、患者さまの病態や希望にあった治療（手術療法や投薬治療）を行った。慢性扁桃炎や睡眠時無呼吸症候群に対して、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を行った。また鼻出血、急性扁桃炎、喉頭蓋炎などの救急疾患については、重症度に合わせて入院治療をおこなった。咽頭・喉頭・甲状腺・唾液腺などの良性腫瘍に対しては、適応を定めて手術療法を行った。悪性腫瘍に対しては、それぞれの患者の状況に合わせて、根治と機能温存のバランスを取り、手術療法、化学療法、放射線療法の3者を組み合わせて治療を行なった。再建を必要とする様な症例も積極的に当院で行った。

(部長 小澤 泰次郎)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：6,213件

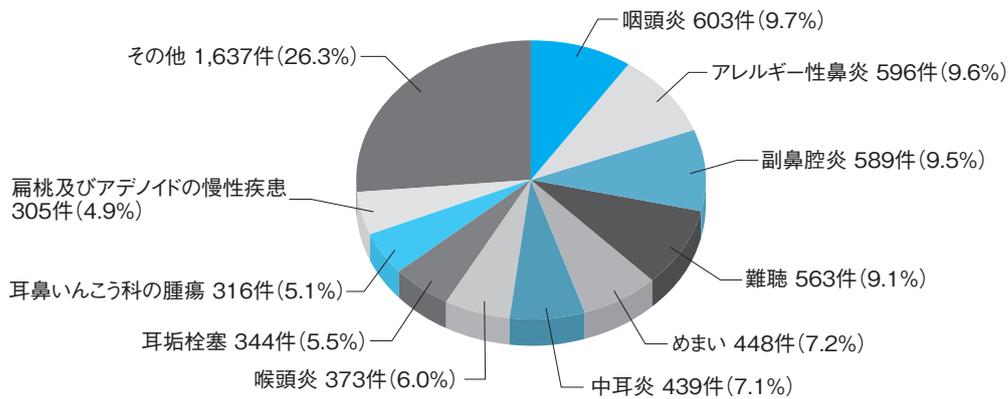


ICD-10 中間分類項目
J30-J39：上気道のその他の疾患
J00-J06：急性上気道感染症
H90-H95：耳のその他の障害
H60-H62：外耳疾患
H65-H75：中耳及び乳様突起の疾患
H80-H83：内耳疾患
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
R00-R09：循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候
G50-G59：神経、神経根及び神経そう<叢>の障害
S00-S09：頭部損傷

3. 活動報告

(1) 疾患別頻度

総件数：6,213件



(2) 入院患者の状況

主な救急疾患(入院加療を要した)	件数(件)
めまい	18
突発性難聴	9
顔面神経麻痺	12
急性扁桃炎・扁桃周囲の腫瘍	45
急性喉頭蓋炎・喉頭炎	27
鼻出血	7

主な手術療法(手術室使用)	件数(件)
口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術	195
内視鏡下副鼻腔手術	66
リンパ節摘出術	46
甲状腺腫瘍手術	8
鼓膜チューブ留置術	30
気管切開術	11
喉頭微細手術	19
耳下腺腫瘍手術	17
頸部郭清術	31
顎下腺摘出術	7
喉頭全摘術	3
咽頭悪性腫瘍手術	13

眼科

1. 概要

2015年4月より、未熟児網膜症の診察時デジタル眼底カメラにて眼底撮影可能となった。

また、名古屋大学眼科とネットワークを使用した、遠隔診療システムが使用可能となった。

それに伴い、重症な未熟児網膜症の治療方針等大学病院とも相談し、眼内に血管内皮細胞増殖因子に対する抗体を直接投与する治療法（抗 VEGF 療法）も小児科医師の協力にて施行開始した。

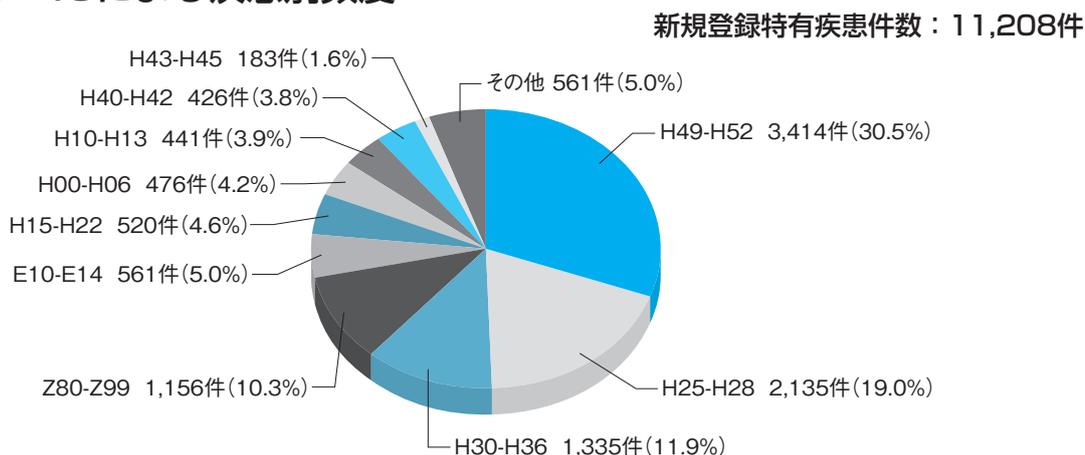
2015年7月より、新しい光干渉計測を利用した3次元眼底像撮影装置が利用可能となり、自発蛍光眼底撮影、造影剤なしでも網脈絡膜血管病変の描出も可能となった。

2015年9月より、白内障手術に対して、入院支援センターでクリニカルパスに基づき、入院前オリエンテーション、入院日・手術日の説明等が開始された。

2015年10月より、医師事務作業補助者（外来クラーク）が1名配置された。

（副部長 榊原 由美子）

2. ICD-10による疾患別頻度



ICD-10 中間分類項目
H49-H52：眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害
H25-H28：水晶体の障害
H30-H36：脈絡膜及び網膜の障害
Z80-Z99：家族歴、既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者
E10-E14：糖尿病
H15-H22：強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害
H00-H06：眼瞼、涙器及び眼窩の障害
H10-H13：結膜の障害
H40-H42：緑内障
H43-H45：硝子体及び眼球の障害

3. 活動報告

(1) 入院患者

入院時疾患名	(人)	入院時疾患名	(人)
白内障	634	増殖硝子体網膜症	4
網膜剥離	119	眼内炎	3
黄斑上膜	73	斜視	3
糖尿病網膜症	55	眼内異物	2
緑内障	43	視神経症	2
黄斑円孔	37	内反症	2
硝子体出血・混濁	34	黄斑変性	1
網膜下出血	12	眼窩蜂窩織炎	1
硝子体脱出	10	上斜筋麻痺	1
硝子体黄斑牽引症候群	9	網膜静脈閉塞症	1
角膜穿孔	7	網膜分離症	1
眼内レンズ脱臼	6	網膜裂孔	1
外傷・眼球破裂	5	無水晶体眼	1
水晶体偏位	4	計	1,071

(2) 手術数

①外来手術数

手術名	件数(件)
硝子体注射・テノン嚢下注射	458
網膜光凝固術(PHC)	371
レーザー後発白内障切開術(YAG)	114
レーザー虹彩切開術(LI)	38
涙点プラグ挿入	20
レーザー線維柱帯形成術(LTP/SLT)	17
霰粒腫摘出術	3
計	1,021

②外来特殊検査件数

検査名	件数(件)
光干渉断層撮影(OCT)	7,519
動的量的視野検査	980
静的量的視野検査	766
蛍光眼底撮影	759
眼鏡処方	271
計	10,295

③手術センター手術数

手術名	件数(件)
白内障手術	647
硝子体茎頭微鏡下離断術	291
網膜復位術	51
眼瞼下垂症手術	31
濾過胞再建術	24
内反症手術	15
流出路再建術	15
硝子体切除術	11
翼状片手術	11
霰粒腫摘出術	9
斜視手術	8
硝子体注入・吸引術	6
縫着レンズ挿入	5
角膜・強膜縫合術	3
結膜肉芽腫摘除術	2
増殖性硝子体網膜症手術	2
角膜・強膜異物除去術	1
眼窩内腫瘍摘出術	1
眼球摘出術	1
眼瞼外反症手術	1
眼瞼腫瘤切除術	1
結膜下異物除去術	1
前房、虹彩内異物除去術	1
網膜冷凍凝固術	1
計	1,139

皮膚科

1. 概要

2015年の皮膚科は、2014年に引き続き山田、鈴木、佐藤、横山、榊原の5人体制である。

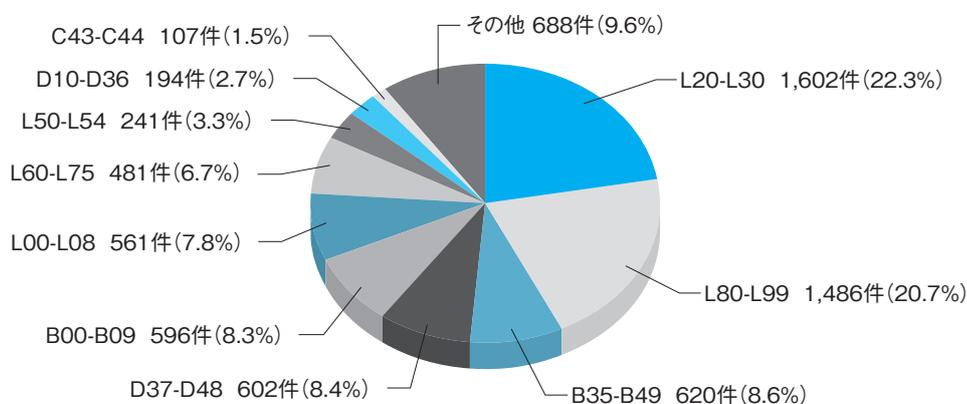
外来の患者数は増加傾向にある。これは、豊橋市、田原市、蒲郡市で常勤医師がおり、入院治療可能な皮膚科が当院だけであることが主因と思われる。

入院診療に関しては蜂窩織炎、帯状疱疹、褥瘡感染などの感染症で緊急入院した患者が多かったように思う。

(部長 山田 元人)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：7,178件



ICD-10 中間分類項目
L20-L30：皮膚炎及び湿疹
L80-L99：皮膚及び皮下組織のその他の障害
B35-B49：真菌症
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
B00-B09：皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症
L00-L08：皮膚及び皮下組織の感染症
L60-L75：皮膚付属器の障害
L50-L54：じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑
D10-D36：良性新生物
C43-C44：皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物

3. 活動報告

(1) 悪性新生物

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	有棘細胞癌	52	5	乳房外パジェット病	3
2	基底細胞癌	36		その他	17
3	悪性黒色腫	11		計	124
4	皮膚腫瘍	5			

(2) 良性腫瘍、熱傷、膠原病

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	良性腫瘍	1,107	5	皮膚筋炎	4
2	熱傷	105	6	全身性エリテマトーデス	2
3	血管炎	44		計	1,270
4	全身性強皮症	8			

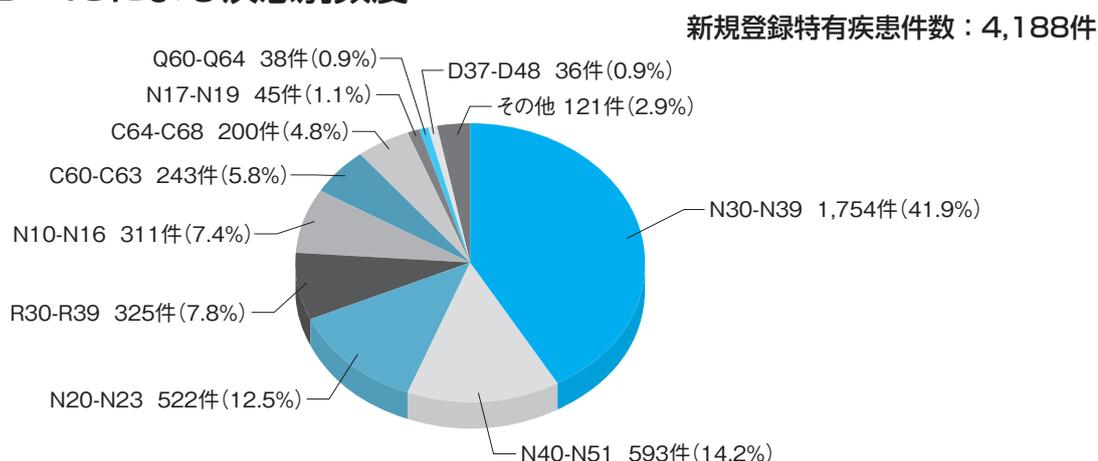
泌尿器科

1. 概要

2015年は、荒木副部長、山本医師の異動、一方で小嶋医長の復帰、河野医師の参加など当科の体制が大きく変わった一年であった。女性骨盤外科領域はやむなく縮小となったが、逆に小嶋、寺島両医長が中心となり、名古屋大学の協力も得て、泌尿器科腹腔鏡下手術の再導入も行われ、何とか当科が担うべき医療サービスの質、量を維持することができたと考えている。とは言え、東三河地区における当院への一極集中は続き、繁忙の程度は増すばかりである。当科の柱である泌尿器悪性腫瘍に対する小切開手術は長井、田中両部長を中心に全国のトップクラスを維持し、また、ロボット支援前立腺全摘術は患者が当初の予想を大きく上回るほどに増加しており、全国的に見ても泌尿器がん治療における当科の地位は確立されているといえる。さらには新たに腎がんに対するロボット支援手術導入の準備も始まり、本年は当科の新たなスタートの一年であったと感じている。

(第一部長 長井 辰哉)

2. ICD-10による疾患別頻度

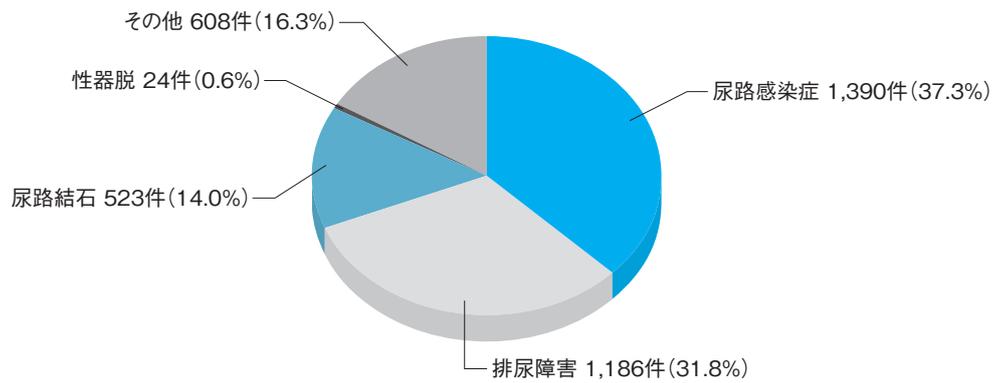


ICD-10 中間分類項目
N30-N39：尿路系のその他の疾患
N40-N51：男性生殖器の疾患
N20-N23：尿路結石症
R30-R39：腎尿路系に関する症状及び徴候
N10-N16：腎尿細管間質性疾患
C60-C63：男性生殖器の悪性新生物
C64-C68：腎尿路の悪性新生物
N17-N19：腎不全
Q60-Q64：腎尿路系の先天奇形
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物

3. 活動報告

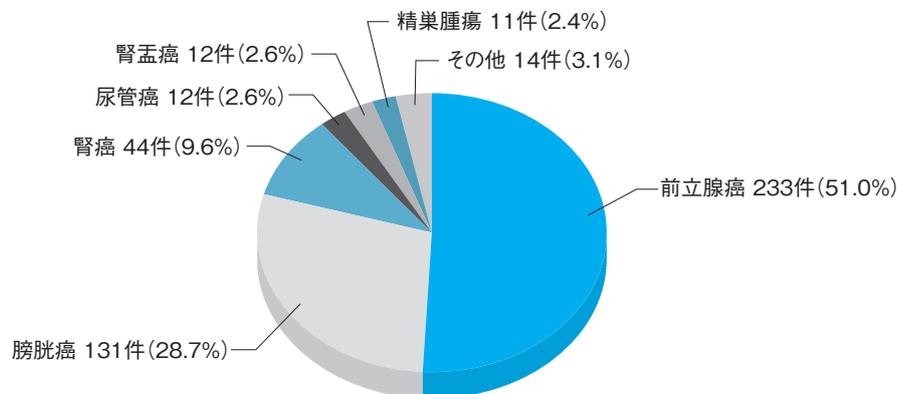
(1) 悪性新生物以外の疾患別頻度

総件数：3,731件



(2) 悪性新生物の疾患別頻度

総件数：457件



放射線科

1. 概要

2015年1月には石原部長、高田副部長、中道医員、澤田医員の4人であったが、3月末で澤田医員が異動となり、2015年12月には、石原、高田、中道の3人で診療している。

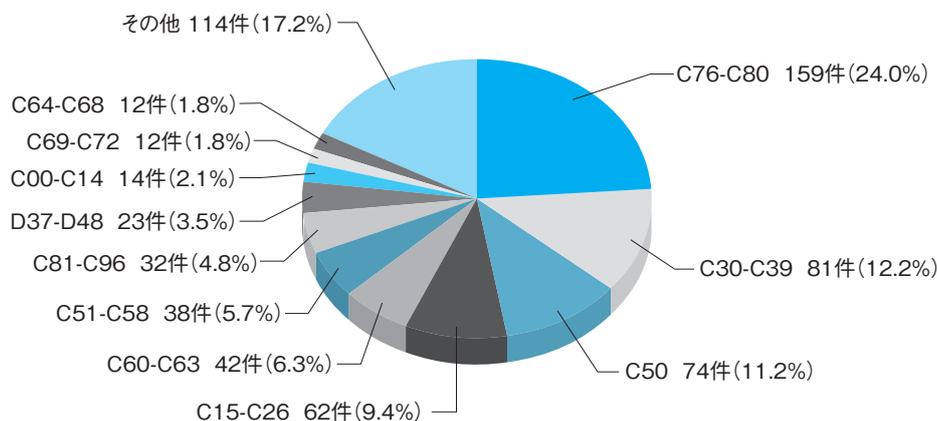
この1年間の業務実績は、読影が30,107件（CT 20,955件、MRI 7,980件、アイソトープ 1,172件）であった。その他、血管造影・IVR 94件、甲状腺機能亢進症に対するヨード内用療法6件、骨転移に対するストロンチウム治療2件、放射線治療の新患331件であった。

2015年以降に向けての活動としては、放射線治療装置の更新・増設やPET/CT、SPECT/CT導入の最後の詰めを行った。

（部長 石原 俊一）

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：663件



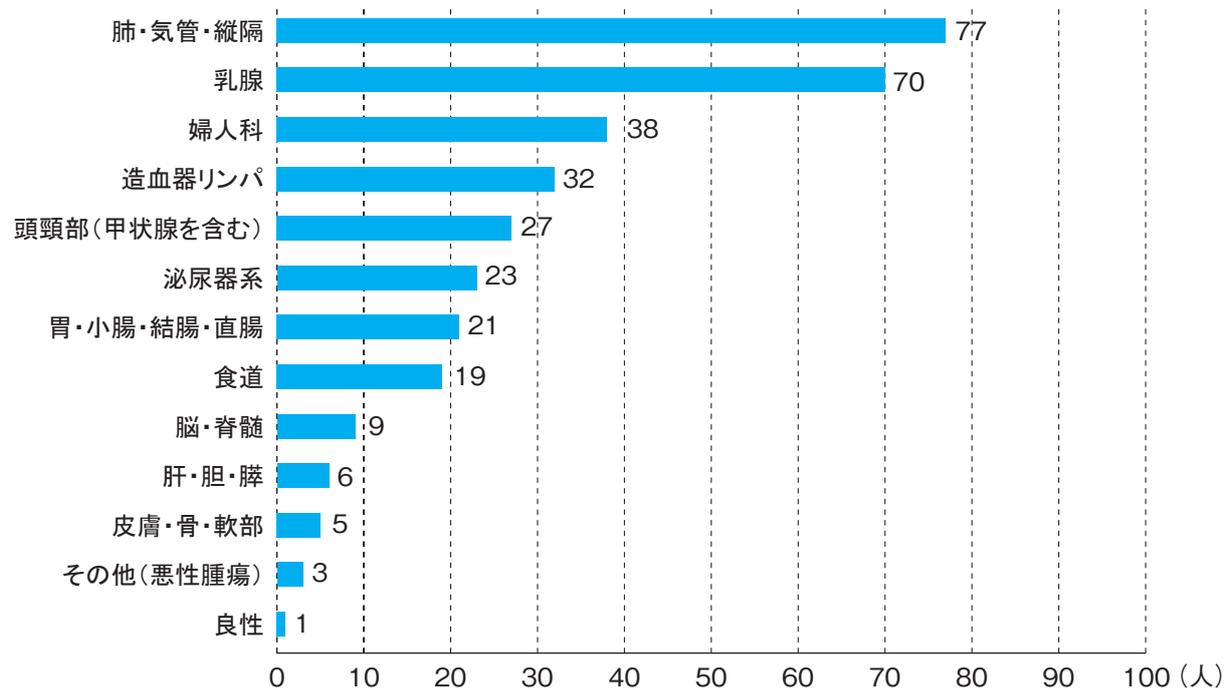
ICD-10 中間分類項目

- C76-C80：部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物
- C30-C39：呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物
- C50：乳房の悪性新生物
- C15-C26：消化器の悪性新生物
- C60-C63：男性生殖器の悪性新生物
- C51-C58：女性生殖器の悪性新生物
- C81-C96：リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物
- D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
- C00-C14：口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物
- C69-C72：眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物
- C64-C68：腎尿路の悪性新生物

3. 活動報告

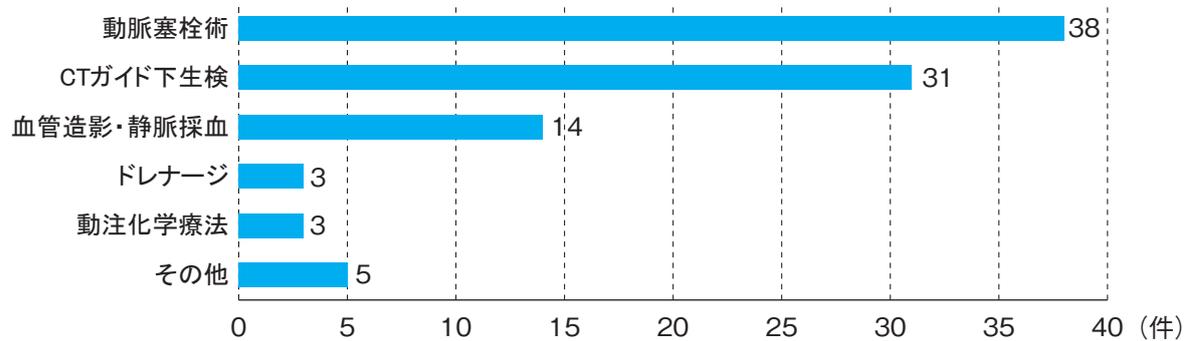
(1) 放射線治療原発部位別患者数

総患者数：331人



(2) 血管造影・IVR 手技別患者数

総患者数：94人



麻酔科（ペインクリニック）

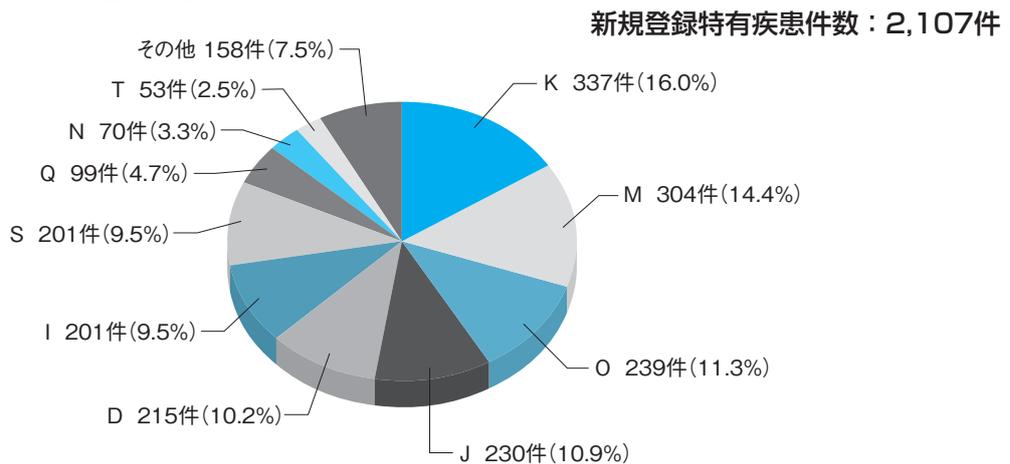
1. 概要

2015年は他院からの帰局が1名あったため、麻酔科医は12名歯科麻酔科医1名に増加した（ただし産休育休取得者が1名）。年間の総手術件数は8,207件であり、全身麻酔件数は3,747件であった。麻酔科管理症例は2,647件であり、そのうち麻酔科管理の全身麻酔は2,405件であった。麻酔科管理の緊急症例は498件あった。麻酔科医の人数が増えた分、麻酔科管理症例が増加した。新型超音波診断装置を追加購入することにより、神経ブロックの精度を上げることができた。McGRATH MACも14台に増やして全部屋に完備でき、挿管困難対策が増々充実した。デスフルラン気化器が7台に増えた。現在麻酔関連機器や薬剤を整備でき、全国的にも誇れる麻酔環境が整いつつある。幸いにも2016年には研修医から1名の入局予定があり、将来に向け明るい光がさしてきている。

（第一部長 寺本 友三）

2. ICD-10による疾患別頻度

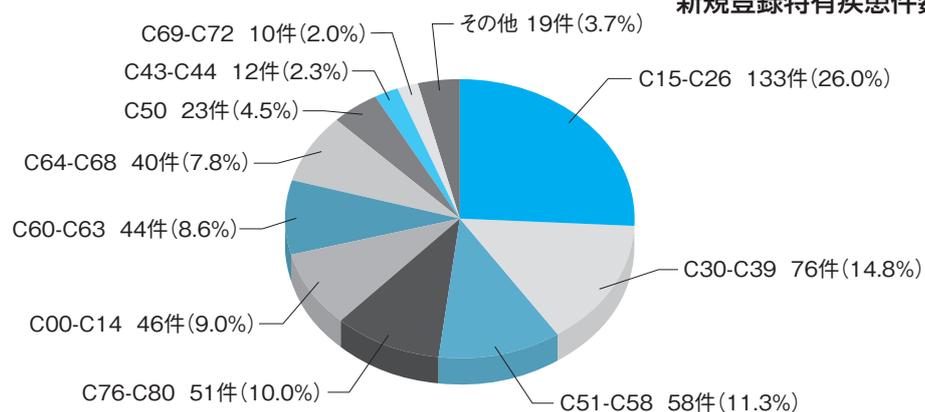
(1) 悪性新生物以外の疾患別頻度



ICD-10 大分類項目
K：消化器系の疾患
M：筋骨格系および結合組織の疾患
O：妊娠、分娩および産じょく〈褥〉
J：呼吸器系の疾患
D：新生物／血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害
I：循環器系の疾患
S：損傷、中毒およびその他の外因の影響
Q：先天奇形、変形および染色体異常
N：腎尿路生殖器系の疾患
T：損傷、中毒およびその他の外因の影響

(2) 悪性新生物の疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：512件



ICD-10 中間分類項目
C15-C26：消化器の悪性新生物
C30-C39：呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物
C51-C58：女性生殖器の悪性新生物
C76-C80：部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物
C00-C14：口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物
C60-C63：男性生殖器の悪性新生物
C64-C68：腎尿路の悪性新生物
C50：乳房の悪性新生物
C43-C44：皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物
C69-C72：眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物

3. 活動報告

(1) 主要備品（2016年分も含む）

1. 患者監視装置

- ① Philips 社製 セントラルモニタ IntelliVue インフォメーションセンタ 1 式（2 画面）
- ② Philips 社製 IntelliVue MP 50、70、90（11台）、MX700（5台）、MX800（1台）

2. 手術部門システム Philips 社製 ORSYS-TETRA 電子カルテと連動

術前術後診察機能、同意書作成機能、血中濃度シュミレーター付、縦型19インチタッチパネルモニタ14台、看護端末14台とデータ連係、ステータスマニタ5台、管理端末6台、Web機能によりすべての電子カルテ端末より参照可

3. 超音波診断装置

- ① 心臓麻酔用 GE 社製 Vivid i 1 台
- ② 中心静脈穿刺用 GE 社製 Venue40 Anesthesia 1 台
- ③ 神経ブロック用ソノサイト社製 S-Nerve 1 台
- ④ 神経ブロック用 GE 社製 LOGIQ e Premium 1 台

4. 静脈麻酔システム

- ① テルモ社製ディプリバン専用TCIポンプ 16台
- ② テルモ社製シリンジポンプ 72台（手術室内麻酔科専用分のみ）
- ③ 集中電源装置と架台14式（手術室9部屋分が最新型、手術室5部屋分が通常型）

5. 挿管支援器具

- ① ペンタックス社製 エアウェイスコープ 10台
- ② McGRATH MAC 14台

(2) 2015年 科別麻酔科管理件数

実施診療科	件数(件)
整形外科	480
産婦人科	463
耳鼻いんこう科	340
一般外科	339
歯科口腔外科	248
呼吸器外科	163
脳神経外科	142
小児外科	140
心臓外科・血管外科	112
泌尿器科	98
皮膚科	29
移植外科	28
リウマチ科	18
小児科	15
眼科	12
形成外科	11
血液・腫瘍内科	8
麻酔科	1
計	2,647

リハビリテーション科

1. 概要

リハビリテーション科の診療はリハビリテーションセンターと、院内各病棟のベッドサイドで行っている。

外来診療は、市内の病院・医院では行っていない小児の運動・言語発達遅滞、神経難病を中心として、また当院入院中のリハビリを外来で継続する場合もある。

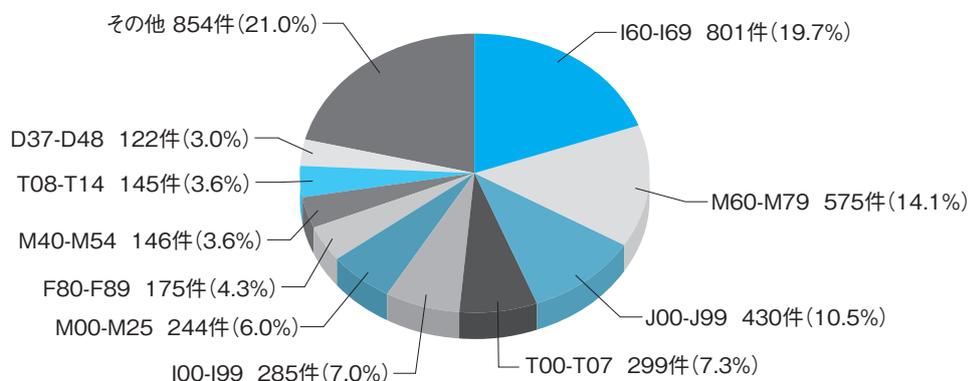
入院診療は、脳卒中、頭部外傷、脳神経や脊髄神経の疾患に対する脳血管リハビリ、骨・関節の外傷や疾患への運動器リハビリ、心筋梗塞・狭心症や心不全の心大血管リハビリ、肺炎や慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器リハビリ、また嚥下障害に対する嚥下リハビリを行っている。当院では、急性期リハビリが中心であり、地域連携パスを通じて回復期リハビリ病棟を持つ病院に転院できるシステムが整えられている。

2015年には、がん治療目的に入院されている方への個別療法であるがん患者リハビリに対応可能なスタッフを増員した。また、入院患者の日常生活動作を維持・向上するためのリハビリ体制構築を準備している。

(部長 石川 知志)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：4,076件



ICD-10 中間分類項目

I60-I69	脳血管疾患
M60-M79	軟部組織障害
J00-J99	呼吸器系の疾患
T00-T07	多部位の損傷
I00-I99	循環器系の疾患
M00-M25	関節障害
F80-F89	心理的発達の障害
M40-M54	脊柱障害
T08-T14	部位不明の体幹もしくは（四）肢の損傷または部位不明の損傷
D37-D48	性状不詳または不明の新生物

3. 活動報告

(1) リハビリテーションセンター利用状況

区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
延患者数(人)	93,731	92,919	93,191
1日平均(人)	385.7	380.8	381.9
外来開院日数	243日	244日	244日

※病院事業収支及び活動状況（報告）

病理診断科

1. 概要

病理診断科は生検や手術検体の病理組織診断、術中迅速診断、細胞診検査、病理解剖を行っている。また、病理診断科を選択した研修医の実習・教育および臨床各科から依頼された学術報告への協力、院内カンファレンスへの参加も同時に行っている。

2015年の病理組織検査の依頼件数は12,199件で、そのうち術中迅速診断は463件であった。病理解剖は27件で、定期的にCPCを開催し、臨床各科を交えて、症例の診断・治療、病態・死因についての詳細な検討を行った。

さらに豊橋市立看護専門学校の講義を要請され、52時間担当した。

(部長 前多 松喜)

臨床検査科

1. 概要

2012年8月より臨床検査科が開設された。以来、検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅳ）算定の許可を受けている。2014年度に日本臨床検査医学会臨床検査管理医を取得している。

高度医療に対応するため、臨床検査の正確度の維持向上を目的とし、内部精度管理、外部精度管理の充実を目標にしている。外部精度管理として日本医師会・日本臨床衛生検査技師会・愛知県臨床検査技師会の精度管理調査に参加しており、2015年度も優秀な成績をおさめている。

検体検査に基づいたパニック値や重大な結果等は直ちに臨床側に報告され、迅速な対応に協力している。2015年7月31日からは、CRP10.0mg/dL以上でのパニック値報告を開始している。以降、CRPに関しては毎月70～90件ほどのパニック値報告をさせていただいている。

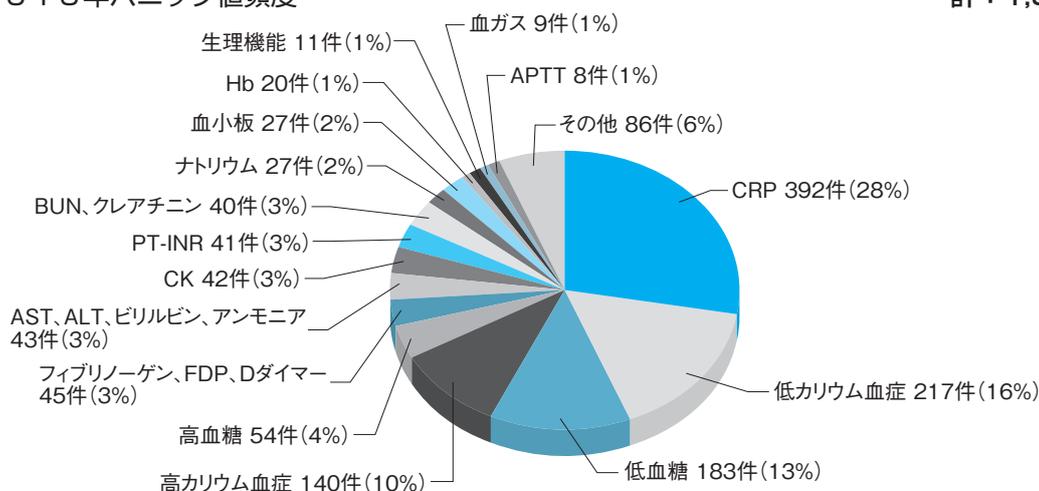
また、症例検討を含む勉強会を定期的に行い、中央臨床検査室の臨床的知識・能力の向上のため尽力している。

(副部長 出井 里佳)

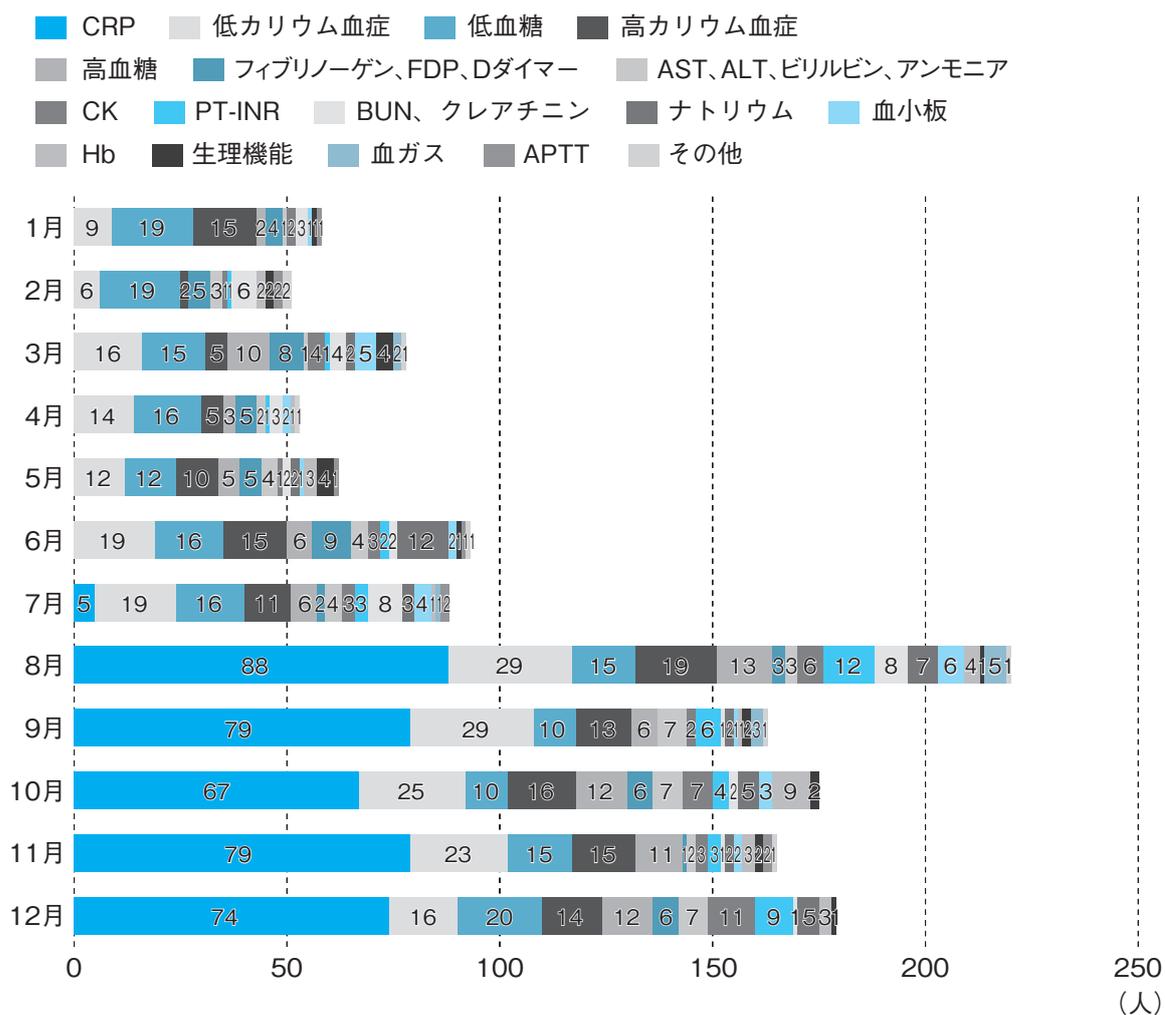
2. 活動報告

(1) 2015年パニック値頻度

計：1,385件



(2) 2015年 月別パニック値報告



(3) 中央臨床検査室勉強会

開催月	議 題
2015年 1月	ビタミンB1欠乏症
2015年 3月	ビタミンB1欠乏症
2015年 4月	高カルシウム血症
2015年 5月	高カルシウム血症
2015年 6月	検査値の読み方
2015年 7月	高LDH症
2015年 8月	高LDH症
2015年 9月	低アルブミン症
2015年10月	高CRP症
2015年11月	高CRP症

歯科口腔外科

1. 概要

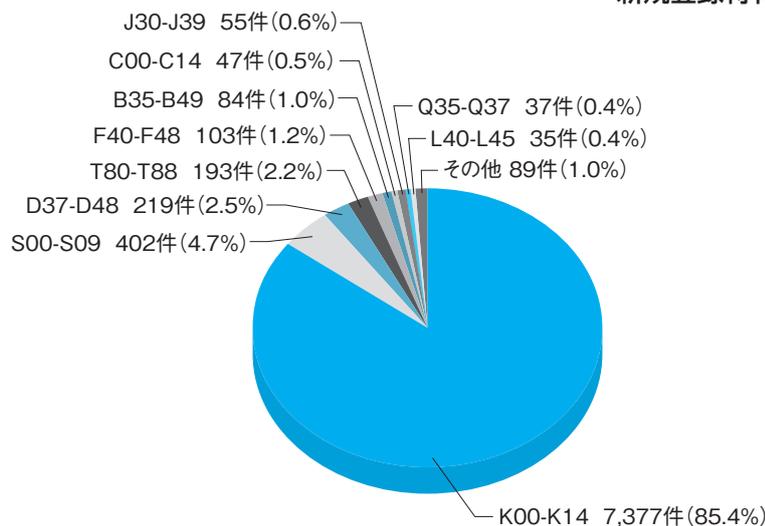
外来初診症例においては2012年度からの周術期口腔管理の保険導入以後、院内医科との連携を着実に取りつつ進めたため、昨年度に比較して入院中の口腔管理目的の院内紹介患者数が大幅に増加している。初診症例でも豊橋市内外の医科や歯科から多くの紹介をいただき、各疾患分野においてほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。今後も例年通り地域医療連携を密にとりつつ患者数の維持に努めたい。入院症例では、各疾患分野において多少の増減はあるがほぼ例年通りの症例数を維持している。例年通り埋伏智歯の抜歯症例が多くを占めるが、悪性腫瘍の入院症例数はここ数年で増加傾向を認めている。結果として昨年よりも外来初診症例数、および入院症例数ともに増加している。

(部長 嘉悦 淳男)

(文責 医長 寺沢 史誉)

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：8,641件



ICD-10 中間分類項目

K00-K14	：口腔、唾液腺及び顎の疾患
S00-S09	：頭部損傷
D37-D48	：性状不詳又は不明の新生物
T80-T88	：外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの
F40-F48	：神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
B35-B49	：真菌症
C00-C14	：口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物
J30-J39	：上気道のその他の疾患
Q35-Q37	：唇裂及び口蓋裂
L40-L45	：丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害

3. 活動報告

(1) 外来初診症例数2015年

疾患名	件数(件)
一般歯科疾患	545
口腔歯の形態異常	1,063
顎顔面の形態異常	43
口唇口蓋裂	13
炎症感染症	190
顎関節疾患	162
粘膜疾患	190
外傷	352
嚢胞	130
良性腫瘍	119
神経疾患	54
唾液腺疾患	48
悪性腫瘍	31
口腔機能疾患	12
口腔管理	884
その他	5
計	3,841

(2) 入院症例数2015年

疾患名	件数(件)
嚢胞	38
外傷	23
炎症感染症	16
悪性腫瘍	67
口唇口蓋裂	32
顎変形症	6
良性腫瘍	40
唾石	9
埋伏歯等抜歯	219
その他	9
計	459

医療安全管理室

1. 概要

医療安全管理室は、2005年4月、医療安全の推進を図るため院長直属の専門部署として設置された。医療の基本条件・最優先課題とされる「患者の安全を確保すること」の実現に向け、副院長を室長として、6名の専従職員と4名の兼務職員による11名で組織されている。

患者さんが安心して安全で質の高い医療を受けられる環境を整備することを目標として、医療事故の発生原因を発見し、不断に改善することによって発生を未然に防ぐ取り組みを行っている。

目標の達成に向け、インシデント報告の内容を検討・分析し、医療安全対策等に反映させ、医療事故発生防止のための講習会を開催している。

また、発生した医療事故については、原因究明・解決のため「事例検討会」を開催し、患者・家族への説明を行うほか、医療訴訟事案への対応などの業務を行っている。

(主幹 梅藤 茂敏)

卒後臨床研修センター

1. 概要

卒後臨床研修センターは研修医に対する研修体制の充実のため、主に指導・評価体制の構築と、上級医の常駐による救急科研修の強化に取り組んできた。また研修医確保のため、医学生向け院内病院説明会の開催に加え、高校生を対象とした1日医師体験を初めて開催し、高校生への情報発信を行った。研修医を含めた卒後臨床研修センタースタッフが一丸となりこれらの取り組みを行った結果、今年度も定員を満たすことができた。

2016年度は新たにメンター指導医・専任指導医制度の導入を予定しており、さらなる研修・指導体制の強化を目指している。また継続した広報活動により、研修医の定員確保を目標としている。

そして、2016年秋にシミュレーション教育センターが完成するため、研修医へのシミュレータを用いたトレーニング体制を充実させていく予定である。

(センター長 杉浦 勇)

2. 活動報告

(1) 定期委員会

平成27年7月～平成28年3月	研修管理委員会	*全2回
平成27年7月～平成28年2月	研修委員会	*全4回
平成27年6月～平成28年1月	研修医ミーティング	*全4回

(2) 行事

平成27年4月1日～7日	初期臨床研修医オリエンテーション
平成27年4月3日	初期臨床研修医歓迎会
平成27年4月～9月	救急医学講座 *全23講座
平成27年5月6日	東海北陸地区臨床研修病院合同説明会（レジナビ） *当院ブース来場者 161人
平成27年7月11日	医学生向け 病院説明会（院内）*参加者 25人
平成27年8月28日	高校生1日医師体験 *参加者 18人
平成27年8月20日～22日	平成28年度採用初期臨床研修医採用試験 *受験者数 医科 29人 歯科 3人 *マッチング数 医科 17人（フルマッチ） 歯科 1人（フルマッチ）
平成28年3月31日	平成26年卒初期臨床研修修了 *進路 院内 医科 13人 院外 医科 1人、歯科 1人

救急外来センター

1. 概要

当院の救命救急センターは、東三河地区唯一の救命救急センターとして、1次から3次までのあらゆる救急患者に対応している。救命救急センターは、主に救急外来センターと重症例が入院する救急入院センター・ICU部門に分かれ、24時間体制をとっている。またヘリポートを併設しているため、東三河全域より、ドクターヘリまたは防災ヘリにて重症救急患者を受け入れているのが特徴である。

救急外来センターでは、医学生、研修医、地域の救急救命士等に対して毎朝カンファランスを行い、また月例のICLSを開催しており、院内医療スタッフ、地域救急隊ともに、質の向上を目指している。

(センター長 鈴木 伸行)

2. 活動報告

(1) 年齢別受診患者数（平成27年度）

区分	内科		外科		心血管・呼吸器外科		脳神経外科		その他		計	
	延患者数 (人)	構成比 (%)										
80歳以上	782	33.0	170	20.2	159	22.7	121	15.8	91	16.4	1,323	25.3
70～79歳	568	23.9	200	23.7	195	27.9	209	27.2	147	26.5	1,319	25.2
60～69歳	465	19.6	266	31.6	231	33.0	182	23.7	110	19.8	1,254	23.9
50～59歳	267	11.2	104	12.3	75	10.7	105	13.7	39	7.0	590	11.3
40～49歳	163	6.9	36	4.3	21	3.0	67	8.7	50	9.0	337	6.4
30～39歳	60	2.5	38	4.5	5	0.7	24	3.1	35	6.3	162	3.1
20～29歳	31	1.3	13	1.5	1	0.1	35	4.6	36	6.5	116	2.2
10～19歳	37	1.6	15	1.8	13	1.9	14	1.8	32	5.8	111	2.1
0～9歳	0	0.0	1	0.1	0	0.0	11	1.4	15	2.7	27	0.5
計	2,373	100	843	100	700	100	768	100	555	100	5,239	100

(2) 院内 ICLS

ICLS	第111回	第112回	第113回	第114回	第115回	第116回	第117回	第118回	第119回	第120回	第121回	第122回	合計	
開催日	4月2日	5月12日	6月11日	7月9日	8月13日	9月10日	10月8日	11月19日	12月10日	1月14日	2月18日	3月10日		
受講生	院内	19	5	8	9	7	6	9	7	8	5	6	5	94
	院外	0	0	4	3	3	2	0	1	0	5	2	4	24
	合計	19	5	12	12	10	8	9	8	8	10	8	9	118
スタッフ	10	5	12	11	10	8	9	8	12	10	11	11	117	

(3) 東三河外傷セミナー (JPTEC)

名 称	第54回 東三河外傷セミナー JPTEC プロバイダーコース
日 時	2015年5月30日(土) 8:30~18:20
場 所	豊橋市立看護専門学校
コース担当責任医師	豊橋市民病院 鈴木 伸行
勤務者受講数	研修医・・・19名 受講・修了
	看護師・・・2名 受講・修了

事前勉強会 (第54回 東三河外傷セミナー対策)	5月15日(金)
	5月22日(金)
	5月26日(火)

(4) AHA・BLS

名 称	AHA・BLSヘルスケアプロバイダーコース
日 程	2015年5月24日(日)
勤務者受講数	研修医・・・19名 受講・修了
	看護師・・・4名 受講・修了

救急入院センター

1. 概要

救急入院センターは2013年度より設置され、センター長 平松 和洋（一般外科兼任）、副センター長 中島 基晶（麻酔科兼任）、菅沼 伸一（呼吸器内科兼任）で運営し、現在に至っている。当センターはICUに隣接し、ICU適応以外の夜間・休日の救急入院患者の受け皿として機能している。基本的に各科主治医が患者の診療を行い、センターメンバーは主に本センターの管理・運営を主体として活動している。実働病床は2013年以来、継続して12床で運営してきており、特定救命救急病床加算算定件数においては、2013年度は2,713件、2014年度は1,950件、本年度は1,591件と2年連続減少傾向にある。2015年4月～2016年3月までの各月の推移は以下のグラフのごとくである。加算の多くは例年通り3日以内で、昨年の統計と比較すると冬に多く、夏から秋にかけて減少する傾向は変わっていない。月ごとや、加算内容に大きな変化はなく、減少は患者全体の減少によるものと考えられた。

例年通り本センターの当直体制はセンターのメンバーだけでなく各科部長にも委託して行い、夜間入院患者の救急処置に当たってきたが、2015年度は特に大きな問題なく経過した。

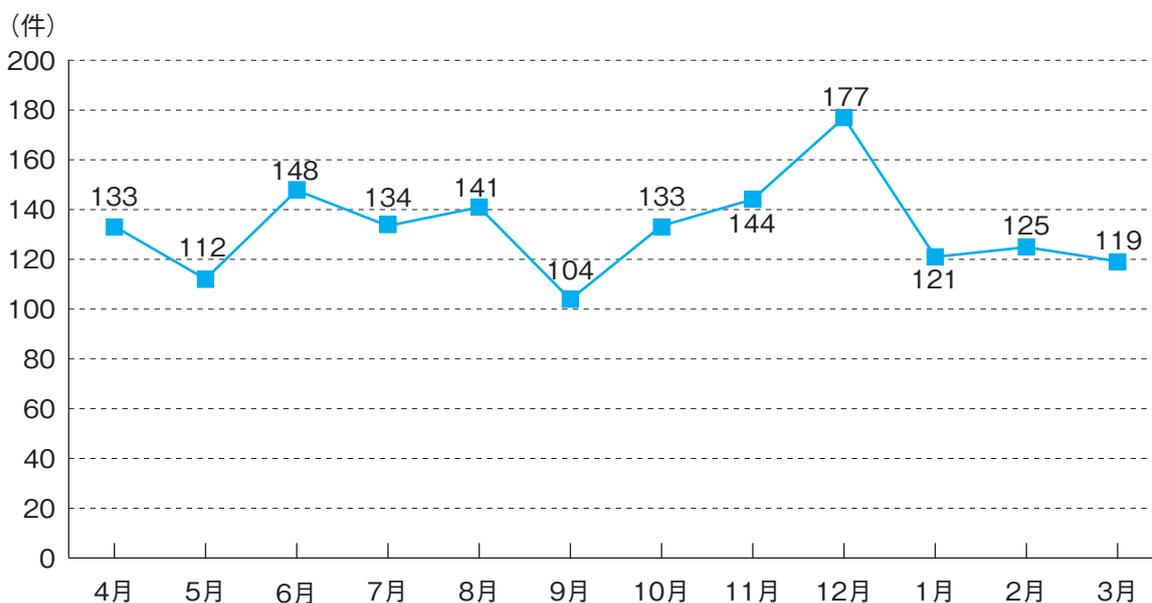
（センター長 平松 和洋）

2. 活動報告

(1) 平成27年度 救命救急入院料算定件数

点数名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
救命救急入院料 (3日以内)	104	93	102	105	109	89	114	99	137	109	103	108	1,272
救命救急入院料 (4日以上7日以内)	19	14	28	17	23	8	15	26	29	9	15	8	211
救命救急入院料 (8日以上14日以内)	10	5	18	12	9	7	4	19	11	3	7	3	108
計	133	112	148	134	141	104	133	144	177	121	125	119	1,591

(2) 平成27年度 救命救急入院料算定件数



集中治療センター

1. 概要

集中治療センターでは、日々重症な患者さんと向き合い診療を行っている。複雑な病態を理解するだけでなく、それに対する多種類の薬を様々なルートから様々な方法で投与しなくてはなりません。そのため多種類の医療器械があり、これにも精通していません。人工呼吸器やIABP、人工心肺装置、血液浄化装置など命に直結する医療器械もその中に含まれている。さらにはご家族への気配りも、重症者であるが故の難しさがああり、これらを短い時間でこなしていかななくてはならないため、スタッフには強い緊張とストレスが強いられている。各スタッフが十分実力を発揮できるよう、ここを利用される関係職員方々にも是非ご協力をお願いしたいと日々思っている。

(センター長 中山 雅人)

2. 活動報告

入院患者の主病名分類

大 分 類	件
感染症および寄生虫症 (A00-B99)	17
新生物 (C00-D48)	468
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構障害 (D50-D89)	8
内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	21
精神および行動の障害 (F00-F99)	10
神経系の疾患 (G00-G99)	50
眼および付属器の疾患 (H00-H59)	0
耳および付属器の疾患 (H60-H95)	0
循環器系の疾患 (I00-I99)	437
呼吸器系の疾患 (J00-J99)	125
消化器系の疾患 (K00-K93)	201
皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	2
筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	34
腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	39
妊娠、分娩および産褥 (O00-O99)	6
周産期に発生した病態 (P00-P96)	0
先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	41
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	10
損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	132
傷病および死亡の原因 (V01-Y98)	0
健康状態に影響をおよぼす要因および保険サービスの利用 (Z00-Z99)	0
計	1,601

周産期母子医療センター（母体・胎児部門）

1. 概要

愛知県より東三河初の総合周産期母子医療センターに指定されてから2年が経過した。東三河の周産期医療の基幹病院として多くの母体搬送や産褥搬送を受け、小児科新生児医師とともに対応し治療を行っている。総合周産期母子医療センターに指定されると、産婦人科医師2名当直が必要になるので、当直回数が倍に増え医師の負担が増加した。また超緊急帝王切開は、帝王切開が必要と診断してから30分以内に児を娩出することが義務づけられており、これは24時間体制で行わねばならずそのための準備が必要だった。手術室看護師の体制、麻酔科医師の協力、産科病棟看護師のトレーニングなどである。オープン前はとても心配したが皆さまの協力もあり何とか軌道に乗った。母体搬送応需率は98.3%（235/239）と県内6つの総合周産期母子医療センターで一番高い受け入れ率を実現している。今後とも高度な周産期医療を提供できるように努力していきたいと考えている。

（センター長 河井 通泰）

2. 活動報告

総合周産期母子医療センター（母体・胎児部門）の主な症例数

	2014年（4-12月）	2015年（1-12月）
超緊急帝王切開術	15	22
うち30分以内児娩出	12（80%）	22（100%）
うち他施設からの搬送	6（40%）	8（36.4%）
母体死亡	0	0
母体搬送受け入れ総数	211	242
母体搬送応需不可数	4	7
母体搬送応需率	98.1%	97.2%
		（平成27年度としては98.3%）

※他の産科データは産婦人科の項目を参照

周産期母子医療センター（新生児部門）

1. 概要

当院新生児医療センターはNICU12床を擁し、愛知県から東三河唯一の総合周産期母子医療センター（新生児部門）に指定され、東三河新生児医療の中心的役割を担っている。重症な児を遠方に搬送することは児の予後に悪影響を及ぼすことから、入院依頼を受けた児は対応可能な疾患である限り断らないことをポリシーとし、最後の砦としての役割を果たしている。また、地域の新生児医療のレベルアップを図ることも重要な役割と考え、2015年は地域で周産期医療に携わる医師、助産師などを対象に、計10回の新生児蘇生法講習会を開催した。さらにセンター長（新生児部門）の小山典久は愛知県周産期医療協議会副会長として、県の周産期医療体制整備や計画立案にも参画した。厚生労働省は出生1,000人に対して2.5から3床のNICUが必要と公表している。これを受け愛知県では平成27年度末までに県内のNICUを180床以上（210床程度まで）に増床する整備計画を立てていたが未達成である。東三河に必要なNICUは15-18床と試算されており、今後の整備が期待される。

（センター長 小山 典久）

総合生殖医療センター

1. 概要

当院で産婦人科有井吉太郎部長（当時）の尽力により体外受精などの生殖補助医療（ART）がスタートしたのは1996年である。実務に携わり速やかに東三河初となる出産例に貢献したチームリーダーは名古屋大学医学部附属病院分院より着任した北川武司医師であり、鈴木範子臨床検査技師が現在まで継続して業務に携わっている唯一のスタッフである。1999年4月1日には、ARTなどの専門化された不妊治療を行う不妊センターが設置され、初代部長として菅沼信彦名古屋大学医学部附属病院助教授が着任した。2007年4月1日、不妊センターは装いを新たにし、1つの技術に頼らず健全な妊娠・分娩・生命の誕生をめざして様々な高度の生殖医療を統合的に提供するという意味も含め、総合生殖医療センターとなった。これに伴い、不妊センター2代目部長として2006年3月に名古屋大学医学部附属病院助教授から着任していた安藤寿夫が、初代センター長となり、同年世界初となる全受精卵タイムラプス胚培養導入など施設の充実を図り現在に至っている。

（センター長 安藤 寿夫）

リハビリテーションセンター

1. 概要

リハビリテーションセンターは診療部門、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚療法部門で構成されている。診療部門は、診察、リハビリ処方を行う。理学療法部門は、起居動作・移動動作など基本的動作能力回復目的の運動療法、また呼吸器疾患、心疾患における合併症・術後の二次的障害予防・機能回復を目指した特殊的運動療法も行う。筋電図、重心動揺検査、筋力測定、心肺運動負荷試験など機能評価も行っている。作業療法部門は、生活の中で行う動作の獲得、家事動作や職業への復帰目的の訓練・援助を行う。上肢の機能評価、記憶障害・注意障害・遂行機能障害など高次脳機能障害の評価、知能検査も行っている。言語聴覚療法部門は、脳血管障害や脳の外傷、あるいは発声器官の疾患により失語症や構音障害を生じた患者、言語発達の遅れや口唇口蓋裂の小児に対する言語訓練を行っている。また、摂食・嚥下障害患者の機能の回復目的の訓練・指導も行う。

(センター長 石川 知志)

2. 活動報告

(1) 利用状況

区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
延患者数(人)	93,731	92,919	93,191
1日平均(人)	385.7	380.8	381.9
外来開院日数	243日	244日	244日

※病院事業収支及び活動状況（報告）

血液浄化センター

1. 概要

当センターの診療内容は、一般的な透析業務（末期腎不全の透析導入、入院患者の維持透析、急性腎不全の透析）のみではない。血漿交換・免疫吸着等も病態に応じて行っている。最近では、腎不全以外の膠原病・HUS/TTP・ギランバレー症候群・炎症性腸疾患等で、院内の多くの科から血液浄化の依頼が増えている。

当然、少人数の腎臓内科医だけでは業務を遂行できず、移植外科の御支援を頂いている。また、MEや看護師（血液浄化センターのみならず、ICUを始めとする病棟や外来も）等のコメディカルの協力なくしては、当センターの運営が成り立たない事は言うまでもない。

入院透析患者は外来維持透析患者に比し膨大な医療資源を費やすことから、現状では受け入れに限界があることは認めざるを得ないが、基幹病院としてその責務を果たすべくスタッフ一同最善を尽くす所存である。

（センター長 山川 大志）

予防医療センター

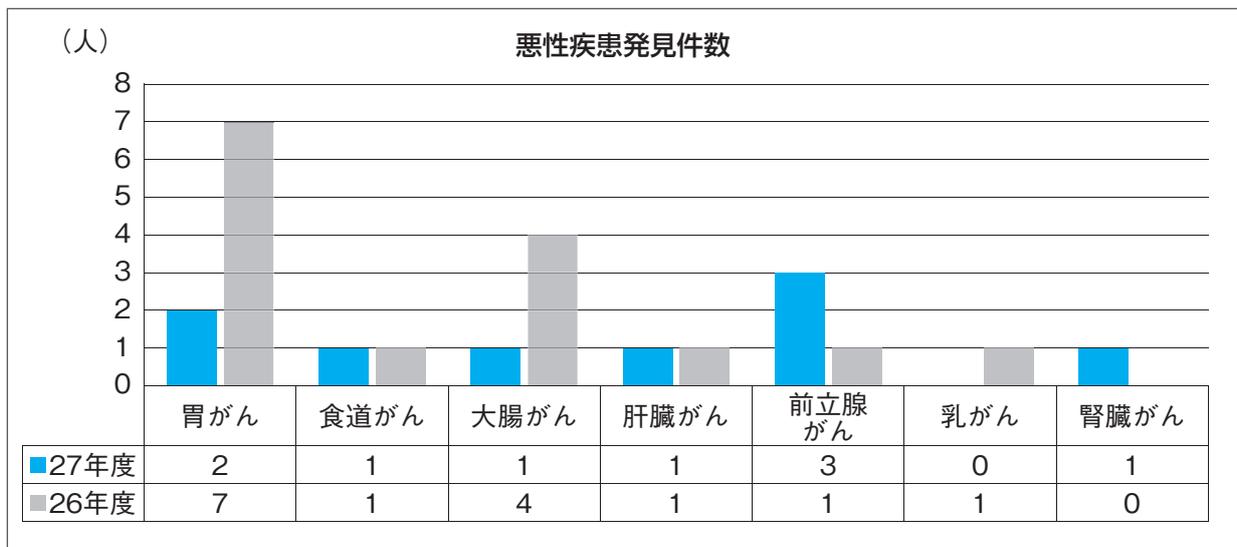
コース名	受診者数 (人)
二日ドック	89
日帰り人間ドック	2,947
脳ドック	448
肺がん検診	28
女性の健康ドック	60
個人健康診断	693
全国健康保険協会生活習慣病予防健診 (旧 政府管掌生活習慣病予防健診)	1,777
原爆被爆者健診	60
企業団体健診(注1)	987

注1：企業団体契約、その他を含む。

検査項目	二日ドック (人)			
	対象者数	要精密検査対象者数	精密検査受診者数	要治療者数
眼底	88	4	1	1
胸部 X 線	89	5	2	0
胃部 X 線	19	4	2	2
胃カメラ	69	0	0	0
腹部エコー	88	1	0	0
安静時心電図	89	5	2	1
負荷心電図	88	4	4	2
便潜血	85	7	6	2

検査項目	日帰り人間ドック (人)			
	対象者数	要精密検査対象者数	精密検査受診者数	要治療者数
眼底	2,934	115	45	9
胸部 X 線	2,936	101	71	2
胃部 X 線	2,046	210	163	57
胃カメラ	810	0	0	0
腹部エコー	2,733	32	20	1
安静時心電図	2,946	122	58	11
便潜血	2,893	134	69	22

検査項目	生活習慣病予防健診 (人)			
	対象者数	要精密検査対象者数	精密検査受診者数	要治療者数
眼底	105	2	1	0
胸部 X 線	1,700	48	25	2
胃部 X 線	1,516	180	77	29
胃カメラ	94	0	0	0
腹部エコー	86	1	1	0
安静時心電図	1,705	70	26	3
便潜血	1,657	74	23	11



メタボリック判定実施者

(人)

区分	平成27年度	平成26年度
①基準該当	727	643
②予備軍該当	752	596
③非該当	4,617	4,776

輸血・細胞治療センター

1. 概要

当院の輸血療法が安全で適切に運用されていることを確認するため、2015年に日本輸血・細胞治療学会の外部委員によるI（inspection 監査）& A（accreditation 認証）を受審し、I & A施設認定を取得した。合わせて以下の規約等を整備した。規約では院内での血液製剤の実際の取扱い規約を定め、改訂が多岐にわたり頻回の適正使用のガイドライン等は厚生労働省、日本輸血細胞治療学会の最新のものを使用することとした。

同種造血幹細胞移植療法の充実を図るため、2015年に東三河地域で初めて、日本骨髄バンク非血縁者間骨髄移植や臍帯血バンクの施設認定を取得した。名古屋大学医学部附属病院、名古屋第一赤十字病院などと連携しながら、移植を必要とする患者さんが、適切な時期に適切な移植を受けられるよう体制を整えている。

今後も院内における輸血・細胞療法が安全性・適切性を保ちながら迅速に実施できるよう、輸血関連検査業務と血液製剤およびアルブミン製剤の管理業務、輸血療法委員会の開催、院内監査の実施を継続する。

（センター長 杉浦 勇）

2. 活動報告

A. 定期委員会

輸血療法委員会開催（2か月毎予定） * 6回実施

B. 新規事業

1) 規約等の整備

- ①輸血療法実施規約 初版
- ②院内血液製剤調整手順書
- ③輸血用試薬・機器管理手順書
- ④輸血療法説明文・同意書の改訂
- ⑤自己血輸血説明文・同意書の改訂
- ⑥その他

日本輸血・細胞治療学会編 「輸血副反応ガイド」の購入、各部署への設置

日本輸血・細胞治療学会 「輸血療法マニュアル」の配布

2) 輸血療法監査チームの設置

運営要領の策定

第一回輸血療法の監査実施

3) 手術センター内に血液製剤専用保冷庫の設置

8番手術室へ設置

C. センター業務実績

①検査件数 (件)

2015年	総数
血液型	17,357
不規則抗体スクリーニング	12,765
交差適合試験	6,163

②製剤使用状況 (単位)

2015年	総数
赤血球液(RBC)	12,282
新鮮凍結血漿 (FFP)	4,484
濃厚血小板(PC)	22,140

③製剤廃棄率 (%)

2015年	廃棄率
赤血球液(RBC)	0.60
新鮮凍結血漿 (FFP)	0.35
濃厚血小板(PC)	0.61

④アルブミン製剤 (本数)

2015年	本数
25%アルブミン	1,316
5%アルブミン	950

⑤副作用集計報告

2015年	副作用報告数(件)	実患者数(人)
赤血球液(RBC)	95	63
新鮮凍結血漿 (FFP)	41	14
濃厚血小板(PC)	255	66

感染症管理センター

1. 概要

今年、世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務局が『日本が麻しんの排除状態にあることを認定した』と発表した。これは、2007年（平成19年）に厚生労働省が告示した『麻しんに関する特定感染症予防方針』で、2015年までに麻しんを排除するという目標を達成したことを意味した。当院では感染症管理センターが中心となり体制整備を行った。麻しんを疑う患者を診察した医師等にウイルス検査のための検体採取や発生届の全数提出を依頼した。地域では医師会や保健所が予防接種の勧奨やその実施を積極的に行った。排除認定はこれらに関わった多くの人々の協力が身を結んだ結果である。

今年、中東及び韓国で流行した中東呼吸器症候群（MERS：Middle East respiratory Syndrome）が二類感染症に、南米を中心に流行が報じられたジカウイルス感染症が四類感染症にそれぞれ規定されたため診療態勢を構築した。市内ではウイルス性と思われる感染性胃腸炎の流行を確認した。

（センター長 浦野 文博）

（文責 高橋 一嘉）

2. 活動報告

●感染症発生動向調査

①全数報告

（件）

類型	疾患名	2015年度	2014年度	2013年度
二類	結核	37	42	29
三類	細菌性赤痢	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	3	3	2
	パラチフス	0	0	1
四類	A型肝炎	1	1	0
	つつが虫病	0	0	1
	デング熱	1	1	0
	マラリア	0	0	1
	レジオネラ症	8	3	1
五類	アメーバ赤痢	2	0	0
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	0	1	0
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	1	0
	急性脳炎	0	1	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	0	0
	後天性免疫不全症候群	3	2	0
	侵襲性髄膜炎感染症	0	1	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	4	2
	梅毒	0	1	0
	破傷風	0	0	0
	風しん	0	1	6
	麻しん	2	0	2

②小児科定点報告

(件)

	疾患名	2015年度	2014年度	2013年度
週報	RSウイルス	192	108	108
	咽頭結膜熱	0	1	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26	20	24
	感染性胃腸炎	770	176	257
	水痘	8	13	16
	手足口病	15	2	16
	伝染性紅斑	10	0	0
	突発性発疹	11	2	3
	百日咳	12	2	4
	ヘルパンギーナ	23	18	14
	流行性耳下腺炎	48	2	4

③基幹定点報告

(件)

	疾患名	2015年度	2014年度	2013年度
週報	細菌性髄膜炎	7	2	7
	無菌性髄膜炎	2	1	1
	マイコプラズマ肺炎	28	29	185
	クラミジア肺炎	0	0	0
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	21	8	0
月報	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	182	195	196
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	1	0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	1
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0

④インフルエンザ定点報告

(件)

	疾患名	2015年度	2014年度	2013年度
週報	インフルエンザ	486	916	526

⑤インフルエンザによる入院患者報告

(件)

	疾患名	2015年度	2014年度	2013年度
週報	インフルエンザ（入院患者）	77	115	83

⑥職員の感染曝露

(件)

	2015年度	2014年度	2013年度
針刺し・切創（EPI-Net A）	58	54	48
皮膚・粘膜汚染（EPI-Net B）	5	6	12
院内結核曝露	4	3	6

⑦職員健康外来

(件)

	2015年度	2014年度	2013年度
延べ受診者数	136	136	199

外来治療センター

1. 概要

当センターは2006年5月より20床で運用を開始し、2013年1月に22床に増床し現在に至る。化学療法部会で承認された治療レジメンに医師がオーダーし、薬剤師による薬剤監査をするが、当センターでは主治医自身あるいは担当科の医師が当日各科外来で患者の診察を実施しないと治療が開始されない。

外来治療センターの利用はスケジュールの工夫で、曜日によっては希望通りに治療ができない場合がある以外は、大きな支障は起きなかった。今年度は血管留置カテーテル等からの抗がん剤の漏出予防に対する対策と化学療法前に化学療法による劇症化のリスクのあるB型肝炎既往者を見落とさない対策に取り組んだ。また専門・認定薬剤師による薬剤指導はすでに実施していたが、がん患者指導管理料3の算定漏れにも対応した。

(センター長 杉浦 勇)

2. 活動報告

●外来治療センター 治療実績 月別集計表

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	
平均年齢(才)		63.1	63.7	63.2	64.0	63.5	63.8	63.4	63.2	63.1	62.5	63.5	63.6		63.4	
男(人)		343	297	335	384	340	358	322	315	319	348	350	411	4,122	343.5	
女(人)		372	349	380	389	345	334	373	339	346	378	328	355	4,288	357.3	
がんに関する治療	内科	282	258	284	333	286	285	296	293	289	319	301	353	3,579	298.3	
	外科	239	210	221	206	189	198	205	179	198	219	203	225	2,492	207.7	
	泌尿器科	12	9	8	11	11	7	5	5	4	5	4	6	87	7.3	
	耳鼻いんこう科	6	6	11	13	9	12	2	3	6	9	7	4	88	7.3	
	婦人科	40	46	45	58	42	47	47	38	40	41	36	40	520	43.3	
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	その他	14	9	13	17	19	15	14	13	13	13	16	11	167	13.9	
	小計	593	538	582	638	556	564	569	531	550	606	567	639	6,933	577.8	
	初回	51	48	62	61	37	44	48	42	44	57	35	37	566	47.2	
	内訳	乳腺	119	106	118	99	92	95	99	97	113	113	103	98	1,252	104.3
		大腸	106	76	77	80	75	77	78	62	61	75	60	89	916	76.3
		血液	173	155	166	196	160	154	139	150	131	151	143	167	1,885	157.1
		肺	46	56	66	77	72	82	90	75	97	89	80	94	924	77.0
		胆膵	57	49	50	60	53	48	64	54	55	67	68	92	717	59.8
		胃	18	26	24	27	21	25	27	33	29	42	46	38	356	29.7
		前立腺	12	9	9	11	7	6	5	5	4	5	5	8	86	7.2
その他		62	61	68	87	76	77	67	55	59	64	61	60	797	66.4	
がん以外の治療	内科	44	29	45	45	47	41	39	40	29	40	31	42	472	39.3	
	整形外科	1	1	0	0	1	0	6	0	1	0	1	0	11	0.9	
	リウマチ科	70	75	81	86	75	80	75	76	80	74	72	80	924	77.0	
	皮膚科	7	3	7	4	6	7	6	7	5	6	7	3	68	5.7	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0.2	
	小計	122	108	133	135	129	128	126	123	115	120	111	127	1,477	123.1	
合計(人)		715	646	715	773	685	692	695	654	665	726	678	766	8,410	700.8	
1日平均(人)		34.0	35.9	32.5	35.1	32.6	36.4	33.1	34.4	35.0	38.2	33.9	34.8	416.0	34.7	
1日平均(分)		120.5	129.2	130.0	126.1	124.8	128.2	126.3	124.4	127.0	132.8	130.5	124.2	1,524	127.0	

手術センター

1. 概要

手術センターは、一人一人の患者さんに最良の手術が行なわれるよう各診療科・麻酔科医・病棟および手術センターの看護師が連携を図っている。当センターは、地域や患者のニーズに応えるべく以下の特徴を備えている。

- ①高度先進医療（内視鏡下手術、移植手術、顕微鏡下手術、ロボット支援下手術、脳死臓器提供手術）の施行
- ②総合周産期母子医療センターの要望に応じ、超緊急手術に対応
- ③ハイリスク患者手術に対応
- ④研修機関病院として、研修医、医学生、看護学生、救命救急士などの見学や実習

【設備概要】

手術診療科 15

手術室 13（バイオクリーン・ルーム1室、採卵室1室）

空気清浄度 クラス100（1室）、クラス1000（1室）、クラス10000（10室）

スタッフ 看護師48人（2交代制で、夜勤者2人、自宅待機2人体制）

また、2015年度の主な実績としては、ロボット支援下手術（ダヴィンチ）が計100例を超えたことや、超緊急手術枠を設け、必ず一室を空けておくことで全科の超緊急手術に対応できるようにしたことである。

（センター長 雄山 博文）

2. 活動報告

①平成27年度手術件数

診療科	件数(件)
一般外科	1,480
呼吸器外科	204
心臓血管外科	128
小児外科	138
移植外科	37
整形外科	1,385
リウマチ科	33
形成外科	8
脳神経外科	344
産婦人科	1,260
耳鼻いんこう科	411
皮膚科	101
泌尿器科	567
眼科	1,081
歯科口腔外科	410
生殖医療	492
内科	91
小児科	9
その他	0
計	8,179

麻酔別	件数(件)
全身麻酔	3,800
静脈麻酔	240
腰椎麻酔	1,385
局所麻酔	1,907
伝達麻酔	396
無麻酔	447
その他	4
計	8,179
(うち緊急手術)	1,225
割合	14.97%

②平成27年度腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

診療科	件数(件)
一般外科	355
ロボット支援下直腸腫瘍手術	24
ロボット支援下胃悪性腫瘍手術	3
呼吸器外科	128
小児外科	63
整形外科	101
リウマチ科	1
産婦人科	508
腹腔鏡下子宮頸がん根治手術	0
ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	0
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	14
腹腔鏡下子宮がん手術	7
泌尿器科	122
ロボット支援下前立腺及び腎臓摘出術	52
その他(移植外科)	10
計	1,388

口唇口蓋裂センター

1. 概要

当センターは唇顎口蓋裂を含む口腔先天性疾患、顎発育異常などに対する治療を担当している。豊橋市内外から多くの患者の紹介を頂いており、院内の産婦人科、小児科からの紹介も多い。

本疾患は長期の治療期間を要するため、出生してから成人するまでそれぞれの成長発育段階における様々な病態に合わせた治療を行っている。当センターでは出生直後より小児科、耳鼻いんこう科をはじめ臨床他科の協力を仰ぎながら治療を行っている。また院内はもとより、市中の医科歯科関連の医療施設と密接に連携を保ちながら円滑に治療が進むよう当センターが中核となってその対応を行っている。一次症例だけでなく他院で治療を受けた二次症例でも積極的に対応しており、外来初診症例数や入院症例数は、ともにほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

(センター長 嘉悦 淳男)

(文責 歯科口腔外科副部長 寺沢 史誉)

2. 活動報告

外来初診症例数2015年

唇（顎）裂	3
口蓋裂	6
唇顎口蓋裂	4
その他唇顎口蓋裂	0
計	13

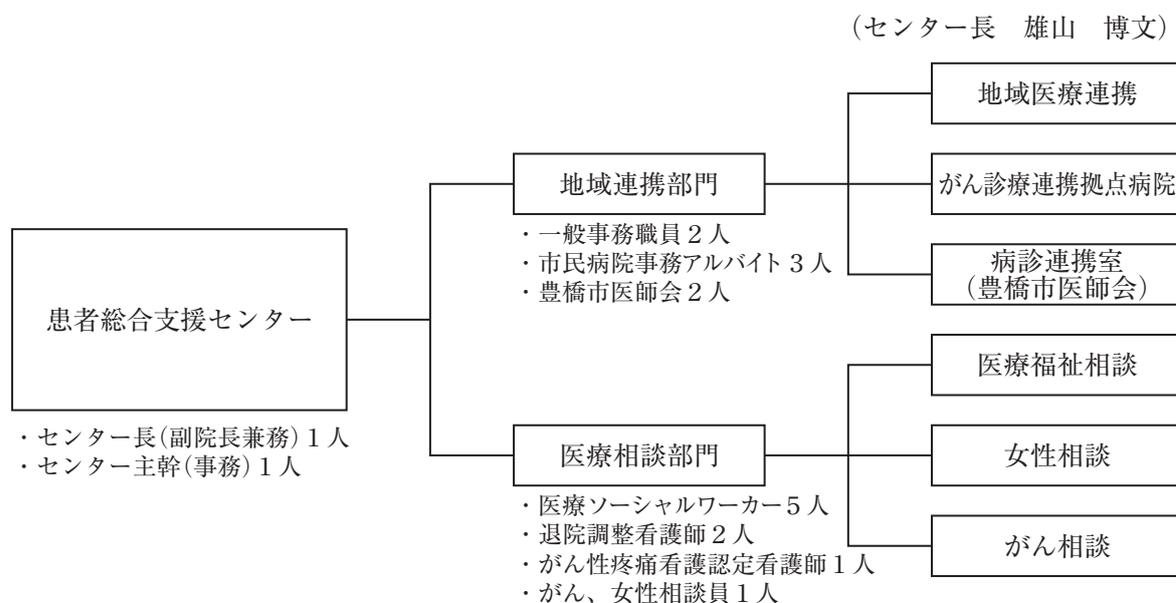
入院症例数2015年

唇（顎）裂	4
口蓋裂	3
唇顎口蓋裂	22
その他唇顎口蓋裂	3
計	32

患者総合支援センター

1. 概要

平成22年4月1日、副院長をセンター長として開設した当センターは、地域の医療機関や介護事業者との相互連携を図り、患者さんに対して効率的で質のよい医療を提供する「地域連携部門」と、医療を通じて発生する種々の問題に対して、患者さんに安心して治療に当たってもらえるよう支援を行う「医療相談部門」で構成されている。



2. 活動報告

(1) 地域連携部門

① 地域医療支援委員会

委員 28人 (院外 17人、院内 11人)

- ・第1回 平成27年5月21日 開催
- ・第2回 平成27年8月20日 開催
- ・第3回 平成27年11月26日 開催
- ・第4回 平成28年2月25日 開催

② 地域連携登録医登録者数

409人 (平成28年3月末現在)

③ 豊橋市医師会・豊橋市民病院病診連携協議会

委員 13人 (豊橋市医師会 2人、豊橋市民病院 11人)

事務局 4人 (豊橋市医師会 1人、豊橋市民病院 3人)

(ア) 病診連携協議会

- ・第79回病診連携協議会 平成27年5月12日開催
- ・第80回病診連携協議会 平成27年10月20日開催

(イ) MCRフォーラム

- ・第37回MCRフォーラム 平成27年6月24日開催

「ゲノム時代におけるがん診療への期待と課題」 参加人数 64人

・第38回MCRフォーラム 平成27年10月21日開催

「皮膚バリア機能から考える皮膚疾患の病態と治療」 参加人数 50人

(ウ) 病院・転床施設連携懇談会

・第20回病院・転床施設連携懇談会 平成28年3月11日開催 参加：17施設 53人

平成27年度の転床入院実績報告

④ 紹介・逆紹介実績（平成27年4月～平成28年3月）

(ア) 紹介・逆紹介率

紹介率	逆紹介率
65.0%	83.5%

(イ) 病診連携室取扱実績

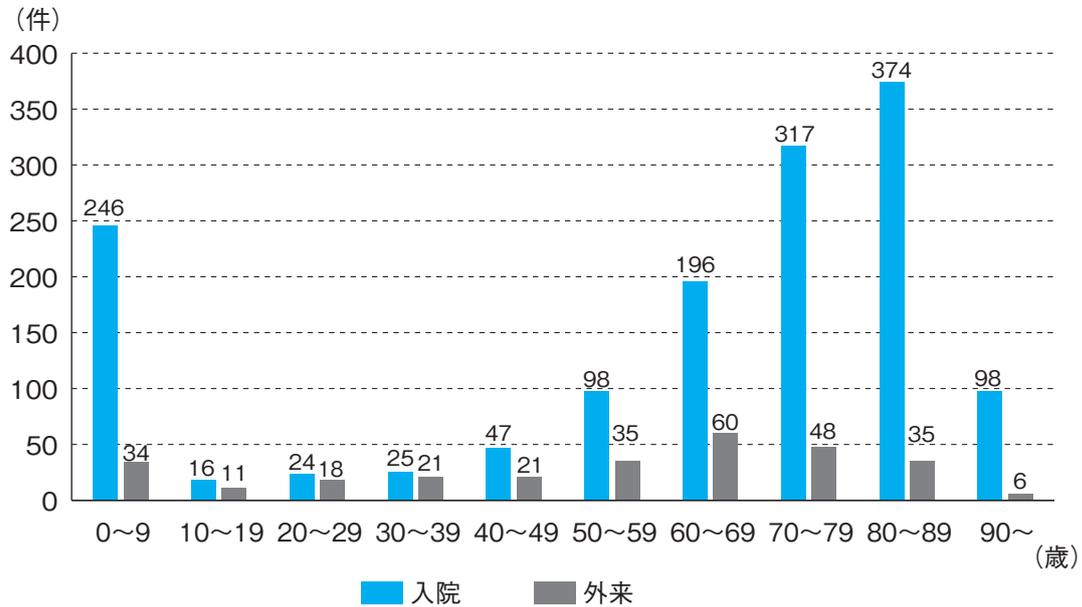
内 訳			件数(件)
病診連携室経由の受診予約数	医 科	市 内	10,054
		市 外	2,769
	歯 科	市 内	1,022
		市 外	150
	保 健 所 保 健 セ ン タ ー		400
	そ の 他		28
	キ ャ ン セ ル		△ 466
	合 計		13,957
時 間 外 (再 掲)		895	
病診連携室経由の転院先状況	申 込 数		1,334
	内 訳	有 床 診 療 所	5
		病 院	1,092
		キ ャ ン セ ル	210
		転 院 予 約 中	27

(2) 医療相談部門

① 医療福祉相談件数（平成27年4月～平成28年3月）

(ア) 新規相談患者数 入院 1,441件 外来 289件 合計 1,730件

年齢別新規相談患者数



(イ) 延べ相談数 入院 10,828件 外来 4,522件 合計 15,350件

② 女性相談件数 面接 18件 電話 47件 合計 65件

③ がん相談件数 面接 318件 電話 111件 合計 429件

入院支援センター

1. 概要

入院支援センターは、2015年5月に開設された新しい部門である。当センターの目的は、入院や治療に対しての患者さんの不安を軽減させ、安心して医療が受けられるように援助するとともに、入院前に患者さんの状態を把握し病棟スタッフへ情報伝達を行い、安全に治療が行えるようにすることである。初年度の本年は、一般外科・歯科口腔外科・眼科・耳鼻いんこう科でクリニカルパスに沿って手術を行う患者さんを対象に活動した。今後はその範囲を広げ、最終的にはクリニカルパスの有無にかかわらず、全科の予約入院患者に対し入院前説明を行っていききたい。

(センター長 浦野 文博)

(文責 伊藤 恵子)

2. 活動報告

(1) 業務内容

- ① 入院前オリエンテーション
- ② 入院日・手術日の説明
- ③ 手術同意書一式の署名の説明
- ④ 患者データベースの聴取
- ⑤ 栄養アセスメントの計測
- ⑥ 弾性ストッキングのふくらはぎ測定
- ⑦ リスク患者のチェック (転倒転落チェックリスト・退院支援スクリーニング)
- ⑧ クリニカルパスの説明
- ⑨ 持参薬の確認
- ⑩ 医療相談の介入 (必要時)

(2) 入院前説明患者数

外科 (H27/5/11 開始)	患者数 (人)
ヘルニア手術	186
胃手術	94
肝臓手術	20
結腸直腸手術	93
腹腔鏡下胆嚢手術	112
乳房手術	110
甲状腺手術	20
虫垂切除	13
痔核・痔瘻手術	19
その他	68

歯科口腔外科 (H27/8/1 開始)	患者数 (人)
全身麻酔・局所麻酔すべて	194

眼科 (H27/9/1 開始)	患者数 (人)
白内障	237
硝子体	2

耳鼻いんこう科 (H28/2/1 開始)	患者数 (人)
扁桃切除術	2
ラリngo	2
フェンスコンホ	2
E S S	11
鼓膜・鼓室形成術 (ティンパノ)	0
頸部小手術	6
頸部郭清術	2
甲状腺葉峡摘出術	3
甲状腺全摘術	0

MSW介入数 : 7人

後日薬剤鑑定患者数 : 102人

診療技術局

1. 概要

診療技術局には、放射線技術室、中央臨床検査室、リハビリテーション技術室、臨床工学室、栄養管理室の5部門（7職種）があり、各部門では専門の知識や技術で医療に参画している。私たちは、いろいろな場面で患者さんに直接または間接的に関わりを持っている。現在の医療では、「チーム医療」が必要不可欠となっており、患者さんを中心に医師、看護師、そして私たちを含む各職種の病院職員が丸となって病態の改善に努めている。特に私たち診療技術局では、5部門が協力し合って勉強会を開催しており、それぞれの知識を互いに生かし、より良い医療が提供できるように切磋琢磨の精神を大切にしている。また、院内での業務の他にも東三河地域における役割として様々な勉強会や研修会を積極的に開催し、地域医療にも貢献している。

治療方法や医療技術は常に進歩し続けている。私たちは、常に新しい知識や技術を習得し、地域基幹病院としての使命を果たすべく努力していくことが重要ととらえ、そのためには、各種の認定制度に積極的に取り組む必要があると考える。既に多数の認定を習得しているが更なる習得を目指している。

なおも、病院を取り巻く環境や医療制度は日々変化している。常にあるべき姿を模索、検証し、前進するため一層の努力をしていく所存である。

（診療技術局長 田中 規雄）

放射線技術室

1. 概要

画像検査部門では、「豊橋市民病院に行って満足した。」という結果とともに、「少ない負担で」「少しの被ばくで」ということを常に考慮する必要がある。同じ医療上の情報を得るのであれば、当然ながら少ない被ばくで結果が得られるに越したことは無い。言わずもがな福島第一原発事故で被ばくに対する世間の意識は高くなり、本年は医療被ばくガイドラインの中で、診断参考レベルが公表され、施設間により数倍の医療被ばくの差があることに世間は驚愕した。当院では、日頃より医療被ばく低減に向けて努力するとともに、市民が安心して放射線検査を受けてもらえるように努めており、中部地区の公立病院では3施設目、全国でも60施設ほどしかない日本診療放射線技師会の定める「医療被ばく低減施設」として認定されることとなった。

今後も、「満足した」という結果を、少しでも「少ない負担で」得られることを考える部門であり続けたい。

(放射線技術室 室長 三浦 俊一)

「在籍技師が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
放射線治療専門放射線技師	日本放射線治療専門放射線技師認定機構	放射線管理士	日本放射線技師会
放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構	放射線機器管理士	日本放射線技師会
医学物理士	医学物理士認定機構	胃がん検診専門技師	日本消化器がん検診学会
医療情報技師	日本医療情報学会	第1種放射線取扱主任者	原子力安全技術センター・文部科学省
核医学専門技師	日本核医学専門技師認定機構	γ線透過写真撮影作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省
核医学専門技術者	日本核医学技術学会	X線作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省
超音波検査士（消化器）	日本超音波医学会	日本磁気共鳴専門技師	日本磁気共鳴専門技術者認定機構
超音波検査士（健診）	日本超音波医学会	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構
超音波検査士（体表臓器）	日本超音波医学会	臨床実習指導教員	日本診療放射線技師会
乳腺甲状腺超音波診断委員会認定技師	日本乳腺甲状腺超音波診断会議	X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	医療安全管理者	日本病院会

◎平成27年度新規取得者

医療画像情報精度管理士 日本診療放射線技師会 喜多技師
日本DMAT 加藤技師

2. 活動報告

(1) 放射線技術室実績（4月1日～3月31日）

(件)

区分		平成27年度	平成26年度	平成25年度
一般撮影	頭部	9,908	9,769	9,523
	胸部	66,782	62,769	62,132
	腹部	13,506	14,085	13,988
	四肢	47,069	50,254	50,393
	その他（椎体）	22,389	22,547	21,746
	計	159,654	159,424	157,782
	内、ポータブル	38,814	29,563	24,694

(件)

血管撮影	頭頸部	129	181	209
	心臓・胸部	780	939	10,401
	腹部	273	266	308
	その他	79	126	149
	計	1,261	1,512	1,706

(件)

C T	頭頸部	10,185	9,553	9,718
	全身	28,614	27,545	25,962
	計	38,799	37,098	35,680

(件)

M R I	頭頸部	7,531	7,127	6,723
	全身	6,456	6,589	6,040
	計	13,987	13,716	12,763

(件)

X線T V	胃透視	4,037	4,064	4,155
	注腸透視	244	281	320
	その他	2,555	2,704	2,772
	計	6,836	7,049	7,247

(件)

放射線治療	リニアック	9,163	8,340	9,185
	集光照射	26	9	10
	体腔内照射	57	106	97

(人)

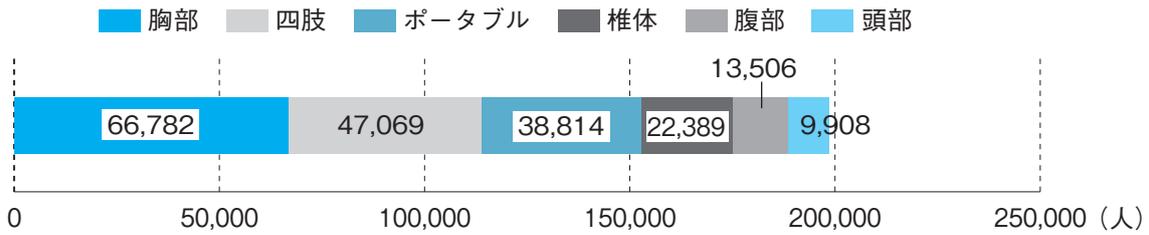
核医学（R I）	1,696	1,635	1,623
----------	-------	-------	-------

泌尿器検査（人）	939	996	914
骨塩量測定（人）	1,851	1,680	1,429
結石破碎（件）	67	100	112

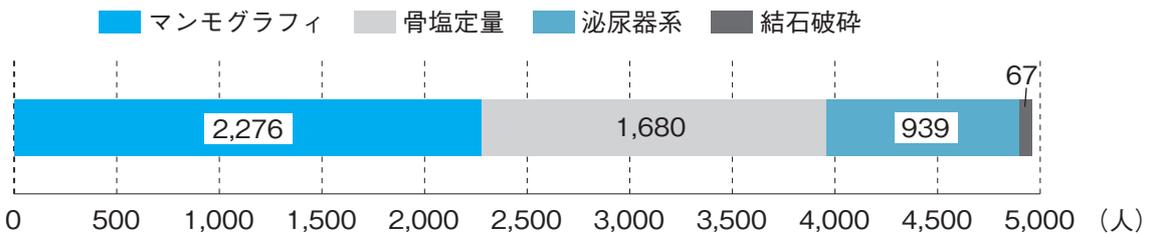
(人)

超音波診断検査 技術室担当	10,362	9,636	9,213
---------------	--------	-------	-------

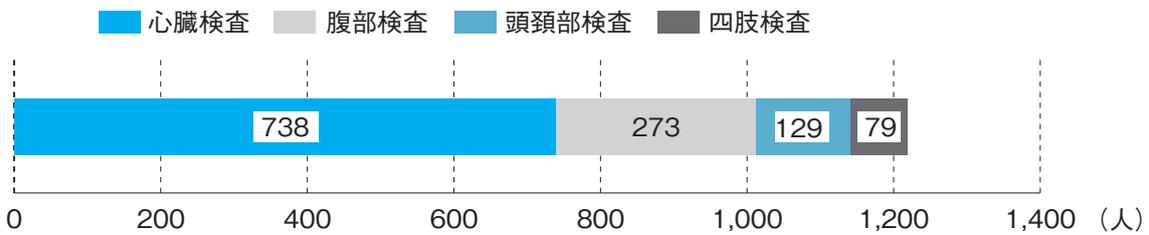
【一般撮影部門】



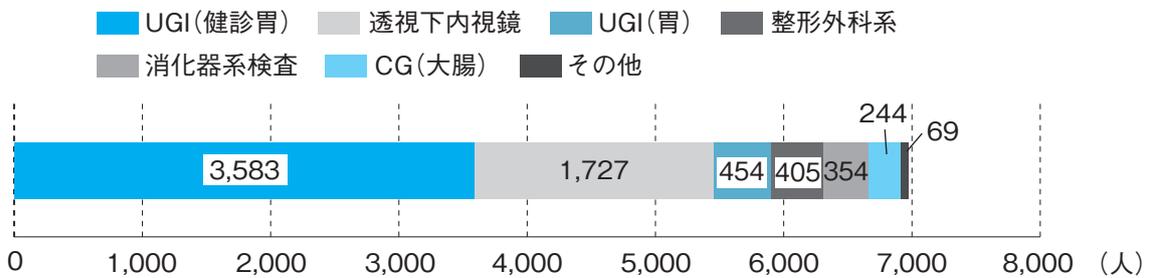
【その他】



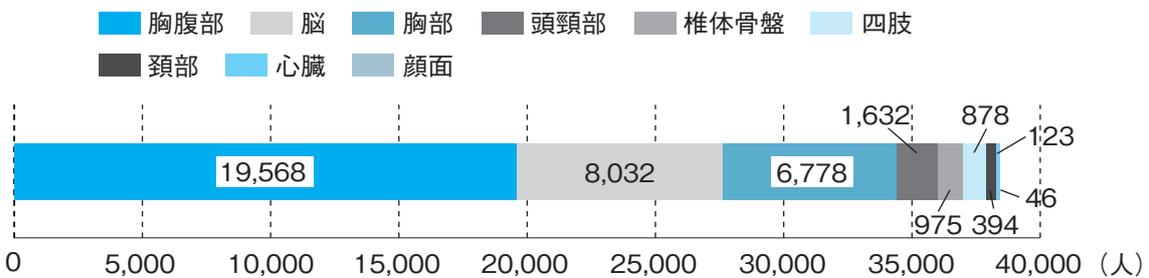
【血管撮影部門】



【X線TV部門】



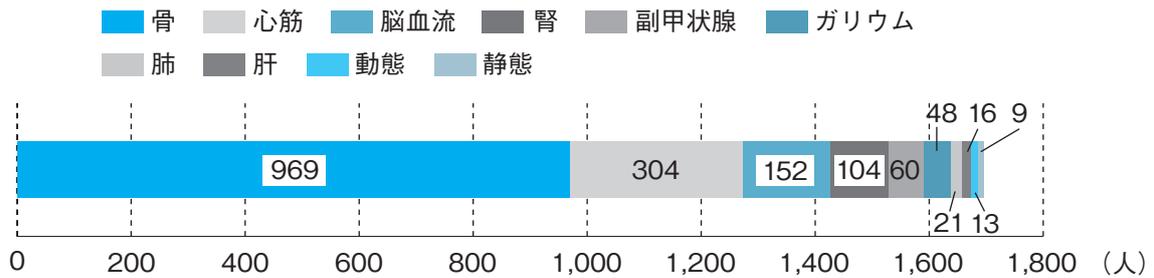
【CT部門】



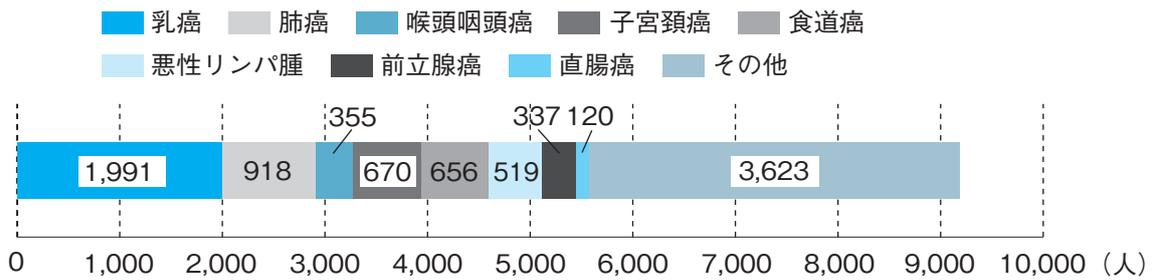
【MRI部門】



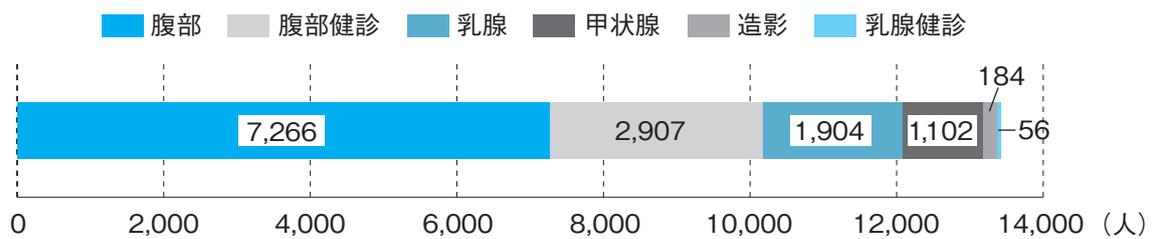
【アイソトープ部門】



【リニアック外照射部門】



【超音波検査部門】



(2) 平成27年度 豊橋市民病院放射線技術研修会

	演題名	演者名	年月日
第1回	リニアックのQA,QC ～機械的パラメータのQA～ (実習)	加藤 貴昭	2015/6/25
第2回	ファントムを使用した上腹部US検査 (実習)	安井 美和	2015/7/9
第3回	腹部アンギオ時におけるカテ操作の理解 (実習)	大井 康弘	2015/7/23
第4回	注腸検査の実演とポイント解説 (実習)	山口 稔	2015/8/6
第5回	救急CTにおける読影補助 (腹部)	木浦 伸行	2015/8/20
第6回	FBP法の再考 ～心筋シンチ編～	市川 肇	2015/9/3
第7回	EPI-DWIの基礎 (実習)	喜多 和真	2015/9/18
第8回	リニアックのQA,QC ～X線、電子線出力不変性試験～	島田 秀樹	2015/9/25
第9回	ポータブル撮影時の散乱線の測定 (実習)	西川 宗範	2015/10/1
第10回	リニアックのQA,QC～線量率依存性について (実習)～	島田 秀樹	2015/10/30
第11回	ファントムを使用した上腹部US検査 (実習)	安井 美和	2015/11/13
第12回	リニアックのQA,QC ～線量モニタシステムの精度管理～	島田 秀樹	2015/11/26
第13回	リニアックのQA,QC ～直線性について (実習)～	島田 秀樹	2015/11/27
第14回	腹部アンギオ時におけるカテ操作の理解 (実習)	早川 充俊	2015/11/27
第15回	注腸検査の実演とポイント解説 (実習)	山口 稔	2015/12/10
第16回	リニアックのQA,QC ～1日安定性について (実習)～	島田 秀樹	2015/12/18
第17回	救急CTにおける読影補助	木浦 伸行	2016/1/15
第18回	FBP法の再考 ～心筋シンチ編～	加藤 豊大	2016/1/22
第19回	リニアックのQA,QC ～1日安定性について (実習)～	島田 秀樹	2016/1/29
第20回	EPI-DWIの基礎 (実習)	喜多 和真	2016/2/5
第21回	ポータブル撮影時の散乱線の測定 (実習)	西川 宗範	2016/2/26

中央臨床検査室

1. 概要

中央臨床検査室では、検査件数はほとんどの部門で増加しており、前年比6.6%の増加であった。また迅速で精確なデータを臨床に報告するために外部精度管理調査（日本医師会・日本臨床衛生検査技師会・愛知県臨床検査技師会）に参加し良好な結果が得られた。

2015年2月、医療法施行令等の一部を改正する政令により、指定講習会を受講することにより、臨床検査技師が患者に対して検体採取を行うことができることになったが、その講習会にパート職員を含めた全職員が受講した。

臨床検査科出井副部長に月例勉強会の講師をお願いし、技師の知識と意識の向上に努めた。合わせて卒後臨床研修センターにおける業務においても、血液・輸血・微生物・生理機能の各分野において講師を担当し成果を上げた。

チーム医療にも積極的に参画し、感染対策チーム（ICT）や栄養管理チーム（NST）、糖尿病療養指導の一員として活動している。また超音波検査士や骨髄検査技師などの各種資格取得に積極的に取り組み、現在多数の資格取得者が在籍（下表）しており、臨床に貢献していると自負している。

（中央臨床検査室 室長 山口 育男）

「在籍技師が取得している認定資格」

資格	認定団体	資格	認定団体
認定血液検査技師	日本検査血液学会	超音波検査士（体表臓器領域）	日本超音波医学会
骨髄検査技師	日本検査血液学会	認定心電検査技師	日本心電学会
認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	緊急臨床検査士	日本臨床検査同学院
感染制御認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会
細胞検査士	日本臨床細胞学会	遺伝子分析科学認定士	日本臨床検査医学会
認定病理検査技師	日本臨床衛生検査技師会	体外受精コーディネーター	日本不妊カウンセリング学会
超音波検査士（循環器領域）	日本超音波医学会	認定臨床エンブリオロジスト	日本臨床エンブリオロジスト学会
超音波検査士（健診領域）	日本超音波医学会	生殖補助医療胚培養士	日本哺乳動物卵子学会
超音波検査士（消化器領域）	日本超音波医学会	糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構
超音波検査士（血管領域）	日本超音波医学会		

2. 活動報告

(1) 検査実施件数

(件)

区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
院内検査実施件数	5,296,457	4,969,112	4,763,421
委託検査件数	119,123	111,255	110,480
検査判断料件数	414,525	393,050	377,608
輸血管理料 1	2,620	2,577	2,786
外来迅速検体検査加算件数	260,514	201,581	184,051
病理診断管理加算	15,141	14,557	14,116
検体検査管理料加算 I 件数	112,309	109,059	105,532
入院時初回加算件数	11,683	10,827	10,877
時間外緊急院内検査加算件数	12,022	12,356	11,814
採血加算件数	116,598	111,539	108,585

(2) 検査判断料件数

(件)

区 分		平成27年度	平成26年度	平成25年度
尿・糞便等検査判断料	外来	18,220	16,660	15,796
	入院	3,811	3,484	3,111
血液学の検査判断料	外来	97,395	93,353	91,214
	入院	17,540	16,789	16,567
生化学の検査（Ⅰ）判断料	外来	96,179	91,983	89,768
	入院	17,448	16,807	16,603
生化学の検査（Ⅱ）判断料	外来	24,573	22,617	20,926
	入院	4,646	4,271	3,577
免疫学の検査判断料	外来	73,023	68,561	63,127
	入院	16,232	15,515	15,264
微生物学の検査判断料	外来	12,660	11,644	10,805
	入院	7,574	7,428	7,181
病理学の検査判断料	外来	2,415	2,530	2,789
	入院	23	41	49
呼吸機能検査等判断料	外来	3,641	3,286	3,083
	入院	618	714	662
脳波検査判断料	外来	987	1,081	1,130
	入院	1,379	1,278	1,245
神経・筋検査判断料	外来	473	409	414
	入院	189	147	142
組織診断料	外来	6,627	6,384	6,125
	入院	4,781	4,510	4,264
細胞診断料	外来	3,046	2,517	2,684
	入院	1,045	1,041	1,082

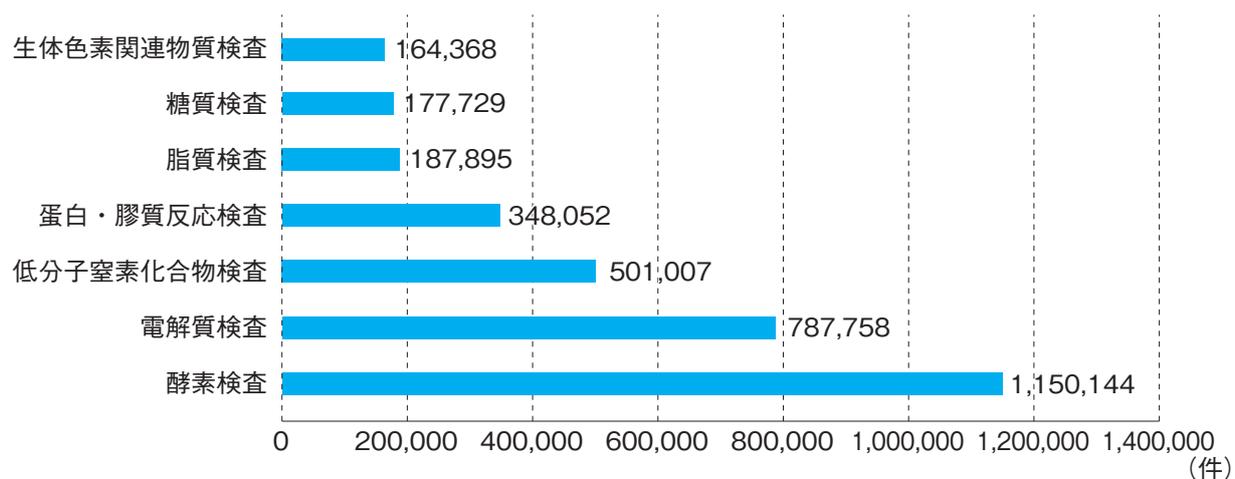
(3) 部門別実績

(件)

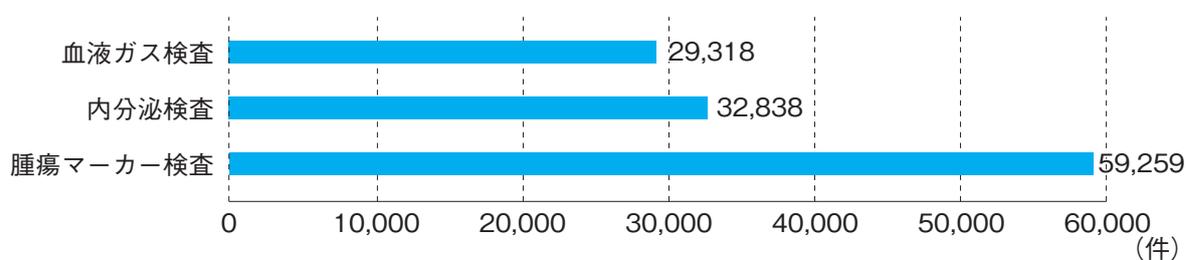
区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
尿・糞便等検査	125,968	113,944	104,599
血液学的検査	665,711	624,352	626,912
生化学的検査	3,872,705	3,640,362	3,478,731
免疫学的検査	391,953	359,597	333,298
微生物学的検査	95,711	91,393	86,499
輸血関連検査	55,237	54,687	50,819
生理機能学的検査	63,522	60,545	59,165
病理学的検査	24,326	22,752	22,024
生殖医療学的検査	1,324	1,480	1,374

(4) 生物化学分析検査

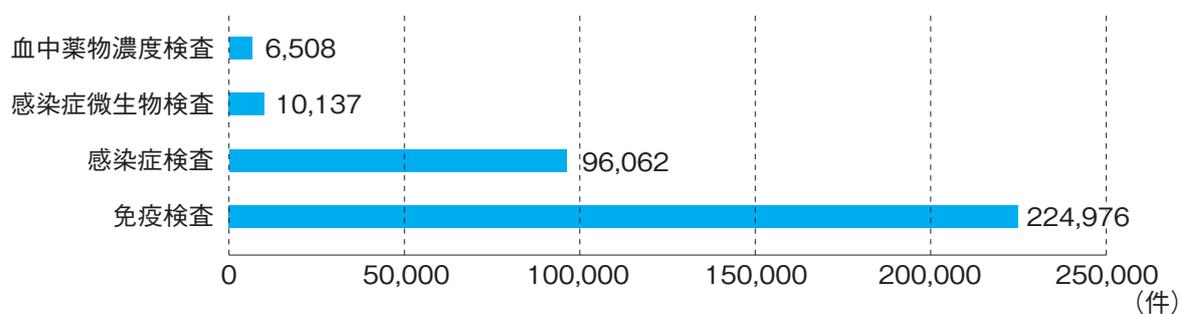
① 生化学検査（Ⅰ）検査実績



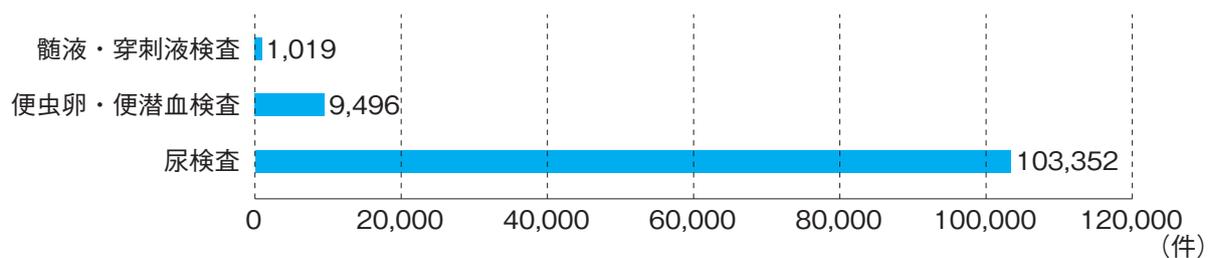
② 生化学検査（Ⅱ）・血液ガス 検査実績



③ 免疫学的・薬物検査 検査実績



④ 一般検査 検査実績



⑤患者検査説明業務 実績

(件)

区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
患者検査説明業務	1,002	1,018	1,186

患者説明業務とは、蓄尿、糖負荷検査（OGTT）、生理検査などの検査方法を患者に対して説明する業務である。

●説明検査項目

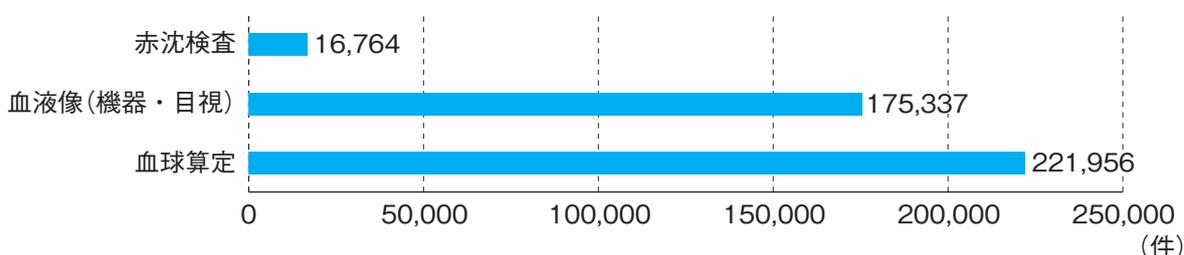
尿検査など：蓄尿・酸性蓄尿・糖負荷検査 OGTT・クレアチニンクリアランス・早朝尿

生理検査：超音波検査・ホルター心電図・トレッドミル・24時間血圧測定・負荷サーモグラフィー・

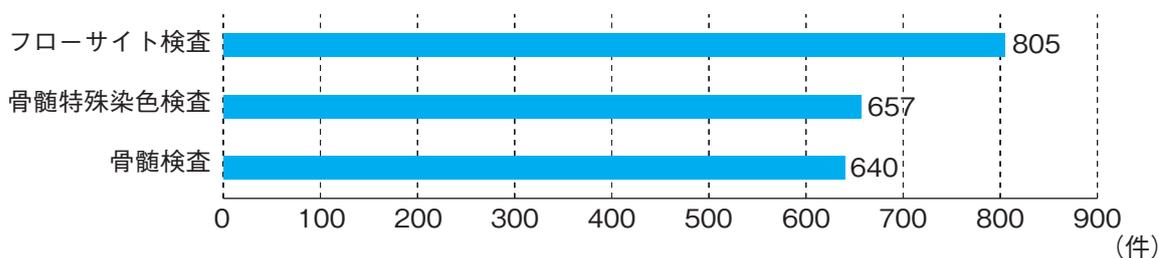
吸入誘発試験・脳波・聴性脳幹反応・終夜睡眠ポリグラフィー

⑥ 血液学的検査 検査実績

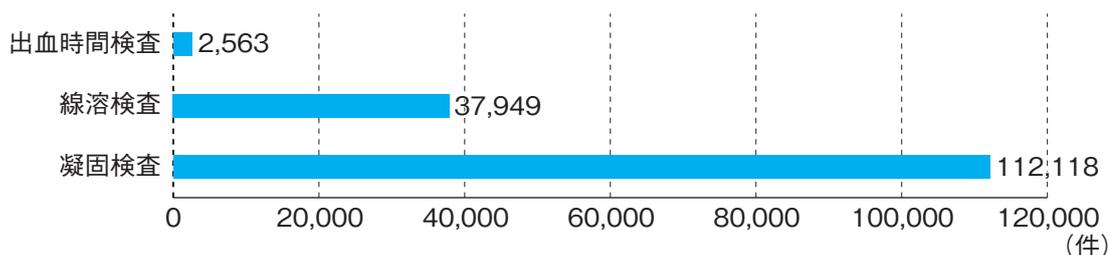
血液検査



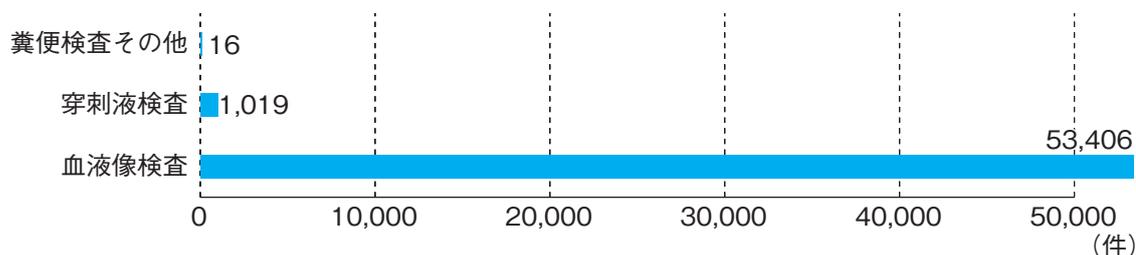
骨髓検査



凝固・線溶検査



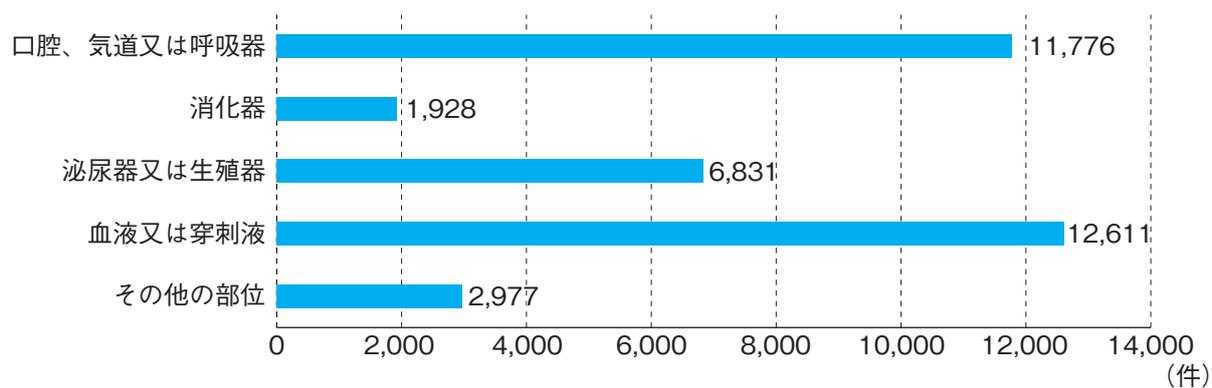
⑦ 顕微鏡検査 検査実績



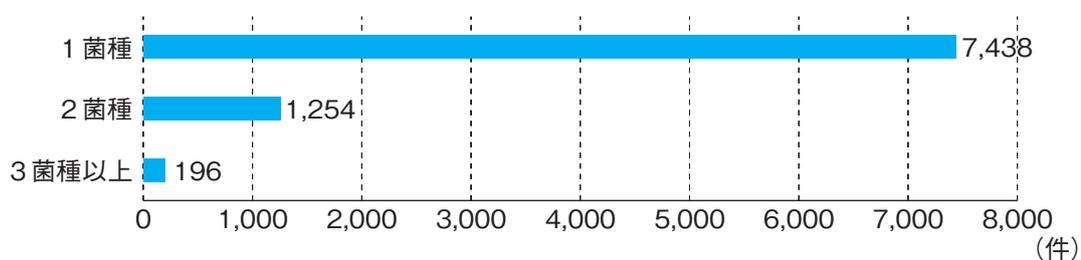
(5) 微生物・感染制御検査

① 一般細菌

培養同定検査 検査実績

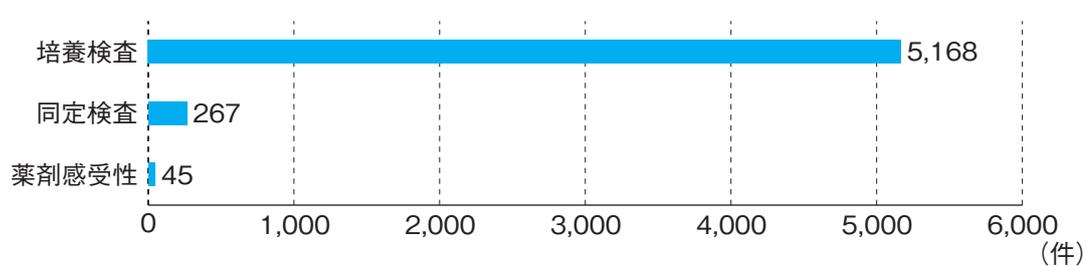


薬剤感受性検査 検査実績

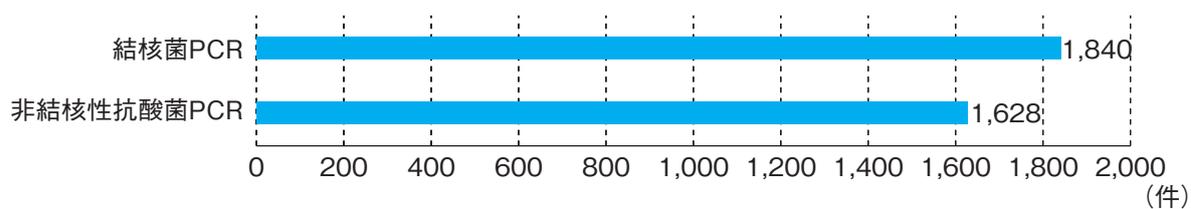


② 抗酸菌

培養同定検査 検査実績

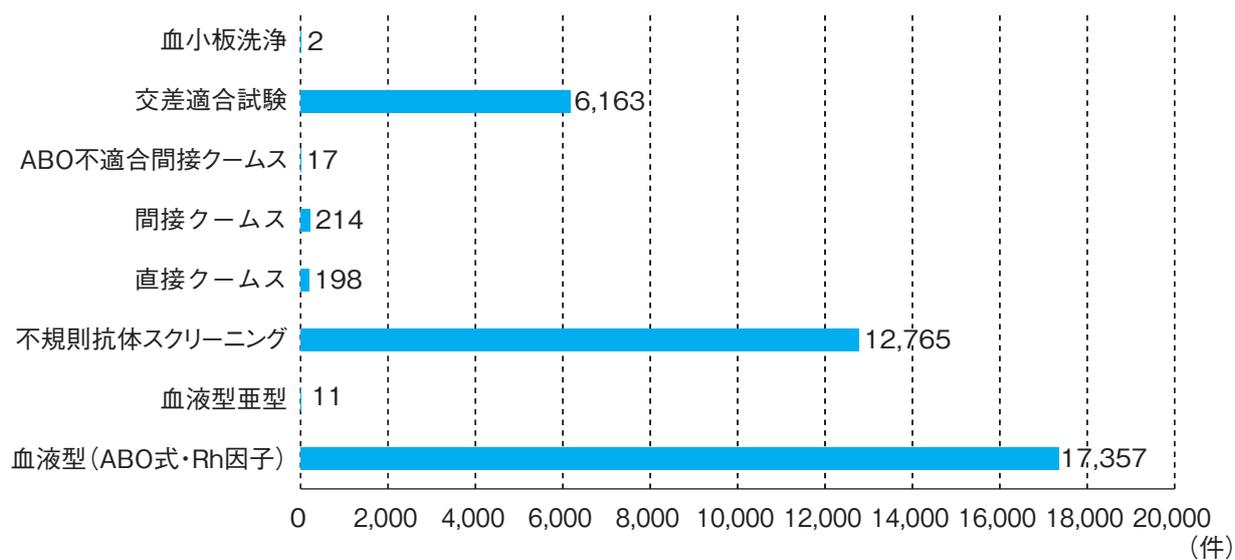


遺伝子検査(PCR) 検査実績

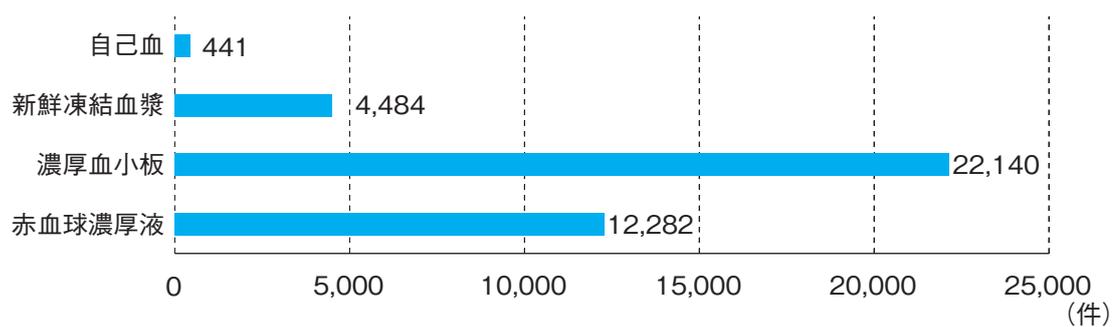


(6) 輸血移植・救命救急検査

輸血関連検査 検査実績



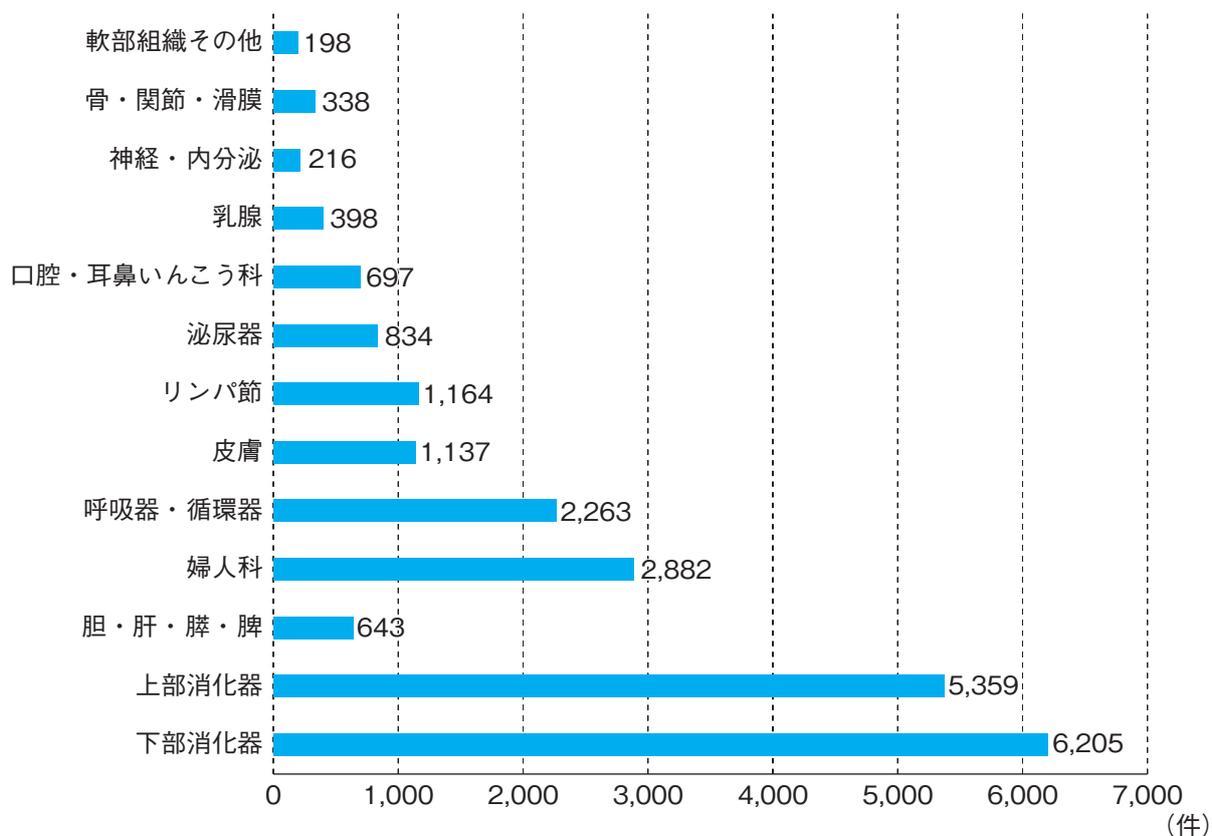
血液製剤使用状況



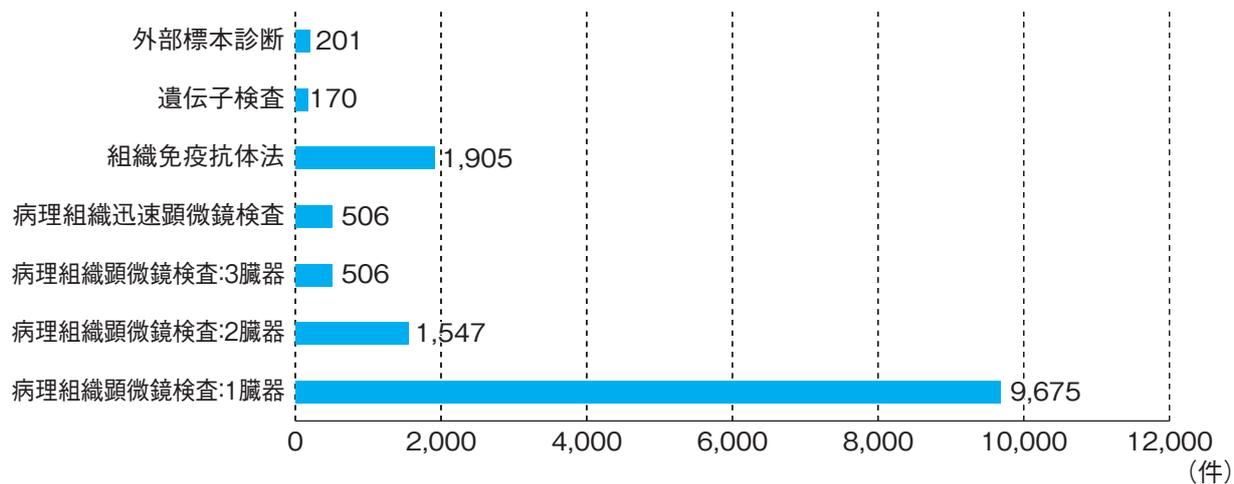
(7) 病理・細胞形態検査

① 病理学的・細胞診検査実績

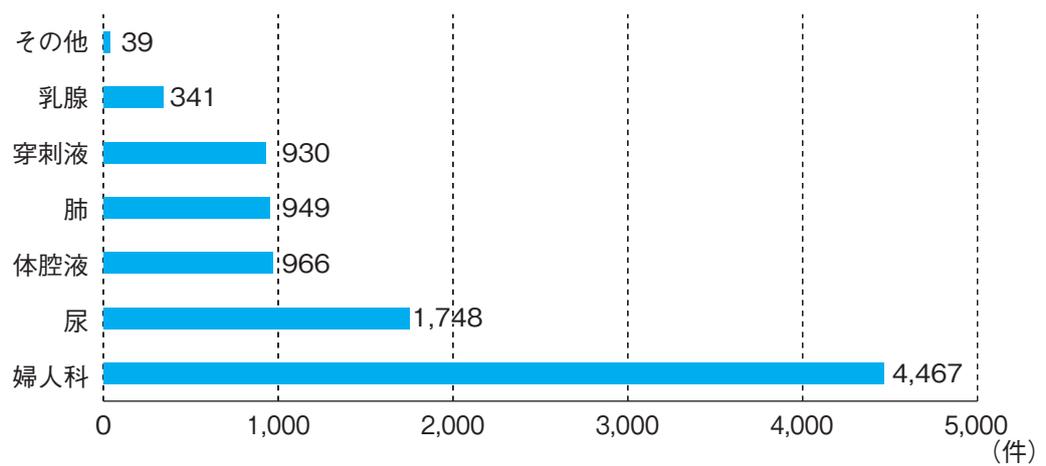
病理組織検査材料別件数



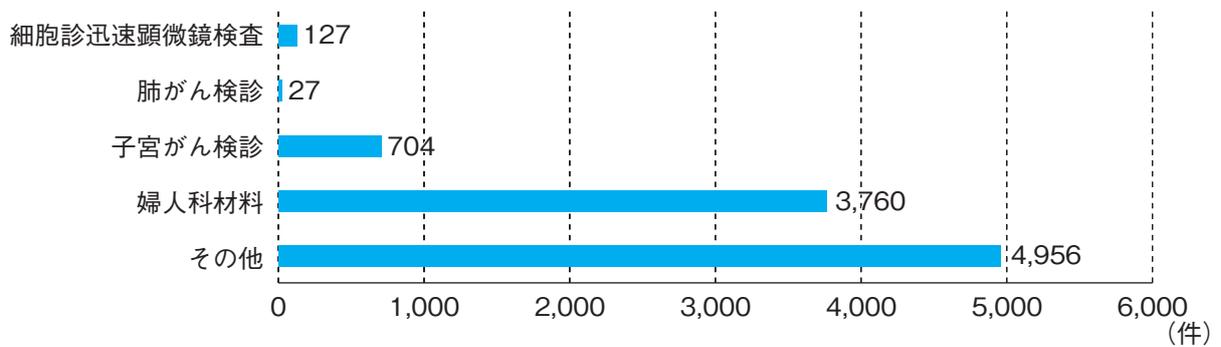
病理組織検査件数



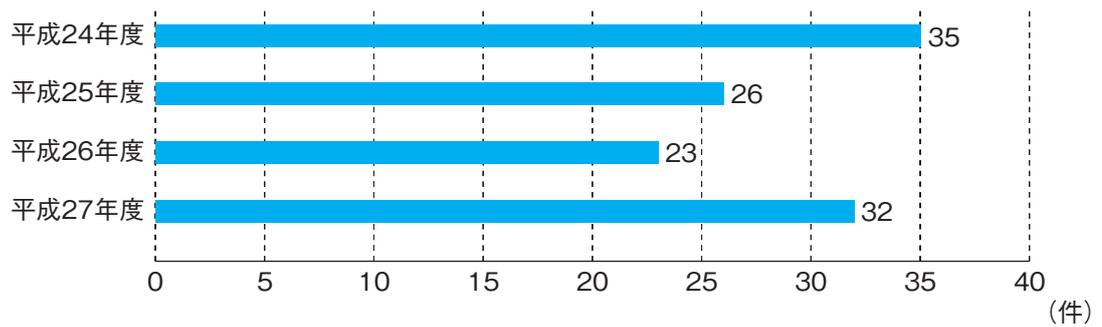
細胞診検査材料別件数



細胞診検査件数



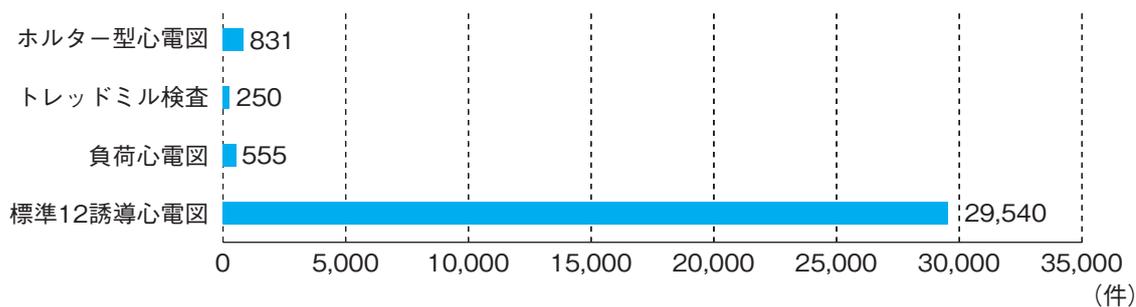
② 病理解剖



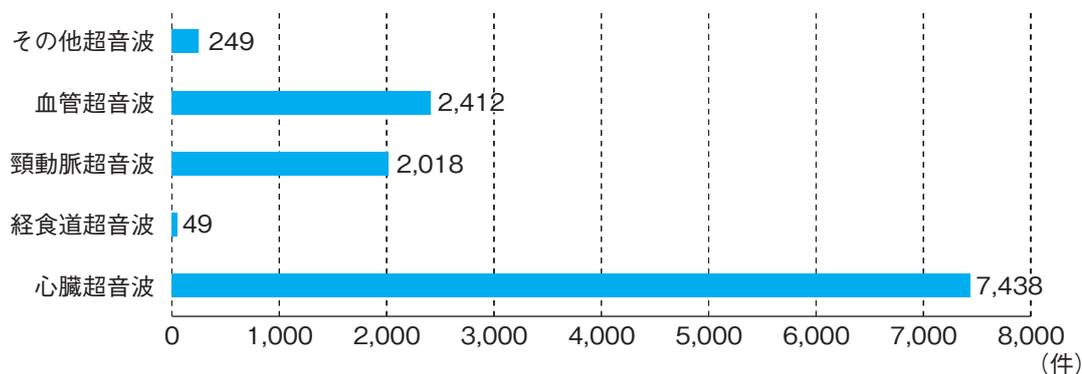
(8) 生理機能・生殖医療検査

① 生理機能・画像検査 検査実績

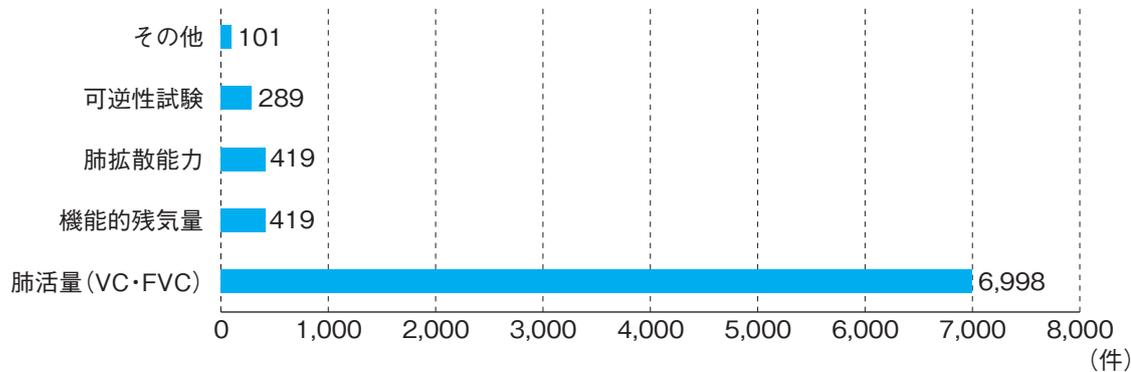
心電図 検査実績



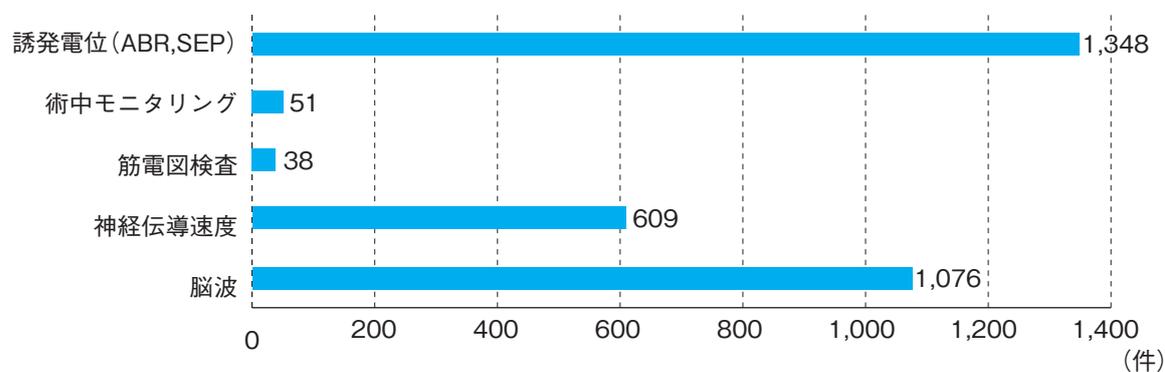
超音波 検査実績



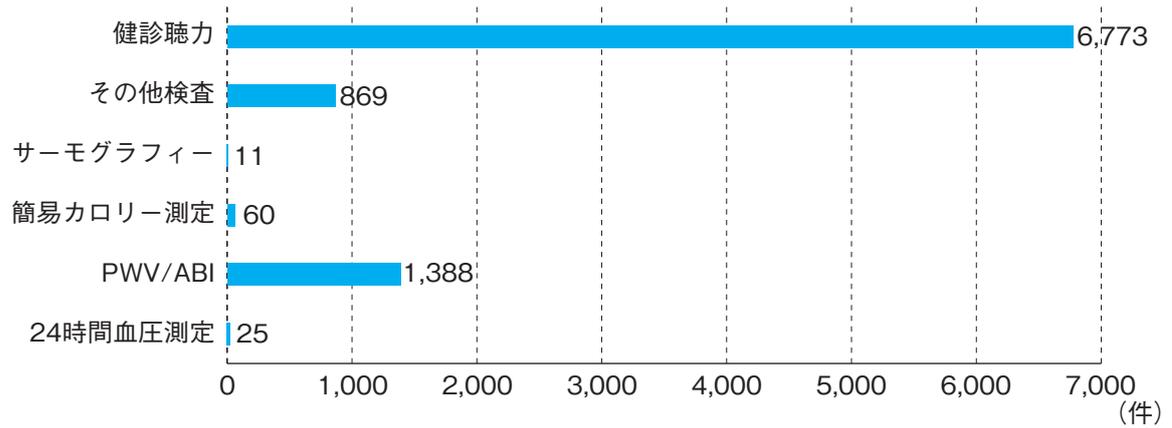
肺機能 検査実績



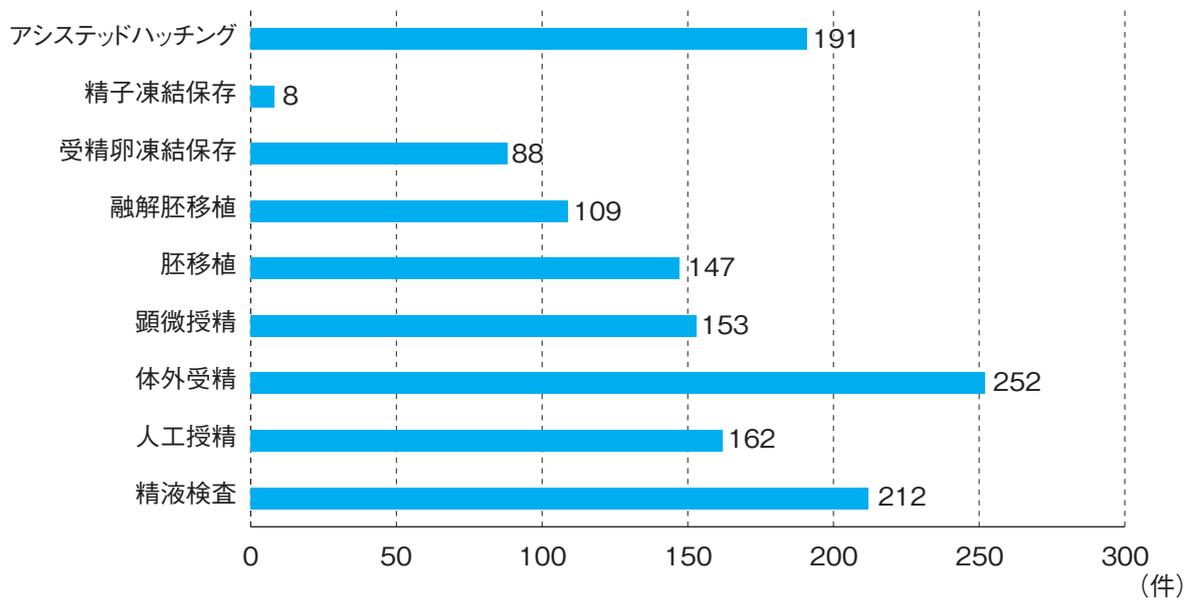
脳・神経 検査実績



その他 検査実績



② 生殖医療関連 検査実績



リハビリテーション技術室

1. 概要

リハビリテーション技術室は理学療法部門、作業療法部門、言語療法部門より構成される。さらに豊橋市役所長寿介護課に職員を派遣している。運動器・脳血管・呼吸・心大血管・がん患者を対象に総合的にリハビリテーションが実施できるよう施設基準を有している。

また、昭和62年より開始した地域病院間のリハビリテーション連絡会は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が所属する施設で構成され、各機能別施設における各専門分野からの情報提供や症例検討を行っている。病診や病病連携一体のシステムは、26施設を数えリハビリテーション分野からの市民サービスの充実を図っている。

(リハビリテーション技術室 室長 森嶋 直人)

2. 活動報告

(1) 外来入院別単位数

延べ患者件数は110,485件、その内訳として理学療法69,566件、作業療法24,965件、言語療法15,954件であった。

(件)

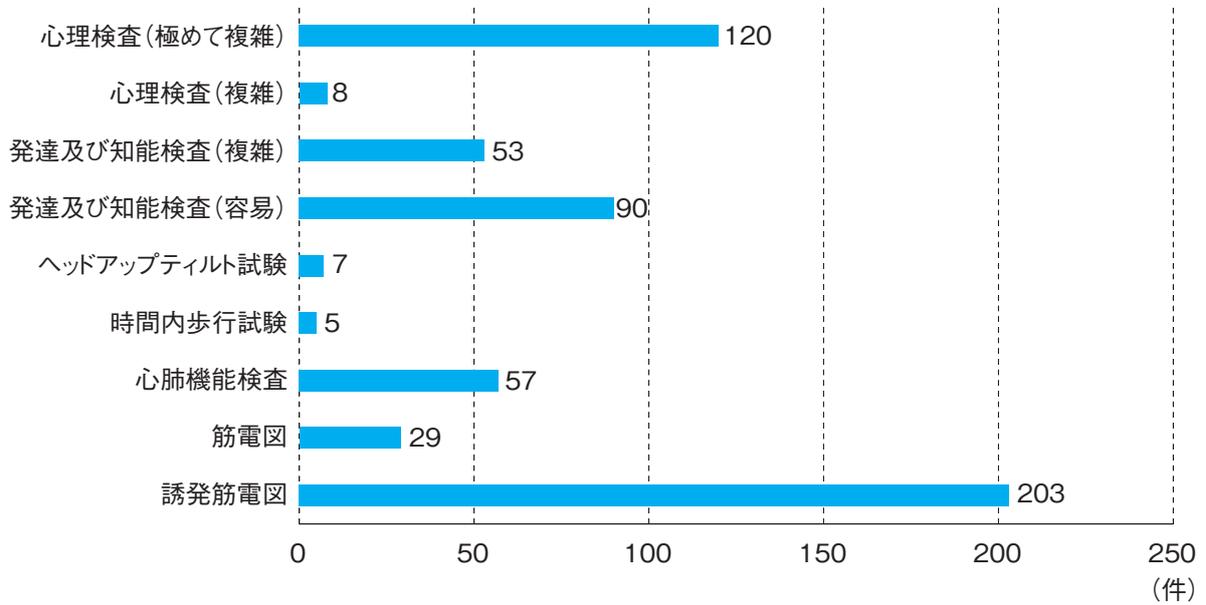
内 容	入外	H27(2015)	H26(2014)	H25(2013)
理学療法	入院	65,697	58,245	60,459
	外来	3,869	4,748	5,149
作業療法	入院	21,979	18,678	16,893
	外来	2,986	2,363	1,769
言語療法	入院	13,018	11,558	11,011
	外来	2,936	2,627	2,184
合 計	入院	100,694	88,481	88,363
	外来	9,791	9,738	9,102
総合計	合計	110,485	98,219	97,465

(2) 疾患別件数

大分類疾患		代表的小分類疾患	
①脳疾患	1,053件	ア) 脳梗塞	593件
		イ) 脳出血	148件
		ウ) くも膜下出血	45件
		エ) 小脳出血・小脳梗塞	15件
		オ) 頭部外傷	80件
		カ) パーキンソン病	37件
		キ) その他	135件
②脳性麻痺	7件		
③発達障害	175件		
④脊髄疾患	119件	ア) 脊髄損傷	38件
		イ) 脊髄変性症	37件
		ウ) 脊髄症	44件
⑤神経疾患	211件	ア) 顔面神経麻痺	81件
		イ) 多発神経炎	16件
		ウ) その他	114件
⑥先天性異常	7件		
⑦骨疾患	591件	ア) 上肢骨折	42件
		イ) 下肢骨折	299件
		ウ) 脊椎骨折	65件
		エ) 脊椎症	78件
		オ) 脊柱靱帯骨化	5件
		カ) 無腐性壊死	13件
		キ) 椎間板疾患	63件
		ク) その他	26件
⑧関節疾患	276件	ア) 変形性関節症	134件
		イ) 膝内障	48件
		ウ) 肩関節疾患	32件
		エ) 筋腱断裂	8件
		オ) その他	54件
⑨関節リウマチ	30件		
⑩切断	18件		
⑪手の外傷	28件		
⑫筋疾患	20件		
⑬循環器呼吸器疾患	715件	ア) 循環器疾患	285件
		イ) 呼吸器疾患	430件
⑭腫瘍	234件	ア) 脳腫瘍	49件
		イ) 乳癌	16件
		ウ) 肺癌	96件
		エ) 脊髄腫瘍	9件
		オ) その他の腫瘍	64件

⑮精神疾患	11件		
⑯その他	581件	ア) 廃用症候群・運動器不安定症	547件
		イ) その他	34件

(3) リハビリテーションセンター内検査実施状況



臨床工学室

1. 概要

病院理念と基本方針に基づき、市民の財産である院内の医療機器を安全且つ良好な状態で臨床提供を行い、経済性と安全性を勘案した効率的な運用を行う。管理においては医療機器安全管理責任者の下に医療機器研修計画および研修記録の管理、保守管理計画、定期点検、修理対応、更新・増設・廃棄業務の支援を行っている。

専用PHS端末を用いた365日24時間のオンコール体制を行っている。生命維持装置を用いた手術、治療支援ならびにそれに付帯する一切の医療安全業務に携ることが使命である。多職種間の密な連携協力や、計画的な研修・カンファレンスを行いながら、患者様の安全を第一に考えた医療技術の提供、診療支援を行う。手術支援ロボット「da Vinci Si」については泌尿器科領域から婦人科、外科領域に適応が拡大され、立ち合い件数は110件を超えた。地域医療連携においては主治医と患者を中心に、在宅で医療機器を使用するための指導管理や退院後のフォローも行っている。

(臨床工学室 室長 田中 規雄)

「在籍技師が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
臨床 ME 専門認定士	日本生体医工学会	透析技術認定士	日本透析医学会、 他4学会透析療法合同 専門委員会認定資格
体外循環認定士	日本人工臓器学会、 日本体外循環医学会、 日本心臓血管外科学会 他	呼吸療法認定士	日本呼吸器学会、 日本麻酔科学会、 日本胸部外科学会
第2種 ME 技術者	日本生体医工学会	特定高圧ガス取扱主任 者	高圧ガス保安協会
院内移植コーディネー タ	愛知腎臓財団	第一種衛生管理免許	厚生労働大臣指定安全 衛生技術試験協会
医療安全認定コーチ： MCCS	国際医療リスクマネー ジメント学会		

2. 活動報告

(1) 治療手術業務件数 緊急血液浄化・血液成分分離・末梢血幹細胞採数

※HD、HDF、HF、ECUM、PEは血液浄化センターでの施行症例を除く

(件または回)

区分 内訳	2015年度	2014年度	2013年度
血液浄化療法			
症例件数合計	150	129	169
血液浄化回数合計	448	341	386
HD件数	66	39	76
HD回数	165	58	143
HDF件数	0	3	1
HDF回数	0	8	6
HF件数	1	0	2
HF回数	1	0	2
ECUM件数	15	4	15
ECUM回数	18	6	23
CHD件数	0	0	1
CHD回数	0	0	1
小児CHD件数	1	0	1
小児CHD回数	4	0	4
CHDF件数	35	27	25
CHDF回数	96	66	59
CHF件数	1	0	1
CHF回数	2	0	1
PE件数	4	20	2
PE回数	5	65	11
CPE件数	0	0	0
CPE回数	0	0	0
DFPP件数	9	2	2
DFPP回数	14	5	5
免疫吸着件数	0	4	0
免疫吸着回数	0	23	0
LDL吸着件数	2	0	0
LDL吸着回数	2	0	0
薬物吸着件数	0	0	0
薬物吸着回数	0	0	0
ET吸着件数	10	2	6
ET吸着回数	15	3	11
L-CAP件数	2	17	23
L-CAP回数	3	63	74
G-CAP件数	9	11	14
G-CAP回数	23	44	46

末梢血幹細胞採取・骨髄移植関連			
症例件数合計	32	16	26
施行回数合計	66	34	59
PBS C成人	28	11	21
PBS C回数	61	24	50
PBS C小児	2	5	4
PBS C回数	3	10	8
骨髄濃縮件数	2	0	1
骨髄濃縮回数	2	0	1
顆粒球採取件数	0	0	0
顆粒球採取回数	0	0	0
白血球採取件数	0	0	0
白血球採取回数	0	0	0
その他			
腹水濾過濃縮再静注業務症例数	38	71	44
腹水濾過濃縮再静注業務回数	104	138	96

手術立ち会い業務件数

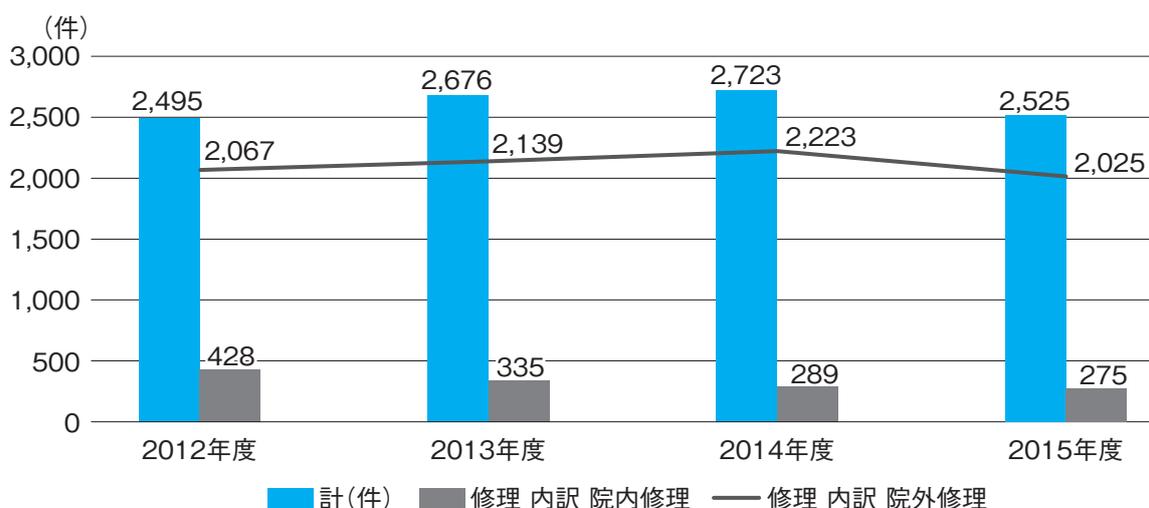
人工心肺・補助循環・自己血回収・脳外ナビ・ペースメーカー等症例数

(件または回)

区分	2015年度	2014年度	2013年度
人工心肺装置業務（開心術）			
成人人工心肺症例数	24	10	0
小児人工心肺症例数	0	0	0
Off Pump 手術立ち会い症例数	2	0	0
計	26	10	0
補助人工心肺装置管理業務			
PCPS 症例数	4	5	14
ECMO 症例数	0	0	0
計	4	5	14
手術立ち会い業務（人工心肺業務以外）			
心外 自己血回収症例数	22	9	2
整形 自己血回収症例数	4	17	15
計	26	26	17
脳外ナビゲーション症例数	53	39	40
整形手術ナビゲーション症例数	0	6	11
耳鼻いんこう科手術ナビゲーション症例数	6	2	0
計	59	47	51
泌尿器科ダヴィンチ症例数	51	28	15
婦人科ダヴィンチ症例数	0	8	0
外科ダヴィンチ症例数(胃・腸切除)	7	3	0
計	58	39	15
PM・ICD 新規植込 立ち会い	20	17	27
PM・ICD 電池交換 立ち会い	18	15	11
PM・ICD リード交換等 立ち会い	5	2	1
PM 設定術中/CT/MRI 対応	63	—	—
計	106	34	39
呼吸療法関連業務			
成人用人工呼吸器回路組立件数	419	—	—
小児用人工呼吸器回路組立件数	223	—	—
計	642	—	—
NO ガス使用症例数	6	10	5
N2 ガス 使用症例数	0	0	0
計	6	10	5

(2) 医療機器修理件数

年度別修理件数



2015年度 修理処理件数内訳

(件)

部署名	修理件数	修理内訳				
		院内修理	院外修理	修理分類別		
				新品交換	異常なし	修理不能
内科	21	4	9	8	0	0
小児科	9	0	8	1	0	0
外科	15	1	14	0	0	0
形成外科	3	0	3	0	0	0
整形外科	10	3	7	0	0	0
皮膚科	12	0	12	0	0	0
泌尿器科	23	1	22	0	0	0
産婦人科	4	0	4	0	0	0
耳鼻いんこう科	23	1	21	1	0	0
眼科	27	1	25	0	0	1
脳神経外科	3	1	2	0	0	0
歯科口腔外科	23	0	23	0	0	0
外来治療センター	9	1	8	0	0	0
予防医療センター	2	0	2	0	0	0
総合案内	18	5	5	8	0	0
総合生殖	1	0	1	0	0	0
東2	68	8	42	17	1	0
西2	48	9	31	7	1	0
東3	77	19	49	5	4	0
西3	97	13	75	6	2	1
総合周産期病棟	49	9	36	4	0	0
東5	48	9	28	10	1	0
西5	34	9	21	2	2	0
東6	63	14	43	6	0	0

西 6	35	3	23	8	1	0
東 7	61	13	34	11	3	0
西 7	67	18	38	10	1	0
東 8	75	6	61	7	0	1
西 8	48	19	22	5	2	0
東 9	26	5	13	7	1	0
西 9	38	8	20	8	2	0
南病棟	59	12	37	7	3	0
放射線技術室	154	1	148	1	4	0
放射線治療室	0	0	0	0	0	0
画像検査（看護局）	84	6	74	4	0	0
中央臨床検査室	51	1	45	5	0	0
薬局	50	3	46	1	0	0
ME（臨床工学室）	89	10	77	2	0	0
血液浄化センター	9	0	8	1	0	0
NMC	124	17	100	3	3	1
救命救急センター	61	12	42	6	1	0
中央滅菌材料室	79	0	79	0	0	0
リハビリテーションセンター	33	9	21	3	0	0
栄養管理室	23	0	23	0	0	0
医局	0	0	0	0	0	0
看護局	0	0	0	0	0	0
医療相談	0	0	0	0	0	0
管理課	0	0	0	0	0	0
医事課	0	0	0	0	0	0
手術センター	672	24	623	15	10	0
合計	2,525	275	2,025	179	42	4

(3) 臨床工学室が管理する医療機器台数

* 各科で購入されているが、保守点検を臨床工学室が行っている機器を含む

(台)

管理機器名称	管理台数
人工心肺装置	1
人工心肺用遠心ポンプコントローラー	1
心筋保護液供給装置	1
人工心肺用ヒータークーラーユニット	2
自己血回収装置	2
遠心ポンプ式補助循環装置 (PCPS)	2
IABP	3
成人・小児用人工呼吸器	2 2
新生児用人工呼吸器	1 3
在宅用 人工呼吸器 (リース)	2 1
成人用 NIPPV	6
小児・新生児用 NIPPV	1 0
パーカッションベンチレーター	2
RTX 陽陰圧式体外式人工呼吸器	1
多人数用血液透析患者監視装置	2 1
手術ナビゲーションシステム	1
個人用血液透析患者監視装置	3
個人用 RO 装置	2
持続的血液ろ過透析装置	2
血漿交換装置	1
腹水濾過濃縮装置	1
除細動装置	1 6
A E D	2 2
A E D解析装置	1
閉鎖式保育器 (デュアル式 4 台含む)	1 8
開放式保育器 (インファントウォーマー)	1 0
搬送用保育器	2
輸液ポンプ	2 5 0
輸注ポンプ	2 8 0
経腸ポンプ	1 9
医薬品注入コントローラー	1 0
PCA ポンプ	3
セントラルモニター	3 1
ベッドサイドモニター	1 5 1
無線式送信機台数	1 3 7
携帯型受信機	1 3
心電計	2 2
血液成分分離装置	2
全身麻酔器	1 5
低圧持続吸引器	3 0
連続心拍出力計	6
体外式ペースメーカー (DDD 式を含む)	8
ネブライザーヒーター	6 0
手術支援ロボットシステム (ダヴィンチ Si)	1
計	1, 2 2 5

(4) 人工呼吸器稼働台数および平均装着日数

診療科別

診療科名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
外科	53	386	7.3
脳神経外科	59	209	3.5
心臓血管外科	29	242	8.3
呼吸器外科	8	65	8.1
循環器内科	32	170	5.3
呼吸器内科	24	209	8.7
消化器内科	21	253	12.0
神経内科	9	259	28.8
血液内科	7	46	6.6
腎臓内科	6	64	10.7
糖尿病・内分泌科	1	27	27.0
整形外科	14	44	3.1
泌尿器科	3	9	3.0
産婦人科	4	52	13.0
形成外科	0	0	0.0
皮膚科	2	21	10.5
耳鼻いんこう科	11	25	2.3
歯科口腔外科	4	6	1.5
小児科	18	400	22.2
移植外科	0	0	0.0
輪番	0	0	0.0
計	305	2,487	8.2

病棟別

病棟名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
南 1	2	109	54.5
南 2	0	0	0.0
西 2	16	225	14.1
東 2	14	371	26.5
ICU	232	1,330	5.7
東 3	4	162	40.5
西 4	0	0	0.0
東 4	0	0	0.0
西 5	4	100	25.0
東 5	0	0	0.0
西 6	4	46	11.5
東 6	3	50	16.7
西 7	5	34	6.8
東 7	1	29	29.0
西 8	0	0	0.0
東 8	0	0	0.0
西 9	2	10	5.0
東 9	1	19	19.0
計	288	2,485	8.6

* 西病棟 3 階から病棟転症された症例を含む

* 在宅人工呼吸療法中で入院した症例も含む

病棟別 人工呼吸器稼働（日常点検）台数の報告

病棟	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間365日計算	
	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)																						
南1	30	1.0	31	1.0	2	0.1	0	0.0	20	0.6	26	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	109	0.3
南2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西2	10	0.3	9	0.3	4	0.1	19	0.6	2	0.1	28	0.9	26	0.8	6	0.2	24	0.8	0	0.0	43	1.4	54	1.7	225	0.6
東2	31	1.0	26	0.8	17	0.5	19	0.6	22	0.7	57	1.9	41	1.3	21	0.7	35	1.2	0	0.0	42	1.4	60	1.9	371	1.0
ICU	92	3.1	119	3.8	97	3.1	148	4.8	104	3.4	95	3.2	126	4.1	94	3.0	93	3.1	170	5.5	96	3.2	96	3.1	1,330	3.6
東3	30	1.0	31	1.0	30	1.0	31	1.0	25	0.8	0	0.0	5	0.2	10	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	162	0.4
西4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
東4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西5	10	0.3	15	0.5	2	0.1	6	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	0.2	3	0.1	13	0.4	44	1.5	0	0.0	100	0.3
東5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西6	6	0.2	0	0.0	0	0.0	2	0.1	14	0.5	24	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	46	0.1
東6	7	0.2	6	0.2	0	0.0	0	0.0	20	0.6	3	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	19	0.6	56	0.2
西7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1	4	0.1	0	0.0	9	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	13	0.4	0	0.0	28	0.1
東7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	27	0.9	2	0.1	29	0.1
西8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
東8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西9	0	0.0	2	0.1	0	0.0	0	0.0	8	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10	0.0
東9	0	0.0	19	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	19	0.1
合計/日平均台数	216	7.2	258	8.3	152	4.9	227	7.3	219	7.1	233	7.8	207	6.7	138	4.5	155	5.2	183	5.9	266	8.9	231	7.5	2,485	6.8

マスク式人工呼吸器 症例数/延べ使用日数	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		主科別 一例あたり の平均 使用日数 (日)
	症例	延べ																									
総数	11	51	8	31	10	55	5	16	11	43	6	10	13	64	12	85	6	21	7	13	6	20	11	43	106	452	4.3
(内訳)成人	9	43	8	31	10	55	3	12	11	43	5	9	10	41	7	26	3	10	6	10	4	10	9	28	85	318	3.7
(内訳)小児	2	8	0	0	0	0	2	4	0	0	1	1	3	23	5	59	3	11	1	3	2	10	2	15	21	134	6.4
一日平均マスク式人工呼吸器稼働台数(台)	1.7		1.0		1.9		0.5		1.4		0.3		2.0		2.8		0.7		0.4		0.7		1.4		1.4		1.2

栄養管理室

1. 概要

栄養管理室では、患者さんの病状や状態、年齢に合わせた248種類の食種を用意し、喜んで食べていただける食事を提供して、QOLの向上に努めている。医師を中心とした栄養サポートチームの一員として、栄養管理計画書の作成やNST回診、栄養治療実施計画書を作成し、患者さんの栄養状態の把握、改善を図り、治療に貢献している。さらに、家庭でも栄養管理、食事療法が行えるよう、栄養食事指導や糖尿病教室などを通して、アドバイスやお手伝いをしている。

栄養管理委員会で食事内容の見直しの検討や、NST運営委員会でNST活動を報告した。栄養治療についての知識、技術を習得するためNST定期教育講演会やNST教育カリキュラムを開催するなど、院内全体の栄養治療の水準向上を図っている。

(栄養管理室 室長補佐 藤田 克宣)

「取得している認定資格等」

認定資格・専門資格	認定団体
栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会

2. 活動報告

区 分	項 目	2015年度	2014年度	2013年度	
食種及び食数	一般食	411,525	413,515	434,848	
	特別食	加算食	135,757	133,906	128,069
		非加算食	12,621	16,013	14,935
		小計	148,378	149,919	143,004
	合計（食）	559,903	563,434	577,852	

選択メニュー	実施日数（日）		366	365	365（246）
	一般食	常食	68,000	69,864	68,370
		軟菜食	22,232	22,595	25,403
		小計（人）	90,232	92,459	93,773
	治療食	糖尿食	14,538	11,491	7,823
		心臓食	4,227	4,555	4,293
		肝臓食	550	287	148
		すい臓B食	1,347	2,047	1,045
		小計（人）	20,662	18,380	13,309
	合計（人）		110,894	110,839	107,082

（ ）内は治療食の実施日数

栄養食事指導	外来患者栄養食事指導	1,112	1,185	1,221
	糖尿病透析予防管理	63	21	40
	入院患者栄養食事指導	1,049	1,035	911
	乳児栄養食事指導	121	115	213
	小計（件）	2,345	2,356	2,385
	糖尿病教室	162	152	181
	合計（件）	2,507	2,508	2,566

NST業務	栄養管理計画書（件）	21,666	21,588	21,324
	栄養サポートチーム加算（件）	602	368	289

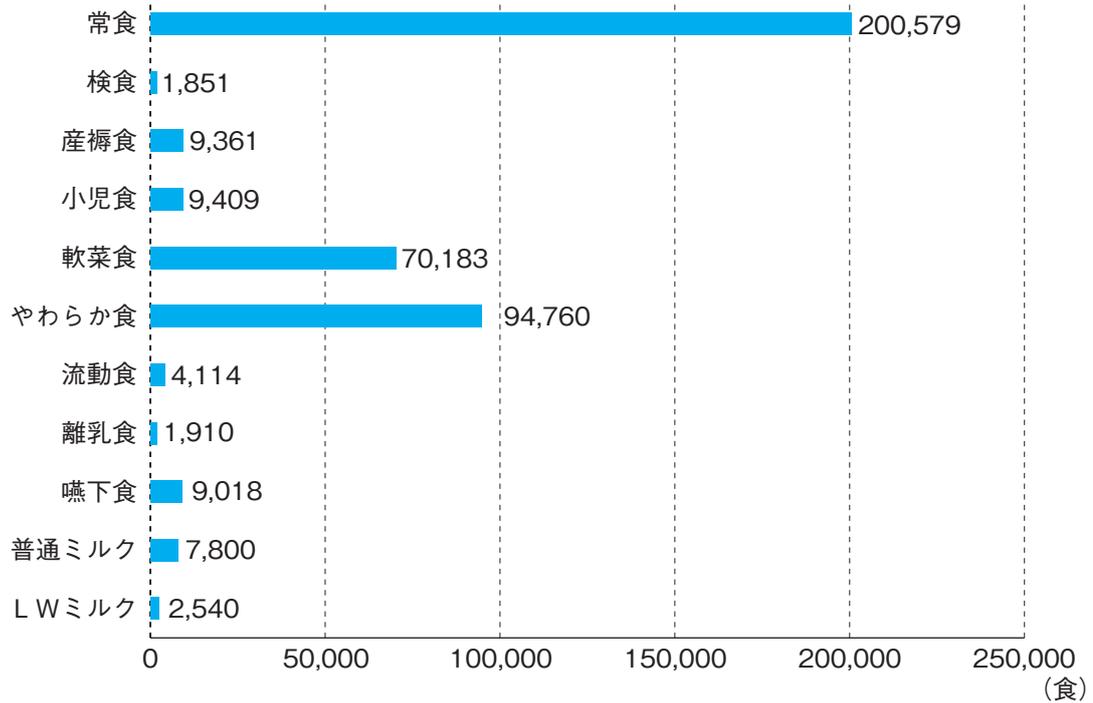
NST定期教育講演会	実施回数（回）	8	8	8
	参加者（人）	331	382	471

NST教育カリキュラム	実施回数（回）		1	1	2
	受講者（人）	院外	4	5	9
		院内	1	1	4

2015年度食種詳細

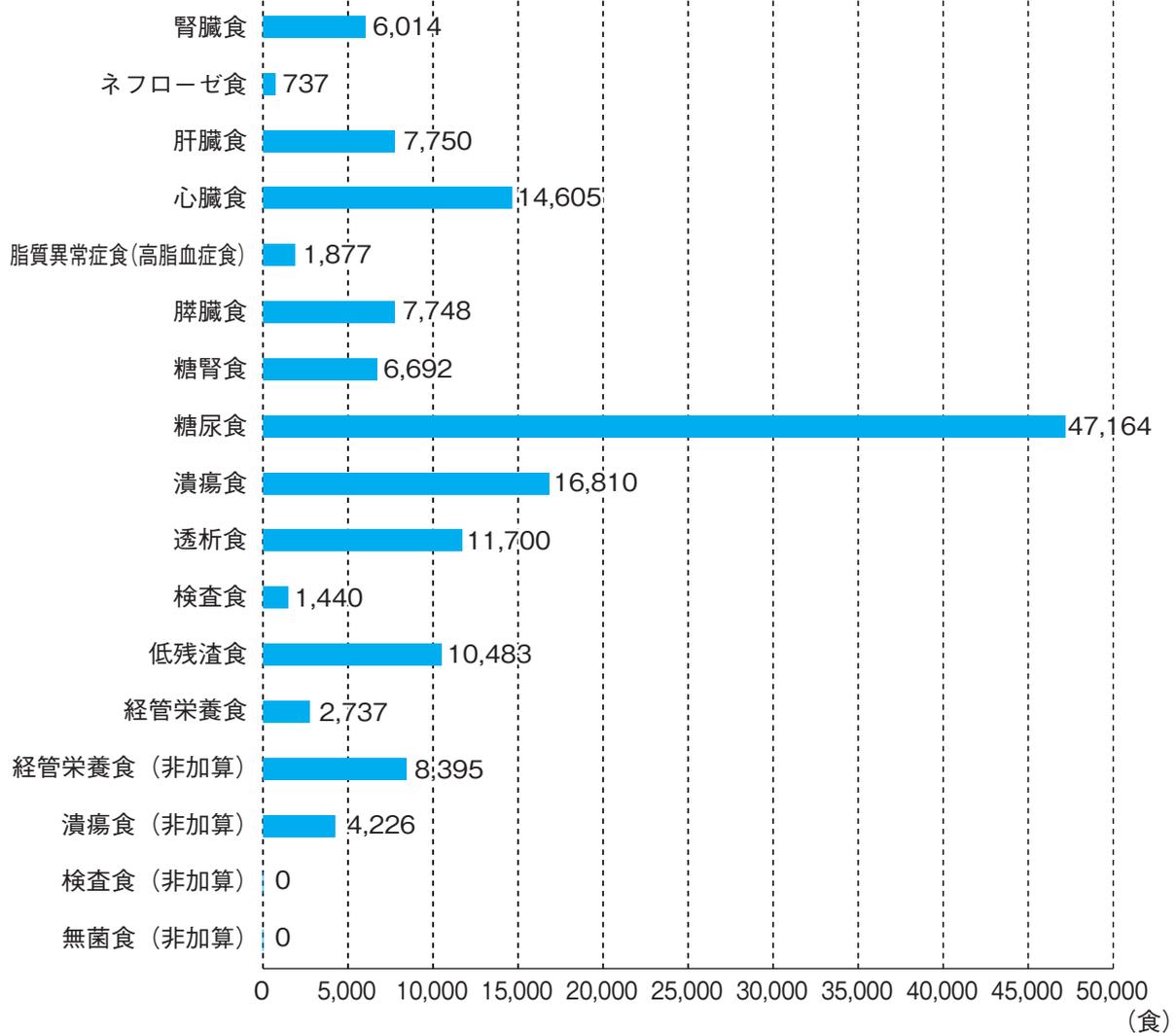
一般食食種別詳細

411,515食



特別食食種別詳細

148,378食



薬局

1. 概要

薬局は、「薬あるところ薬剤師あり」を掲げ、薬のエキスパートとして各部局と連携をとり、医療チームの一員として薬物治療ならびに医療安全に貢献することを目標としている。

薬局内には、管理・注射、製剤・調製、調剤・麻薬、医薬品情報の4グループからなる基本組織と治験管理センターが設置されている。

がん化学療法においては、レジメンの作成・登録から抗がん薬の無菌調製を薬剤師が実施し、調製時には用量・臨床検査値の確認等を行い、抗がん薬の適正使用に寄与している。

手術室のサテライト薬局には、薬剤師が常駐し、手術に使用する医薬品の供給・管理を行い、麻薬、毒薬等のハイリスク薬の適正管理を行っている。

病棟では、薬剤師が患者さんへの服薬指導や副作用発現のチェック、他の医療職への情報提供などを行い、患者さんが安心できる薬物治療に貢献している。

また、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師、がん化学療法認定薬剤師、感染制御専門薬剤師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士などの専門領域の薬剤師は各チーム医療の一員として役割を担い、薬剤師能を発揮している。

(薬局長 石田 隆浩)

2. 活動報告

(1) 患者数及び処方せん枚数

区分		年度	平成27年度(対前年度)	1日平均	平成26年度(対前年度)	1日平均	平成25年度(対前年度)	1日平均				
外来	患者数(人)		484,692	100.1%	1,995	484,149	99.9%	1,984	484,505	97.6%	1,986	
	院内	処方せん枚数(枚)		48,486	98.2%	200	49,379	99.1%	202	49,818	100.3%	204
		平均投薬日数(日)		13.8	102.7%	/	13.5	111.1%	/	12.1	102.9%	/
		注射処方せん枚数(枚)		14,725	101.7%	/	13,576	105.3%	59	12,890	89.0%	53
	院外	処方せん枚数(枚)		172,245	100.4%	709	171,585	100.7%	703	170,370	97.0%	698
		平均投薬日数(日)		34.3	99.3%	/	34.6	106.2%	/	32.6	103.0%	/
入院	患者数(人)		258,733	100.1%	707	258,492	97.4%	708	265,485	100.9%	727	
	処方せん枚数(枚)		116,506	103.3%	318	112,833	98.5%	309	114,572	102.9%	314	
	平均投薬日数(日)		7.5	108.2%	/	7.0	104.6%	/	6.7	100.6%	/	
	注射処方せん枚数(枚)		128,896	101.1%	352	127,466	96.8%	349	131,726	104.3%	361	
備考			外来日数 入院日数	243日 366日		外来日数 入院日数	244日 365日		外来日数 入院日数	244日 365日		

(2) 薬剤管理指導実績

	平成27年度	平成26年度	平成25年度
薬剤管理指導件数(件)	21,379	22,744	22,268
麻薬加算件数(件)	686	633	695

(3) 無菌製剤処理料実績

	平成27年度	平成26年度	平成25年度
無菌製剤処理料件数(件)	11,699	10,972	11,706

(4) 外来及び入院の科別処方せん枚数

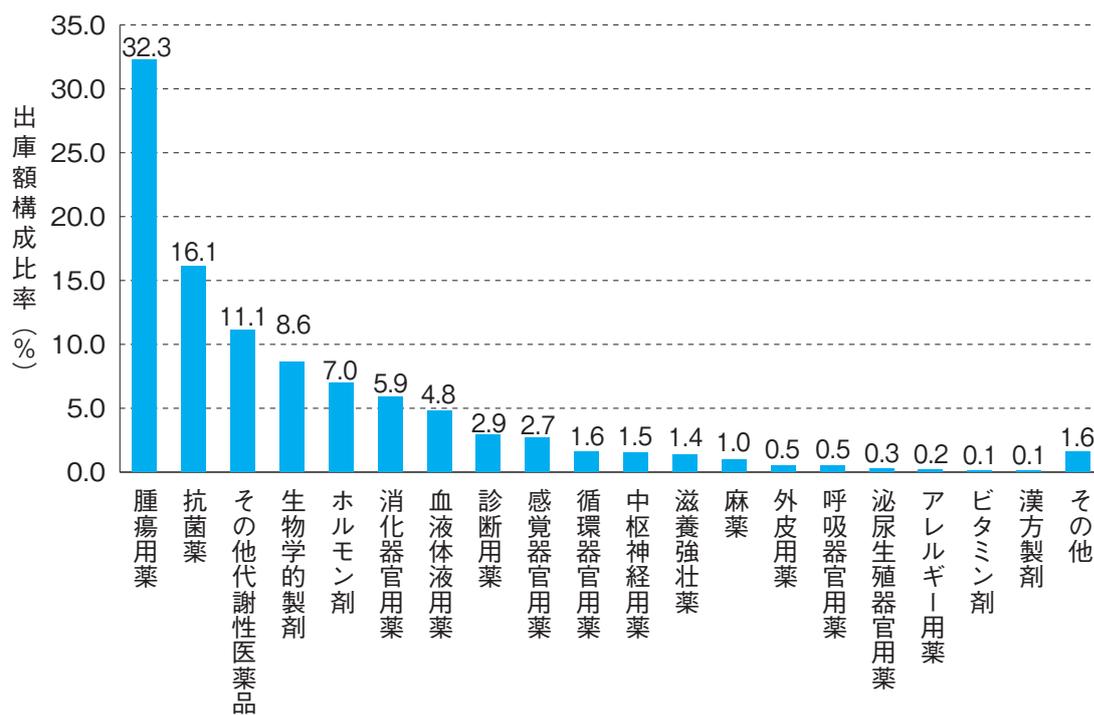
科名	外 来			入 院	
	処方せん枚数(枚)		全処方せん枚数に対する科別比率(%)	処方せん枚数(枚)	全処方せん枚数に対する科別比率(%)
	院 内	院 外			
総合内科	839	4,109	2.2	176	0.2
一般外科	2,864	7,603	4.7	9,364	8.0
整形外科	1,961	12,157	6.4	9,383	8.1
脳神経外科	356	3,532	1.8	4,480	3.8
産婦人科	2,571	8,231	4.9	9,920	8.5
小児科	2,955	12,291	6.9	7,405	6.4
耳鼻いんこう科	1,247	9,094	4.7	4,561	3.9
皮膚科	2,855	15,857	8.5	2,122	1.8
泌尿器科	1,435	11,814	6.0	6,343	5.4
眼科	718	9,931	4.8	2,399	2.1
放射線科	18	144	0.1	0	0.0
こころのケア科	230	39	0.1	0	0.0
形成外科	151	471	0.3	2	0.0
歯科口腔外科	746	4,419	2.3	1,854	1.6
リハビリテーション科	29	21	0.0	0	0.0
麻酔科	5	0	0.0	0	0.0
救急科	13,933	44	6.3	0	0.0
呼吸器内科	777	8,849	4.4	13,039	11.2
消化器内科	5,266	16,038	9.7	15,779	13.5
循環器内科	1,175	10,016	5.1	4,565	3.9
アレルギー内科*	851	2,047	1.3	0	0.0
腎臓内科	1,063	5,260	2.9	3,609	3.1
糖尿病・内分泌内科	2,857	10,967	6.3	2,047	1.8
神経内科	344	6,221	3.0	7,533	6.5
血液・腫瘍内科	1,849	4,909	3.1	8,268	7.1
小児外科	18	220	0.1	14	0.0
移植外科	63	676	0.3	360	0.3
リウマチ科	909	5,975	3.1	446	0.4
脊椎外科	0	0	0.0	0	0.0
呼吸器外科	247	289	0.2	1,116	1.0
心臓血管外科	154	1,021	0.5	1,721	1.5
合 計	48,486	172,245	100.0	116,506	100
	220,731				

* 処方せん枚数：入院のアレルギー内科は呼吸器内科に含む。

(5) 抗がん薬及びIVH調製本数

	区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
抗がん薬 (本)	入 院	6,366	6,489	7,479
	外 来	10,258	9,843	9,392
IVH (本)	入 院	1,379	767	752

(6) 薬効別出庫薬品

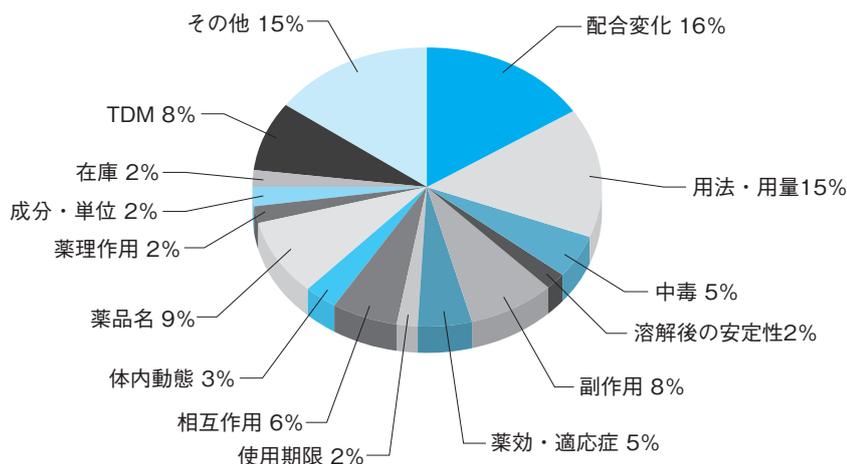


(7) 院内特殊製剤（一部抜粋）

剤形	製 剤 名 (出庫単位)	適 応 症 等	主な使用科	製剤量
坐剤・ 腔坐剤	チラーヂンS坐薬50 μ g	甲状腺機能低下症(内服不可能時)	糖尿病・内分泌内科等	299本
	ミラクリッド腔坐薬 1万単位	切迫早産(破水予防)	産婦人科	1,493本
	プロゲステロン腔坐薬 200mg	黄体ホルモン補充療法	総合生殖医療センター	5,868本
	リファンピシン坐薬 450mg	結核治療薬 (イレウス等で内服困難時)	呼吸器内科	144本
注射剤	3%亜硝酸ナトリウム注(10mL)	シアン中毒の解毒	救命救急センター	8本
	安息香酸ナトリウム注(50mL)	高アンモニア血症	救命救急センター	12本
	眼科用アバステン注	加齢黄斑変性症、血管新生緑内障	眼科	35本
	シリコンオイル眼注(10mL)	増殖硝子体網膜症の硝子体手術における眼内充填物	眼科	30本
	滅菌墨汁(5mL)	内視鏡的点墨法	消化器内科	89本
	2%パテントブルー注(5mL)	悪性リンパ腫のリンパ管染色	皮膚科	8本
点眼剤	0.5%デノシン点眼液(5mL)	サイトメガロウイルス角膜内皮炎	眼科	38本
	バンコマイシン点眼液(5mL)	MRSA陽性患者への眼科感染症	眼科	23本
	ビタミンA点眼液(5mL)	ステイーブン・ジョンソン症候群、眼類疱疹、上輪部角結膜	眼科	0本
	0.2%フルコナゾール点眼液(5mL)	角膜真菌症・アcantアメーバ角膜炎	眼科	0本
	0.5%硫酸アトロピン点眼液(5mL)	診断または治療を目的とする散瞳と調節麻痺	眼科	54本
	1%ブイフェンド点眼液(5mL)	角膜真菌症	眼科	4本
内用剤	セレン内服液(10 μ g/mL)	セレン欠乏症	小児科	8,380mL
外用剤	SAD液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	6,600mL
	鼓膜麻酔薬	鼓膜麻酔	耳鼻科	30mL
	DPCP液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	5,400mL
	2%滅菌HPC液	肉芽組織の清浄化と形成促進剤	血液・腫瘍内科等	15,500mL
軟膏剤	40%尿素軟膏	爪白癬の角質除去	形成外科	360g
	5%ヒドロキノン軟膏	メラニン色素の破壊・生成抑制	形成外科等	2,500g
	1%メトロニダゾール軟膏	腫瘍部位の悪臭予防	一般外科等	800g
	Mohs氏ペースト	Mohs surgeryにおける組織の固定	一般外科等	600g

(8) 医薬品情報室への問い合わせ状況

総件数：695件



(9) 医薬品情報提供

医薬品要覧	1回
Drug Information News	12回
薬局ニュース	12回
緊急安全性情報・安全性速報	0件
適応症に関する情報	47件
使用上の注意に関する情報	42件
用法・用量に関する情報	11件
安全性情報	47件
薬物血中濃度解析	58件

(10) 持参薬鑑別

	平成27年度	平成26年度	平成25年度
薬剤鑑別件数(件)	11,927	11,110	9,718

(11) 治験実施数

治験／製造販売後	相	件数	予定症例数	実施症例数
治験	ph I	1	4	4
	ph II	1	3	3
	ph III	15	54	32

(12) 副作用報告

	平成27年度	平成26年度	平成25年度
厚生労働省報告件数(件)	18	7	8
プレアボイド報告件数(件)	73	75	46

(13) 年間麻薬使用量

薬品名	平成27年度		平成26年度		平成25年度	
	院内	院外	院内	院外	院内	院外
オピオ注(本)	0	-	0	-	0	-
オピスコ注(本)	11	-	8	-	16	-
ペチジン塩酸塩注(本)	1	-	2	-	2	-
モルヒネ塩酸塩注10mg(本)	2,098	-	3,496	-	2,803	-
モルヒネ塩酸塩注50mg(本)	809	-	511	-	1,371	-
モルヒネ塩酸塩注200mg(本)	20	-	40	-	517	-
フェンタニル注0.1mg(本)	11,319	-	12,963	-	12,214	-
フェンタニル注0.5mg(本)	6,228	-	6,575	-	6,940	-
アルチバ静注用2mg(瓶)	4,034	-	4,167	-	5,748	-
アルチバ静注用5mg(瓶)	1,471	-	1,293	-	-	-
ケタラール静注用200mg(瓶)	562	-	836	-	1,304	-
オキファスト10mg(本)	1,571	-	1,335	-	4,193	-
オキファスト50mg(本)	431	-	597	-	73	-
プレペノン注100mgシリンジ(本)	5	-	-	-	-	-
MSコンチン錠10mg(錠)	1,167	1,802	2,530	1,519	2,812	3,719
MSコンチン錠30mg(錠)	964	735	330	14	615	1,239
MSコンチン錠60mg(錠)	-	-	-	-	6	0
ピーガード錠20mg(錠)	19	70	0	0	0	0
ピーガード錠30mg(錠)	0	0	18	0	9	0
ピーガード錠120mg(錠)	0	0	0	0	0	0
カディアンカプセル60mg(C)	0	0	0	0	0	0
カディアンスティック粒120mg(包)	0	0	0	0	0	0
カディアン分包品20mg(包)	0	-	0	-	0	-
カディアン分包品30mg(包)	0	-	0	-	0	-
モルベス細粒2%10mg(包)	2,139	884	26	14	206	20
モルベス細粒6%30mg(包)	30	0	68	0	0	0
モルヒネ塩酸塩錠10mg「DSP」(錠)	2,348	529	955	1,045	1,453	868
オプソ内服液5mg(包)	3,021	1,244	1,721	402	2,298	612
オプソ内服液10mg(包)	1,974	1,215	1,317	315	3,378	1,582
オキシコンチン錠5mg(錠)	29,602	28,272	30,395	26,218	25,999	25,883
オキシコンチン錠20mg(錠)	3,448	4,772	4,367	6,865	4,938	3,369
オキシコンチン錠40mg(錠)	2,837	4,438	1,688	3,274	1,163	1,657
オキノーム散2.5mg(包)	5,130	5,093	5,801	3,041	4,647	2,575
オキノーム散5mg(包)	5,773	3,573	5,086	2,817	4,781	2,686
オキノーム散10mg(包)	4,741	2,790	3,624	6,809	5,956	3,833
イーフェンバツカル錠50μg(錠)	601	50	360	122	-	-
イーフェンバツカル錠100μg(錠)	568	199	282	30	-	-
イーフェンバツカル錠200μg(錠)	2,799	680	417	0	-	-
アンベック坐薬10mg(本)	234	0	841	34	704	10
アンベック坐薬30mg(本)	40	0	104	0	184	0
デュロテップMTパッチ2.1mg(枚)	284	647	497	1,123	967	625
デュロテップMTパッチ4.2mg(枚)	283	491	403	581	694	709
デュロテップMTパッチ8.4mg(枚)	170	244	373	373	550	297
デュロテップMTパッチ16.8mg(枚)	275	6	150	85	300	65
フェントステープ1mg(枚)	2,899	1,916	2,831	1,645	2,360	896
フェントステープ2mg(枚)	5,020	2,345	3,923	816	2,975	920
フェントステープ6mg(枚)	1,757	212	1,243	598	1,296	140
ワンデュロパッチ0.84mg(枚)	-	-	-	-	78	0
ワンデュロパッチ1.7mg(枚)	-	-	0	0	40	42
タペンタ錠25mg(錠)	725	161	49	0	-	-
タペンタ錠100mg(錠)	44	0	0	0	-	-
アヘンチンキ(mL)	376.5	1,460.0	571.5	1,477.5	730.8	1,655.5
1%塩酸モルヒネ液(mL)	21	0	22.5	0	450	0
10%リン酸コデイン散(g)	0	0	0	0	0	0
10%塩酸コカイン液(mL)	49.0	0	28.0	0	31.0	0

※年度の設定は麻薬関係法令上、平成26年10月1日～平成27年9月30日までとする。

看護局

1. 概要

看護局の重点目標として1) 患者さん・家族の声を大切に、安全・安心な看護を提供する。2) 看護サービスの質の向上に努め、看護を可視化する。3) お互いを認め合う職場をつくる。4) 災害対応の強化に努める。を挙げ、看護局委員会、各部署における看護目標やチーム活動を通し、目標に向けて取り組むことができた。

今年度の新たな取り組みは、「入院支援センター」の開設である。入院患者の情報収集や入院時の説明などプライベート空間を確保し患者に関わることができ、患者満足度の向上につながった。また、全スタッフに統一した目標管理シートを用いることで、スタッフへのキャリア支援の大きな一歩に繋がった。全部署において“お互いを認め合う”という事はどういうことかを話し合い、全ての部署で、WLBの取り組みがなされた。さらに、日本看護協会のDiNQL事業に取り組み、いろいろなデータの可視化に努めてきた。今後は、そのデータを活かし、各部署の看護の可視化に努めていきたい。

(看護局長 菱田 由紀子)

2. 看護局の状況

1) 職員の動向

職員数879人 助産師30人(1) 看護師760人(84) 准看護師15人(12)

看護補助者60人 助手12人 保育士2人(平成27年4月)

退職者52人(定年退職者7人含む)(平成27年度)

2) 看護職員確保対策

(1) 採用試験

平成28年度新規採用試験 7回実施(新卒53人、既卒8人)

(2) ガイダンス(5回実施 155人参加)

日 程	開 催 名	参加人数
4月25日	豊橋創造大学「病院を知る会」	32人
5月10日	ナース専科 就職ナビ 合同就職説明会	9人
6月13日	豊橋市民病院就職ガイダンス	59人
7月11日	豊橋市民病院就職ガイダンス	8人
3月19日	看護師就職春ガイダンス in 吹上ホール	47人

(3) 学校訪問(11校)

日 程	訪 問 校
5月13日	三重県立看護大学 浜松医科大学看護学部 浜松市立看護専門学校
5月15日	平成医療短期大学 岐阜医療科学大学 豊橋創造大学 宝陵高校衛生看護科
5月19日	愛知県立大学 総合看護専門学校 岡崎市立看護専門学校 県立愛知看護専門学校

(4) インターンシップ

開催期間	研修名	人数
8月3～7日/17～21日	夏のインターンシップ研修	8人
2月29日～3月25日	春のインターンシップ研修	15人

(5) 施設見学 総数14人

(6) 看護師等再就職チャレンジ支援研修（6月15日～19日）6人参加

(7) 看護体験

高校生 医務国保課49人 自開催8月36人×2回 3月37人

中学生職場体験 13人

(8) 育児休業中職員向けに「ぶっちゃけトーク」開催 参加人数39人

3. 認定看護師

1) 認定看護師数 (21人)

感染管理 (2) 救急看護 (2) 皮膚・排泄ケア (1) がん化学療法看護 (2)
がん性疼痛看護 (1) 緩和ケア (1) 集中治療ケア (1) 新生児集中ケア (1)
摂食・嚥下障害看護 (1) 脳卒中リハビリ看護 (1) 認知症看護 (1) 訪問看護 (1)
透析看護 (1) 手術看護 (1) 看護管理 (3)

2) 平成27年度 認定看護師活動実績 (資料1)

4. 教育活動

1) クリニカルラダー認定者数

レベルⅠ 325人 レベルⅡ 98人 レベルⅢ 4人

2) 研修状況 (資料2)

3) 病棟看護補助者研修60人参加

5. その他

医療安全管理者養成研修修了者12人

専任看護教員養成講習会修了者12人

愛知DMAT隊員養成研修修了者4人

災害派遣医療チーム研修修了者 (日本DMAT隊員) 6人

愛知県看護協会災害支援ナース登録者14人

(資料1) 平成27年度 認定看護師活動実績

	実践	指導	相談
感染管理	<ul style="list-style-type: none"> ①医療関連感染サーベイランス（耐性菌・ウイルス、CLABSI、CAUTI、VAP） ②職業感染防止対策の推進（針刺し事故、インフルエンザ、他） ③職員健康外来の診療介助 ④ICトピックスの配信 ⑤ICT Newsの発行 ⑥院内感染対策委員会、院内感染対策チーム（ICT）、感染症管理センター会議の事務局運営 	<ul style="list-style-type: none"> ①新規採用者オリエンテーション：講義 ②基礎看護技術演習：講義&演習 ③クリニカルラダーⅠ：講義&机上演習（計2回） ④クリニカルラダーⅡ：感染症病棟視察（見学）&講義 ⑤再就職チャレンジ支援研修：講義 ⑥中途採用者オリエンテーション：講義（計4回） ⑦院内感染対策講習会：講義（計2回） ⑧救急医学講座：講義 ⑨NST教育カリキュラム：講義 	<ul style="list-style-type: none"> ①158件
手術看護	<ul style="list-style-type: none"> ①手術センター新人看護師の教育に携わった 	<ul style="list-style-type: none"> ①認定看護師セミナー「みんなで術前訪問」 ②豊橋市立看護専門学校 看護第1科：成人看護援助論Ⅰ「手術と看護」講義 ③豊橋市立看護専門学校 看護第2科：成人看護援助論Ⅱ「周術期看護」講義 ④日本手術看護学会東海地区「内視鏡手術看護セミナー」ハンズオン講師 	<ul style="list-style-type: none"> ①手術センター内での体位固定についての相談
訪問看護	<ul style="list-style-type: none"> ①在宅療養支援：64名（入院）、16名（外来） ②訪問看護ステーション勤務者向け勉強会開催：5回、参加人数合計97名 ③長期入院者院内ラウンド：12回 	<ul style="list-style-type: none"> ①介護保険についての講義：13病棟 ②退院調整講義：1病棟 	<ul style="list-style-type: none"> ①なし
摂食・嚥下障害看護	<ul style="list-style-type: none"> ①認定看護師嚥下回診（週1回） （ア）介入件数：138件 ②病棟内の摂食・嚥下障害患者の把握と定期的な評価 	<ul style="list-style-type: none"> ①摂食機能療法プロジェクトチーム開催の勉強会を通してのスタッフ指導 ②認定看護師セミナー（院内） （ア）「摂食・嚥下障害のミカタ」 ③訪問看護ステーション勉強会（院外） （ア）「食事と口腔ケアについて」 「脳からわかる摂食・嚥下障害」～NOBUⅣ～全4回（南病棟、西2階） 	<ul style="list-style-type: none"> ①食欲不振患者への対応（東病棟2階） ②食事中にむせる患者への対応（東病棟8階） ③自宅退院する患者・家族への食事形態の指導（南病棟） ④開口困難な患者への口腔ケア実施方法（南病棟） ⑤摂食訓練時の姿勢と介助方法（南病棟）

<p>認知症看護</p>	<p>①認知症や高齢により心身の安寧が得られていない患者に対する看護実践を通し、認知症看護の実践力の定着・向上を目指す ②「病院の認知症対応力向上事業」の参画 ③認知症サポートチームシステム構築 ④認知症サポートチームラウンド（週1回）</p>	<p>①認知症サポートチームラウンドを通して、認知症看護についてスタッフに指導 ②勉強会 （ア）病棟勉強会「認知症看護」（西病棟2階） （イ）院内トピックス研修「高齢者の看護（高齢者の心理、高齢者の看護における家族支援）」 （ウ）認定看護師セミナー「認知症とせん妄ケア」 （エ）訪問看護師研修「認知症看護について」 ③「病院の認知症対応力向上事業」における指導病院として、2施設への訪問指導</p>	<p>①年間相談依頼件数 1件 ②認知症サポートチームラウンドの年間相談件数 23件</p>
<p>脳卒中リハビリテーション看護</p>	<p>①音楽療法を活用した離床時間の延長 ②片麻痺患者のポジショニング ③高次脳機能障害患者への看護介入 ④食事調整・嚥下評価 ⑤脳卒中再発予防指導・脳卒中退院指導プロジェクトの運営（1回/月） ⑥摂食機能療法プロジェクト会議への参加（1回/月） ⑦院内デイケアプロジェクト会議への参加（計13回）</p>	<p>①認定看護師セミナー（計2回） （ア）「障害受容過程にある患者の看護」「脳神経系障害の観察」 ②西病棟2階看護師対象の勉強会（計5回）「はじめての脳神経外科看護」 ③NOBUIV（計9回）「脳神経解剖生理の理解・摂食嚥下障害看護」 ④高次脳機能障害について（計2回）西病棟2階Bチーム小集団対象 ⑤東三河脳卒中懇話会「廃用症候群予防への取り組み」 ⑥東三河準看護師の会「脳卒中後のリハビリ看護について」 ⑦愛知県看護研究学会交流セッション「多職種チームで脳卒中再発予防に挑む」 ⑧トピックス研修「高齢者の看護」</p>	<p>①相談件数8件（ポジショニング・急性期看護・食事調整・弾性ストッキングについて）</p>
<p>糖尿病看護</p>	<p>①糖尿病内分泌内科病棟での糖尿病教育入院患者、糖尿病合併症患者に対する看護実践を通し、糖尿病看護の質向上を目指す ②院内インスリンインシデントの分析 ③血糖測定穿刺針の導入後の支援</p>	<p>①認定看護師セミナー（院内） （ア）「正しい血糖測定の方法を知ろう」講義・演習 ②業務主任会での認定看護師講義 （ア）「採血用穿刺針の取り扱いについて」講義 ③病棟学習会 （ア）「SAP療法について」</p>	<p>①年間相談依頼件数 2件 （ア）サイトローテーション指導 （イ）インスリン自己注射指導</p>
<p>透析看護</p>	<p>①血液浄化センターでの看護実践を通しての現場の質向上 ②腹膜透析患者に対して定期的なチューブ交換の導入 ③透析導入患者に対しての導入前病棟訪問 ④転入患者のシャント診察 ⑤「透析チェックリスト」の改定 ⑥透析開始処置時間の短縮と安全性の向上のための透析開始手順の見直し</p>	<p>①認定看護師セミナー「バスキュラアクセスの観察とケア」 ②血液浄化センタースタッフ対象の学習会 （ア）「バスキュラアクセスの基礎知識」 （イ）「リンのおはなし」</p>	<p>①シャントトラブルに対する相談：3件</p>

<p>皮膚・排泄ケア</p>	<p>①褥瘡ラウンド（週1回：306件） ②褥瘡フォローアップ回診（月約3回：166件） ③褥瘡ハイリスク患者のリスクアセスメント・予防計画書立案・ラウンド・評価 ④ストーマ外来での患者のケア（週2回と臨時開催：523件）</p>	<p>①褥瘡勉強会（講義）：5回 (ア)「褥瘡の基礎知識、発生要因」「リスクアセスメント（ブレイデンスケールの採点方法）」 (イ)「褥瘡のアセスメント（DESIGN-Rの採点方法）」 (ウ)「褥瘡の治療（創傷被覆材）」「体圧分散用具の種類と特徴、選択方法」 (エ)「ポジショニング」 (オ)「スキンケア、褥瘡処置方法」 ②褥瘡ラウンドを通して、褥瘡予防・褥瘡ケアについてスタッフへ指導 ③認定看護師セミナー：2回 (ア)「医療用粘着テープによる皮膚障害予防のためのケア」 (イ)「一緒に取り組もう!! 医療関連機器による圧迫創傷予防」 ④NST教育カリキュラム：褥瘡ラウンド同行・講義 ⑤業務主任会での認定看護師講義 (ア)「医療用粘着テープによる皮膚障害予防のためのケア」 ⑥ストーマケア勉強会 初級編1.2：2回 ⑦ストーマサイトマーキング勉強会：2回 ⑧ストーマ外来に外科外来看護師が参加し、ストーマケア指導：6回</p>	<p>①年間相談依頼件数（190件）</p>
<p>緩和ケア</p>	<p>①緩和ケアチームラウンド（週1回：新規依頼件数：17件/年） ②緩和ケアチームカンファレンス（週1回22件/年） ③緩和ケア外来（毎週火曜日） ④がん患者指導管理1におけるIC同席（18件/年） ⑤がん患者指導管理2における心理的支援（8件/年）</p>	<p>①認定看護師セミナー（院内）：「どうかしたい！看取り時の家族ケア」講義 ②緩和ケアリンクナース会（2回） ③院内ラダー研修 (ア)トピックス研修 がん看護の基礎①「生活のしやすさに関する質問票と看護支援」講義 (イ)緩和1 「痛みのマネジメント」講義 (ウ)緩和2 「緩和ケアにおける臨床倫理」講義 ④訪問看護ステーション対象に「緩和ケアについて」講義</p>	<p>①年間相談依頼件数（5件） ②その他自部署病棟看護師からの相談対応</p>

<p>がん化学療法看護</p>	<p>①抗がん薬の投与管理と患者指導（西病棟5） ②抗がん剤の血管外漏出の予防（外来治療センター） ③がん患者指導管理1におけるIC同席 ④がん患者指導管理2における心理的支援（3件）</p>	<p>①院内研修 (ア)がん看護基礎①：「がん患者の心理と看護支援」 (イ)がん看護基礎②：「がん患者の意思決定支援とIC時の看護師の役割」講義 (ウ)がん看護1：「がん化学療法薬の安全な取り扱いと投与管理」講義 (エ)がん看護2：「悪心の症状マネジメントとセルフケア支援」講義 ②認定看護師セミナー (ア)「血管外漏出の予防と対処－インシデント事例をもとに具体策を考える－」 ③新規薬剤の投与管理作成（西病棟5階） ④トレフューザーの特徴と管理上の注意点（4部署） ⑤抗がん剤の血管外漏出に関する現状調査と注意点についての病棟ラウンド（10部署） ⑥講演「乳がん化学療法を受ける患者の「気持ちのつらさ」のスクリーニング」：チームで話そう！乳がん治療in東三河 2015年6月27日</p>	<p>①治療後出現する副作用について（西病棟5階） ②インフューザーポンプ使用時の残量の取り扱い（西病棟6階） ③抗がん剤時間外オーダーの対応について（西病棟8階） ④ビダーザの病棟ミキシングについて（西病棟9階） ⑤抗がん剤治療後の発熱性好中球減少に対する対応（東病棟6階） ⑥MTX筋肉注射に関連した病棟ミキシングについて（東病棟9階） ⑦PER+HER+DTXの投与管理と副作用について（東病棟8階）</p>
<p>がん性疼痛看護</p>	<p>①緩和ケアチームラウンド（週1回：新規依頼件数：17件/年） ②緩和ケアチームカンファレンス（週1回22件/年） ③緩和ケア外来（毎週火曜日） ④緩和ケア地域連携クリニカルパスによる退院調整（11件/年） ⑤がん患者指導管理1におけるIC同席（163件/年） ⑥がん患者指導管理2における心理的支援（24件/年）</p>	<p>①認定看護師セミナー（院内）：「どうにかしたい！看取り時の家族ケア」講義 ②緩和ケアリンクナース会（2回） ③院内ラダー研修 (ア)トピックス研修 がん看護の基礎①「生活のしやすさに関する質問票と看護支援」講義 (イ)緩和1 「痛みのマネジメント」講義 (ウ)緩和2 「緩和ケアにおける臨床倫理」講義 ④訪問看護ステーション対象に「がん性疼痛のマネジメント」講義</p>	<p>①年間相談依頼件数（44件）</p>

救急看護	<p>①救急外来における看護実践を通し現場の質向上に努めた</p> <p>②救急トリアージの実践、重症度・緊急度や病態に応じた看護を提供ができるようにトリアージナースの育成を図った</p> <p>③院内BLS・ICLS研修ではインストラクターとして参加し急変時の対応についての知識・技術の普及を図りインストラクターの育成にも努めた</p>	<p>①ラダー講義 演習（救急看護1 災害看護ⅠⅡⅢ）</p> <p>②認定看護師セミナー「生命維持サイクルについて」 「被災地の病院から学ぶこと」 「災害について考える」</p> <p>③看護師再就職チャレンジ研修「心肺蘇生法」講義 演習</p> <p>④新人研修「12誘導心電図」演習</p> <p>⑤院内BLS ICLS講習 インストラクター育成</p> <p>⑥看護学校講義「災害看護」</p> <p>⑦エアーストレッチャーでの避難訓練 演習</p> <p>⑧アクションカード作成と災害訓練の実施について指導と支援を行った</p>	①年間相談依頼件数 3件
新生児集中ケア	<p>①超低出生体重児蘇生時マニュアルを医師と協同作成し運用</p> <p>②新生児医療センターで看護実践を通し、看護の質向上を目指す</p>	<p>①病棟学習会 （ア）痛みの緩和ケア導入に関する学習会 （イ）閉鎖式吸引カテーテル導入に向けた学習会 （ウ）超低出生体重児の急性期看護の学習会</p> <p>②認定看護師セミナー（院内） （ア）危機状況にある患者・家族の支援について</p> <p>③愛知県新生児集中ケア認定看護師会（OYAKO井）講師 （ア）「吸引」学習会</p> <p>④看護学校講義 （ア）新生児看護</p>	①年間相談件数 2件
集中ケア	<p>①呼吸ケアサポートチーム活動（RST） （ア）人工呼吸器装着患者の早期呼吸器離脱を目指した活動（ラウンド患者数：年間延べ112名）</p> <p>②西病棟3階（集中治療室）での看護実践を通し、提供する看護の質的向上を目指す</p>	<p>①認定看護師セミナー（院内） （ア）「病棟で気付きたい急変の徴候！敗血症～早期発見と迅速な対応が患者を救う～」講義</p> <p>②新人研修 （ア）「呼吸と循環のアセスメント」講義</p> <p>①院内クリニカルラダー研修 （ア）「救急看護2」「救急看護3」講義</p> <p>②地域の訪問看護師を対象にした勉強会 （ア）「看護師が行う呼吸リハビリテーション」講義</p>	<p>①年間相談依頼件数（6件）</p> <p>②RSTラウンドでの年間相談件数（10件）</p>

(資料2) 研修状況

	日付	研修名	延参加人数	内 容
フレッシュ	4/7～9	情報研修	52人	・電子カルテの操作方法
	4/14 4/17 4/21 4/24 4/28 4/30 5/7	基礎看護技術研修（7日間）	362人	・感染対策 バイタルサイン測定 ・膀胱留置カテーテル 静脈採血と血糖測定 ・フィジカルアセスメントと酸素療法 上気道吸引の仕方 ・皮下注射と筋肉内注射 点滴静脈内注射の方法 ・看護必要度と栄養評価（NST） 安楽な体位の工夫
	5/12 5/19 5/26 6/2 6/9 6/16 6/23	心電図研修	52人	・12誘導心電図計の正しい電極装着と操作方法
	6/4 7/2 8/6 9/3 10/1 11/5	BLS 研修	52人	・気道確保、胸骨圧迫などの蘇生方法 ・AED（自動体外式除細動器）の使用方法
	5/20	新人フォロー振り返り研修	52人	・働き始めて困ったこと、SBARを用いた報告の仕方
	6/30	ME 研修	51人	・輸液ポンプと輸注ポンプの取り扱い
	7/8	消防研修	68人	・院内消防設備の講義と消火用散水栓・消火器の取扱い
	7/8	入職3ヶ月フォローアップ	51人	・患者情報の整理と業務の組み立て方（グループワーク）
	8/3	医療安全	52人	・新人が起こしやすいインシデントと改善策
	9/11	輸血	52人	・血液製剤の取り扱いと輸血時の看護
	10/23-24	宿泊研修	79人	・多重課題シミュレーション、フィジカルアセスメント、KYT
	11/18	ME 研修	52人	・人工呼吸器の取り扱いと看護
	12/4	急変時対応	52人	・胸骨圧迫の仕方とAEDの操作 ・救急カート内の物品の使用方法 挿管チューブ固定方法 ・心電図装着方法と危険波形の理解
	2/8	プリセプターシップ	51人	・一年の振り返りと次年度への課題
	2/8	医療安全	同上	・チームワークを活用した医療安全対策
レベルI	5/18	救急看護〈1〉	44人	・フィジカルアセスメントと救急カート物品の使用方法 ・報告の仕方（SBAR）と急変時の記録の書き方
	6/29	受け持ち看護師の役割看護過程	40人	・受け持ち看護師の役割について ・看護過程の基本的な考え方と情報の解釈と問題の明確化
	9/14	KYT〈1〉	39人	・医療安全におけるKYT4ラウンド法の活用
	10/19	感染管理〈1〉	52人	・標準予防策と感染経路別の予防対策のエビデンス ・針刺し切創および皮膚粘膜汚染事故の実際
	11/2 12/7	災害看護〈1〉	93人	・災害の定義と種類トリアージ ・災害拠点病院の役割と災害時の対応策
	1/29	がん看護〈1〉	31人	・がん化学療法の看護と抗がん剤の作用機序

レベルⅡ	5/25 11/16	災害看護〈2〉	52人	・災害トリアージの方法と応急処置
	6/1 8/31	救急看護〈2〉	41人	・生命維持の基本とショックおよび急変時の対応
	6/22	リーダーシップ	28人	・リーダーシップに必要な能力と理論
	7/6 10/26	文献検討	40人	・文献検索方法と文献カードを使った文献検討の仕方
	7/31	看護倫理〈1〉	40人	・看護倫理の原則 ・倫理問題に対する事例検討の方法
	8/14	人材育成〈1〉	41人	・人材育成に必要な能力
	9/7	看護実践リフレクション	37人	・体験・経験した看護実践の振り返りと意味づけの明確化
	9/28	日々リーダーの役割	35人	・日々リーダーの役割とマネジメント能力
	1/8	緩和〈1〉	21人	・がん性疼痛のアセスメント ・疼痛緩和に関する薬物療法と看護師の役割
	2/22	KYT〈2〉	17人	・病棟ラウンドによる危険な環境要因の発見 ・KYT 4 ラウンド法による危険因子と危険回避対策の検討
3/4	がん看護〈2〉	10人	・がん患者の症状マネジメントと看護ケア	
レベルⅢ	5/29	日直・夜勤リーダーの役割	16人	・日直・夜勤リーダーの役割とトラブル時の対応 ・病院の医療体制と宿日直師長の役割
	6/15	災害看護〈3〉	34人	・災害時のアクションカード作成
	7/13 8/10 11/30 1/18	看護理論①～④	12人	・看護の主要概念の検討と看護観の明確化
	7/27 11/9	SWOT 分析①～②	29人	・SWOT分析の手法の理解
	8/24 1/25	研究計画書の理解①～②	12人	・研究計画書の作成方法
	9/4	看護倫理〈2〉	17人	・倫理原則を活用した倫理問題へのアプローチ
	10/2 12/14	人材育成〈2〉①～②	8人	・指導に対する考え方（指導観の明確化） ・基礎看護技術に関する指導案の作成と評価の仕方
	11/24	RCA 分析	20人	・RCA分析の実際
	2/1	感染管理〈2〉	24人	・感染症患者の管理体制と感染症曝露後の対応
	2/5	緩和〈2〉	7人	・意思決定のプロセス ・緩和ケアにおける倫理的問題とケアの実際
2/15	救急看護〈3〉	19人	・フィジカルアセスメントと急変対応の演習	
実地指導者	4/27 6/8 10/5 3/14	実地指導者研修	225人	・実地指導者の役割認識と効果的な指導 ・新人看護職員の現状と育成 ・看護技術の指導方法と評価 コーチングスキル ・メンタルサポート支援
トピックス	6/5 7/3	がん看護の基礎①、②	36人	・がん患者の心理と日常生活への看護支援 ・インフォームドコンセント時における看護師の役割とがん治療における意思決定支援
	12/21	12/21 高齢者の看護	27人	・高齢者特有の疾患をふまえた関わり方 ・高齢者の心理と家族支援

各レベル	コマ数	延べ人数
フレッシュ	20 コマ	1,078人
レベルⅠ	6 コマ	299人
レベルⅡ	12 コマ	362人
レベルⅢ	17 コマ	198人
実地指導者	4 コマ	225人
トピックス	3 コマ	63人
総合計	60 コマ	2,225人

事務局

1. 概要

本年度は、地域の中核病院として急性期医療の充実に取組み、東三河では初の非血縁者「間」骨髄採取施設及び移植診療科として、日本骨髄バンクより認定されたほか、患者の早期社会復帰をサポートするため、ダヴィンチ等を活用した内視鏡手術を拡大するなど、高度専門医療を推進した。また、医療スタッフの確保・定着を図るため、給与面での処遇改善とともに、院内保育所の保育サービスの拡大並びに看護職員育児資金貸付金制度の拡充により仕事と育児の両立を支援し、子育て世代職員の離職防止に努めるなど、診療体制の充実に努めた。さらには、これまでの取組みが評価され、平成28年度診療報酬改定において、厚生労働省より、大学病院本院に準じた診療機能を有する病院として、D P C医療機関群Ⅱ群病院（全国で140病院）の指定を受けた。

主な事業としては、がん診療連携拠点病院として、放射線治療体制の充実・強化のため、平成28年度の開設に向けた放射線治療施設等の整備を進めた。また、地域医療支援病院として、地域の医療機関と診療情報の連携機能を強化するため、平成29年度の稼働を目指し、次期病院総合情報システムの構築に着手した。

（事務局長 黒釜 直樹）

2. 活動報告

(1) 収益的收入及び支出

区分		平成 27 年度			平成 26 年度			平成 25 年度				
		金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)		
収益的 収入	医業 収益	入院収益	16,057,961,457	63.7	58.5	15,684,645,427	65.3	59.2	15,391,150,508	65.8	61.8	
		外来収益	8,034,963,994	31.8	29.3	7,285,520,374	30.3	27.5	6,900,392,401	29.5	27.7	
		その他医業収益	1,127,171,691	4.5	4.1	1,051,475,208	4.4	4.0	1,091,894,432	4.7	4.4	
		小計	25,220,097,142	100.0	91.9	24,021,641,009	100.0	90.7	23,383,437,341	100.0	93.9	
	医業外 収益	受取利息	3,300,163	0.0	0.0	4,482,915	0.0	0.0	5,084,794	0.0	0.0	
		他会計負担金	1,097,885,881	4.3	4.0	1,189,897,907	4.9	4.5	1,230,044,468	5.3	4.9	
		国庫補助金	19,398,000	0.1	0.1	22,448,000	0.1	0.1	28,091,000	0.1	0.1	
		県補助金	44,604,000	0.2	0.2	40,830,000	0.2	0.2	41,480,000	0.2	0.2	
		長期前受金戻入	668,203,777	2.6	2.4	752,884,253	3.1	2.8	0	-	-	
		その他医業外収益	219,705,882	0.9	0.8	253,790,619	1.1	1.0	230,349,946	1.0	0.9	
		小計	2,053,097,703	8.1	7.5	2,264,333,694	9.4	8.6	1,535,050,208	6.6	6.1	
	特別 利益	長期前受金戻入	181,525,166	0.8	0.6	192,162,087	0.8	0.7	0	-	-	
		小計	181,525,166	0.8	0.6	192,162,087	0.8	0.7	0	-	-	
	計		27,454,720,011	108.9	100.0	26,478,136,790	110.2	100.0	24,918,487,549	106.6	100.0	
	収益的 支出	医業 費用	給与費	11,346,289,270	45.0	43.8	10,770,894,417	44.8	35.6	10,858,435,576	46.4	44.6
			材料費	7,958,684,013	31.6	30.7	6,996,697,339	29.1	23.1	6,879,832,846	29.4	28.3
			経費	3,438,731,467	13.6	13.3	3,517,946,020	14.7	11.6	3,768,428,320	16.1	15.5
			減価償却費	1,683,773,810	6.7	6.5	1,928,125,102	8.0	6.4	1,433,275,474	6.1	5.9
			資産減耗費	139,893,374	0.5	0.6	196,502,593	0.8	0.7	77,405,373	0.4	0.3
研究研修費			104,626,103	0.4	0.4	92,339,231	0.4	0.3	84,960,727	0.4	0.3	
小計			24,671,998,037	97.8	95.3	23,502,504,702	97.8	77.7	23,102,338,316	98.8	94.9	
医業外 費用		支払利息	548,797,661	2.2	2.1	593,405,695	2.5	2.0	636,620,789	2.7	2.6	
		繰延資産償却	18,784,307	0.1	0.1	191,189,139	0.8	0.6	248,839,867	1.1	1.0	
		保育費	35,009,287	0.1	0.1	44,825,623	0.2	0.2	45,667,360	0.2	0.2	
		長期前払消費税償却	33,919,418	0.1	0.1	46,761,262	0.2	0.2	0	-	-	
		貸倒引当金繰入額	22,751,900	0.1	0.1	8,529,666	0.0	0.0	0	-	-	
		雑損失	580,174,888	2.3	2.2	375,558,105	1.5	1.2	317,708,653	1.3	1.3	
小計		1,239,437,461	4.9	4.7	1,260,269,490	5.2	4.2	1,248,836,669	5.3	5.1		
特別 損失		引当金繰入額	0	-	-	5,466,525,650	22.8	18.1	0	-	-	
		小計	0	-	-	5,466,525,650	22.8	18.1	0	-	-	
計		25,911,435,498	102.7	100.0	30,229,299,842	125.8	100.0	24,351,174,985	104.1	100.0		
当年度純利益(△純損失)		1,543,284,513	-	-	△3,751,163,052	-	-	567,312,564	-	-		
前年度繰越利益剰余金 (△繰越欠損金)		1,022,352,525	-	-	△7,517,133,941	-	-	△8,084,446,505	-	-		
その他未処理欠損金変動額		0	-	-	9,442,723,599	-	-	0	-	-		
当年度未処分利益剰余金 (△未処理欠損金)		2,565,637,038	-	-	△1,825,573,394	-	-	△7,517,133,941	-	-		

(2) 行為別入院収益・外来収益

区 分		平成 27 年 度		
		金 額 (円)	前年度比(%)	構成比(%)
入 院 収 益	投 薬 収 入	126,228,146	100.2	0.8
	注 射 収 入	397,986,112	127.3	2.5
	処 置 及 び 手 術 収 入	4,333,327,331	102.2	27.0
	検 査 収 入	220,016,272	104.4	1.4
	放 射 線 収 入	47,749,324	102.5	0.3
	入 院 料	10,195,353,341	101.5	63.5
	給 食 収 入	376,064,600	99.5	2.3
	そ の 他	361,236,331	109.2	2.2
	計	16,057,961,457	102.4	100.0
外 来 収 益	初 診 料	166,899,536	95.0	2.1
	再 診 料	806,251,169	102.7	10.0
	投 薬 収 入	976,843,582	187.0	12.2
	注 射 収 入	2,702,509,635	111.6	33.6
	処 置 及 び 手 術 収 入	370,643,641	87.1	4.6
	検 査 収 入	1,747,360,326	103.1	21.8
	放 射 線 収 入	1,037,622,641	100.6	12.9
	そ の 他	226,833,464	98.8	2.8
	計	8,034,963,994	110.3	100.0

(3) 資本の収入及び支出

(円)

区 分		平成27年度	増 減	平成26年度	増 減	平成25年度	増 減
資本 の 収入	企 業 債	2,062,000,000	2,062,000,000	-	△90,000,000	90,000,000	△150,000,000
	他 会 計 出 資 金	-	-	-	△88,028,375	88,028,375	△11,971,625
	他 会 計 負 担 金	916,501,160	△43,757,835	960,258,995	△26,481,755	986,740,750	41,055,801
	投 資 回 収 金	2,687,500	△1,342,634	4,030,134	4,006,134	24,000	△1,476,000
	県 補 助 金	-	△4,132,000	4,132,000	△262,197,000	266,329,000	266,329,000
	固 定 資 産 売 却 代 金	72,736,110	72,736,110	-	-	-	-
	損益勘定留保資金	1,345,645,402	△249,971,504	1,595,616,906	△326,242,807	1,921,859,713	530,769,640
	消費税及び地方消費税 資本の収支調整額	8,538,121	5,934,563	2,603,558	△345,395	2,948,953	792,721
	計	4,408,108,293	1,841,466,700	2,566,641,593	△789,289,198	3,355,930,791	675,499,537
資本 の 支出	施 設 改 良 費	2,151,553,600	2,050,513,600	101,040,000	△325,279,350	426,319,350	90,321,900
	資 産 購 入 費	796,221,586	△114,854,816	911,076,402	△405,324,705	1,316,401,107	492,939,967
	長 期 貸 付 金	29,551,400	7,573,400	21,978,000	8,007,000	13,971,000	534,000
	企 業 債 償 還 金	1,430,781,707	△101,765,484	1,532,547,191	△66,692,143	1,599,239,334	91,703,670
	計	4,408,108,293	1,841,466,700	2,566,641,593	△789,289,198	3,355,930,791	675,499,537

(4) 貸借対照表 (平成28年3月31日)

資 産 の 部

(単位：円)

1 固定資産

(1) 有形固定資産

イ	土地		6,385,451,623	
ロ	建物	16,755,682,312		
	減価償却累計額	<u>△ 7,173,870,138</u>	9,581,812,174	
ハ	附属設備	14,504,270,263		
	減価償却累計額	<u>△12,335,837,325</u>	2,168,432,938	
ニ	構築物	1,591,579,450		
	減価償却累計額	<u>△ 739,291,785</u>	852,287,665	
ホ	器械備品	9,049,135,231		
	減価償却累計額	<u>△ 6,016,062,640</u>	3,033,072,591	
ヘ	車両	25,864,540		
	減価償却累計額	<u>△ 22,097,204</u>	3,767,336	
ト	放射性同位元素	12,747,000		
	減価償却累計額	<u>△ 0</u>	12,747,000	
チ	リース資産	148,673,486		
	減価償却累計額	<u>△ 56,685,454</u>	91,988,032	
リ	建設仮勘定		<u>1,981,509,259</u>	
	有形固定資産合計			24,111,068,618

(2) 無形固定資産

イ	電話加入権		7,041,831	
ロ	ソフトウェア		22,980,000	
ハ	ソフトウェア仮勘定		45,590,000	
ニ	その他無形固定資産		<u>5,226,384</u>	
	無形固定資産合計			80,838,215

(3) 投資その他の資産

イ	長期貸付金	58,342,400		
	貸倒引当金	<u>△ 32,694,400</u>	25,648,000	
ロ	出資金		500,000	
ハ	長期前払消費税		1,782,827	
ニ	破産更生債権等	93,448,257		
	貸倒引当金	<u>△ 93,448,257</u>	<u>0</u>	
	投資その他の資産合計			<u>27,930,827</u>
	固定資産合計			24,219,837,660

2 流動資産

(1) 現金預金		6,675,176,526	
(2) 未収金	4,521,814,829		
貸倒引当金	<u>△ 19,346,198</u>	4,502,468,631	
(3) 貯蔵品		37,214,705	
(4) 前払金		<u>1,613,835,161</u>	
流動資産合計			<u>12,828,695,023</u>
資産合計			<u>37,048,532,683</u>

負債の部

3 固定負債

(1) 企業債			
イ 建設改良費等の財源に 充てるための企業債	<u>15,356,825,354</u>		
企業債合計		15,356,825,354	
(2) リース債務		65,366,788	
(3) 引当金			
イ 退職給付引当金	<u>4,337,269,342</u>		
引当金合計		<u>4,337,269,342</u>	
固定負債合計			19,759,461,484

4 流動負債

(1) 企業債			
イ 建設改良費等の財源に 充てるための企業債	<u>1,476,241,208</u>		
企業債合計		1,476,241,208	
(2) リース債務		30,201,468	
(3) 引当金			
イ 賞与引当金	505,203,918		
ロ 法定福利費引当金	<u>89,008,883</u>		
引当金合計		594,212,801	
(4) 未払金		3,323,855,462	
(5) 未払消費税及び 地方消費税		4,789,000	
(6) 預り金		<u>115,262,655</u>	
流動負債合計			5,544,562,594

5 繰延収益

(1) 長期前受金

イ 受贈財産評価額	58,941,445		
収益化累計額	<u>△ 51,117,044</u>	7,824,401	
ロ 補助金	1,236,209,651		
収益化累計額	<u>△ 754,660,474</u>	481,549,177	
ハ 負担金	12,869,925,423		
収益化累計額	<u>△11,496,921,533</u>	1,373,003,890	
ニ 寄附金	3,000,000		
収益化累計額	<u>△ 2,850,000</u>	150,000	
長期前受金合計			<u>1,862,527,468</u>
繰延収益合計			<u>1,862,527,468</u>
負債合計			<u>27,166,551,546</u>

資 本 の 部

6 資本金			6,973,942,341
7 剰余金			
(1) 資本剰余金			
イ 受贈財産評価額	246,164,805		
ロ 負担金	<u>96,236,953</u>		
資本剰余金合計		342,401,758	
(2) 利益剰余金			
イ 当年度未処分利益剰余金	<u>2,565,637,038</u>		
利益剰余金合計		<u>2,565,637,038</u>	
剰余金合計			<u>2,908,038,796</u>
資本合計			<u>9,881,981,137</u>
負債資本合計			<u>37,048,532,683</u>

(5) 主な経営財務分析

区 分	算 式	平成27年度	平成26年度	平成25年度
1. 平均在院日数 (施設基準上の算定) (日)	$\frac{\text{在院患者数}}{1/2(\text{新入院患者数} + \text{退院患者数})}$	12.7	13.3	13.0
2. 病床利用率 (一般病床) (%)	$\frac{\text{入院患者数}}{\text{許可病床数}} \times 100$	87.9	88.0	89.1
3. 入院患者1人1日当たり 収入額 (円)	$\frac{\text{入院収益額}}{\text{入院患者延数}}$	62,064	60,677	57,974
4. 外来患者1人1日当たり 収入額 (円)	$\frac{\text{外来収益額}}{\text{外来患者延数}}$	16,577	15,042	14,242
5. 剖 検 率 (%)	$\frac{\text{解剖数}}{\text{院内死亡患者数}} \times 100$	4.5	2.9	3.5
6. 100床当たり職員数 (人)	$\frac{\text{職員数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	134.8	131.7	128.6
7. 100床当たり医師数 (人)	$\frac{\text{医師数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	21.6	22.0	20.1
8. 100床当たり看護師数 (人)	$\frac{\text{看護師(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	84.9	82.7	82.8
9. 100床当たり器械備品額 (年度末) (千円)	$\frac{\text{器械備品額(減価償却累計額控除額)}}{\text{許可病床数}} \times 100$	369,887	394,117	453,972
10. 人 件 費 率 (%)	$\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	45.0	44.8	46.4
11. 流 動 比 率 (%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	231.4	250.6	386.4
12. 総 資 本 利 益 率 (%)	$\frac{\text{当年度純利益}}{1/2(\text{期首総資産} + \text{期末総資産})} \times 100$	4.4	△ 10.8	1.6

ドクタークラーク

1. 入院証明書作成補助業務（担当者 8人）

入院証明書の作成補助業務については、委託業者からドクタークラークへ移行が平成26年度で完了し、毎月600件以上の作成補助をしている。

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院証明書	636	645	715	726	651	665	741	664	641	624	720	750	8,178

2. その他書類作成補助業務（担当者 5人）

平成27年7月より難病医療制度の対象疾病（指定難病）が110疾病から306疾病に拡大された。これに伴い、診断書（臨床調査個人票）の書式が変更したため、書類作成に時間を要した。

新規業務は、結核定期病状調査報告書の作成補助を開始した。

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特定難病（新規・更新） 臨床調査個人票	22	294	852	172	71	77	28	23	20	18	19	18	1,614
介護保険主治医意見書	141	117	136	132	140	125	128	113	133	168	136	140	1,609
自賠責保険診断書	169	122	170	158	143	129	162	165	130	170	137	155	1,810
傷病手当金請求書	95	107	118	132	108	114	144	116	124	115	101	141	1,415
労災休業給付申請書	32	28	30	11	29	32	25	39	34	34	41	29	364
生活保護医療要否意見書	65	27	117	79	90	59	76	78	74	77	81	69	892
B型C型肝炎患者医療 給付事業受給者票認定 に係わる診断書	21	17	20	13	14	20	40	16	25	27	24	21	258
肝疾患インターフェロン 治療効果判定報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出産一時金支給申請書	4	2	2	1	4	2	4	2	0	2	2	2	27
出産手当金支給申請書	2	3	6	6	2	4	5	3	7	7	7	4	56
訪問看護指示書	26	20	21	41	27	31	24	26	20	24	44	25	329
障害認定医師意見書	10	6	8	7	15	11	13	6	7	16	2	4	105
自立支援	10	9	3	7	6	5	1	8	2	3	6	6	66
結核定期病状調査報告書	0	9	19	0	10	9	7	11	15	0	16	1	97
合計	597	761	1,502	759	659	618	657	606	591	661	616	615	8,642

3. 他院紹介・学会用CD作成業務（担当者 3人）

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転院・紹介用	193	174	202	176	180	175	226	183	223	194	192	230	2,348
学会・研究用	18	45	8	20	9	17	18	24	29	50	20	21	279
合計	211	219	210	196	189	192	244	207	252	244	212	251	2,627

4. 薬品別市販後調査票作成業務 (担当者 2人)

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
調査票記入数	20	18	27	41	27	37	27	20	36	27	36	38	354
総提出数	27	17	34	41	23	27	25	26	23	33	42	43	361

5. 症例登録・抽出業務 (担当者 5人 ※3・4担当者兼務)

(件)

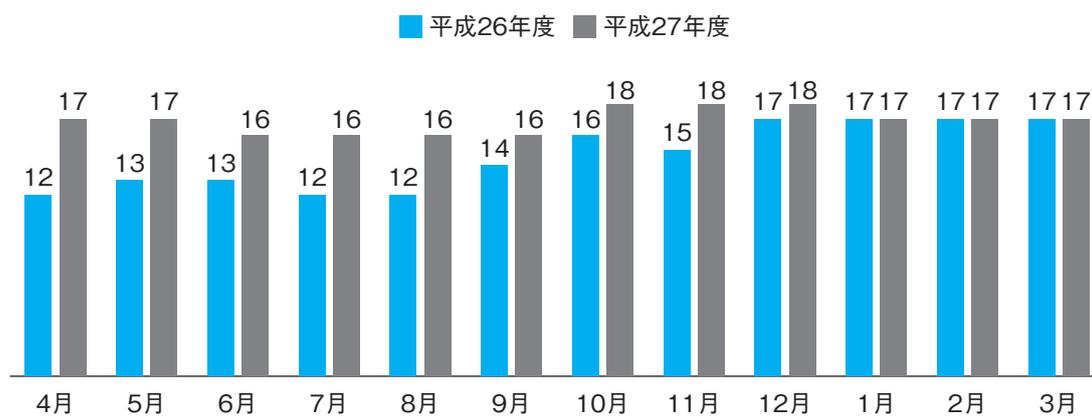
業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
DWHを使用したデータ抽出・作成	4	9	10	10	10	7	19	10	9	14	9	9	120
血液学会疾患登録(血液・腫瘍内科)	84	0	7	0	0	0	78	0	4	0	0	26	199
血液学会疾患登録(小児科)	6	4	4	6	2	2	0	0	0	3	0	2	29
NCD症例登録(一般外科)	125	119	147	114	172	130	151	153	129	112	135	126	1,613
NCD症例登録(心臓外科・血管外科)	2	15	1	2	7	0	1	31	8	9	0	6	82
NCD症例登録(脳神経外科)	26	37	29	47	23	36	20	27	40	45	29	54	413
NCD症例登録(循環器内科)	24	21	15	26	21	13	19	22	19	23	13	17	233
NCD症例登録(移植外科)	3	0	0	21	0	4	18	1	0	12	6	0	65
産科データ登録	0	84	82	103	86	97	176	167	0	75	73	83	1,026
合計	274	289	295	329	321	289	482	411	209	293	265	323	3,780

6. 各診療科の患者データベース作成業務 (担当者 5人 ※3・4担当者兼務)

歯科口腔外科、リウマチ科、肛門外科、脊椎外科、呼吸器外科・心臓外科・血管外科、呼吸器内科、小児科(新生児)、消化器内科、泌尿器科、産婦人科、整形外科、放射線科 計13診療科

7. ドクタークラーク従事者数

平成26年度に比べ、従事者数は17人前後に定着しており、10月から1人産休復帰した。



8. 院外研修実績

医師事務作業補助者コース（日本病院会）に5人受講

「NPO 法人日本医師事務作業補助研究会」に参加

VI 研究・業績

VI 研究・業績

【国際学会】

(1) リウマチ科 医員 磯野 正晶

Annual European Congress of Rheumatology (EULAR 2015) in Rome

INFLUENCE OF DIABETES MELLITUS ON DRUG SURVIVAL AND TREATMENT EFFICACY OF BIOLOGICS THERAPY IN RHEUMATOID ARTHRITIS PATIENTS

M. Isono^{1,*}, Y.Hirano¹, S.Hirabara¹

¹Rheumatology, Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, Japan

Background: Biologics (BIO) therapy has become general treatment in rheumatoid arthritis (RA) patients. One goal of BIO therapy is to stop BIO therapy after reaching targets to treat (Bio-free), another goal is to continue BIO therapy and sustain targets to treat. Some patients drop out from the BIO therapy for several reasons. In previous study, we found patient with diabetes mellitus (DM) might have low drug survival on BIO therapy.

Objectives: The purpose of this retrospective study was to investigate the influence of DM on drug survival and treatment efficacy of BIO therapy in RA patients.

Methods: A retrospective single-center study was conducted in patients with RA who started any of BIO (infliximab, etanercept, adalimumab, tocilizumab, abatacept, golimumab) between 2003 and 2013 in our institute. Patients were divided into two groups: diabetics (group D) and non-diabetics (group N). Baseline characteristics, BIO therapy continuation rate, and reasons for discontinuation were analyzed and compared with two groups using Chi squared test, Mann-Whitney U test, Wilcoxon signed-rank test and log-rank test. Switching one BIO to another was defined as continuation of BIO therapy. Treatment efficacy and quality of life (QOL) were assessed and compared in both groups at baseline and the last observation day, using the DAS28-CRP, SDAI, and the modified health assessment questionnaire (mHAQ).

Results: A total of 245 patients were studied (30 patients for group D / 215 patients for group N). RA duration, methotrexate (MTX) dose, prednisolone (PSL) dose, DAS28-CRP, SDAI, and mHAQ were similar between two groups at baseline (13.5 ± 14.0 years vs. 10.8 ± 10.3 years, 9.4 ± 2.6 mg/week vs. 8.5 ± 2.6 mg/week, 5.1 ± 1.4 mg/day vs. 5.0 ± 1.5 mg/day, 5.0 ± 0.97 vs. 4.7 ± 1.2 , 27.9 ± 11.1 vs. 25.4 ± 13.0 , 1.0 ± 0.7 vs. 0.8 ± 0.7 , for group D and group N, respectively; $p > 0.05$ for all). We found significant difference between group D and group N at baseline in mean age (65.4 ± 6.8 vs. 56.7 ± 13.1 $p < 0.01$), %female (63.3% vs. 85.5% $p = 0.03$), RF positive rate (93.3% vs. 77.2% $p = 0.04$), estimated glomerular filtration rate (77.6 ml/min/1.73 m² vs. 92.9 ml/min/1.73 m² $p < 0.01$), PSL-concomitant rate (83.3% vs. 52.5% $p < 0.01$), and MTX-concomitant rate (60.0% vs. 85.6% $p < 0.01$). Drug survival of BIO therapy was significantly shorter in group D than in group N (Fig. 1). Continuation rate after 1, 3, 5 years was 76.4%, 68.9%, 41.3% for group D, and 90.5%, 83.6%, 75.2% for group N ($p < 0.01$). The most common reason for quitting BIO therapy was infection in both groups. The rate of infection leading to discontinuation of BIO therapy was significantly higher in group D than in group N (16.7% vs. 5.6% $p = 0.03$). Treatment efficacy and QOL at the last observation were significantly worse in group D than in group N (DAS28-CRP 3.07 ± 1.49 vs. 2.05 ± 0.97 , SDAI 12.7 ± 12.7 vs. 5.64 ± 6.23 and

mHAQ 0.69 ± 0.52 vs. 0.46 ± 0.59 , for group D and group N, respectively; $p < 0.01$ for all).

Conclusions: Our data suggest that diabetic RA patients have high risk of infection leading to discontinuation of BIO therapy. The short drug survival of BIO therapy may be the reason for the poor treatment efficacy at the last observation in diabetic RA patients compared with that of non-diabetic RA patients. We conclude that DM is one of the considerable factors when starting the BIO therapy in RA patients.

Annual European Congress of Rheumatology (EULAR 2015) in Rome

ANALYSIS OF TREATMENT RETENTION RATE OF BIOLOGICS THERAPY IN PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS - A SINGLE CENTER COHORT STUDY -

Y.Hirano^{1,1,*},S.Hirabara¹, M.Isono¹,T.Kojima², N.Ishiguro²

¹Rheumatology, Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, ²Orthopaedic Surgery and Rheumatology, Nagoya University School of Medicine, Nagoya, Japan

Background: Biologics (Bio) therapy has become a standard therapy in the treatment of rheumatoid arthritis (RA) and long-term outcomes can be evaluated recently. Although one of the desirable treatment strategy is to stop Bio therapy after reaching targets to treat such as remission or low disease activity (Bio-free), other desirable treatment strategy is to continue Bio therapy and to sustain targets to treat. Several studies showed it difficult to continue Bio-free for a long time, so it is a practical strategy to continue Bio therapy in clinical setting.

Objectives: This observational cohort study investigated the treatment retention rate of Bio therapy and the predictors of its continuation in patients with RA.

Methods: 254 RA patients who initiated any of biologic agents (infliximab, etanercept, adalimumab, tocilizumab, abatacept, golimumab) as first Bio in our institute from 2003 to 2013 were included in this study. Switching from one Bio agent to another was defined as continuation of Bio therapy in this study. Patients' characteristics and treatment retention rate were investigated. The outcomes at last observation in both the Bio-continued and the Bio-stopped were compared with each other. Bio-free due to remission and stopping Bio therapy related to pregnancy were assigned to the Bio-continued. The predictors for continuation of the Bio therapy were also investigated.

Results: Baseline characteristics was as follows. % female was 82.7%. Mean age was 57.8 years old. Mean RA duration was 11.3 years. % methotrexate (MTX) concomitant was 81.5% and mean used dose was 8.5mg/weeks (MTX dose was restricted up to 8mg/weeks until 2011 in Japan and 16mg/w after 2011). %prednisolone (PSL) concomitant was 56.3%. % Bio monotherapy was 13.6%. Mean baseline DAS28-CRP and SDAI was 4.74 and 25.8, respectively. % high disease activity measured using DAS28 and SDAI at baseline was 41.7% and 46.3%, respectively. Baseline disease activity were getting lower year by year. Treatment continuation rates using Kaplan-Meier method were 88.4% at 1 year, 82.1% at 3 years, 74.4% at 5 years and 70.4% at 7 years. Reasons for stopping Bio therapy were infection at first, hope of patients or absent to hospital at second and worsened comorbidities at third. Lower disease activity and more remission rates were observed in the Bio- continued compared with the Bio-stopped. Predictors of continuation of Bio therapy were shorter RA duration, fewer concomitant prednisolone, more concomitant MTX, lower disease activity, good renal function, fewer lung disease and glucose intolerance in univariate analysis. Concomitant MTX, heavy body weight and glucose tolerance (defined as patients with abnormal HbA1c or treated with drugs for diabetes mellitus) was detected as predictors of continuation of Bio therapy in multivariate analysis.

Conclusions: Our cohort study showed that long-term continuation rate of Bio therapy was about 60-70% in 7-8 years. Infection was the most reasons for stopping Bio therapy. Baseline characteristics of RA patients who initiated Bio therapy were one of the important predictors for continuation of Bio. Comorbidities were one of the important influencers on treatment retention rate of Bio therapy and glucose intolerance was the most important influencer in this study.

(3) リウマチ科 部長 平野 裕司

Annual European Congress of Rheumatology (EULAR 2015) in Rome

PREDICTORS OF EFFECTIVENESS IN GOLIMUMAB TREATMENT AND EFFICACY OF DOSEESCALATION OF GOLIMUMAB IN PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS -A MULTICENTER REGISTRY STUDY TBCRY.

Y.Hirano^{1,*}, M.Hayashi², S. Hirabara¹, N.Takahashi³, Y.Kanayama⁴, A.Kaneko⁵, T.Kojima³, N. Ishiguro³
on behalf of Tsurumai Biologics Communication Registry (TBCR)

¹Rheumatology, Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, ²Orthopaedic Surgery, Nagano Red Cross Hospital, Nagano, ³Orthopaedic Surgery and Rheumatology, Nagoya University School of Medicine, Nagoya, ⁴Rheumatology, Toyota Kosei Hospital, Toyota, ⁵Orthopaedic Surgery and Rheumatology, Nagoya Medical Center, Nagoya, Japan

Background: Golimumab (GLM) is a human anti-tumor necrosis factor (TNF) alpha monoclonal antibody and shown to be effective in the treatment of rheumatoid arthritis (RA). Although early prediction of the efficacy of GLM is important for early modification of treatment, the information is lacking. Although one of the modifications in the GLM treatment is dose-escalation of GLM from 50mg to 100mg every 4 week, the information of dose-escalation is also lacking in the clinical setting.

Objectives: This retrospective observational study investigated (1) the efficacy and the drug retention rate of GLM in Japanese clinical setting, (2) the predictors of efficacy of GLM treatment and (3) the efficacy of doseescalation of GLM due to lack of efficacy using the multicenter registry data in Japan (Tsurumai Biologics Communication registry: TBCR).

Methods: 111 RA patients treated with GLM were used in this study. Patients' characteristics, time course of disease activity and drug retention rate using Kaplan-Meier method were investigated. Good outcome group (GOgroup: DAS28-CRP<2.6 at 52 weeks) and not-good outcome group (NGOgroup) were compared with each other with respect to baseline characteristics, baseline disease activity and disease activity at 4 weeks. The dose-escalation cases (n=14) were compared with the cases treated with GLM 50mg (n=25) with respect to patients' characteristics and the efficacy of dose-escalation was also evaluated.

Results: 93 female and 18 male were included. Mean age was 61.9 years old. Mean RA duration was 158.4 months. MTX usage was 73.0%. PSL usage was 54.3%. Bio-naive was 53.2%. Mean DAS28-CRP and mean SDAI at 0w-4w-12w-24w-52w were 3.99-3.24-2.92-2.81-2.72 and 20.6-14.0-11.0-10.2-9.5, respectively. Both DAS28-CRP and SDAI were significantly decreased after 4 week. Drug retention rate of GLM was 79.2% at 1 year and 77.1% at 2 year. Reasons for stopping GLM were lack of efficacy in 6 cases, adverse event in 5 cases and others in 4 cases. Age, MMP-3 at 0w, TJC at 4w, ESR at 4w, MMP-3 at 4w, DAS28-CRP at 4w and SDAI at 4w in GOgroup were significantly low compared with those in NGOgroup. AUC of MMP-3 at 0w, TJC at 4w and DAS28-CRP at 4w were over 0.7 using ROC analysis and cut-off values were 133.3ng/ml, 3 and 3.09, respectively. MMP-3 at

initiation of GLM treatment in the dose-escalation cases was significantly high compared with that in GLM50mg cases (253.5 vs. 9.8, $p=0.043$). Cut-off value of MMP-3 at 0w for prediction of dose-escalation was 99.7ng/ml using ROC analysis (AUC=0.714). DAS28-CRP and CRP were improved after dose escalation of GLM in dose-escalation cases.

Conclusions: GLM was effective in RA patients in Japanese clinical setting. Effectiveness at 52w could be predicted using baseline characteristics and early response in GLM treatment. Serum MMP-3 was one of the predictors for effectiveness at 52w and dose-escalation. In conclusion, RA patients with high MMP-3 and RA patients without good early response at 4 week may be necessary to be treated with GLM 100mg in the early time of GLM treatment.

(4) リウマチ科 部長 平野 裕司

Annual European Congress of Rheumatology (EULAR 2015) in Rome

DAILY TERIPARATIDE TREATMENT FOR TWO YEARS ON OSTEOPOROSIS IN PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS –IMPACT OF CONCOMITANT DRUGS(PREDNISOLONE AND BIOLOGICS)ON EFFECTS OF TERIPARATIDE -

Y. Hirano¹, S. Hirabara¹, M. Isono¹, Y. Oishi¹, T. Kojima², N. Ishiguro²

¹Rheumatology, Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, ¹Orthopaedic Surgery and Rheumatology, Nagoya University School of Medicine, Nagoya, Japan

Background: Although medication of rheumatoid arthritis (RA) has been improved by early intensive treatment using MTX and biological agents (BIO) for decades, treatment of concomitant disease in RA patients, such as osteoporosis (OP), will be more important to improve activity of daily living of RA patients.

We reported two-year outcome of daily teriparatide (TPTD) on OP in RA patients in EULAR 2014. TPTD has a strong effect on bone metabolism and increases bone mineral density (BMD). Although prednisolone (PSL) and BIO that are often used in RA patients also have strong effects on bone metabolism, the interaction between TPTD and these drugs have not well-understood.

Objectives: This prospective study investigated the impacts of PSL and BIO on the efficacy of TPTD on OP in RA patients.

Methods: 50 females with both OP and RA were included in this study. 2 years had passed after initiation of TPTD. At first, all patients were divided into two groups, which were PSL-concomitant (PG) and Non-PSL-concomitant (NPG). Patients' characteristics, BMD in lumbar spine (LS) and total hip (TH) and change of bone turnover markers (BTMs: BAP, PINP, NTX, TRACP-5b) were compared between two groups. Next, all patients were divided into two groups, which were BIO-concomitant (BG) and Non-BIO-concomitant (NBG).

Change of BMD and BTMs were also compared between two groups.

Results: [Baseline patients' characteristics] Mean age was 71.0 years old. Mean RA duration was 19 years.

Mean DAS28-CRP and mHAQ were 2.73 and 1.147, respectively. Mean FRAX was 37.4%. [PG (n=35) vs. NPG (n=15)] RA duration in PG was significantly long compared with that in NPG. mHAQ in PG was significantly high compared with that in NPG. Although LS-BMD and TH-BMD in both groups has significantly increased after initiation of TPTD, %increase of BMD in PG tended to be lower than that in NG and there was a significant difference in %increase of TH-BMD at 6 months between in PG and in NPG (-0.5% vs. 3.3%). Dose dependency of PSL in TH-BMD was found.

Although BTMs in PG tended to be lower than that in NPG, the differences were not significant. [BG (n=18) vs. NBG (n=32)] Although LS-BMD in BG and NBG and TH-BMD in NBG have significantly increased after the initiation of TPTD, TH-BMD in BG has not. %increases in LS-BMD in BG at 6 months and 18 months were significantly low compared with that in NBG. %increase in TH-BMD in BG at 24 months was significantly low compared with that in NBG. In contrast, % increase of four BTMs in BG was significantly high compared with that in NBG.

Conclusions: This study suggested both PSL and BIO modified the effects of TPTD on bone metabolism. %increase of BMD in RA patients taking PSL tended to be low. So, oral PSL should be tapered during TPTD treatment. It was suggested that BIO use decreased the effect of TPTD with respect to %increase in BMD. In contrast, % increase of BTMs in BG was high compared with that in NBG. This is, what is called, the paradoxical response between increase of BMD and BTMs in RA patients treated both BIO and TPTD.

References: 1) Y. Hirano et al. EFFICACY OF DAILY TERIPARATIDE FOR TWO YEARS ON OSTEOPOROSIS IN PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS-IS IT APPROPRIATE TO COMBINE DAILY TERIPARATIDE AND BIOLOGICAL AGENTS?~. Ann Rheum Dis 2014; 73(Suppl2)

(5) リウマチ科 部長 平野 裕司

American Society of Bone and Mineral Research 2015 (ASBMR 2015) in Seattle

Comparative Study between Denosumab and Minodronate with Eldecalcitol as the Treatment after 2-Year Daily Teriparatide in Osteoporosis in Patients with Rheumatoid Arthritis

Abstract

Comparative Study between Denosumab and Minodronate with Eldecalcitol as the Treatment after 2-Year Daily Teriparatide in Osteoporosis in Patients with Rheumatoid Arthritis

Author(s)

Yuji Hirano, Shinya Hirabara, Masaaki Isono

Background: Although daily teriparatide (dTPTD) treatment greatly increases bone mineral density(BMD),increase of BMD is not enough after 2-year dTPTD treatment in some patients with osteoporosis(OP). It is Known that no treatment after dTPTD treatment results in decrease of BMD. Although effective treatment strategy after 2-year dTPTD treatment is necessary, it is controversial This Prospective study compared minodronate with eldecalcitol (MIN/ELD) and denosumab (DMB) as the treatment after 2-year dTPTD treatment in OP in patients with rheumatoid arthritis (RA-OP).

Methods: Female RA-OP patients treated with MIN/ELD (n=21) or DMB(n=10) after dTPTD were used. Patients' characteristics, change of BMD (lumber spine and total hip: LSBMD and THBMD) measured by DEXA at every 6 month from the initiation of dTPTD and change of bone turnover markers (BTM) (P1NP and TRACP-5b) at every 6 month from the initiation of dTPTD were compared between two group. DMB (60mg) was injected every 6month with prescribing of native vitamin D and calcium. MIN (50mg) was administered every 4 weeks and ELD (0.75 μ g) was administered every day. MIN is a bisphosphonate drug and ELD is activated vitamin D.

Results: Patients' characteristics (MIN/ELD: DMB) : Mean age (70.2:70.8). Body mass index (20.8: 21.3). FRAX (39.6%: 33.8%). PSL use (71.4%: 70.0%). No significant differences in patients' characteristics were observed between two groups, %increase of LSBMD (dTPTD 6m/12m/18m/24m/AfterTPTD6m): 7.0/11.7/12.3/12.0/16.8 in MIN/ELD and 10.3/13.7/15.2/16/1/18.4 in DMB. % increase of LSBMD after dTPTD treatment was 4.4% in MIN/ELD and 1.8% in DMB, respectiverly. No significant differences were observed at all time-points. % increase of THBMD: 1.2/3.1/4.3/5.9 in MIN/ELD and 1.5/4.4/4.7/4.7/6.5 in DMB. % increase of THBMD after dTPTD treatment was 0.6% in MIN/ELD and 1.1% in DMB, respectively.NO significant difference were observed at all time-points. % change of BTM was expressed as the value at the initiation of dTPTD was 100. P1NP:100/413.9/355.7/258.5/219.2/44.5 in MIN/ELD. 100/407.4/380.5/272.8/228.6/56.9 in DMB.

TRACP: 100/14/.9/157.4/139.8/144.7/51.2 in MIN/ELD. 100/188.0/209.7/178.5/178.6/91.9 in DMB.

There were no significant differences in BTM between two groups.

Conclusions: This study shows that short-term efficacy of MIN/ELD equals to that of DMB as the treatment option after -year TPTD in RA-OP. Long-term results are necessary in the future.

(6) リウマチ科 部長 平野 裕司

American Society of Bone and Mineral Research 2015 (ASBMR 2015) in Seattle

The Short-Term Efficacy of Denosumab in Osteoporosis in Patients with Rheumatoid Arthritis from a Japanese Multicenter Registry

Abstract

The Short - Term Efficacy of Denosumab in Osteoporosis in Patients with Rheumatoid Arthritis from a Japanese Multicenter Registry

Author(s)

Yuji Hirano, Yasuhide Kanayama, Shinya Hirabara, Syuji Asai, Nobunori Takahashi, Takayasu Ito, Naoki Ishiguro, Toshihisa Kojima

Purpose: Osteoporosis (OP) is one of the important comorbidities in rheumatoid arthritis (RA). Pathogenesis of RA-OP is composed from multiple factors, such as hyper cytokine, concomitant drugs and disuse. Although denosumab (DMB), a fully - human anti-RANKL antibody, is expected to be a good treatment for RA-OP, clinical data form real-world is limited. This study investigated the effects of DMB on RA-OP from a multicenter registry data in Japan (TBCR-BONE).

Methods: 53 RA-OP cases were included. (1) %increase of bone mineral density (BMD) in lumbar spine (LSBMD) and total hip (THBMD) at 6month, (2)%change of bone turnover markers(P1NP and TRACP-5b)at 6m,(3)correlation between change of BMD and change of BTM,(4)results until 12m(n =16), (5) the influence of concomitant use of biological agents (BIO) for the treatment of RA and (6) adverse events were investigated.

Results: Patients' characteristics: 50 females and 3 malts. Mean age: 69.7 years old. RA duration: 14.2 years. Mean body mass index: 19.8. FRAX: 27.1%. Prednisolone use: 45.3% (mean doses: 4.3mg/day). BIO for the treatment of RA was concomitant in 34.0%.

Treatment naive of OP was 35.8%. Cases after teriparatide (TPTD) treatment ware 11 cases. (1) LSBMD (g/cm²) was significantly increased from 0.825 at baseline to 0.857 at 6m (mean %increase:3.9%). THBMD (g/cm²) was significantly increased from 0.598 at baseline to 0.611 at 6m (3.1%). (2) Both P1NP and TRACP-5b were significantly decreased at 6m (41.4% and 34.8% decrease, respectively). (3) There were no significant correlation between % change of BMD at 6m and % change of BMD at 6m and %change of BTM at 6m. (4)%increase of LSBMD was 5.1% at 6m and 6.3% at 12m. %increase of THBMD was 2.4% at 6m and 5.6% at 12m. BTMs were decreased at 6m and unchanged at 12m. (5)Baseline THBMD of BIO group was significantly low compared with that of NonBIO group. TRACP-5b of BIO group was significantly high compared with that of NonBIO group. %increase of LSBMD at 6m was 4.7% in BIO group and 3.0% in NonBIO group. %increase of THBMD at 6m was 3.4% in BIO group and 3.0% in NonBIO group. No significant differences were observed. (6) Hypocalcemia was occurred in 2 and pelvis fracture was occurred in one. Pelvis fracture was healed.

Conclusions: The short-term results of DMB of DMB of RA-OP was good especially in THBMD. This study showed that %change of BTMs were not the predictor for efficacy of DMB on BMD increase at 6m. BIO did not affect the efficacy of DMB.

(7) リウマチ科 副部長 平原 慎也

Annual European Congress of Rheumatology (EULAR 2015) in Rome

THE SAFETY AND TREATMENT EFFICACY OF ABATACEPT IN RHEUMATOID ARTHRITIS PATIENTS WITH INTERSTITIAL LUNG DISEASE: FROM THE TSURUMAI BIOLOGICS COMMUNICATION REGISTRY (TBCR) MULTICENTER STUDY

S. Hirabara¹, T. Kojima², N. Takahashi², A. Kaneko³, D. Kida³, Y. Hirano¹, N. Ishiguro². ¹Rheumatology, Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi; ²Orthopedic Surgery and Rheumatology, Nagoya University Hospital; ³Orthopedic Surgery and Rheumatology, Nagoya Medical Center, Nagoya, Japan

Background: Roughly 10-30% of rheumatoid arthritis (RA) patients reportedly develop pulmonary complications. These patients are at increased risk of MTX or biologics-induced damage, which often becomes problematic for RA treatment. Abatacept (ABT) has been reported to have relatively few adverse events, and is often used in clinical settings in patients with pulmonary complications. Given the paucity of studies on the safety of ABT, however, accumulation of safety data under actual clinical settings is warranted.

Objectives: In the present study, we examined the persistence rates and treatment effects of ABT in patients with interstitial lung disease.

Methods: We divided 365 RA patients registered in the Tsurumai Biologics Communication Registry who used ABT for ≥ 52 weeks according to whether they had interstitial lung disease (ILD group: n=48) or not (N group: n=317). We then compared the continuation rates, incidence of adverse events, and disease activity between the two groups.

Results: No significant differences were found between groups with regard to mean age (ILD group, 66.7 ± 8.6 ; N group, 64.6 ± 12.4), disease duration (ILD group, 11.5 ± 9.2 ; N group, 11.9 ± 13.8), or concomitant dose of MTX (ILD group, 7.8mg/week; N group, 7.5mg/week) at the time ABT was initiated, but significant differences were found in the percentage of women (ILD group, 65.9%; N group, 81.4%), concomitant use rates of MTX (ILD group, 21.3%; N group, 52.9%), concomitant use rates of steroid (ILD group, 65.2%; N group, 51.8%), CRP (ILD group, 2.8 ± 3.1 ; N group, 2.0 ± 2.5), or DAS28-CRP (ILD group, 4.7 ± 1.3 ; N group, 4.3 ± 1.3). The continuation rates for 52 weeks were 79.2% and 80.8% in the ILD and N groups, respectively (Figure 1a). Adverse events occurred in 2 (4.17%) and 14 (4.42%) patients in the ILD and N groups, respectively (Figure 1b). No pulmonary complications occurred after ABT administration in the ILD group, but 2 patients in N group had interstitial pneumonia. Treatment was discontinued due to insufficient response in 7 (14.6%) and 38 (12.0%) patients in the ILD and N groups, respectively. None of these were significantly different by group. Mean DAS28-CRP significantly improved in both groups (Figure 2), from 4.7 at ABT initiation to 3.2 at 52 weeks in the L group ($P < 0.001$), and from 4.3 to 3.0 in the N group ($P < 0.001$). Achievement of those with low disease activity also increased, from 9.1% at ABT initiation to 41.8% at 52 weeks in the ILD group, and from 10.7% to 45.5% in the N group.

Conclusions: The safety, treatment effects, and continuation rates of ABT were similar among RA patients with and without interstitial lung disease. Because of pulmonary complications, MTX concomitant rate of ILD group was significantly lower than that of N group. It was reported that

the influence of concomitant MTX in ABT therapy is small. Thus ILD group would have been able to obtain the similar effects to N group. Use of ABT is beneficial even in patients with pulmonary complications, under close consideration of the risks involved.

References:

Weinblatt M, et al. *Arthritis Rheum* 2006;54:2807-16.

Wada T, et al. *Jpn. J. Clin. Immunol* 2012;35:433-8.

Takahashi N, et al. *Mod Rheumatol* 2013;23:904-12.

(8) 産婦人科 医員 池田 芳紀

TITLE.

COMBINATION METHOD OF LAPAROSCOPIC SACROCOLPOPEXY WITH AN ANTERIOR MESH AND POSTERIOR COLPOPERINEOPLASTY FOR PELVIC ORGAN PROLAPSE

AUTHOR/S.

Ikeda Y (JP) [1], Umemura K (JP) [2], Ando H (JP) [3], Kawai M (JP) [4]

ABSTRACT.

Backgrounds: Laparoscopic sacrocolpopexy (LSC) with anterior and posterior meshes (AM and PM) has been considered as a favorable surgical treatment for pelvic organ prolapse (POP). However a high rate of postoperative bowel dysfunction has been reported. AM and PM placement procedure generally requires longer operation time. Therefore our procedure was modified to a combination of LSC using AM and conventional posterior colpoperineoplasty instead of PM placement.

Materials and methods: This study involves 35 women who had LSC with AM and/or PM at our hospital from June 2014 to August 2015. These patients have regular outpatient visits for postoperative follow-up. Their medical records were reviewed retrospectively.

Results: 34 cases had concomitant subtotal hysterectomy followed by LSC. Total 35 LSC cases contained 3 cases with AM and PM, 26 cases with AM, 1 case with PM, and 5 cases with our combination method of AM and posterior colpoperineoplasty. No intraoperative complication was experienced. Subjective symptoms of POP were improved in all cases. No mesh erosion and no postoperative recurrence have been observed. At the beginning 3 cases which had rectocele were treated with LSC using AM and PM. These cases needed longer operation time and PM placement could not cover approximately 3 cm from the vaginal orifice. As a solution our procedure for POP with rectocele was modified to a combination of LSC using AM and posterior colpoperineoplasty without PM placement. 5 cases treated with this method have not shown any postoperative complications. Posterior colpoperineoplasty which can preserve vaginal canal length does not possibly affect postoperative sexual function.

Conclusions: Our combination method of LSC with AM and posterior colpoperineoplasty could be considered as an effective surgical treatment option for POP especially with rectocele.

INSTITUTE.

[1] Toyohashi Municipal Hospital, [2] Toyohashi Municipal Hospital, [3] Toyohashi Municipal Hospital, [4] Toyohashi Municipal Hospital

学会発表（医局）

<呼吸器内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	難治性多発血管炎性肉芽腫症に対してリツキシマブにて寛解を得た1例	筆頭演者	飯島 淳司	第225回日本内科学会東海地方会	2015/2/22
2	HIV陽性ニューモシスチス肺炎に両側気胸を合併した一例	筆頭演者	大藪 竜昇	第225回日本内科学会東海地方会	2015/2/22
3	当院における人工呼吸管理を行った気管支喘息発作入院症例の検討	筆頭演者	菅沼 伸一	第64回日本アレルギー学会学術大会	2015/5/27

<消化器内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	部分内臓逆位を伴う出血性肝嚢胞の1例	筆頭演者	山本 崇文	第225回日本内科学会東海地方会	2015/2/22
2	クローン病との鑑別が困難であった腸管ペーチェット病の1例	筆頭演者	横山 勇人	第37回東三医学会	2015/3/7
3	潰瘍性大腸炎に合併した colitic cancer の1例	筆頭演者	田中 仁	第37回東三医学会	2015/3/7
4	パネルディスクッション11 早期慢性膵炎の病態と予後 当院における早期慢性膵炎診療の現状	筆頭演者	藤田 基和	第101回日本消化器病学会総会	2015/4/23
5	膵癌診療における適切な二次精査に関する検討	筆頭演者	飛田恵美子	第101回日本消化器病学会総会	2015/4/23
6	当院における難治性腹水コントロール不良例に対するトルバプタンの有効性について22例の検討	筆頭演者	山本 和弘	第101回日本消化器病学会総会	2015/4/23
7	パネルディスクッション12 PSCとIgG4-SC : わが国の現状と最適治療を目指して .IgG4-SCと胆管癌の鑑別における造影超音波内視鏡検査の有用性	筆頭演者	芳川 昌功	第101回日本消化器病学会総会	2015/4/25
8	切除不能膵癌患者に対する化学療法の結果と超音波内視鏡下腹腔神経叢ブロック術の有効性	筆頭演者	松原 浩	第101回日本消化器病学会総会	2015/4/25
9	当院におけるIgG4関連硬化性胆管炎の経乳頭的胆管生検の診断能とステロイド治療の検討	筆頭演者	木下 雄貴	第101回日本消化器病学会総会	2015/4/25
10	膵疾患に対する造影剤併用EUS-FNAの有用性	筆頭演者	松原 浩	第89回日本消化器内視鏡学会総会	2015/5/29
11	当センターにて初めてHCV抗体陽性を指摘された受診者における発癌リスクの検討	筆頭演者	山本 健太	第54回日本消化器がん検診学会総会	2015/6/6
12	Groove領域に発生した通常型膵癌の一例	筆頭演者	芳川 昌功	第46回日本膵臓学会大会	2015/6/19
13	Pancreatobiliary type IPMNの一例	筆頭演者	松原 浩	第46回日本膵臓学会大会	2015/6/20
14	シンポジウム 「進行膵癌に対する治療戦略とその成果」 切除不能進行膵癌に対する超音波内視鏡下腹腔神経叢融解術の栄養における有効性の検討	筆頭演者	片岡 邦夫	日本消化器病学会東海支部第122回例会	2015/6/27

15	左卵巣転移の茎捻転をきたした進行胃癌の一例	筆頭演者	飛田恵美子	日本消化器病学会東海支部第122回例会	2015/6/27
16	腹水貯留で発症した混合型びまん性悪性腹膜中皮腫の一部検例	筆頭演者	木下 雄貴	日本消化器病学会東海支部第122回例会	2015/6/27
17	当院におけるIFNフリー治療(DCV・ASV併用療法)の治療成績	筆頭演者	山本 崇文	日本消化器病学会東海支部第122回例会	2015/6/27
18	胆嚢捻転症の一例	共同演者	松原 浩	日本超音波医学会第36回中部地方会	2015/9/6
19	腹部超音波検査にて診断し得た妊婦の腎動静脈瘤の一例	共同演者	松原 浩	日本超音波医学会第36回中部地方会	2015/9/6
20	十二指腸乳頭部adenosquamous carcinomaの1例	筆頭演者	芳川 昌功	第51回日本胆道学会学術集会	2015/9/18
21	IgG4関連硬化性胆管炎診断における造影超音波内視鏡検査の有用性	筆頭演者	松原 浩	第57回日本消化器病学会大会(JDDW2015)	2015/10/8
22	当院における膝神経内分泌腫瘍の画像所見とWHO 2010 Grade 分類との関連の検討	筆頭演者	片岡 邦夫	第57回日本消化器病学会大会(JDDW2015)	2015/10/8
23	シンポジウム 2「肝胆膵疾患における治療の最前線」 当院におけるsofosbuvir+ribavirin併用療法の治療成績	筆頭演者	飛田恵美子	日本消化器病学会東海支部第123回例会	2015/11/21
24	当院で導入したIFNフリー治療における肝障害中止例の検討	筆頭演者	山本 崇文	日本消化器病学会東海支部第123回例会	2015/11/21
25	超音波ガイド下腫瘍生検にて診断しえた腹膜中皮腫の1例	筆頭演者	清水 大輝	日本消化器病学会東海支部第123回例会	2015/11/21
26	胃glomus腫瘍の一例	筆頭演者	加納 祐一	日本消化器病学会東海支部第123回例会	2015/11/21
27	B3に限局した胆管狭窄を呈したIgG4 関連硬化性胆管炎の一例	筆頭演者	南 喜之	日本消化器病学会東海支部第123回例会	2015/11/21
28	当検診センターにて初めてHCV抗体陽性を指摘された受診者におけるFib-4 index及びデータマイニングを用いた肝線維化/発癌リスクの検討	筆頭演者	松田 宜賢	第41回日本肝臓学会西部会	2015/12/4
29	当院で導入したIFNフリー治療における75歳以上の超高齢者での治療効果と安全性の検討	筆頭演者	山本 崇文	第41回日本肝臓学会西部会	2015/12/4
30	OTSCで止血がえられた胃静脈瘤破裂の一例	筆頭演者	南 喜之	第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2015/12/5
31	急速に増大した胃噴門部癌の一例	筆頭演者	木下 雄貴	第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2015/12/5
32	ESD後潰瘍に対してポリグリコール酸シート・フィブリン糊併用被覆法を行った二例	筆頭演者	片岡 邦夫	第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2015/12/5
33	出血をきたす胆嚢十二指腸瘻閉鎖にポリグリコール酸シートとフィブリン糊充填が有効であった一例	筆頭演者	山本 和弘	第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2015/12/5
34	当院における大腸憩室出血に対するEBL(Endoscopic band ligation)の有用性	筆頭演者	南 喜之	第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2015/12/5
35	SAFETY AND OUTCOMES OF ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION FOR EARLY GASTRIC CANCER IN ELDERLY JAPANESE PATIENTS AGED ≥80 YEARS ADMITTED TO A PUBLIC HOSPITAL	筆頭演者	KENTA YAMAMOTO	APDW2015	2015/12/6

<循環器内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	薬剤抵抗性の重症冠攣縮でCABGを要した1例	筆頭演者	佐藤 文明	第145回日本循環器学会東海地方会	2015/6/13
2	Slow VTに対する抗頻拍ペースング設定がICD不適切作動の原因となった心サルコイドーシスの一例	筆頭演者	澤崎 貴子	第145回日本循環器学会東海地方会	2015/6/13
3	総腸骨動脈完全閉塞に至る直前の前段階病変をCTで観察し得た1例	筆頭演者	岡崎 敬正	第227回日本内科学会東海地方会	2015/10/25
4	劇症型心筋炎によりPCPS導入後、コンパートメント症候群を発症し著名な高CK血症を呈した10代男性の1例	筆頭演者	田中 仁	第227回日本内科学会東海地方会	2015/10/25
5	胸痛、歩行困難感を主訴に来院しクッシング症候群を認めた1例	筆頭演者	大藪 竜昇	第227回日本内科学会東海地方会	2015/10/25

<腎臓内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	Hyponatremic chloride-depletion metabolic alkalosis successfully treated with high cation-gap amino acid: a case	筆頭演者	Akihiro Ryuge	A C P (米国内科学会) 日本支部年次総会2015	2015/5/30
2	内シャントの過剰血流を外科的に治療し肺高血圧症の改善を得た1例	筆頭演者	尾関 貴哉	第60回日本透析医学会学術集会・総会	2015/6/27
3	非閉塞性腸管虚血症をきたした透析導入患者の一例	筆頭演者	野村 理恵	第60回日本透析医学会学術集会・総会	2015/6/27
4	当院におけるB型肝炎ワクチン接種の現状～中間報告～	筆頭演者	山川 大志	第60回日本透析医学会学術集会・総会	2015/6/28
5	dasatinibにより蛋白尿を発症した慢性骨髄性白血病患者の1例	筆頭演者	山川 大志	第45回日本腎臓学会東部学術大会	2015/10/2

<糖尿病・内分泌内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	炭酸リチウムにより無痛性甲状腺炎を生じた双極性感情障害の1例	筆頭演者	萩本 繁	第14回日本内分泌学会東海支部学術集会	2015/1/24
2	東海地区における成人1型糖尿病(T1DM)新規発症患者の特徴に関する検討	共同演者	山守 育雄	第58回日本糖尿病学会年次学術総会	2015/5/21
3	歯科医師会と連携した糖尿病啓発活動を通じて	共同演者	村瀬 正敏	第58回日本糖尿病学会年次学術総会	2015/5/22
4	副腎静脈サンプリングを施行した原発性アルドステロン症22例の検討	筆頭演者	萩本 繁	第15回日本内分泌学会東海支部学術集会	2015/9/26
5	当院で経験したSensor-Augmented Pump療法の5症例	筆頭演者	萩本 繁	第89回日本糖尿病学会中部地方会	2015/10/4
6	胃瘻チューブの十二指腸嵌頓により後期ダンピング症候群をきたした1例	共同演者	山守 育雄	第89回日本糖尿病学会中部支部会	2015/10/4

7	初診時に気管癌が疑われ、放射線外照射が奏功した超高齢者甲状腺乳頭癌の1例	筆頭演者	山守 育雄	第58回日本甲状腺学会学術集会	2015/11/7
8	急速に複視が進行しIgG4関連疾患が疑われた甲状腺眼症の1例	筆頭演者	長谷川義高	第25回臨床内分泌代謝Update	2015/11/28

<神経内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	1年余に渡り、改善が得られない抗NMDA受容体脳炎の1例	筆頭演者	岡崎 敬正	第225回東海地方会	2015/2/22
2	POEMS症候群における表皮内神経線維密度	筆頭演者	大山 健	第56回日本神経学会学術大会	2015/5/20
3	急性自律性感覚性運動性ニューロパチーでみられた自律神経障害の経時的变化	筆頭演者	大山 健	第68回日本自律神経学会総会	2015/10/29
4	自律神経障害を合併した急性感覚性ニューロパチーの1例	筆頭演者	大山 健	第68回日本自律神経学会総会	2015/10/29
5	rt-PA静注療法中に腎梗塞を合併した心原性脳塞栓症の1例	筆頭演者	原 敬史	第33回日本神経治療学会総会	2015/11/26

<血液・腫瘍内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院産婦人科におけるクリオプレシピテート使用状況について	共同演者	I Sugiura	第64回日本輸血・細胞治療学会東海支部例会	2015/2/7
2	抗がん剤治療後のヒトパルボウイルスB19感染による後天性赤芽球癆に対し免疫グロブリン大量療法が有効であった一例	筆頭演者	奥野 真吾	第4回日本血液学会東海地方会	2015/4/25
3	移植適応多発性骨髄腫患者における新規薬剤を含んだ寛解導入療法の移植成績への影響の検討	筆頭演者	奥野 真吾	第40回日本骨髄腫学会学術集会	2015/5/16
4	アザシチジン治療MDS患者における骨髄p53発現と染色体異常の組み合わせによる新たな短期予後予測指標	筆頭演者	Satoshi NISHIWAKI	20th Congress of EHA	2015/6/11~ 2015/6/14
5	悪性高血圧による血栓性微小血管障害症(TMA)の1例	筆頭演者	小笠原雅彦	第226回日本内科学会東海地方会例会	2015/6/21
6	骨髄のp53陽性細胞はアザシチジンで治療されたMDS患者の予後予測因子となる	筆頭演者	西脇 聡史	第13回日本臨床腫瘍学会学術集会	2015/7/16
7	Effectiveness of high-dose MTX therapy for adult Ph-negative ALL by randomized trial	筆頭演者	倉橋 信悟	第77回日本血液学会学術集会	2015/10/16
8	A new prognostic index to predict short-term prognosis in MDS patients treated with azacitidine	筆頭演者	Satoshi Nishiwaki	第77回日本血液学会学術集会	2015/10/16
9	Long-term outcome of high-dose therapy for MM patients in pre-novel agents era (C-SHOT0401 Trial)	筆頭演者	Shingo Okuno	第77回日本血液学会学術集会	2015/10/16
10	Ph(+) ALL	筆頭演者	Isamu Sugiura	第77回日本血液学会学術集会	2015/10/17

11	Long-term follow-up data of phase I / II study of MPB in untreated Japanese MM patients	共同演者	Isamu Sugiura	第77回日本血液学会学術集会	2015/10/17
12	Molecular response of e6a2 bcr-ab/-positive AML to DLIs and TKIs after allogeneic transplantation	筆頭演者	Yasuhiko Harada	第77回日本血液学会学術集会	2015/10/17
13	Ph + ALLの進捗状況報告	筆頭演者	杉浦 勇	第2回合同班会議 (JALSG)	2015/12/12

<一般外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	Components separation法及び外腹斜筋反転パッチにて腹壁欠損を修復した尿管癌の1例	筆頭演者	伊藤 喜介	第43回愛知臨床外科学会	2015/2/11
2	膣尾部IPMC術後1年半で膣頭部IPMC認め膣全摘となった1例	筆頭演者	三品 拓也	第43回愛知臨床外科学会	2015/2/11
3	Ⅲb型膣尾部損傷に対して脾温存膣体尾部切除を施行した一例	筆頭演者	西村 元伸	第43回愛知臨床外科学会	2015/2/11
4	当院における胸部人工血管感染に対する再血行再建術の術後成績	筆頭演者	大野 司	第45回日本心臓血管外科学会学術総会	2015/2/17
5	経皮経肝的門脈内治療と血栓溶解薬の選択的持続動注療法によって軽快した門脈・上腸間膜静脈血栓症の1例	筆頭演者	三竹 泰弘	第51回日本腹部救急医学会総会	2015/3/6
6	遅発性小腸狭窄をきたした上腸間膜動脈閉塞症の1例	筆頭演者	篠原健太郎	第51回日本腹部救急医学会総会	2015/3/6
7	胆嚢捻転症の1例	筆頭演者	小澤有紀子	第37回東三医学会	2015/3/7
8	THE INTERMITTENT PRINGLE MANEUVER IS UNLIKELY TO INDUCE BACTERIAL TRANSLOCATION TO THE PORTAL VEIN: A STUDY USING BACTERIUM-SPECIFIC RIBOSOMAL RNATARGETED RT-PCR	筆頭演者	Yamaguchi Naoya	5th Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association	2015/3/19
9	OUR EXPERIENCES OF LAPAROSCOPIC DEROOFFING BY REDUCED PORT SURGERY, INCLUDING SINGLE INCISION SURGERY FOR SYMPTOMATIC LIVER CYST	筆頭演者	Aoba Taro	5th Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association	2015/3/20
10	門脈血へのbacterial translocation発生からみた胆道再建を伴う肝切除におけるPringle法の安全性の検討	筆頭演者	山口 直哉	第115回日本外科学会定期学術集会	2015/4/16
11	局所麻酔下鼠径ヘルニア手術における併用鎮静薬としてのデクスメトミジン塩酸塩の使用経験	筆頭演者	三品 拓也	第115回日本外科学会定期学術集会	2015/4/16
12	2チーム制による勤務体制の効率化。若手外科医からの視点。	筆頭演者	篠原健太郎	第115回日本外科学会定期学術集会	2015/4/16
13	骨盤内巨大腫瘍に対して腹腔鏡補助下骨盤内臓全摘を施行した1例	筆頭演者	相場 利貞	第115回日本外科学会定期学術集会	2015/4/17

14	術前画像診断による大腸癌肝転移切除後の予後分析—中心型、Buddingは予後不良因子となり得るか？—	筆頭演者	平松 和洋	第115回日本外科学会定期学術集会	2015/4/18
15	穿孔性、膿瘍形成性虫垂炎術後におけるドレーンの有効性の検討	筆頭演者	青葉 太郎	第115回日本外科学会定期学術集会	2015/4/18
16	PTFEパッチを用いて修復した経横隔膜性肋間ヘルニアの1例	筆頭演者	小林龍太郎	第289回東海外科学会	2015/4/29
17	腹部鈍的外傷による十二指腸損傷の1例	筆頭演者	滝本愛太郎	第289回東海外科学会	2015/4/29
18	保存的治療にて軽快した腹腔内遊離ガスを伴う腸管嚢胞様気腫症の1例	筆頭演者	神原 祐一	第289回東海外科学会	2015/4/29
19	先天性総胆管拡張症に対する胆管嚢腫切除術後20数年経て発生した肝内結石の1例	筆頭演者	出井 秀幸	第289回東海外科学会	2015/4/29
20	内臓逆位を伴う出血性肝嚢胞に対し嚢胞切除術を施行した1例	筆頭演者	青葉 太郎	第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会	2015/6/11
21	術後2ヶ月でびまん性肝転移により肝不全をきたし死亡した乳癌の1例	筆頭演者	和田 幸也	第23回日本乳癌学会学術総会	2015/7/2~ 2015/7/4
22	ゾレドロン酸使用後デノスマブ使用中に大腿骨非定型骨折を起こした乳癌骨転移の1例	筆頭演者	吉原 基	第23回日本乳癌学会学術総会	2015/7/2~ 2015/7/4
23	cN3 M0 局所進行乳癌の長期無再発生存例3例のまとめ	筆頭演者	南 貴之	第23回日本乳癌学会学術総会	2015/7/3
24	大腸癌副腎転移切除5例の経験	筆頭演者	平松 和洋	第70回日本消化器外科学会総会	2015/7/16
25	腸重積を来した下行結腸脂肪腫の1切除例	筆頭演者	山口 直哉	第70回日本消化器外科学会総会	2015/7/16
26	当院における膵頭十二指腸切除後のNAFLD発生リスクの検討	筆頭演者	清板 和昭	第70回日本消化器外科学会総会	2015/7/17
27	80歳以上の高齢者に対する膵頭十二指腸切除術の検討	筆頭演者	南 貴之	第70回日本消化器外科学会総会	2015/7/17
28	下行結腸浸潤をきたした原発性小腸癌の1例	筆頭演者	伊藤 喜介	第44回愛知臨床外科学会	2015/7/20
29	直腸癌同時性肺肝転移に対し一期的直腸切除・肝部分切除術を腹腔鏡下に施行した1例	筆頭演者	小澤有紀子	第44回愛知臨床外科学会	2015/7/20
30	混合型肝癌の1例	筆頭演者	西村 元伸	第44回愛知臨床外科学会	2015/7/20
31	腹痛を発症したS状結腸脂肪腫の1例	筆頭演者	三品 拓也	第44回愛知臨床外科学会	2015/7/20
32	上行結腸管外発育型平滑筋腫の1例	筆頭演者	滝本愛太郎	第290回東海外科学会	2015/10/11
33	大腸癌術後10年で異時性孤立性脾転移をきたした1例	筆頭演者	神原 祐一	第290回東海外科学会	2015/10/11
34	P T Pシート誤飲による腸穿孔の治療に難渋した1例	筆頭演者	小林龍太郎	第290回東海外科学会	2015/10/11
35	虫垂腫瘍に合併した上行結腸憩室出血を疑い右結腸切除施行後にアメーバ虫垂炎と診断した1例	筆頭演者	出井 秀幸	第290回東海外科学会	2015/10/11
36	癌性疼痛に対するオキシコドン塩酸塩注射剤を用いた外来での早期導入法の検討	筆頭演者	平松 和洋	第53回日本癌治療学会学術集会	2015/10/31

37	孤立性上腸間膜動脈解離に対し血管内治療後単孔式腹腔鏡補助下小腸切除を施行した1例	筆頭演者	伊藤 喜介	第77回日本臨床外科学会総会	2015/11/26
38	幽門輪温存腓頭十二指腸切除腓胃吻合後の残胃癌に対して、根治切除を行った5例の経験	筆頭演者	平松 和洋	第77回日本臨床外科学会総会	2015/11/26
39	完全埋め込み型中心静脈ポート留置595例における感染リスクの検討	筆頭演者	西村 元伸	第77回日本臨床外科学会総会	2015/11/26
40	一般市中病院におけるロボット支援腹腔鏡下直腸手術導入期としてのHybrid法について	筆頭演者	相場 利貞	第77回日本臨床外科学会総会	2015/11/27
41	診断を目的とした脾摘術20例の検討	筆頭演者	和田 幸也	第77回日本臨床外科学会総会	2015/11/28
42	腸重積を伴う消化管脂肪腫に対して手術治療を施行した10例の検討	筆頭演者	山口 直哉	第77回日本臨床外科学会総会	2015/11/28
43	S状結腸癌治療中に肝破裂を契機に発見された後天性血友病Aの1例	筆頭演者	三竹 泰弘	第77回日本臨床外科学会総会	2015/11/28
44	腹腔鏡下肝切除術での左肝静脈周囲の剥離におけるPitfall	筆頭演者	青葉 太郎	第28回日本内視鏡外科学会総会	2015/12/10
45	腹腔鏡下大腸手術における術中体温変動の危険因子の検討	筆頭演者	相場 利貞	第28回日本内視鏡外科学会総会	2015/12/10
46	単孔式腹腔鏡下盲腸部分切除術を施行した虫垂粘液嚢胞腺腫による腸重積の1例	筆頭演者	三竹 泰弘	第28回日本内視鏡外科学会総会	2015/12/10
47	腸回転異常症に伴う腸捻転に対して腹腔鏡手術を施行した2例：術前診断の重要性	筆頭演者	神原 祐一	第28回日本内視鏡外科学会総会	2015/12/12

<呼吸器外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	胃原発GIST切除後肺転移の1例	筆頭演者	親松 裕典	第32回日本呼吸器外科学会総会	2015/5/14
2	開胸術後疼痛に対する桂枝加朮附湯の使用経験	筆頭演者	大畑 賀央	第32回日本呼吸器外科学会総会	2015/5/15
3	胸腔鏡下気胸手術におけるソフト凝固の応用	筆頭演者	大畑 賀央	第38回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2015/6/11
4	悪性黒色腫肺転移の3切除例	筆頭演者	親松 裕典	第56回日本肺癌学会学術集会	2015/11/26
5	急速に増大した中縦隔発生Solitary fibrous tumorの1切除例	筆頭演者	親松 裕典	第56回日本肺癌学会学術集会	2015/11/26

<肛門外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	胃瘻造設(PEG)に対する医療者の意識調査:急性期病院勤務職員へのアンケート調査	筆頭演者	柴田 佳久	第30回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2015/2/13
2	残胃癌発生にHelicobacter pyloriは本当に関与しているのか	筆頭演者	柴田 佳久	第115回日本外科学会定期学術集会	2015/4/18
3	地域医療の柱でもある病病連携における患者情報提供内容の評価検証	筆頭演者	柴田 佳久	第65回日本病院学会	2015/6/18

4	同時性肝転移を有する進行直腸癌術後に副腎転移/門脈腫瘍栓がみられたが、抗がん剤治療にてCRとなった1例	筆頭演者	柴田 佳久	第70回日本消化器外科学会総会	2015/7/17
5	Perioperative management by the nutrient state change analysis and immunonitrition combined use before and after gastric cancer operation	筆頭演者	柴田 佳久	第16回アジア静脈経腸栄養学会学術大会	2015/7/25

<移植外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	胃GISTおよび肝転移に対しイマチニブ内服を維持しえた1例	筆頭演者	長坂 隆治	第48回日本臨床腎移植学会	2015/2/6
2	内シャントの過剰血流を外科的に治療し肺高血圧症の改善を得た1例	共同演者	長坂 隆治	第60回日本透析医学会学術集会・総会	2015/6/27
3	3DCT画像を利用したバスキュラーアクセス管理	筆頭演者	長坂 隆治	第60回日本透析医学会学術集会・総会	2015/6/28

<整形外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	Ilizarov創外固定のパーツで作製した術中整復装置「スモールディストラクター」利用した骨接合術	筆頭演者	三矢 聡	第41回日本骨折治療学会	2015/6/26
2	小児上腕骨内側上顆骨折に滑車骨折を合併した1例	筆頭演者	磯野 正晶	第41回日本骨折治療学会	2015/6/26
3	軟骨欠損を伴う大腿骨遠位部開放骨折に対して自家骨軟骨柱移植術を行った2例	筆頭演者	三矢 未来	第41回日本骨折治療学会	2015/6/27
4	当院におけるテリパラチド週一回投与製剤の使用経験	筆頭演者	磯野 正晶	第17回日本骨粗鬆症学会	2015/9/17
5	青年期に発症した大腿骨頭すべり症の1例	筆頭演者	三矢 未来	第125回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2015/10/2
6	medialis pedis flapと神経再生誘導チューブ(ナブリッジ)で再建した神経欠損を伴う手指挫減損傷の1例	筆頭演者	三矢 聡	第125回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2015/10/3
7	習慣性膝蓋骨脱臼に対して外側支帯解離術、脛骨粗面移動術および内側膝蓋大腿靭帯再建術を行った1例	筆頭演者	藤田 護	第43回日本関節病学会	2015/11/5

<リウマチ科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	多施設研究所(TBCR-plus)による関節リウマチにおけるイグラチモドの52週治療成績の解析-投与開始時の疾患活動性の影響-	筆頭演者	平野 裕司	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	2015/4/23
2	関節リウマチにおけるMTX週16mg投与の有効性と安全性の解析	筆頭演者	平野 裕司	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	2015/4/23

3	関節リウマチにおける継続率から見た生物学的製剤治療の長期予後の検討	筆頭演者	平野 裕司	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	2015/4/23
4	関節リウマチにおけるゴリムマブの有効性予測因子～多施設研究データより～	筆頭演者	平野 裕司	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	2015/4/23
5	トシリズマブが中止となった関節リウマチ患者におけるTNF阻害薬とアバタセプトの臨床効果の比較－多施設研究TBCRより－	筆頭演者	平原 慎也	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	2015/4/23
6	関節リウマチにおける2年間のトシリズマブ治療が、疾患活動性、生活の質、関節破壊防止に与える影響～MTXとPSLの減量に注目して～	筆頭演者	平野 裕司	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	2015/4/23
7	関節リウマチにおいて耐糖能異常は生物学的製剤治療の長期継続率を低下させる	筆頭演者	磯野 正晶	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	2015/4/24
8	肺合併症を有する関節リウマチ患者に対するabataceptの安全性と治療効果の検討－多施設共同研究TBCRより－	筆頭演者	平原 慎也	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	2015/4/24
9	関節リウマチの骨粗鬆症に対するデノスマブの早期効果－多施設研究TBCR-BONEより－	筆頭演者	平野 裕司	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	2015/4/25
10	関節リウマチの骨粗鬆症に対するテリパラチド連日投与製剤2年投与の効果～経口ブレドニゾロン併用の影響～	筆頭演者	平野 裕司	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	2015/4/25
11	関節リウマチ患者における潜在的結核感染スクリーニングとしてのT-SPOTとクオンティフェロン2G、3Gの比較検討	筆頭演者	平原 慎也	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	2015/4/25
12	関節リウマチ患者の疾患関連因子がロコモティブ症候群発症に与える影響	筆頭演者	平野 裕司	第27回日本リウマチ学会中部支部学術集会	2015/9/4
13	関節リウマチに対するトシリズマブ皮下注製剤の使用経験	筆頭演者	平原 慎也	第27回日本リウマチ学会中部支部学術集会	2015/9/4
14	トシリズマブ治療中に高ビリルビン血症を呈した関節リウマチの3症例	筆頭演者	平野 裕司	第27回日本リウマチ学会中部支部学術集会	2015/9/4
15	関節リウマチの骨粗鬆症でのテリパラチド連日製剤の後療法のみノドロネート+エルデカルシトールとデノスマブの比較	筆頭演者	平野 裕司	第27回日本リウマチ学会中部支部学術集会	2015/9/5
16	インフリキシマブを使用した乾癬性関節炎の2例	筆頭演者	福井 順	第27回日本リウマチ学会中部支部学術集会	2015/9/6
17	関節リウマチの骨粗鬆症に対する2年間のテリパラチド連日投与製剤の効果に対する併用薬剤(経口ブレドニゾロンと生物学的製剤)の影響	筆頭演者	平野 裕司	第17回日本骨粗鬆症学会	2015/9/17
18	関節リウマチの骨粗鬆症でのテリパラチド連日製剤の後療法のみノドロネート+エルデカルシトールとデノスマブの比較検討	筆頭演者	平野 裕司	第17回日本骨粗鬆症学会	2015/9/17
19	関節リウマチの骨粗鬆症に対するデノスマブの短期臨床成績－TBCR-BONEより－	筆頭演者	平野 裕司	第17回日本骨粗鬆症学会	2015/9/17

20	当院におけるテリパラチド週一回投与製剤の使用経験	筆頭演者	磯野 正晶	第17回日本骨粗鬆症学会	2015/9/17
21	関節リウマチの骨粗鬆症に対するエルデカルシトールの臨床成績－第2報－	筆頭演者	平野 裕司	第17回日本骨粗鬆症学会	2015/9/19
22	TNFに対する抗体製剤の共通点と相違点－インフリキシマブ、アダリムマブ、ゴリムマブ－	筆頭演者	平野 裕司	第43回日本関節病学会	2015/11/5
23	関節リウマチの骨粗鬆症に対するデノスマブの有効性予測要因～12か月経過例での検討～	筆頭演者	平野 裕司	第43回日本関節病学会	2015/11/5
24	関節リウマチにおける2年間のアバセプト治療の成績～併用薬剤の減量に注目して～	筆頭演者	平野 裕司	第43回日本関節病学会	2015/11/6
25	関節リウマチの骨粗鬆症におけるデノスマブの治療成績	筆頭演者	福井 順	第30回日本臨床リウマチ学会	2015/11/21
26	関節リウマチの骨粗鬆症におけるテリパラチド連日投与製剤の後療法ミノドロネート+エルデカルシトールとデノスマブの比較	筆頭演者	平野 裕司	第30回日本臨床リウマチ学会	2015/11/21
27	関節リウマチに対するトシリズマブ皮下注製剤の使用経験	筆頭演者	平原 慎也	第30回日本臨床リウマチ学会	2015/11/21

<脊椎外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	脊椎手術の術後深部感染 早期診断のための工夫	筆頭演者	吉原 永武	第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2015/4/18
2	L-Varlock cageを用いたL5/S5を含む椎体間固定術の短期成績	筆頭演者	吉原 永武	第24回日本脊椎インストゥルメンテーション学会	2015/11/6
3	治療に難渋した透析性脊椎症の1例～不用意な除圧、固定範囲は、破壊性脊椎症を急速に進行させる～	筆頭演者	宮入 祐一	第24回日本脊椎インストゥルメンテーション学会	2015/11/7

<脳神経外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	内頸動脈閉塞を呈した下垂体卒中の1例	筆頭演者	若林 健一	第25回日本間脳下垂体腫瘍学会	2015/2/28
2	外傷性の頭頸部血管損傷の4例	筆頭演者	雄山 博文	第38回日本脳神経外傷学会	2015/3/6
3	脊髄膜瘤患者のfollow-upについて	筆頭演者	雄山 博文	第30回日本脊髄外科学会	2015/6/26
4	高位中大脳動脈M1部破裂脳動脈瘤に対しSTA-MCA bypass併用orbitozygomatic approachにてclippingを行った1例	筆頭演者	原口 健一	第89回日本脳神経外科学会中部支部学術集会	2015/9/12
5	頸動脈内膜剥離術後の動脈壁肥厚および再狭窄についての検討	筆頭演者	原口 健一	日本脳神経外科学会第74回学術総会	2015/10/16
6	下垂体腫瘍に対する内視鏡下経鼻開頭同時手術の有用性	筆頭演者	若林 健一	第22回日本神経内視鏡学会	2015/11/6

<小児科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	血漿交換療法が著効した抗NMDA型受容体脳炎の1例	筆頭演者	横井 克幸	第42回日本小児神経学会東海地方会	2015/1/24
2	ミトコンドリアDNA枯渇症候群の1例	筆頭演者	野村 幸伸	第263回日本小児科学会東海地方会	2015/2/1
3	中核市におけるロタウイルスワクチンの効果 ワクチンカバー率と感染性胃腸炎数変化	共同演者	小山 典久	第118回日本小児科学会	2015/4/17
4	小児時間外受診患者の実態調査	筆頭演者	酒井 喜規	第264回日本小児科学会東海地方会	2015/5/10
5	日本小児科医会会員による家庭看護力の醸成	共同演者	小山 典久	第26回日本小児科医会総会フォーラムin大分	2015/06/13
6	在胎36週以上で出生し生後60分以内の血液ガスがpH7.0未満の児の検討	筆頭演者	戸川 泰子	第51回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会	2015/7/11
7	モザイク型13番染色体長腕テトラソミーの1例	筆頭演者	河邊 宏幸	第51回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会	2015/7/12
8	日本版新生児蘇生法ガイドライン2010(NCPRGL2010)に基づく超低出生体重児の蘇生の現状	筆頭演者	山田 崇春	第51回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会	2015/7/12
9	肉眼的血尿にて発症した発作性寒冷ヘモグロビン尿症(PCH)の3歳女児例	筆頭演者	真島 久和	第51回中部小児科学会	2015/8/23
10	マーカー染色体を認めた5症例についての検討	筆頭演者	山田 崇春	第60回日本人類遺伝学会	2015/10/15
11	当院新生児医療センターにおける血液培養陽性例の検討	筆頭演者	酒井 喜規	第60回日本新生児成育医学会・学術集会	2015/10/24
12	生後早期に肺障害が進行し救命できなかった超早産児2例の検討	筆頭演者	石井 洋子	第60回日本新生児成育医学会・学術集会	2015/10/25
13	過去10年間に虐待を疑い通告を行った死亡例の検討	筆頭演者	佐久間 肇	第265回日本小児科学会東海地方会	2015/11/8
14	中核市におけるロタウイルスワクチンによる効果(第2報)-ワクチンカバー率からみた接種助成の効果と限界	共同演者	小山 典久	第19回日本ワクチン学会	2015/11/14
15	1歳6ヵ月児および3歳児健診における災害時アレルギー対応非常食需要に関する質問紙調査	共同演者	小山 典久	第52回日本小児アレルギー学会	2015/11/21

<産婦人科・女性内視鏡外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	子宮全摘術に対するロボット支援下腹腔鏡下手術	筆頭演者	梅村 康太	第7回日本ロボット外科学会	2015/2/7
2	当院における超緊急帝王切開の統計	筆頭演者	國島 温志	第135回東海産科婦人科学会	2015/2/21
3	当院における腹腔鏡下仙骨腔固定術の導入	筆頭演者	甲木 聡	第135回東海産科婦人科学会	2015/2/21
4	子宮頸癌における広汎子宮全摘術の臨床的検討	筆頭演者	河井 通泰	第135回東海産科婦人科学会	2015/2/21
5	典型的な慢性早剥羊水過少症候群の1例	筆頭演者	松尾 聖子	第135回東海産科婦人科学会	2015/2/22

6	当院における特発性血小板減少性紫斑病合併妊娠の4症例	筆頭演者	廣渡 芙紀	第135回東海産科婦人科学会	2015/2/22
7	子宮体癌に対する安全な腹腔鏡下手術を目指して～エンシールG2を使いこなす～	筆頭演者	梅村 康太	第135回東海産科婦人科学会	2015/2/22
8	当科における骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨脛固定術(LSC)について	筆頭演者	梅村 康太	第9回日本骨盤臓器脱手術学会	2015/3/7
9	骨盤臓器脱に対する治療法～当院におけるLSC手術の現状と工夫～ランチョンセミナー	筆頭演者	梅村 康太	第9回日本骨盤臓器脱手術学会	2015/3/7
10	子宮頸癌治療に対する腹腔鏡下手術とセンチネルナビゲーション	筆頭演者	梅村 康太	第67回日本産科婦人科学会学術講演会	2015/4/10
11	新規指標を用いたGnRH (LH-RH) テストの調節卵巣刺激への応用	筆頭演者	甲木 聡	第67回日本産科婦人科学会学術講演会	2015/4/11
12	2014年に経験した原因の異なる子宮破裂の4例	筆頭演者	松尾 聖子	第67回日本産科婦人科学会学術講演会	2015/4/12
13	標準治療としての子宮体癌腹腔鏡下手術：当院の成績と術式の検討	筆頭演者	吉田 光紗	第67回日本産科婦人科学会学術講演会	2015/4/12
14	導入期が重要!! ガイドラインと院内コンセンサス～腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がん)～ランチョンセミナー	筆頭演者	梅村 康太	第67回日本産科婦人科学会学術講演会	2015/4/12
15	常染色体劣性多嚢胞腎の出生前診断：同胞内再発の1例	筆頭演者	松尾 聖子	日本超音波医学会第88回学術集会	2015/5/22
16	当院における臍帯動脈pHが7.1未満であった症例の検討	筆頭演者	植草 良輔	第101回愛知産科婦人科学会学術講演会	2015/7/4
17	当科における帝王切開術後の静脈血栓塞栓症予防プロトコル	筆頭演者	北見 和久	第51回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会	2015/7/11
18	34週で子宮破裂に至った子宮筋腫核出術後妊婦の1例	筆頭演者	甲木 聡	第51回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会	2015/7/11
19	頸管裂傷後、子宮型羊水塞栓症を生じたと考えられた2例	筆頭演者	松川 哲	第51回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会	2015/7/11
20	子宮体部悪性腫瘍における大網転移症例の臨床病理学的検討	筆頭演者	河合 要介	第57回日本産婦人科腫瘍学会学術講演会	2015/8/7
21	放射線単独療法にて初回治療を行った子宮体癌8例の検討	筆頭演者	北見 和久	第57回日本産婦人科腫瘍学会学術講演会	2015/8/8
22	当科で経験したBenign Multicystic Mesotheliomaの3例	筆頭演者	藤田 啓	第57回日本産婦人科腫瘍学会学術講演会	2015/8/9
23	子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術の導入について ミニワークショップ	筆頭演者	梅村 康太	第57回日本産婦人科腫瘍学会学術講演会	2015/8/9
24	子宮頸癌に対する蛍光ICGによる腹腔鏡下センチネルリンパ節同定法	筆頭演者	梅村 康太	第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2015/9/10
25	当院における子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術の経験	筆頭演者	國島 温志	第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2015/9/10
26	安全な操作で解剖の理解にも役立つTLH手術	筆頭演者	松尾 聖子	第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2015/9/10
27	月経時に腸閉塞を繰り返し腹腔鏡下で卵巣子宮内膜症性嚢胞とともに一次的に切除しえた回腸子宮内膜症の一例	筆頭演者	池田 芳紀	第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2015/9/11

28	腹腔鏡下骨盤内リンパ節郭清のコツ	筆頭演者	北見 和久	第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2015/9/11
29	当院で経験した子宮型羊水塞栓症6例の症例検討	筆頭演者	矢吹 淳司	第36回日本妊娠高血圧学会学術集会	2015/9/12
30	当院におけるクリオプレシビータの使用状況	筆頭演者	岡田真由美	第36回日本妊娠高血圧学会学術集会	2015/9/12
31	当院における子宮体癌手術－若手医師への教育について－	筆頭演者	高野みずき	第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2015/9/12
32	エアシールの有用性についての検討	筆頭演者	北見 和久	第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2015/9/12
33	TLHにおける視野展開と手術操作のポイント	筆頭演者	梅村 康太	第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2015/9/12
34	全腹腔鏡下子宮全摘術を施行したEpithelioid trophoblastic tumor (ETT)の1例	筆頭演者	河合 要介	第102回愛知産科婦人科学会学術講演会	2015/10/3
35	新規癌関連抗原KIF20Aの卵巣癌における発現とペプチドカクテルワクチン療法への応用	筆頭演者	河合 要介	第53回日本癌治療学会学術集会	2015/10/29
36	経時的に変化する超音波画像所見により胎児診断し得た総排泄腔遺残症の一例	筆頭演者	池田 芳紀	第38回日本母体胎児医学会学術集会	2015/10/29
37	慢性早剥による重症肺障害が疑われる2例	筆頭演者	松尾 聖子	第38回日本母体胎児医学会学術集会	2015/10/30
38	当院における産褥搬送症例の現状	筆頭演者	岡田真由美	第38回日本母体胎児医学会学術集会	2015/10/30
39	4回の再発に対し同時化学放射線治療により寛解を得た子宮頸癌の1例	筆頭演者	植草 良輔	第53回日本癌治療学会学術集会	2015/10/30
40	子宮温存が可能であった子宮破裂の5例	筆頭演者	松尾 聖子	第38回日本産婦人科手術学会	2015/11/28
41	当院における腹腔鏡下仙骨腔固定術に関する短中期成績の報告	筆頭演者	甲木 聡	第38回日本産婦人科手術学会	2015/11/28
42	子宮頸癌に対する腹腔鏡下手術の導入とICGによる蛍光色素を利用したSLN同定法について	筆頭演者	梅村 康太	第38回日本産婦人科手術学会	2015/11/29
43	腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)におけるパワーデバイスの活用	筆頭演者	藤田 啓	第38回日本産婦人科手術学会	2015/11/29
44	全腹腔鏡下子宮摘出術における手術時間短縮の工夫(手術時間はどこまで短縮可能か?)	筆頭演者	河合 要介	第38回日本産婦人科手術学会	2015/11/29
45	当院における腹腔鏡下仙骨腔固定術(LSC)の治療成績	筆頭演者	植草 良輔	第28回日本内視鏡外科学会総会	2015/12/10
46	腹腔鏡下单純子宮全摘術における、Vessel Sealing Systemを用いた子宮傍組織処理の安全性と有用性の検討	筆頭演者	甲木 聡	第28回日本内視鏡外科学会総会	2015/12/10
47	当院における骨盤リンパ節郭清の工夫	筆頭演者	高野みずき	第28回日本内視鏡外科学会総会	2015/12/11
48	子宮頸癌治療における腹腔鏡下蛍光センチネルリンパ節ナビゲーションについて	筆頭演者	梅村 康太	第28回日本内視鏡外科学会総会	2015/12/11
49	当院における全腹腔鏡下子宮全摘術での尿管に対する各アプローチの検討	筆頭演者	矢吹 淳司	第28回日本内視鏡外科学会総会	2015/12/12

<産婦人科（生殖医療）>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	妊娠中に発症した特発性副腎出血の1例	筆頭演者	北見 和久	第135回東海産科婦人科学会	2015/2/22
2	一般不妊治療での多胎防止をめざす当施設6年間の成績と新規自己注射排卵誘発法の考案	筆頭演者	安藤 寿夫	第67回日本産科婦人科学会学術講演会	2015/4/12
3	単胚移植単胎分娩の周産期予後は新鮮胚と凍結胚で母児共に異なる	筆頭演者	矢野 友貴	第67回日本産科婦人科学会学術講演会	2015/4/12
4	新規指標を用いたGnRH(LH-RH)テストの調節卵巣刺激への応用	筆頭演者	甲木 聡	第67回日本産科婦人科学会学術講演会	2015/4/12
5	A Novel Factor in the Higher Birthweights of Neonates Conceived through Frozen Embryo Transfer	筆頭演者	Seiko Matsuo	IFFS/JSRM International Meeting 2015	2015/4/26
6	Presentation of Time-Lapse Video of the Transferred Embryo to the Subject by an Embryologist	筆頭演者	Noriko Suzuki	IFFS/JSRM International Meeting 2015	2015/4/26
7	Increased Severe Maternal Complications through Frozen Embryo Transfer	筆頭演者	Yuki Yano	IFFS/JSRM International Meeting 2015	2015/4/26
8	水分摂取自己制限が増悪要因となった卵巣過剰刺激症候群の1例	筆頭演者	矢吹 淳司	第14回日本不妊カウンセリング学会学術集会	2015/5/29
9	当院における精子凍結保存の現状と課題	筆頭演者	安藤 寿夫	第14回日本不妊カウンセリング学会学術集会	2015/5/29
10	がん生殖における当院の課題	筆頭演者	安藤 寿夫	第37回中部生殖医学会学術集会	2015/6/6
11	GnRH(LH-RH)負荷試験を用いて考案した指標の、GnRHアゴニストプロトコールへの応用	筆頭演者	甲木 聡	第18回日本IVF学会学術集会	2015/9/26
12	新鮮胚移植後生児を得た周期の余剰凍結胚での次子獲得予測の検討	筆頭演者	植草 良輔	第18回日本IVF学会学術集会	2015/9/26
13	当院における最近の難治性拳児希望子宮内膜症の2症例	筆頭演者	安藤 寿夫	第102回愛知産科婦人科学会学術講演会	2015/10/3
14	Mysterious missing link of placental-birth weights associated with fresh or frozen-thawed embryo transfer	筆頭演者	Yoshiki Ikeda	The 11th World Congress of the European Society of Gynecology	2015/10/22
15	Maternal risks at delivery linked to cryopreserved embryo transfer: a single institute retrospective study	筆頭演者	Hisao Ando	The 11th World Congress of the European Society of Gynecology	2015/10/22
16	Eight Monozygotic Twin Series of Various Types of Chorionicity and Amniosity after Single Embryo Transfer Based on the Time-Lapse Observation	筆頭演者	Hisao Ando	The 11th World Congress of the European Society of Gynecology	2015/10/22
17	Combination Method of Laparoscopic Sacrocolpopexy with an Anterior Mesh and Posterior Colpopelvicoplasty for Pelvic Organ Prolapse	筆頭演者	Yoshiki Ikeda	The 11th World Congress of the European Society of Gynecology	2015/10/22
18	凍結胚移植による出生児が大きくなる原因の検討	筆頭演者	松尾 聖子	第33回日本受精着床学会総会・学術講演会	2015/11/26
19	ヒト凍結精子による生殖医療	筆頭演者	安藤 寿夫	2015年度日本生殖工学会学術集会 シンポジウム	2015/12/13

<眼科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	未熟児網膜症遠隔診療システムの構築と使用経験	共同演者	白井正一郎	第71回日本弱視斜視学会総会/第40回日本小児眼科学会総会 合同学会	2015/7/3
2	ビタミンA欠乏症の治療後にinterdigitation zoneが回復した1例	筆頭演者	水野 友広	第69回日本臨床眼科学会	2015/10/23

<皮膚科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	女性陰部乳房外Paget病切除後の薄筋皮弁での再建	筆頭演者	山田 元人	第31回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会	2015/7/3
2	下口唇の有棘細胞癌に対してDPflapを用いて再建した一例	筆頭演者	榊原 倫子	第31回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会	2015/7/3

<泌尿器科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	3Dヘッドマウントディスプレイが拓く日本からの新泌尿器医療(シングルポート手術、3DTURなどへの応用)	筆頭演者	長井 辰哉	第103回日本泌尿器科学会総会	2015/4/18
2	豊橋市民病院における精巣腫瘍の臨床成績	筆頭演者	内藤 祐志	第103回日本泌尿器科学会総会	2015/4/18
3	当院におけるf-TUL導入初期治療成績の検討	筆頭演者	石塚 紀江	第103回日本泌尿器科学会総会	2015/4/18
4	当院におけるエンザルタミドの使用経験	筆頭演者	寺島 康浩	第103回日本泌尿器科学会総会	2015/4/19
5	豊橋市民病院における再発・難治性胚細胞腫瘍に対するTIN/VIP療法の臨床成績	筆頭演者	荒木 英盛	第103回日本泌尿器科学会総会	2015/4/19
6	豊橋市民病院におけるミニマム創腎部分切除術44例の検討 (R. E. N. A. Lスコア等の術前評価の有用性の検討)	筆頭演者	山本 晃之	第103回日本泌尿器科学会総会	2015/4/21
7	腎原発神経内分泌腫瘍の1例	筆頭演者	河野 悠	第269回日本泌尿器科学会東海地方会	2015/9/26
8	腎・尿管結石に対するsingle person TUL/fTULの初期治療成績	筆頭演者	小嶋 一平	第29回日本泌尿器内視鏡学会総会	2015/11/21
9	「ミニマム創手術-1000例の経験と未来への取組-」	筆頭演者	長井 辰哉	第8回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会学術集会	2015/12/20

<麻酔科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	橈骨動脈カニューレションを確実に、簡単にする方法。直線レーザーラインユニットと超音波ガイドを使う方法	筆頭演者	藤田 靖明	日本麻酔科学会第62回学術集会	2015/5/28

2	先天性QT延長症候群を合併した母子の全身麻酔経験	筆頭演者	片岡万紀子	日本麻酔科学会東海・北陸支部第13回学術集会	2015/9/5
3	冠動脈バイパス術が予定された患者の妊娠	筆頭演者	芝 朋加	日本臨床麻酔学会第35回大会	2015/10/22
4	Hallermann-Streiff症候群の全身麻酔の一例	筆頭演者	片岡万紀子	日本臨床麻酔学会第35回大会	2015/10/22
5	超音波ガイド下中心静脈穿刺：腋窩静脈穿刺の工夫	筆頭演者	稲生 光春	第43回日本歯科麻酔学会総会・学術集会	2015/10/31

<放射線科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	I 期声門癌に対する1回2.25Gyを用いた寡分割照射の多施設調査	共同演者	石原 俊一	第74回日本医学放射線学会総会	2015/4/17
2	放射線治療を施行した脳転移症例の予後	筆頭演者	石原 俊一	日本放射線腫瘍学会第28回学術大会	2015/11/20
3	Multicenter survey for T1 glottic cancer treated with 2.25Gy per fraction in clinical practice	共同演者	石原 俊一	日本放射線腫瘍学会第28回学術大会	2015/11/21

<歯科口腔外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	セツキシマブ併用療法が奏功した唾液腺管癌の治療経験	筆頭演者	寺沢 史誉	第33回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会	2015/1/30
2	舌癌治療後のルビエールリンパ節転移に対してセツキシマブが奏功した1例	筆頭演者	白水 敬昌	第33回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会	2015/1/30
3	豊橋市民病院における糖尿病患者の歯周病罹患・治療状況に関する実態調査-第2報:イベント参加者の口腔保健に対する意識調査-	筆頭演者	服部 晴吉	第69回NPO法人日本口腔科学会学術集会	2015/5/14
4	歯科医師会と連携した糖尿病啓発活動を通じて	共同演者	白水 敬昌	第58回日本糖尿病学会年次学術集会	2015/5/22
5	頸部リンパ節腫脹を契機に発見された下顎骨原発性骨内扁平上皮癌の1例	筆頭演者	白水 敬昌	第39回日本頭頸部癌学会 第4回アジア頭頸部癌学会	2015/6/5
6	受診後早期に診断し得た結核性リンパ節炎の1例	筆頭演者	足立 潤哉	第40回(公社)日本口腔外科学会中部支部学術集会	2015/6/13
7	下顎左側第二大臼歯、第三大臼歯の重積水平埋伏の1例	筆頭演者	内藤 裕嗣	第40回(公社)日本口腔外科学会中部支部学術集会	2015/6/13
8	当院での口腔扁平上皮癌における重複癌の検討	筆頭演者	足立 潤哉	第60回日本口腔外科学会総会・学術大会	2015/10/17
9	口腔癌の治療中に経動注カテーテル感染により発症した敗血症性肺塞栓症の1例	筆頭演者	寺沢 史誉	第64回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第62回日本化学療法学会東日本支部総合同学会	2015/10/22
10	薬剤関連顎骨壊死の急性転化により発症した敗血症性肺塞栓症の1例	筆頭演者	寺沢 史誉	第24回日本口腔感染症学会総会・学術大会	2015/11/29

研究会発表（医局）

<消化器内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	症例提示	筆頭演者	飛田恵美子	第29回岐阜肝画像研究会	2015/1/17
2	ソラフェニブによる薬剤性肺障害が疑われた1例	筆頭演者	山本 健太	第11回日本肝がん分子標的治療研究会	2015/1/31
3	Pancreatobiliary type IPMNの一例	筆頭演者	片岡 邦夫	第73回東海胆道研究会	2015/2/28
4	当院にてESDを施行した高齢者の早期胃癌の特徴	筆頭演者	山本 健太	第94回東三河消化器疾患研修会	2015/7/8
5	当院における潰瘍性大腸炎治療について	筆頭演者	山本 英子	第10回三河GI WORKSHOP	2015/7/16
6	当院における胃粘膜下腫瘍の診断と治療	筆頭演者	飛田恵美子	豊橋内科医会研修会	2015/7/23
7	問題症例検討会 3 診断 Case	筆頭演者	山本 健太	第51回日本肝癌研究会	2015/7/23
8	乳癌のびまん浸潤性肝転移により急性肝不全を呈した一例	筆頭演者	片岡 邦夫	第51回日本肝癌研究会	2015/7/24
9	主題1 肝：「脂肪成分を含む結節性病変の画像と病理」 炎症性肝細胞腺腫の一例	筆頭演者	内藤 岳人	第16回臨床消化器病研究会	2015/7/25
10	当院における小腸カプセル内視鏡の成績	筆頭演者	山本 和弘	第9回消化器の集い in 東三河	2015/7/28
11	症例検討会 症例5	筆頭演者	山本 健太	第14回肝病理よろず相談勉強会	2015/10/17
12	難治性腹水に対する当院での腹腔静脈シャント術について	筆頭演者	山本 和弘	東三河肝硬変治療フォーラム	2015/11/5
13	バニプレビルを用いた3剤併用療法早期中断したにもかかわらずウイルス学的著効が得られた慢性C型肝炎の1例	筆頭演者	南 喜之	第12回豊橋肝臓フォーラム	2015/11/18

<循環器内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	コメンテーター	筆頭演者	成瀬 賢伸	第22回豊橋ライブ研究会	2015/1/17
2	精神疾患合併重症PH患者へのアドシルカ投与について	筆頭演者	佐藤 文明	第1回東三河PHカンファレンス	2015/2/10
3	パネリスト	筆頭演者	成瀬 賢伸	心不全治療を考える 2015	2015/5/13
4	コメンテーター	筆頭演者	成瀬 賢伸	PICASSO seminar in Nagoya 28th	2015/5/23
5	コメンテーター	筆頭演者	成瀬 賢伸	豊橋ライブ 2015	2015/5/30
6	トルバプタンとECUM併用によりコントロールできた重症うっ血性心不全から考える	筆頭演者	佐藤 文明	第6回 心不全 利尿薬 勉強会	2015/6/30
7	冠れん縮性狭心症により心停止を来した3例の検討	筆頭演者	島津 修三	Cardiac Research Meeting	2015/10/7
8	コメンテーター	筆頭演者	成瀬 賢伸	PICASSO seminar in Nagoya 29th	2014/11/21

<腎臓内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	腎機能低下、腎不全症例に対する薬剤の使い方	筆頭演者	山川 大志	第4回豊橋市民病院 豊橋薬 薬連携研究会	2015/2/5
2	特別講演 保存期CKDにおける ダルベポエチンアルファの使用について	筆頭演者	山川 大志	東三河若手医師のための学術 セミナー	2015/7/2
3	慢性腎不全患者の高血圧治療	筆頭演者	山川 大志	東三河腎と感染症・膠原病研 究会	2015/9/25
4	Multi target therapyによりコン トロール可能となったループス腎 炎の1例	筆頭演者	龍華 章裕	東三河膠原病セミナー2015	2015/10/23

<糖尿病・内分泌内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	生活習慣病の定期服薬を考える －脂質改善剤の場合－	筆頭演者	山守 育雄	豊橋市薬剤師研修会	2015/10/15

<血液・腫瘍内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	weekly BD療法中に、肝多発腫瘍 を形成して再燃した一例	筆頭演者	渡邊 絢史	第12回東海骨髄腫フォーラム	2015/2/21
2	移植適応多発性骨髄腫患者におけ る新規薬剤を含んだ寛解導入療法 の移植成績への影響の検討	筆頭演者	奥野 真吾	第13回東海骨髄腫フォーラム	2015/9/19

<移植外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	高度な骨病変を来した二次性副甲 状腺機能亢進症の術後2年目にお いて、著大な骨所見改善がみられ た一例	筆頭演者	長坂 隆治	第23回八事PT x	2015/04/21
2	3DCT画像構築によりバスキュ ラーアクセス評価が有用であった 症例	筆頭演者	長坂 隆治	第31回腎移植・血管外科研究 会	2015/7/10

<整形外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	セメントマントルを残して二期的 再置換をおこなった人工関節深部 感染の一例	筆頭演者	山内 健一	第8回東海人工関節研究会	2015/1/31
2	金属 mesh を併用した impaction bone graft に螺子を追加した白蓋 再建方法	筆頭演者	山内 健一	第10回東海股関節外科研究会	2015/6/6

<リウマチ科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院におけるWeekly PTH製剤の使用経験	筆頭演者	磯野 正昌	第3回全三河リウマチ研究会	2015/3/14
2	関節リウマチ患者における潜在的結核感染スクリーニングとしてのT-SPOTとクオンティフェロン2G、3Gの比較検討	筆頭演者	平原 慎也	第3回全三河リウマチ研究会	2015/3/14
3	関節リウマチの骨粗鬆症に対するエルデカルシトールの長期臨床成績～2年継続例について～	筆頭演者	平野 裕司	第3回三河骨粗鬆症研究会	2015/3/21
4	関節リウマチにおけるゴリムマブの有効性予測因子～多施設研究データより～	筆頭演者	平野 裕司	第42回東三河リウマチ研究会	2015/5/16
5	関節リウマチにおけるMTX週16mg投与の有効性と安全性の解析	筆頭演者	平野 裕司	第36回リウマチセンター間連絡会	2015/7/11
6	関節リウマチにおけるMTX週16mg投与の有効性と安全性の解析	筆頭演者	平野 裕司	第3回愛知DMARDs研究会	2015/10/3
7	関節リウマチの骨粗鬆症に対するデノスマブの有効性予測因子～12ヶ月経過例での検討～	筆頭演者	平野 裕司	第4回三河骨粗鬆症研究会	2015/10/17

<脊椎外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	脊椎疾患の考え方	筆頭演者	吉原 永武	豊橋痛みの治療研究会	2015/10/29

<脳神経外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	Internal trapping後に再出血をきたした破裂椎骨動脈解離の1例	筆頭演者	原口 健一	第5回KNFC	2015/2/21
2	脊髄髄膜瘤患者の follow-up について	筆頭演者	雄山 博文	第54回中部脊髄外科ワークショップ	2015/3/14

<小児科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	肺動脈縮窄病変に姑息的ステント留置術を施行した単心室・肺動脈閉鎖症例の遠隔期フォンタン循環	筆頭演者	小山 智史	第21回日本小児肺循環研究会	2015/1/31
2	胃液から非結核性区参院が検出されたコッホ現象陽性の2例	筆頭演者	河邊 宏幸	第79回名市大小児科臨床集談会	2015/3/21
3	重症アトピー性皮膚炎とその社会的背景	筆頭演者	真島 久和	症例検討会&ミニレクチャー	2015/4/15
4	当院新生児医療センターにおけるダウン症児の死亡例の検討	筆頭演者	太田 隆徳	第24回東海新生児研究会	2015/11/14
5	ダウン症児の管理方法	筆頭演者	太田 隆徳	第1回名古屋市立大学新生児グループ勉強会	2015/12/19

<産婦人科・女性内視鏡外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	始めよう腹腔鏡下手術～第一歩からTLHまで	筆頭演者	梅村 康太	第3回東京低侵襲婦人科手術研究会	2015/2/21
2	尿管の同定方法 3方向からのアプローチ術	筆頭演者	高野みずき	第16回東海産婦人科内視鏡手術研究会	2015/10/10
3	婦人科悪性腫瘍手術に対する腹腔鏡下手術	筆頭演者	梅村 康太	第16回東海産婦人科内視鏡手術研究会	2015/10/10
4	当院における腹腔鏡下仙骨腔固定術の臨床成績の検討	筆頭演者	甲木 聡	第16回東海産婦人科内視鏡手術研究会	2015/10/10
5	全腹腔鏡下子宮摘出術における手術時間短縮のために必要なポイント～手術時間はどこまで短縮可能できるか?～ワークショップ	筆頭演者	河合 要介	第16回東海産婦人科内視鏡手術研究会	2015/10/10
6	インドシアニングリーンを用いた子宮悪性腫瘍に対する腹腔鏡下センチネルナビゲーション	筆頭演者	梅村 康太	第17回SNNS研究会学術集会	2015/11/14

<産婦人科(生殖医療)>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	Freeze-all回避をPriorityとする当院の胚移植方針	筆頭演者	安藤 寿夫	第15回産婦人科内分泌研究会	2015/7/18

<眼科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	診断に苦慮した角膜疾患の一例	筆頭演者	水野 友広	第17回東三河眼科研究会	2015/12/17

<放射線科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	他施設共同研究-I期声門癌の1回2.25Gyによる放射線治療の実態調査	共同演者	石原 俊一	第32回東海頭頸部腫瘍研究会	2015/2/14
2	膝の皮下に生じたグロムス腫瘍	筆頭演者	高田 章	第106回名古屋レントゲンカンファレンス	2015/12/12

座長・司会（医局）

<総合内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	消化管のがんのお話 豊橋市民病院消化器内科副部長 山本英子先生	鳥居 俊男	第61回豊橋市民病院健康教室	2015/3/14
2	肺がんについて 豊橋市民病院呼吸器内科部長 権田秀雄先生	鳥居 俊男	第62回豊橋市民病院健康教室	2015/9/5

<呼吸器内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	座長	権田 秀雄	H27年度第1回、院内感染対策講習会	2015/3/5
2	座長	権田 秀雄	H27年度第1回、院内感染対策講習会	2015/3/9
3	座長	権田 秀雄	Meet the Expert on Lung Cancer	2015/5/8
4	一般演題	権田 秀雄	第18回東海呼吸器真菌症研究会、第4回東海抗酸菌症研究会	2015/5/30
5	一般演題、特別講演	権田 秀雄	東三学術講演会	2015/6/6
6	座長	権田 秀雄	MERS対策講演会	2015/7/18
7	特別講演1	権田 秀雄	東三河DICセミナー	2015/8/29
8	座長	権田 秀雄	院内感染対策講習会	2015/9/10
9	座長	権田 秀雄	院内感染対策講習会	2015/9/11
10	症例提示	権田 秀雄	東海胸部疾患研究会	2015/9/18
11	座長	権田 秀雄	東三河呼吸器専門医の集い	2015/9/19
12	一般演題	権田 秀雄	第25回三河肺腫瘍研究会 (MPOG)	2015/11/6
13	司会	権田 秀雄	第50回豊橋がん診療フォーラム	2015/11/19
14	座長	権田 秀雄	第77回東三河呼吸器疾患研究会	2015/11/21
15	特別講演	権田 秀雄	第5回Asthma Expert Forum in 豊橋	2015/11/25

<消化器内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	座長 一般講演	浦野 文博	第13回名古屋Hepatitisセミナー	2015/1/30
2	座長 消化器5	内藤 岳人	第225回日本内科学会東海地方会例会	2015/2/22
3	討論者 第1セッション	松原 浩	第73回東海胆道研究会	2015/2/28
4	Chairperson Lecture1, Lecture2	浦野 文博	Nagoya Liver Meeting 2015	2015/3/16
5	座長 特別講演	藤田 基和	第46回豊橋がん診療フォーラム	2015/3/19
6	座長 特別講演	浦野 文博	第2回豊橋C型肝炎セミナー	2015/4/8
7	座長 特別講演1	浦野 文博	第9回知多・三河消化器病研究会	2015/6/24
8	司会	岡村 正造	Stop Sepsis Seminar 2015	2015/7/1
9	座長 一般演題、特別講演	山本 英子	第94回東三河消化器疾患研修会	2015/7/8

10	座長 講演Ⅱ	山田 雅弘	第2回消化器医師のための生活習慣病セミナー	2015/7/14
11	司会 レクチャー 2.胆嚢	松原 浩	第16回名古屋消化器レジデントセミナー	2015/9/5
12	座長 消化器(肝)・泌尿器	浦野 文博	日本超音波医学会第36回中部地方会	2015/9/6
13	座長 特別講演	浦野 文博	第3回豊橋C型肝炎セミナー	2015/10/14
14	座長 特別講演	浦野 文博	東三河肝硬変治療フォーラム	2015/11/5
15	座長 特別講演	浦野 文博	第12回豊橋肝臓フォーラム	2015/11/18
16	座長 一般講演	内藤 岳人	第12回豊橋肝臓フォーラム	2015/11/18
17	座長 肝臓①	内藤 岳人	日本消化器病学会東海支部第123回例会	2015/11/21
18	座長 小腸1	山田 雅弘	第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2015/12/5

<循環器内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	特別講演：独立行政法人 岡山医療センター 臨床研究部長 松原 広巳「心房細動による心原性脳塞栓症予防 新規経口抗凝固薬の役割」	成瀬 賢伸	第1回東三河PHカンファレンス	2015/2/10
2	講演①名古屋大学大学院医学系研究科血管外科学 教授 古森 公浩「静脈血栓症の診断と最近の治療」	成瀬 賢伸	東三河リクシアナ効能追加講演会	2015/2/16
3	特別講演：東北大学大学院医工学研究科分子病態医学分野 東北大学大学院医学系研究科病態液性制御学分野 教授 阿部 高明「CKDから腎を守る～降圧治療戦略～」	成瀬 賢伸	豊橋内科医会研修会	2015/3/12
4	アフタヌーンセミナー：東京海上日動メディカルサービス(株)取締役医療本部長 長野 展久「日常診療に必要なリスク管理～明日はわが身の医療事故～」	成瀬 賢伸	豊橋 Network Meeting	2015/5/26
5	モーニングセミナー：東京女子医科大学 重城 健太郎「Furosemide free の心不全急性期治療」	佐藤 文明	豊橋ライブ 2015	2015/5/30
6	藤田保健衛生大学医学部 腎内科学 助教 林 宏樹「水利尿薬トルパブタンによる体液管理～腎臓内科医の立場から～」	成瀬 賢伸	第6回 心不全 水利尿薬 勉強会	2015/6/30
7	特別講演：一般社団法人 遠賀中間医師会 おんが病院 循環器内科 部長 吉田 哲郎「ICTの有効活用とアジルサルタンの有効性について」	成瀬 賢伸	豊橋内科医会研修会	2015/7/23
8	名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学 教授 室原 豊明「手術前腹部大動脈瘤の拡大進展に与えるカルシウム拮抗薬とアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の効果比較」	成瀬 賢伸	Cardiac Research Meeting	2015/10/7
9	特別講演：産業医科大学医学部第一内科学講座 講師 岡田 洋右「2型糖尿病患者における脂質管理～血管内皮機能改善を目指した治療戦略～」	成瀬 賢伸	LA サミット	2015/10/27

<腎臓内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	CKD進展と評価	山川 大志	第60回日本透析医学会学術集会・総会	2015/6/26
2	座長	山川 大志	東三河若手医師のための学術セミナー	2015/7/2
3	座長	山川 大志	東三河腎と感染症・膠原病研究会	2015/9/25
4	特別講演	山川 大志	東三河膠原病セミナー2015	2015/10/23

<糖尿病・内分泌内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	一般口演 甲状腺	山守 育雄	第14回日本内分泌学会東海支部学術集会	2015/1/24
2	一般口演 その他の合併症	山守 育雄	第58回日本糖尿病学会年次学術総会	2015/5/22
3	座長	山守 育雄	Current Diabetes Symposium in Toyohashi	2015/6/18
4	座長	山守 育雄	受診中断対策セミナー	2015/7/2
5	座長	山守 育雄	第63回東三河内分泌疾患談話会	2015/7/4
6	座長	山守 育雄	第2回Diabetes Forum in東三河	2015/8/4
7	一般口演 糖代謝	山守 育雄	第15回日本内分泌学会東海支部学術集会	2015/9/26

<神経内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	明日から使えるてんかん診療のコツ	柰野 謙次	東三河てんかんセミナー	2015/3/6
2	老年医学からみた認知症治療	柰野 謙次	第30回神経内科認知症研究会	2015/6/11
3	心原性脳梗塞の発症予防と急性期再開通療法	柰野 謙次	第20回東三河脳卒中懇話会	2015/6/27

<血液・腫瘍内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	再発難治性多発性骨髄腫治療の考え方	杉浦 勇	International Symposium In Myeloma 2015 at NAGOYA	2015/6/30
2	座長	杉浦 勇	Stop Sepsis Seminar 2015	2015/7/1

<一般外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	研修医・医学生ポスターセッション「腹壁・ヘルニア・腹膜」	加藤 岳人	日本外科学会総会	2015/4/18
2	肝・胆	平松 和洋	東海外科	2015/4/29
3	肝臓	青葉 太郎	愛知臨床外科学会	2015/7/20

4	ロボット支援腹腔鏡下大腸手術	相場 利貞	医師会	2015/10/3
5	オピオイド：鎮痛薬の使い方(1)オピオイド	平松 和洋	第53回日本痛治療学会学術集会	2015/10/29
6	「面」と「線」で描く腹腔鏡下直腸前方切除術	相場 利貞	日本内視鏡外科学会総会	2015/12/10

<心臓外科・血管外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	一般演題	中山 雅人	第6回三遠心臓血管外科セミナー	2015/4/17

<肛門外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	一般演題(175)「大腸骨盤外科」	柴田 佳久	第115回日本外科学会定期学術集会	2015/4/17
2	一般演題(ミニオーラル)[P-100]一般演題(ミニオーラル)100:小腸癌・GIST	柴田 佳久	第70回日本消化器外科学会総会	2015/7/16

<移植外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	レシピエント②	長坂 隆治	第48回日本臨床腎移植学会	2015/2/5
2	バスキュラーアクセス-(2)	長坂 隆治	第31回腎移植・血管外科研究会	2015/7/10

<整形外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	金属meshを併用したimpaction bone graftに螺子を追加した臼蓋再建方法	山内 健一	第10回東海股関節外科研究会	2015/6/6

<リウマチ科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	関節リウマチ治療における薬物治療の実際～MTXからBioまで～(小嶋俊久先生)	平野 裕司	第6回 東三河アクテムラカンファレンス	2015/2/7
2	生物学的製剤を投与している関節リウマチ患者のインフルエンザワクチンの抗体価についての検討(石川尚人先生)	平原 慎也	RA Nurse Seminar	2015/3/7
3	生物学的製剤とテリパラチド連日投与製剤の併用が関節リウマチ患者の骨密度と骨代謝マーカーに及ぼす影響(竹本元大先生)	平野 裕司	第14回東海骨・関節疾患研究会	2015/3/19
4	関節リウマチの骨粗鬆症-IORRAコホートからの検討-(古谷武史先生)	平野 裕司	第3回三河骨粗鬆症研究会	2015/3/21
5	関節リウマチの治療目標を求めて(金物壽久先生)	平野 裕司	第3回三河Orthopaedic Rheumatology研究会	2015/6/27

6	主題 バイオ導入後のRA手術の変化 (小山賢介先生、浅井秀司先生、佐久間 陸友先生)	平野 裕司	第27回日本リウマチ学会中部支部 学術集会	2015/9/4
7	継続率からみたイグマチモドの有効性 と安全性について～ TBCR plus登録症 例における検討～(金山康秀先生)他	平野 裕司	第30回日本臨床リウマチ学会	2015/11/22
8	RA診療における関節エコーの有用性 とその実際 (松下功先生)	平野 裕司	第2回三河関節エコー研究会	2015/11/28

<脊椎外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	司会	吉原 永武	第9回NSG頰椎セミナー	2015/2/14
2	講演Ⅱ	吉原 永武	第28回東三河整形外科医会教育研 修講演会	2015/4/4
3	座長	吉原 永武	Pain Forum in 豊橋～痛み治療最 前線～	2015/10/30
4	司会	吉原 永武	第23回鶴舞脊椎脊髄カンファレン ス	2015/11/12

<小児科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	児童虐待における医療機関の役割	小山 典久	豊橋市民病院児童虐待講演会	2015/1/29
2	特別講演2	幸脇 正典	第175回東三河小児科医会学術講 演会	2015/2/28
3	特別講演②「一般診療に有用な遺伝学 の基礎知識」	幸脇 正典	第175回 東三河小児科医会学術 講演会	2015/2/28
4	特別講演	小山 典久	Asthma Expert Forum	2015/11/25
5	シンポジウム「ダウン症児の管理方法」	小山 典久	第1回名古屋市立大学新生児グル ープ勉強会	2015/12/19
6	特別講演	幸脇 正典	第1回名古屋市立大学新生児グル ープ勉強会	2015/12/19

<産婦人科・女性内視鏡外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	再発卵巣癌に対するアバスチンの治療 効果と安全性	河井 通泰	三遠地区 Ovarian Cancer Conference	2015/1/23
2	遺伝する婦人科がん～婦人科における 遺伝性腫瘍リスク評価およびその実践 のポイントを考える～	河井 通泰	第三回東三河産婦人科フォーラム	2015/6/27
3	一般演題(ポスター):Group244	岡田真由美	第51回日本周産期・新生児医学会 学術集会	2015/7/12
4	卵巣癌治療における分子標的薬の役割	河井 通泰	第2回Chugai Ovarian Cancer Seminar in MIKAWA	2015/7/17

<産婦人科（生殖医療）>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	個別化調節卵巣刺激のオリジナルアイデア～Update on Update～	河井 通泰	豊橋生殖医療 Update2015	2015/2/28
2	若年がん患者のがん治療と妊孕性について～岐阜県での取り組み～	河井 通泰	豊橋生殖医療 Update2015	2015/2/28
3	これからの生殖補助医療～Time-lapse 胚培養システムの将来性～	安藤 寿夫	豊橋生殖医療Update2015	2015/2/28
4	Oral Session2:Award Nominated Presentations 2	Hisao Ando	IFFS/JSRM International Meeting 2015	2015/4/26
5	シンポジウム：高品質胚生産のための体外培養系の確立に向けて	安藤 寿夫	第60回日本生殖医学会学術講演会	2015/4/27
6	「がんと生殖」の連携と協働を考える	安藤 寿夫	第14回日本不妊カウンセリング学会学術集会	2015/5/29
7	多嚢胞性卵巣症候群に対する治療戦略～手術療法と体外受精・胚移植を中心にして	安藤 寿夫	第三回東三河産婦人科フォーラム	2015/6/27

<泌尿器科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	前立腺全摘除	長井 辰哉	第8回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会学術集会	2015/12/19

<麻酔科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	筋弛緩薬の遷延	寺本 友三	三河麻酔フォーラム	2015/11/20

<歯科口腔外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	一般演題	嘉悦 淳男	第40回日本口腔外科学会中部支部学術大会	2015/6/13

講 演 (医局)

<呼吸器内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	肺がんについて	権田 秀雄	第62回健康教室	2015/9/5

<消化器内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	(難治性) 肝性腹水の治療をめぐる最近の話題	内藤 岳人	東三学術講演会	2015/1/21
2	レクチャー 2. 胃・十二指腸	山本 英子	第15回名古屋消化器レジデントセミナー	2015/3/7
3	特別講演 2 X線診断からIBD治療に至る歩みの中で	岡村 正造	第9回知多・三河消化器病研究会	2015/6/24
4	肝硬変診療ならびに治療における最近の話題	内藤 岳人	肝硬変医療連携の会	2015/11/2
5	当院におけるトルバプタン導入クリニカルパスについて	山本 健太	肝硬変医療連携の会	2015/11/2

<腎臓内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	腎性貧血治療について	山川 大志	第1回研修医のための腎セミナー	2015/1/30
2	東三河地区災害ネットワークの活動について	山川 大志	東三河地区透析災害対策ネットワーク講演会	2015/3/5
3	ADPKDの最新治療について	山川 大志	豊橋透析セミナー	2015/3/19
4	当院におけるHBワクチン接種の現状	山川 大志	第18回三河透析懇話会	2015/8/1
5	当院におけるADPKDに対するサムスカ使用経験からわかること	山川 大志	豊橋ADPKD講演会	2015/12/2

<糖尿病・内分泌内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	4月から始まる東三医学会糖尿病勉強会の目指すもの	山守 育雄	第10回東三河DMフォーラム	2015/2/10
2	低血糖を避けるために -SU薬のやめ方、減らし方-	山守 育雄	東三学術講演会	2015/4/1
3	SGLT 2 阻害薬を生かす食事療法	山守 育雄	豊橋内科医会	2015/6/25
4	オープニングレクチャー	山守 育雄	三河内分泌糖尿病研究会	2015/6/27
5	糖尿病食事療法 最近の話題	山守 育雄	東三学術講演会	2015/7/29
6	オープニングレクチャー	山守 育雄	糖尿病治療について考える会	2015/8/6
7	クロージングレクチャー	山守 育雄	東三河糖尿病講演会	2015/9/3
8	糖尿病の現状を踏まえた療養指導の展望	山守 育雄	「穂の国」スキルアップセミナー	2015/12/2
9	一般医のためのインスリンの使い方	山守 育雄	蒲郡若手会	2015/12/17

<神経内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	脊髄小脳変性症と多系統萎縮症のはなし	空野 謙次	あゆみの会講演会	2015/9/25

<血液・腫瘍内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	Ph + ALL の新たな治療戦略	杉浦 勇	第7回西東京血液セミナー	2015/2/6
2	IMWG診断基準 updateに関して	原田 靖彦	第12回東海骨髄腫フォーラム	2015/2/21
3	治療抵抗性Hodgkinリンパ腫に対し、アドセトリス併用化学療法にて自家移植を目指している一例	原田 靖彦	第42回名古屋血液レジデントカンファレンス	2015/3/20
4	ソリリスを使用したPNHの一例	原田 靖彦	第29回三河血液疾患診療ネットワーク	2015/5/22

<移植外科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	感染症に対する心構え	長坂 隆治	第101回移植セミナー	2015/3/22
2	臓器提供症例報告	長坂 隆治	第41回愛知県施設内移植情報担当者会議	2015/06/12
3	院内コーディネーターとしてこれまでの経験	長坂 隆治	臓器提供院内講演会（岡崎市民病院）	2015/08/24

<リウマチ科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	整形外科リウマチ専門医が考える関節リウマチ診療における治療タイミング	平野 裕司	第96回岐阜県整形外科集団会	2015/1/31
2	骨粗鬆症治療におけるデノスマブの可能性	平野 裕司	豊橋骨粗鬆症治療研究会	2015/2/14
3	米国リウマチ学会からの最新情報とシンボニー有効性の予測因子について	平野 裕司	RA病診連携セミナー	2015/2/19
4	生物学的製剤治療における、MTXの最適な使用方法について	平野 裕司	EFFORT Consortium 2015	2015/2/21
5	抗TNF製剤の臨床的パフォーマンス	平野 裕司	高知県整形外科医会学術講演会	2015/2/26
6	整形外科リウマチ専門医が考える関節リウマチを中心としたRheumatology	平野 裕司	第3回全三河リウマチ研究会	2015/3/14
7	リウマチ患者さんに知っておいて欲しい事～安心で快適な生活をするために～	平原 慎也	第53回豊橋市民病院リウマチ講演会	2015/3/20
8	ゴリムマブのPerformanceとPrediction	平野 裕司	Golimumab Expert Seminar	2015/4/11
9	生物学的製剤治療におけるMTXの最適な使用方法について	平野 裕司	東北BIOリスクマネジメント研究会～生物学的製剤を安全に使うために～	2015/5/9
10	整形外科リウマチ専門医が考える関節リウマチを中心としたRheumatology	平野 裕司	2015年岡山リウマチラボ・セミナー	2015/5/21
11	臨床データから考えるトシリズマブ有効利用マニュアル	平野 裕司	静岡IL-6研究会	2015/5/29

12	当科におけるトファチニブ使用経験	平野 裕司	ゼルヤンツカレッジ in Tokyo- How to use in clinical site-	2015/5/30
13	関節リウマチと診断してメトトレキサートを処方するまでの簡易マニュアル	平野 裕司	リウマチ学の門をたたく会～リウマチのは良くなる病気です～	2015/6/6
14	関節リウマチ診療における看護師の役割	平野 裕司	看護師のための関節リウマチセミナー	2015/6/17
15	現代のリウマチ治療の課題について	平野 裕司	第7回中村・中川関節リウマチ研究会	2015/6/18
16	骨粗鬆症診療 Update	平野 裕司	生涯教育研修会	2015/6/19
17	関節リウマチにおけるイグマチモドの有用性－全例調査中間報告と多施設研究データの紹介－	平野 裕司	DMARDsを語る会in東海	2015/6/20
18	関節リウマチの重要な合併症－骨粗鬆症について－	平野 裕司	第12回市民公開講座	2015/6/21
19	関節リウマチにおける2年間のアバタセプト治療の成績/関節リウマチにおけるロコモティブ症候群	平野 裕司	ESCORT East mikawa Abatacept for Rheumatoid Treatment Seminar	2015/6/26
20	関節リウマチの診断～関節エコーの役割を含めて～	平野 裕司	岐阜RA Young Academy	2015/7/3
21	関節リウマチの骨粗鬆症にフォルテオを使用する際のClinical Questions	平野 裕司	FORTEO National Web Conference	2015/7/16
22	整形外科リウマチ専門医が考える関節リウマチを中心としたRheumatology	平野 裕司	第27回長野リウマチ勉強会講演会	2015/7/18
23	健康日本21の中心課題としてのロコモティブシンドローム	平野 裕司	濱松一中・浜松北高同窓会総会	2015/7/25
24	整形外科リウマチ専門医が考える関節リウマチを中心としたRheumatology	平野 裕司	豊橋市薬剤師会研修会	2015/8/20
25	ゴリムマブのPerformanceとPrediction	平野 裕司	RA Best Treatment Meeting in HYOGO	2015/9/26
26	抗TNF製剤の臨床的パフォーマンス	平野 裕司	第4回川口関節の治療を考える会	2015/10/23
27	骨粗鬆症や肺障害などの合併症を考慮した現代の関節リウマチ治療	平野 裕司	第6回旭川Tcellセミナー	2015/10/29
28	関節リウマチにおけるゴリムマブのPerformanceとPrediction	平野 裕司	第43回日本関節病学会ランチョンセミナー1	2015/11/5
29	多施設研究の臨床データから考える関節リウマチ薬物治療におけるMTXとアダリムマブの効果的な使用法	平野 裕司	第130回西日本整形外科・災害外科学会ランチョンセミナー	2015/11/14
30	骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン2015年版のポイントとSERMの役割	平野 裕司	女性のミカタフォーラム	2015/11/17
31	実臨床から考えるメトトレキサートとトシリズマブの併用療法のベストユース	平野 裕司	第30回日本臨床リウマチ学会イブニングセミナー3	2015/11/21
32	臨床データから考えるトシリズマブ有効利用マニュアル	平野 裕司	岐阜IL-6阻害療法研究会2015	2015/11/26
33	臨床データから考えるトシリズマブ有効利用マニュアル	平野 裕司	東濃リウマチ薬物治療研究会	2015/12/3
34	関節リウマチ診療の最新の動向	平野 裕司	愛知県病院薬剤師会学術講演会	2015/12/8
35	関節リウマチ診療の最新の動向	平野 裕司	薬剤師のためのリウマチセミナー	2015/12/10

<脊椎外科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	脊椎疾患の痛み～この痛み、どうすればいいの？～	吉原 永武	第8回(2015年度)NSG市民公開講座～背骨のことを学びましょう～	2015/3/14
2	脊椎疾患の診かた・考え方	吉原 永武	愛知県病院薬剤師会東三河支部学術講演会	2015/12/17

<脳神経外科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	血管がボロボロにならないようにするには	雄山 博文	第8回豊橋脳卒中市民講座	2015/11/15

<小児科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	児童虐待対応における医療機関の役割	小山 典久	江南厚生病院こどもの虐待対応研修会	2015/2/7
2	児童虐待対応における医療機関の役割	小山 典久	聖隷三方原院内虐待防止委員会講演会	2015/3/5

<産婦人科・女性内視鏡外科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	初発または再発卵巣癌におけるアバスチン投与対象について	池田 芳紀	三遠地区Ovarian Cancer Conference	2015/1/23
2	子宮体がん・子宮がんにおける腹腔鏡下手術	梅村 康太	静岡産婦人科腹腔鏡セミナー	2015/4/25
3	子宮悪性腫瘍手術における蛍光センチネルナビゲーションの未来～子宮体がん手術手技と共に～	梅村 康太	2015産婦人科手術手技勉強会～腹腔鏡の達人に学ぶ～	2015/8/29
4	Video Conference	梅村 康太	2015産婦人科手術手技勉強会～腹腔鏡の達人に学ぶ～	2015/8/29
5	骨盤内視鏡外科	梅村 康太	第2回東海骨盤内視鏡外科を学ぶ会	2015/10/17
6	周産期センターの現況及び病診連携 周産期センターの稼働状況	岡田真由美	平成27年度公的病院長ならびに産婦人科部長と本会役員との懇談会	2015/11/28

<産婦人科(生殖医療)>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	個別化調節卵巣刺激のオリジナルアイデア～Update on Update～	安藤 寿夫	豊橋生殖医療Update2015	2015/2/28
2	豊橋市民病院のめざす生殖医療	安藤 寿夫	第13回岐阜ARTセミナー	2015/7/11

<放射線科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	骨転移に対する放射線療法	石原 俊一	平成26年度 骨メタ公開カンファレンス	2015/2/26

<歯科口腔外科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	チーム医療における口腔機能管理の実践	寺沢 史誉	第114回NST定期教育講演会	2015/2/25
2	オーラルマネジメント その意義と重要性について－超高齢社会に求められる医療の観点から－	寺沢 史誉	第10回NST教育研修会	2015/6/3
3	糖尿病内分泌内科/豊橋市医師会と連携した糖尿病と歯周病に対する啓蒙活動@豊橋市民病院	白水 敬昌	第29回東海糖尿病治療研究会 糖尿病患者教育担当者セミナー	2015/9/6

論文・著書 (医局)

<消化器内科>

No.	題 名	区分	氏名	著 書 名
1	健診における腹部超音波検査で発見された膵SPNの1例	筆頭著者	松原 浩	日消がん検診誌. 2015; 53: 52-59.
2	検診の二次精査として超音波内視鏡検査が有用であった膵癌の2例	筆頭著者	松原 浩	日消がん検診誌. 2015; 53: 639-645.

<循環器内科>

No.	題 名	区分	氏名	著 書 名
1	Assessment of respiratory disturbance index determined with a non-restrictive monitor and of autonomic nervous system parameters in heart failure patients: a pilot study	筆頭著者	島津 修三	J Cardiol. 2015; 66: 218-223.

<糖尿病・内分泌内科>

No.	題 名	区分	氏名	著 書 名
1	生涯教育のためのセルフトレーニング問題と解説第3集	筆頭著者 (総説)	山守 育雄	一般社団法人日本内科学会 専門医部会編. 2015, p.68-70,72,283-285,289,291,295.
2	2型糖尿病患者の自己管理継続を目的とした家族同席の面接による家族介入プログラム試案の作成と評価	共同著者 (原著論文)	山守 育雄	日糖尿教看会誌. 2015; 19: 15-23.

<血液・腫瘍内科>

No.	題 名	区分	氏名	著 書 名
1	移植適応Ph陽性ALLに対する至適な寛解導入療法・地固め療法は?	筆頭著者	杉浦 勇	白血病診療Q&A 一つ上に行く診療の実践. 2015, p.181.
2	Ph陽性ALLに対する移植後のTKI投与は?	筆頭著者	杉浦 勇	白血病診療Q&A 一つ上に行く診療の実践. 2015, p.184.
3	Ph染色体陽性急性リンパ性白血病	筆頭著者	杉浦 勇	血液専門医テキスト 改訂第2版. 2015, p.285.
4	フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病	筆頭著者	杉浦 勇	内科. 2015; 116: 231.
5	Phase I dose-escalation study of cyclophosphamide combined with bortezomib and dexamethasone in Japanese patients with relapsed and/or refractory multiple myeloma	筆頭著者	Sugiura Isamu	Int J Hematol. 2015; 102: 434-440.
6	Monitoring of Hepatitis B Virus (HBV) DNA and Risk of HBV Reactivation in B-Cell Lymphoma:A Prospective Observational Study	共同著者	Sugiura Isamu	Clin. Infect. Dis. 2015; 61: 719-729.
7	Cervical epidural hematoma in a healthy donor presenting stroke mimic symptoms: a rare adverse event following peripheral blood stem cell apheresis	筆頭著者	Terabe Satomi	Jpn J Clin Oncol. 2015; 45: 584-587.

8	t(14;16)-positive multiple myeloma shows negativity for CD56 expression and unfavorable outcome even in the era of novel drugs	共同著者	Sugiura Isamu	Blood Cancer J. 2015; 5: e285.
9	Increased T-cell responses to Epstein-Barr virus with high viral load in patients with Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma	共同著者	Sugiura Isamu	Leuk Lymphoma. 2015; 56: 1072-1078.

<一般外科>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	直腸癌術後に発症した消化管外アニサキス症の1例	筆頭著者	石井 健太	日臨外会誌. 2015; 76: 1103-1109.
2	直腸癌が併存した肝原発悪性リンパ腫の1例	筆頭著者	南 貴之	日臨外会誌. 2015; 76: 1130-1136.
3	胆嚢内に広範な粘膜内癌を伴った早期胆嚢管癌の1例	筆頭著者	前田 孝	胆道. 2015; 29: 261-265.
4	術前診断に難渋した胆管周囲嚢胞の1切除例	筆頭著者	青葉 太郎	胆道. 2015; 29: 266-270.
5	胃癌胃全摘後の吻合部再発に対し化学療法後再切除術を施行した2例	筆頭著者	篠原健太郎	日消外会誌. 2015; 48: 669-676.
6	虫垂腺腫による虫垂重積を先進部とした盲腸結腸型腸重積の1例	筆頭著者	三竹 泰弘	臨外2015. 2015; 70: 1167-1171.
7	上行結腸原発扁平上皮癌の2切除例	筆頭著者	石井 健太	日消外会誌. 2015; 48: 798-807.
8	Stage II 大腸癌の術後補助化学療法で重篤な副作用を呈したDPD活性低下の1例	筆頭著者	三竹 泰弘	日臨外会誌. 2015; 76: 2247-2251.
9	複数の所属リンパ節に子宮内膜組織の進展を認めた上行結腸子宮内膜症の1例	筆頭著者	和田 幸也	日臨外会誌. 2015; 76: 3023-3028.
10	甲状腺平滑筋肉腫術後再発に対して化学療法が奏功した1例	筆頭著者	高橋大五郎	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌. 2015; 32: 141-147.
11	膵ガストリノーマの術前診断で膵頭十二指腸切除を施行したリンパ節原発ガストリノーマの1例	筆頭著者	篠原健太郎	外科. 2015; 366-370.

<呼吸器外科>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	上縦隔に発生した甲状腺乳頭状腺癌の1例	筆頭著者	直海 晃	肺癌. 2015; 55: 98-101.
2	散弾銃による胸腹部ならびに四肢損傷	筆頭著者	直海 晃	胸外. 2015; 68: 98-101.
3	頭皮血管肉腫肺転移による気胸の1例	筆頭著者	直海 晃	胸外. 2015; 68: 551-555.

<肛門外科>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	稀な巨大会陰Angiomyofibroblastomaの1例	筆頭著者	柴田 佳久	日本大腸肛門病学誌. 2015; 68: 413-418.

<移植外科>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	当院におけるNBC災害訓練の取組	共同著者	長坂 隆治	日集団災医会誌. 2015; 20: 71-75.

<リウマチ科>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	関節リウマチ患者に対する人口膝関節置換術の効果の分析－局所的効果、全身的疾患活動性、生活の質への影響の比較－	筆頭著者	岡田 貴士	日関病会誌. 2015; 34: 45-50.
2	関節リウマチにおける継続率からみたBIOの長期予後の検討	筆頭著者	平野 裕司	中部リウマチ. 2015; 45: 7-10.
3	妊娠後の関節リウマチ患者にセリトリズマブ・ペゴルを投与した一例	筆頭著者	宮入 祐一	中部リウマチ. 2015; 45: 34-36.

<脳神経外科>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	VPシャントに伴う腹腔内髄液仮性嚢胞の1例	筆頭著者	若林 健一	小児の脳神. 2015; 39: 368-369.

<小児科>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	長期ラズベリーリーフティーを飲用していた母体より出生した動脈管早期収縮の1例	共同著者	真島 久和	日周産期・新生児会誌. 2015; 50: 1341-1345.
2	Hypoxic ischemic encephalopathy in a case of intranuclear rod myopathy without any prenatal sentinel event	共同著者	Sugimoto Mari	Brain Dev. 2014; 37: 265-269.
3	Nemaline myopathy with KLHL40 mutation presenting as congenital totally locked-in state.	共同著者	Sugimoto Mari	Brain Dev. 2015; 37: 887-890.
4	当院における超低出生体重児の遷延性の黄疸に対する検討	筆頭著者	山田 崇春	日周産期・新生児会誌. 2015; 50: 1341-1345.
5	当院における18トリソミーの超低出生体重児の臨床像と予後に関する検討	筆頭著者	山田 崇春	日周産期・新生児会誌. 2015; 51: 952-954.
6	RhD(-)母への質問で「何回目の“お産”ですか」と聞くべからず	筆頭著者	小山 典久	周産期医. 2015; 45: 560-561.
7	交換輸血時は高カリウム血症を忘れるべからず	筆頭著者	小山 典久	周産期医. 2015; 45: 761-764.
8	軽微な外傷に伴う脊髓梗塞と考えられた1例	共同著者	中村 勇治	日小児科会雑誌. 2015; 119: 1006-1011.
9	出生時ヘモグロビン4g/dLの正期産児の目標ヘモグロビンとヘモグロビンの補正方法をどうするか?	筆頭著者	小山 典久	周産期医. 2015; 45: 325-329.
10	ネフローゼ症候群に多発静脈血栓症・腸管壊死を併発し救命できなかった4歳男児	共同著者	田中 一樹	日小児会誌. 2015; 28: 151-157.

11	Clinical, biochemical and metabolic characterisation of a mild form of human short-chain enoyl-CoA hydratase deficiency: significance of increased N-acetyl-S-(2-carboxypropyl)cysteine excretion.	共同著者	Aiba Kaori	J. Med. Genet. 2015; 52: 691-698.
12	A novel mutation Ser344Cys in FGFR3 causes achondroplasia with severe platyspondyly.	共同著者	Kouwaki Masanori	Am. J. Med. Genet. A. 2015; 167A: 2851-2854.

<産婦人科・女性内視鏡外科>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	Prognostic value of histological type in stage IV ovarian carcinoma: a retrospective analysis of 223 patients	共同著者	Kawai Michiyasu	Br. J. Cancer. 2015; 112: 1376-1383.
2	子宮頸癌IIB期に対する同時化学放射線療法の治療成績	筆頭著者	池田 芳紀	産と婦. 2015; 97: 563-568.
3	当院における自然妊娠および不妊治療による双胎妊娠の比較検討	筆頭著者	吉田 光紗	産婦の実際. 2015; 64: 717-721.
4	当院における転移性卵巣がん27例の臨床的検討	筆頭著者	伴野 千尋	産と婦. 2015; 85: 923-929.
5	「きらきら光るギネ女、ギネメン」ギネナビ〜ワーク・ライフ・バランスを応援します〜	共同著者	梅村 康太	日産婦会誌. 2015; 67: 2192-2198.
6	自己判断での水分摂取自己制限後に卵巣過剰刺激症候群が増悪して入院となった1例－文献的考察を加えて－	筆頭著者	矢吹 淳司	日不妊カウンセリング会誌. 2015; 14: 185-189.
7	子宮頸癌手術におけるインドシアニンググリーンを用いた蛍光色素による腹腔鏡下センチネルリンパ節同定法	筆頭著者	梅村 康太	日産婦内視鏡会誌. 2015; 31: 155-160.
8	細径鉗子を使用した腹腔鏡下子宮全摘術	筆頭著者	吉田 光紗	東海産婦人科内視鏡手術研究会雑誌. 2015; 3: 51-55.
9	当院における腹腔鏡下仙骨脛固定術の導入と短期成績の検討	筆頭著者	甲木 聡	東海産婦人科内視鏡手術研究会雑誌. 2015; 3: 79-83.
10	Mayo criteriaを用いて低リスク子宮体癌を鑑別することの有用性の検討	筆頭著者	矢吹 淳司	日本婦人科腫瘍学会雑誌. 2015; 33: 36-41.
11	子宮頸癌における広汎子宮全摘術の臨床的検討	筆頭著者	河井 通泰	東海産婦会誌. 2015; 52: 165-169.

<産婦人科（生殖医療）>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	早発閉経、早発卵巣不全	著者 分担執筆	安藤 寿夫	今日の治療指針 2016 私はこう治療している TODAY'S THERAPY. 2015, p.1301-1302.
2	自己判断での水分摂取自己制限後に卵巣過剰刺激症候群が増悪して入院となった1例－文献的考察を加えて－	筆頭著者	矢吹 淳司	日不妊カウンセリング会誌. 2015; 14: 185-189.

<放射線科>

No.	題 名	区分	氏名	著 書 名
1	Solitary Fibrous Tumors in the Extremities:Imaging Findings for Six Patients	共同著者	Takada Akira	Nagoya J Med Sci. 2015; 77: 167-178.
2	A case of undifferentiated carcinoma of the pancreas mimicking main-duct intraductal papillary mucinous neoplasm (IPMN)	共同著者	Nakamichi Rei	Abdom Imaging. 2015; 40: 466-470.

<歯科口腔外科>

No.	題 名	区分	氏名	著 書 名
1	A Case of osteomyelitis of the mandibular condyle accompanied by abscess formation in the masticator space and destruction of the cortical bone	筆頭著者	Shirozu Takamasa	Hosp. Dent. Oral-Maxillofac. Surg. 2014; 26: 105-107.
2	Total necrosis of the tongue after transcatheter arterial embolization (TAE) in massive hemorrhage due to carcinoma of the floor of the mouth	筆頭著者	Shirozu Takamasa	Hosp. Dent. Oral-Maxillofac. Surg. 2014; 26: 109-112.
3	緩和ケアを行った胃消化管間葉系腫瘍 (GIST) と同時重複した進行口底癌の 1 例	筆頭著者	白水 敬昌	Hosp. Dent. Oral-Maxillofac. Surg. 2014; 26: 125-131.
4	梅毒患者報告数増加続く	筆頭著者	嘉悦 淳男	News Letter. 2015; 26: 1.
5	ビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死の腐骨除去術後に開放創により治癒し得た 1 例	筆頭著者	寺沢 史誉	歯薬物療. 2015; 34: 118-125.

学会・研究会発表（診療技術局・薬局・看護局・事務局）

<放射線技術室>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院の救急CTにおける頭部CT撮影法の検討	筆頭演者	盛田 健人	東三河診療放射線技師会総会	2015/4/25
2	腹部超音波検査にて診断し得た妊婦の腎動静脈瘤の一例	筆頭演者	佐野めぐみ	日本超音波医学会第36回中部地方会	2015/9/6
3	胆嚢捻転症の一例	筆頭演者	木浦 伸行	日本超音波医学会第36回中部地方会	2015/9/6
4	骨SPECT評価用ファントムの作製に関する検討	筆頭演者	市川 肇	第35回日本核医学技術学会総会学術大会	2015/11/6
5	大腸CTにおけるデュアルエネルギー撮影の有用性 金属アーチファクトの低減	筆頭演者	澤根 康裕	第54回全国病院自治体学会	2016/10/8
6	小線源治療における吸収線量の評価	筆頭演者	加藤 貴昭	東三河放射線技師会総会	2016/1/23
7	血管撮影の線量測定	筆頭演者	山本 弘樹	東三河診療放射線技師会総会・研究発表	2016/1/23
8	当院における脊椎機能撮影	筆頭演者	高畑 春香	東三河CT研究会	2016/3/12

<中央臨床検査室>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	イムノクロマト法による尿中レジオネラ抗原検出試薬の有用性について	筆頭演者	山口 育男	第64回日本医学検査学会	2015/5/16
2	歯科医師会と連携した糖尿病啓発活動を通じて	筆頭演者	濱田 智博	第58回日本糖尿病学会年次学術集会	2015/5/22
3	当院において <i>Acanthamoeba</i> spp. が検出された角膜炎2症例	筆頭演者	木下 育哉	第16回愛知県医学検査学会	2015/5/31
4	測定方法が異なる血中intact-PTHの検討	筆頭演者	小島 克枝	第16回愛知県医学検査学会	2015/5/31
5	当院におけるEGFR遺伝子変異検査の院内導入への試み	筆頭演者	榊原 沙知	第16回愛知県医学検査学会	2015/5/31
6	当院における妊娠糖尿病(GDM)の検討	筆頭演者	手嶋 充善	第16回愛知県医学検査学会	2015/5/31
7	当院の関節超音波の現状	筆頭演者	皆元 裕子	第16回愛知県医学検査学会	2015/5/31
8	産科危機的出血にクリオプレシピテートを使用した3例	筆頭演者	矢吹彩也花	第16回愛知県医学検査学会	2015/5/31
9	ワークショップ1：体腔液、病理検査からのアプローチ	筆頭演者	内田 一豊	第16回検査血液学会学術集会	2015/07/11 ～12
10	当院におけるEGFR遺伝子変異検査の院内導入への試み	筆頭演者	榊原 沙知	第54回全国自治体病院学会	2015/10/8
11	診断未確定の外来関節炎患者における関節エコーの検討 ～GSスコアとPDスコアを用いて～	筆頭演者	皆元 裕子	第2回三河関節エコー研究会	2015/11/28
12	迷えるあなたの道標～欠如しがちな「躰」「教育」「評価」を考える～	共同演者	山口 育男	第27回日本臨床微生物学会総会・学術集会	2016/1/29
13	診断未確定の外来関節炎患者における関節エコーの検討 ～GSスコアとPDスコアを用いて～	筆頭演者	皆元 裕子	第45回東三河リウマチ研究会	2016/3/26

<リハビリテーション技術局>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	Effects of a custom-made hinged knee brace with an assist function for patients with acute stroke.	筆頭演者	内藤 善規	World Confederation for Physical Therapy Congress 2015	2015/5/3
2	A new approach to gait disorder using a custom-made hinged knee brace in acute stroke patients with mild hemiplegia.	筆頭演者	神谷 昌孝	World Confederation for Physical Therapy Congress 2015	2015/5/4
3	当院に通院する言語発達遅滞児の語いと文の理解の関係	筆頭演者	中尾 和泉	第10回愛知県言語聴覚士会学術集会	2015/6/7
4	人工股関節全置換術後の在院日数に影響を及ぼす因子の検討	筆頭演者	森坂 文子	第50回日本理学療法学会学術大会	2015/6/7
5	異なるプログラムによる末梢性顔面神経麻痺に対する早期リハビリテーションの効果 - FaCE Scale による比較 -	筆頭演者	森嶋 直人	第38回日本顔面神経学会	2015/6/12
6	脳卒中急性期における重度失語症に対する Visual Action Therapy の経験	筆頭演者	大久保瑞姫	第16回日本言語聴覚士学会	2015/6/26
7	再生不良性貧血の治療中にADL低下を呈し自宅退院となるまでに難渋した症例の理学療法	筆頭演者	村田奈緒子	第31回東海北陸理学療法学会学術大会	2015/10/3
8	体位ドレナージ、早期モビライゼーションが有効であった肺炎球菌肺炎に伴う肺膿瘍の一症例	筆頭演者	谷 拓也	第31回東海北陸理学療法学会学術大会	2015/10/3
9	当院職員における腰痛・頸肩腕痛実態調査からみた腰痛予防とその対策について	筆頭演者	上村 晃寛	第31回東海北陸理学療法学会学術大会	2015/10/4
10	当院における無喉頭音声リハビリテーション依頼の変化について	筆頭演者	山本 実	第54回全国自治体病院学会	2015/10/8
11	異なるプログラムによる末梢性顔面神経麻痺に対する早期リハビリテーションの効果 - 直線距離測定法による比較 -	筆頭演者	森嶋 直人	第45回日本臨床神経生理学会学術大会	2015/11/6
12	関節リウマチ患者に対する食事動作へのアプローチ	筆頭演者	松本 真奈	第15回東海北陸作業療法学会	2015/11/28
13	可逆文より文法障害を呈した失語症例に対するマッピング訓練	筆頭演者	平出 優香	東三河リハビリテーション研究会	2016/1/24
14	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症発症後に病棟歩行器歩行が可能となった一症例	筆頭演者	伊藤 朱梨	愛知県理学療法士会東三河ブロック症例検討会	2016/1/24
15	人工股関節全置換術後に踵骨脆弱性骨折を認めた一症例	筆頭演者	加藤 萌波	愛知県理学療法士会東三河ブロック症例検討会	2016/1/24
16	急性散在性脳脊髄炎により対麻痺を呈し歩行獲得が可能となった一症例	筆頭演者	朽名絵利香	愛知県理学療法士会東三河ブロック症例検討会	2016/1/24
17	理学療法早期介入によるポジショニングは超低出生体重児の筋緊張を向上することができる	筆頭演者	神谷 猛	第25回愛知県理学療法学会学術大会	2016/3/13

<臨床工学室>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	自治体病院としての透析液水質確保加算に対する取り組み	筆頭演者	安藤 俊昭	第54回自治体病院学会	2015/10/8

<薬局>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	「症例から学ぶ」がん患者の医療連携に関する保険薬局・病院薬剤師合同ワークショップの開催報告	共同演者	鈴木 善貴	第9回日本緩和医療薬学会	2015/10/3
2	注射薬配合変化における安全管理	筆頭演者	笹野 綾乃	第54回全国自治体病院学会	2015/10/8
3	がん化学療法の副作用(吃逆)における呉茱萸湯の効果	筆頭演者	小西 美帆	第54回全国自治体病院学会	2015/10/8
4	がん患者指導管理料3取得と薬-薬連携への取り組み	筆頭演者	鈴木 善貴	第54回全国自治体病院学会	2015/10/8
5	Usefulness evaluation of medicine drugs cooperation in anti-cancer drug treatment of outpatient.	筆頭演者	Yoshitaka Suzuki	The53rd Annual Meeting of Japan Society of Clinical Oncology (JSCO2015)	2015/10/30
6	CHOP療法におけるアプレピタントの有用性 -多施設共同試験-	共同演者	町支 優和	第25回日本医療薬学会年会	2015/11/21
7	がん患者指導管理料3取得が薬局業務に及ぼす影響 -外来化学療法で薬剤師業務として取り入れるために-	筆頭演者	鈴木 善貴	第25回日本医療薬学会年会	2015/11/22
8	外来化学療法でも継続できる『R-CHOPパンフレット』の使用評価	筆頭演者	坂野 博紀	第25回日本医療薬学会年会	2015/11/23
9	化学療法によるHBV再活性化対策 -当院におけるPDCAサイクル-	筆頭演者	村上 仁志	愛知県病院薬剤師会東三河支部会員勉強発表会	2016/2/18
10	日常業務に活用できる癌化学療法支援ツールの作成(大腸癌編) -画像でわかる副作用対策ツール-	共同演者	鈴木 善貴	平成27年度愛知県病院薬剤師会 専門薬剤師教育委員会がん部 会報告会	2016/3/5
11	日常業務に活用できる癌化学療法支援ツールの作成(大腸癌編) -患者説明用ツール-「内服薬±注射薬併用レジメンに関して」	共同演者	鈴木 善貴	平成27年度愛知県病院薬剤師会 専門薬剤師教育委員会がん部 会報告会	2016/3/5
12	日常業務に活用できる癌化学療法支援ツールの作成(大腸癌編) -「大腸癌まとめ」と「大腸癌Reference book」の作成-	共同演者	鈴木 善貴	平成27年度愛知県病院薬剤師会 専門薬剤師教育委員会がん部 会報告会	2016/3/5
13	クリニカルクエスチョンチームの活動報告	共同演者	鈴木 善貴	平成27年度愛知県病院薬剤師会 専門薬剤師教育委員会がん部 会報告会	2016/3/5
14	CHOP療法におけるアプレピタントの有用性	筆頭演者	町支 優和	平成27年度愛知県病院薬剤師会 専門薬剤師教育委員会がん部 会報告会	2016/3/5

<看護局>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	胃手術を受けた患者の退院時の自己効力感に関連する要因の検討	筆頭演者	鈴木 宏昌	第11回日本クリティカルケア看護学会	2015/6/27
2	救急外来におけるトリアージ学習の-考察~継続学習とフィードバックの効果~	筆頭演者	山内 洋介	日本災害看護学会第17回年次大会	2015/8/8・9

3	胃手術を受けた患者の術後3ヵ月目までの自己効力感に影響する身体症状の特徴	筆頭演者	鈴木 宏昌	日本看護研究学会第41回学術集会	2015/8/22
4	ディスプレイ製品の再使用全面廃止に向けて	筆頭演者	高橋 一嘉	第72回中部地区中材業務研究会	2015./9/5
5	苦痛のスクリーニングを用いた心理的支援	筆頭演者	森谷 景子	第26回愛知県三河緩和医療研究会	2015./9/5
6	NMCに入院した児の退院指導～入院時より母の愛～	筆頭演者	塚田 彩子	平成27年度固定チームナーシング全国研究集会	2015/10/3
7	脳卒中患者のお家に帰ろう支援～退院指導パンフレットを作成して～	筆頭演者	伊藤 恭世	平成27年度固定チームナーシング全国研究集会	2015/10/3
8	良い療養環境が転倒・転落を減らす～入眠前環境アセスメントを実施して～	筆頭演者	太田 優華	平成27年度固定チームナーシング全国研究集会	2015/10/3
9	実地指導者の指導方法と新人の変化～シミュレーション研修を通して～	筆頭演者	高橋 亮二	第54回全国自治体病院学会	2015/10/9
10	CPA患者の家族看護への取り組み～救急外来センターでのグリーンケア～	筆頭演者	田島みゆき	第54回全国自治体病院学会	2015/10/9
11	自施設での高校生1日看護体験を開催して～はばたけ未来のナース～	筆頭演者	間瀬 有奈	第54回全国自治体病院学会	2015/10/8
12	電子カルテ化に伴う看護記録のあり方についての一考～テンプレート集を作成して記録の質を向上させる取り組み～	筆頭演者	中川 智晴	第54回全国自治体病院学会	2015/10/8
13	救急外来における再トリアージの現状と今後の課題	筆頭演者	倉島 正成	第11回日本救急看護学会学術集会	2015/10/16・17
14	血液浄化センターにおける感染対策	筆頭演者	渡部 弘子	第18回日本腎不全看護学会学術集会	2015/11/14
15	インシデント分析から作成した透析チェックリストの活用と課題	筆頭演者	青木 真理	第18回日本腎不全看護学会学術集会	2015/11/14
16	長期入院患者における乳幼児期の成長発達遅延防止への試み	筆頭演者	谷川原さゆみ	固定チームナーシング研究会第15回中部地方会	2015/11/23
17	FIMを活用し受け持ち患者のADL拡大を図る	筆頭演者	小島 美菜	固定チームナーシング研究会第15回中部地方会	2015/11/23
18	一般外科術後患者の安全な早期離床に向けての介入～離床プロトコルを使用して～	筆頭演者	石田 敬詞	固定チームナーシング研究会第15回中部地方会	2015/11/23
19	糖尿病教育入院患者に対しての集団運動療法の取り組み～退院後継続していくためのアプローチ～	筆頭演者	曾我 梓	固定チームナーシング研究会第15回中部地方会	2015/11/23
20	放射線治療に対する不安の軽減への取り組み～頭頸部看護ケアマップを作成して～	筆頭演者	鈴木 恵里	固定チームナーシング研究会第15回中部地方会	2015/11/23
21	ボウイー&ディックテスト専用インジケータの性能評価	筆頭演者	高橋 一嘉	第31回日本環境感染学会総会学術集会	2016/2/19
22	院内クリニカルラダー災害看護研修の一考察	筆頭演者	杉浦 淳平	第21回日本集団災害医学学会・学術集会	2016/2/28

座長・司会（診療技術局・薬局・看護局・事務局）

<放射線技術室>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	核医学装置精度管理・シミュレーション	市川 肇	第71回日本放射線技術学会総会学術大会	2015/4/18
2	DATのピットホールとその対策	加藤 豊大	第92回東三河RI技術検討会	2015/7/3
3	骨SPECT	市川 肇	第35回日本核医学技術学会総会学術大会	2015/11/6
4	心筋シンチのピットフォールとその対策	加藤 豊大	第93回東三河RI技術検討会	2015/11/27
5	ポータブル撮影を再考する	大井 康弘	愛知県診療放射線技師会 第三回研修会	2015/12/5
6	医療技術セミナー：症例に学ぶ 膵臓を極めるー膵癌・自己免疫性膵炎ー	木浦 伸行	平成27年度第2回日本放射線技術学会中部支部学術セミナー	2016/1/30
7	一般研究発表	市川 肇	東三河放射線技師会総会	2016/1/23
8	特別講演 心筋シンチにおける読影補助について	市川 肇	第94回東三河RI技術検討会	2016/3/5
9	100mTc-ECDを用いた脳血流シンチで甲状腺に集積を認めた一例	加藤 豊大	第94回東三河RI技術検討会	2016/3/5

<中央臨床検査室>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	一般演題 輸血部門	大澤紀久子	第16回愛知県医学検査学会	2015/5/31
2	一般演題 血液部門	近藤 由香	第16回愛知県医学検査学会	2015/5/31
3	一般演題 病理・細胞	榊原 沙知	第16回愛知県医学検査学会	2015/5/31
4	一般演題 微生物部門	山本 優	第16回愛知県医学検査学会	2015/5/31
5	一般演題 血液部門	内田 一豊	第54回日臨技中部圏支部医学検査学会	2015/09/26～27
6	一般演題 細胞	榊原 沙知	第54回日臨技中部圏支部医学検査学会	2015/09/26～27
7	一般演題 生理検査部門	手嶋 充善	第54回日臨技中部圏支部医学検査学会	2015/09/26～27

<リハビリテーション技術局>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	症例検討	上村 晃寛	愛知県理学療法士会東三河ブロック研修会	2015/11/28

<薬局>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	2型糖尿病の薬物療法～SGLT2阻害薬を中心に～	橋本 雅子	愛知県病院薬剤師会東三河支部学術講演会	2015/6/18
2	小児への抗菌薬投与時の注意点 －痙攣と遷延する意識障害を示した患者さんから得られた教訓－	石川 元章	平成27年度愛知県病院薬剤師会東三河支部会総会	2015/6/25
3	薬剤師として知っておくべき医薬品安全管理と関連法規	石田 隆浩	平成27年度病院診療所薬剤師研修会	2015/10/4
4	「最新の心房細動治療」～抗凝固療法からカテーテルアブレーションまで～	森 章典	愛知県病院薬剤師会東三河支部学術講演会	2015/10/15
5	がん薬物療法1 化学療法時の口内炎予防薬としてのポラプレジンク含有トローチ製剤の開発他4題	石川 元章	日本病院薬剤師会東海ブロック日本薬学会東海支部合同学術大会2015	2015/11/1
6	病棟 口腔外科パスによる薬剤師の関わり他5題	柳沼 妙子	日本病院薬剤師会東海ブロック日本薬学会東海支部合同学術大会2015	2015/11/1
7	皮膚疾患の外用療法	石田 隆浩	第5回 豊橋薬業連携研修会	2015/11/5
8	変わり行く糖尿病治療の展望	石田 隆浩	第6回 豊橋薬業連携研修会	2016/3/3

<看護局>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	医療関連感染サーベイランスについて	高橋 一嘉	第10回東三河感染対策管理者座談会	2015/6/13
2	新人・異動者・2年目看護職の現任教育	金田千恵子	平成27年度固定チームナースング全国研究集会	2015/10/3
3	小集団活動（チーム目標設定と成果）パート3	中村由美子	平成27年度固定チームナースング全国研究集会	2015/10/3
4	サーベイランスと疫学・統計について	高橋 一嘉	第11回東三河感染対策管理者座談会	2015/10/24
5	チーム医療とペア体制	菱田由紀子	固定チームナースング研究会中部地方会	2015/11/23
6	厚生局の適時調査対策／新人職員の研修について	高橋 一嘉	第12回東三河感染対策管理者座談会	2016/2/27

<事務局>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	「デジタルマンモグラフィの画像情報」～相互運用性の向上に向けた医療情報からのアプローチ～	原瀬 正敏	日本放射線技術学会第43回秋季学術大会 第26回医療情報部会	2015/10/10
2	ランチョンセミナー「PDI対応装置と運用面における問題点」	原瀬 正敏	日本医用画像管理学会 医用画像管理セミナーin三重	2016/2/14
3	デジタルマンモグラフィ「読影に必要なビューワ機能」	原瀬 正敏	日本医用画像管理学会 医用画像管理セミナーin三重	2016/2/13

講 演（診療技術局・薬局・看護局・事務局）

<放射線技術室>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	X線画像形成の基礎	寺部 充昭	第71回日本放射線技術学会総会学術大会	2015/4/18
2	論文投稿に挑戦してみよう！	市川 肇	三河・遠州核医学技術研究会	2015/6/27
3	当院におけるDATSCANの収集条件	中島 康仁	第92回東三河RI技術検討会	2015/7/3
4	当院におけるCT-Colonographyの現状 ~臨床画像を中心に~	磯部 晃	第49回豊橋がん診療フォーラム	2015/9/15
5	心筋SPECTにおける吸収体が画像に及ぼす影響	加藤 豊大	第93回東三河RI技術検討会	2015/11/27
6	基本的な医療安全対策	畑井 博晶	日本磁気共鳴専門技術者認定機構	2015/12/5
7	ポータブル撮影の現状と問題点	小野 孝明	愛知県診療放射線技師会 第三回研修会	2015/12/5
8	当院における肝Dynamic studyの撮像 タイミング	畑井 博晶	東海MRI技術研究会	2015/12/19
9	自己免疫性膵炎の臨床	木浦 伸行	平成27年度第2回日本放射線技術学会中部支部学術セミナー	2016/1/30
10	TOFの基礎	喜多 和真	第72回東三河RF研究会	2016/2/5
11	本当に最適!?自施設のButterworth filterのカットオフ周波数	加藤 豊大	第94回東三河RI技術検討会	2016/3/5

<中央臨床検査室>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	臨床検査値の見方について	小島 克枝	第116回NST定期教育講演会	2015/5/20
2	臨床検査値の見方について	夏目 篤二	NST教育カリキュラム	2015/6/16
3	輸血部門業務を理解をしよう	大澤紀久子	愛臨技新人サポート研修会 I	2015/6/27
4	血液部門	近藤 由香	愛臨技新人サポート研修会 II	2015/6/28
5	関節エコーの実際のデモンストレーション	皆元 裕子	岐阜 RA Young Academy	2015/7/3
6	リンパ節	内田 一豊	平成27年度 日本臨床細胞学会 東海連合会 基礎講座	2015/7/27
7	リンパ系腫瘍細胞の基本的な形態所見	内田 一豊	平成27年度 第3回岐臨技 臨床 血液部門研修会	2015/9/5
8	当院における抗酸菌検査の現状	山本 優	微生物検査研究班研究会	2015/9/5
9	GEエコー装置 (LOGIQシリーズ) を使用した頸動脈の撮り方・見方	手嶋 充善	超音波ハンズオンセミナー	2015/10/31
10	病理検査室における遺伝子検査の現状と展望	榊原 沙知	第50回豊橋がん診療フォーラム	2015/11/19
11	骨髓標本の見方 ~症例を踏まえて~	内田 一豊	平成27年度 日臨技中部圏支部 臨床血液部門研修会	2016/1/17
12	血液検査から見た多発性骨髄腫	内田 一豊	平成27年度スキルアップ研修会	2016/2/7
13	多発性骨髄腫と生理機能検査	手嶋 充善	平成27年度スキルアップ研修会	2016/2/7
14	多項目自動血球装置 XN-1000 を用いて脳脊髄液で検出された症例の検討	内田 一豊	第33回愛臨技東三河地区研究会	2016/2/20
15	当院における妊娠糖尿病 (GDM) の検討	手嶋 充善	第33回愛臨技東三河地区研究会	2016/2/20

16	悪性リンパ腫標本解説 症例検討	内田 一豊	平成27年度 日臨技中部圏支部 病理細胞検査研修会	2016/2/28
17	糖尿病足病変の生理機能検査	濱田 智博	第12回東三河糖尿病セミナー学術 講演会	2016/2/28
18	リウマチ患者における関節超音波	皆元 裕子	RA Nurse Seminar	2016/3/12
19	リウマチ性疾患の有用な検査～超音波 検査～	笹山 里菜	第53回豊橋市民病院リウマチ講演 会	2016/3/18

<リハビリテーション技術局>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	顔面神経麻痺リハビリテーション診療 の進め方	森嶋 直人	第6回顔面神経麻痺のリハビリテ ーション技術講習会	2015/6/10
2	心不全について急性期リハからのメッ セージ -生活期リハに携わるセラピ ストに知ってほしい知識-	沢入 豊和	豊橋リハビリテーション連絡会	2015/11/4
3	ADL評価・転倒転落予防およびリハビ リテーションを取り入れた退院支援等 -急性期病院でのリハ専門職の役割-	森嶋 直人	愛知県理学療法士会チーム医療推 進事業	2015/12/5
4	昨年度のRST活動報告	馬渡 敬介	呼吸ケアチーム勉強会	2015/12/17
5	ティーチングとコーチング	上村 晃寛	NPO法人愛知県理学療法学会 教 育局生涯学習部 新人教育プログ ラム	2015/12/20
6	乳癌術後の肩関節可動域について-術 式別による比較-	神谷 猛	がんフォーラム	2016/1/14
7	臨床マネジメントと職業倫理	山本 実	愛知県言語聴覚士会 新人研修会	2016/2/14
8	自施設における他職種連携の課題と解 決策	上村 晃寛	第7回早期リハビリテーション研 究会	2016/3/27

<薬局>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院におけるPDCAサイクル ～化学療法によるHBV再活性化対策～	石川 元章	愛知県がん診療連携協議会 PDCAサイクル推進検討部会	2015/5/15
2	当院の輸液製剤について	坂部 米治	NST定期教育講演会	2015/6/17
3	「薬」の取り扱いについて -処方薬について-	石川 雅子	平成27年度リスクマネジメント講 習会	2015/7/9
4	「薬」の取り扱いについて -麻薬について-	後藤三佐代	平成27年度リスクマネジメント講 習会	2015/7/9
5	「薬」の取り扱いについて -抗がん薬について-	菰田 容子	平成27年度リスクマネジメント講 習会	2015/7/14
6	「薬」の取り扱いについて -注射薬について-	坂部 米治	平成27年度リスクマネジメント講 習会	2015/7/14
7	当院におけるPDCAサイクル ～化学療法によるHBV再活性化対策～	石川 元章	第48回豊橋がん診療フォーラム	2015/7/16
8	褥瘡の治療(薬剤)	菰田 容子	第3回褥瘡勉強会	2015/10/7
9	災害時の糖尿病	橋本 雅子	平成27年豊橋糖尿病友の会講演会	2015/11/11
10	抗菌薬のPK/PD	森 章典	第4回呼吸療法セミナー	2015/12/17
11	注射手技の確認と血糖管理	橋本 雅子	第6回豊橋薬業連携研修会	2016/3/3

<看護局>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	感染管理認定看護師が臨床検査技師に望むこと	高橋 一嘉	第16回愛知県医学検査学会	2015/5/31
2	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の活動「廃用症候群予防への取り組み」	平井 あゆ	東三河脳卒中懇話会	2015/6/27
3	管理者が看護を語り看護が楽しい現場をつくる	菱田由紀子	関東・甲信越ブロック研修	2015/9/27
4	キラリ☆看護 ～スペシャリストを目指す～	鈴木 雅恵	豊橋市立看護専門学校	2015/10/7
5	脳卒中後のリハビリについて	平井 あゆ	東三河准看護師の会	2015/10/25
6	輝き続ける看護管理者のマネジメント	菱田由紀子	東三河看護職研修会	2015/11/28
7	交流セッション「多職種チームで脳卒中再発予防に挑む」	平井 あゆ	愛知県看護研究学会	2015/12/9
8	インシデント分析から作成した透析チェックリストの活用と課題	青木 真理	第9回東三河地区透析研究会	2016/1/21

<事務局>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	循環器部門におけるシステムに蓄積されたデータの利活用	原瀬 正敏	第79回日本循環器学会学術集会	2015/4/26
2	医療情報システムの標準化 ～放射線における標準規格はどこに使えるか～	原瀬 正敏	平成27年知多地区放射線技師会 夏季セミナー	2015/7/25
3	基礎から学ぶ「困ったときの知恵袋、 知っておきたいガイドラインの紹介」	原瀬 正敏	日本放射線技術学会医療情報部会 第4回PACSベーシックセミナー in佐賀	2015/8/1
4	これならできるJJ1017～解決！コード 作成の問題点～	原瀬 正敏	日本放射線技術学会医療情報部会 第15回PACS Specialistセミナー in東京	2015/9/12
5	豊橋市民病院から見た医療情報部門の 今後の役割とは	原瀬 正敏	InterSystems in Healthcare Seminar 2015	2015/10/22
6	チーム医療のデータ活用 ～医療情報 部門からのアプローチ～	原瀬 正敏	第15回医療情報ケアプロセス研究 会	2016/01/09
7	これならできるJJ1017～解決！コード 作成の問題点～	原瀬 正敏	日本放射線技術学会医療情報部会 第16回PACS Specialistセミナー in大阪	2016/01/17
8	可搬媒体の運用事例	原瀬 正敏	日本医用画像管理学会 医用画像管理セミナーin三重	2016/02/14

論文・著書（診療技術局・薬局・看護局・事務局）

<放射線技術室>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	骨等価溶液を用いた骨SPECT評価用ファントムの開発	筆頭著者	市川 肇	日放線技会誌. 2015; 71: 1234-1240.

<中央臨床検査室>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	POCT対応血糖測定器アントセンス デュオの基礎的検討	筆頭著者	内田 一豊	医学検査. 2015; 64: 453-459.
2	学会レビュー（平成27年度日臨技中部圏支部医学検査学会）	筆頭著者	内田 一豊	Med Technol. 2016; 106.
3	呼吸器シリーズ(1)～(14)	筆頭著者	榊原 沙知	愛知県臨床検査標準化ガイドライン「細胞診アトラス」. 2015.

<リハビリテーション技術局>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	Ⅲ神経・筋 末梢神経障害 顔面神経麻痺	共同著者	森嶋 直人	今日の理学療法指針. 2015, p.297-300.
2	病的共同運動の評価と予後	筆頭著者	森嶋 直人	JOHNS. 2015; 31: 732-735.
3	40点法と病的共同運動評価ーリハビリテーションの立場からー	筆頭著者	森嶋 直人	Facial N Res Jpn. 2015; 35: 37-39.
4	異なるプログラムによる末梢性顔面神経麻痺に対する早期リハビリテーションの効果 -FaCE Scaleによる比較-	筆頭著者	森嶋 直人	Facial N Res Jpn. 2015; 35: 93-95.
5	多発性骨髄腫症例に対する理学療法の検討：自家造血幹細胞移植に至った2症例	筆頭著者	森坂 文子	愛知理療会誌. 2015; 27: 24-31.
6	当院における多発性骨髄腫患者に対する理学療法の現状	筆頭著者	神谷 猛	愛知理療会誌. 2015; 27: 60-64.

<薬局>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	ワンタキソテール®に含まれるアルコールの影響に関する検討	共同著者	石川 元章	APJHP:愛知病薬師会誌. 2015; 43: 4-7.

<事務局>

No.	題名	区分	氏名	著書名
1	システム構築・運用 5. システム構築	共同著者	原瀬 正敏	Essential 医用画像情報管理 ビギナーからリーダーまでのスキルアップブック. 2015, p.218-225.

VII 院内委員会の 活動記録

1. 幹部会

日付	内容等
2015年4月6日	2015年度第1回 ① 平成27年2月分 病院事業収支及び活動状況（報告） ② 院内常設委員会（H27.4.1）について ③ 内科診察室増設について ④ その他 豊橋市民病院放射線治療施設等整備工事 安全祈願祭について 放射線治療施設等整備工事の工事中仮設事務所建設について 精神科医師に係る可知記念病院との連携について 発電設備の点検・整備について
2015年4月13日	第2回 ① 院内常設委員会（H27.4.1）について ② その他 診療科別一般病床稼働率推移【月別】
2015年4月20日	第3回 ① 入院支援センターについて ② 院内虐待対策の推進について ③ 工事に伴う敷地内道路の通行等について ④ その他 夜間死亡患者のお見送りについて 各種指導管理料算定状況（H27.1～3） 平成26年度ドクタークラーク実績 施設整備について（お知らせ） 平成27年度空調（冷房運転）について
2015年4月27日	第4回 ① 平成27年3月分 病院事業活動状況 ② 入院患者向けレンタル事業について ③ ホームページバナー広告について ④ その他 メディネットシステム 増設等設置場所について 診療棟2階診療技術局長室改修について 東三河ふれあい看護フォーラム2015（情報提供）
2015年5月11日	第5回 ① 平成27年3月分 病院事業収支及び活動状況（報告） ② 中国吉林省研修生（視察・見学）の受け入れについて（照会） ③ その他 診療科別一般病床稼働率推移【月別】
2015年5月18日	第6回 ① 予定外入院患者の入院時病棟について ② 病院勤務医と看護職員の負担の軽減及び処遇の改善について ③ 中国吉林省研修生（視察・見学）の受け入れについて ④ 敷地内全面禁煙に関する意見の対応について ⑤ その他 診療放射線技師施行規則及び臨床検査技師等に関する法律施行規則の一部を改正する省令の公布について 夜間死亡患者のお見送りについて 工事に伴う敷地内道路の通行等について 宿直時の医師への食事提供（病院負担）について

2015年5月25日	<p>第7回</p> <p>① 平成27年4月分 病院事業活動状況（速報版）</p> <p>② 平成27年度 患者満足度調査の実施について</p> <p>③ その他</p> <p>医療事故調査等支援団体に関する申し出について</p> <p>携帯事業者アンテナを使った内線通話機能の一時停止について</p> <p>霊安室温度変化について</p> <p>患者待ち時間の活用について（情報提供）</p>
2015年6月8日	<p>第8回</p> <p>① 超緊急帝王切開術施行場所について</p> <p>② その他</p> <p>がん患者指導管理料について</p> <p>次期病院総合情報システム構築支援業務委託に係る公募型プロポーザルの結果について</p> <p>診療科別一般病床稼働率推移【月別】</p> <p>予備室（仮称）の開設について</p> <p>病棟避難訓練の実施について</p> <p>医療被ばく低減施設認定取得に向けて</p> <p>手術センター前廊下の洗浄ワックスについて</p>
2015年6月15日	<p>第9回</p> <p>① 検視立会い業務説明会の開催及び新規委嘱について</p> <p>② その他</p> <p>患者向け Wifi-Spot エリア設置について</p> <p>豊橋市民病院だより「青竹」について（表紙変更）</p> <p>受変電設備点検実施について</p> <p>病院経営力ランキングについて（日経ビジネス）（情報提供）</p>
2015年6月22日	<p>第10回</p> <p>① 院内虐待対策における新たな体制について</p> <p>② P H Sの更新について</p> <p>③ その他</p> <p>パソコン端末の自動再生（オートラン）機能の無効化について</p> <p>ネットでカルテ閲覧可能に 北九州市の病院 新サービス（情報提供）</p>
2015年6月29日	<p>第11回</p> <p>① 平成27年5月分 病院事業活動状況（速報版）</p> <p>② その他</p> <p>中国吉林省研修医の受入の件</p> <p>火災報知設備の鳴動放送試験について</p>
2015年7月6日	<p>第12回</p> <p>① テナント関係サービス改廃について</p> <p>入院患者向けレンタル事業について（案）</p> <p>ローソンにおけるデリバリーサービス（案）</p> <p>理容室の撤退について</p> <p>② 平成27年5月分 病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>③ その他</p> <p>診療科別一般病床稼働率 平成26年度実績</p> <p>非血縁者間骨髄採取・移植認定施設について</p> <p>高校生一日医師体験について</p> <p>南病棟の内線番号変更について</p> <p>P H Sの更新について</p> <p>血液照射装置撤去業務について</p>

2015年7月13日	<p>第13回</p> <p>① 新設外来診察室の運用方法について</p> <p>② その他 診療科別一般病床稼働率推移【月別】 平成27年度情報セキュリティ研修参加状況 看護局認定看護師一覧</p>
2015年7月27日	<p>第14回</p> <p>① 平成26年6月分 病院事業活動状況（速報版）</p> <p>② 第2次豊橋市民病院改革プラン取組状況報告書</p> <p>③ 豊橋警察署からの要望事項について（豊橋警察署と豊橋市との連絡会議 H27.7.29）</p> <p>④ 病院勤務医と看護職員の負担の軽減及び処遇の改善について</p>
2015年8月3日	<p>第15回</p> <p>① 平成27年6月分 病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② その他 2次医療圏に関する資料 高齢者、障害者、配偶者虐待に関するフロー図 患者満足度調査回収状況 平成27年度情報セキュリティ研修所属別参加結果 次期病院総合システム構築第1期プロジェクト計画書 中央臨床検査室の超低温フリーザー内検体について 豊橋市民病院におけるパニック値及び基準値 情報提供（再生医療計画－蒲郡市民病院が認定）</p>
2015年8月17日	<p>第16回</p> <p>① 平成27年度 第2回豊橋市民病院地域医療支援委員会</p> <p>② その他 平成27年度 がん患者指導管理料算定状況 院内売店ローソンにおける変更点等について</p>
2015年8月24日	<p>第17回</p> <p>① 平成27年7月分 病院事業活動状況（速報版）</p> <p>② その他 虐待防止対応院内マニュアルの周知等について</p>
2015年8月31日	<p>第18回</p> <p>① 平成27年7月分 病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 平成28年度 6人床から4人床の変更（案）</p> <p>③ その他 地域医療構想 病床機能報告制度 機能別推進病床数（案） 難病外来指導管理料警告表示機能について 診療棟・病棟エレベーター等改修工事</p>
2015年9月7日	<p>第19回</p> <p>① 診療棟の跡地利用等について</p> <p>② レストラン・職員食堂の入れ替えについて</p> <p>③ 平成27年度インフルエンザ予防接種料について</p> <p>④ その他 次期病院総合情報システム構築関連報告 手術センター前廊下の洗浄ワックスについて 「脳死下臓器提供に関する調整委員会（仮称）」の設置について 厚生労働省による当社に対する業務改善命令について</p>

2015年9月28日	<p>第20回</p> <p>① 平成27年8月分 病院事業活動状況（速報版）</p> <p>② 平成27年度インフルエンザワクチン接種について</p> <p>③ 院内インフルエンザ予防接種の費用負担について</p> <p>④ 病院勤務医と看護職員の負担の軽減及び処遇の改善について</p> <p>⑤ その他 医療監視について 外来患者用ファイルの広告について（資料なし）</p>
2015年10月5日	<p>第21回</p> <p>① 平成27年8月分 病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 豊橋市民病院 院内デイケア運営要綱について</p> <p>③ 病床数の減少について</p> <p>④ その他 豊橋市民病院ホームページ トップページ等デザイン変更について 豊橋市民病院診療記録等の電子媒体に関する運用管理規程等について 糖尿病週間啓発イベントについて 受変電設備工事に伴う作業について</p>
2015年10月19日	<p>第22回</p> <p>① 放射線治療棟竣工式及び内覧会の開催について</p> <p>② JMECC（内科救急・ICLS講習会）の開始について</p> <p>③ その他 豊橋市民病院 慰霊祭の日程について インシデント発生に関する注意喚起 道路工事の案内</p>
2015年10月26日	<p>第23回</p> <p>① 平成27年度9月分 病院事業活動状況（速報版）</p> <p>② 医療事故調査制度について</p> <p>③ その他 次期病院総合情報システムの検討状況について 地域医療構想 病床機能報告制度 病棟別医療機能について 平成27年度空調（暖房運転）について</p>
2015年11月2日	<p>第24回</p> <p>① 平成27年度9月分 病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② アクシデント報告について</p> <p>③ その他 診療科別病床稼働率分析について 現システムのヒアリング及びアンケート結果について</p>
2015年11月9日	<p>第25回</p> <p>① 病院機能評価の更新（3rdG:Ver1）について</p> <p>② 平成27年度患者満足度調査の結果について</p> <p>③ その他 発電設備の点検について（お知らせ）</p>

2015年11月30日	<p>第 26 回</p> <p>① 虐待対策委員会の組織、虐待防止対応院内マニュアルの周知について</p> <p>② 平成 27 年 10 月分 病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>③ 病院勤務医と看護職員の負担の軽減及び処遇の改善について</p> <p>④ その他</p> <p>夜間外来駐車場の準夜帯勤務職員への開放について</p> <p>平成 26 年度「Q I 推進事業」結果報告</p> <p>平成 27 年度 患者満足度調査 結果報告書の公表について</p> <p>強度変調放射線治療に関する施設基準について</p> <p>医薬品医療機器法違反に関わる行政処分について</p>
2015年12月7日	<p>第 27 回</p> <p>① その他</p> <p>平成 27 年度医療安全に関する標語最終結果について</p> <p>駐車禁止のお願いについて</p>
2015年12月14日	<p>第 28 回</p> <p>① その他</p> <p>テレビ床頭台等運営事業者募集に係る選定結果について</p> <p>駐車場ライン引き作業に伴う駐車禁止のお知らせ</p>
2015年12月21日	<p>第 29 回</p> <p>① その他</p> <p>施設基準等にかかる適時調査の実施について</p> <p>アトリウム の 4 面モニタでの院外情報の発信について</p>
2015年12月28日	<p>第 30 回</p> <p>① 平成 27 年 11 月分 病院事業活動状況（速報版）</p> <p>② 新生児医療センターにおける MRSA のキャリア患者増加の対応について</p> <p>③ 一般病棟の「重症度、医療・看護必要度」の見直しについて</p> <p>④ 面会（お見舞い）希望者への病棟案内について</p> <p>⑤ その他</p> <p>薬剤病棟業務について</p> <p>ローソンの病棟ワゴン・デリバリーサービスの変更について</p>
2016年1月4日	<p>第 31 回</p> <p>① 平成 27 年 11 月分 病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② その他</p> <p>学会・研究会等で使用するスライド等への画像の貼り付けについて</p>
2016年1月18日	<p>第 32 回</p> <p>① 診療棟の跡地利用について</p> <p>② 放射線治療装置運用開始時期の遅延について（報告）</p> <p>③ その他</p> <p>化学及血清療法研究所の医薬品医療機器法違反について</p> <p>病院年報（第 24 巻「2014」）の発行について</p>
2016年1月25日	<p>第 33 回</p> <p>① 平成 27 年 12 月分 病院事業活動状況（速報版）</p> <p>② 放射線治療施設の部屋名称（案）について</p> <p>③ その他</p> <p>東海北陸厚生局適時調査結果概要について</p> <p>がん対策に関する行政評価・監視に係る調査について</p>

2016年2月1日	<p>第34回</p> <p>① 平成28年度 診療報酬改定について（主な新規事項・変更）</p> <p>② 平成27年12月分 病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>③ その他 文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」認定について（豊橋創造大学）</p>
2016年2月8日	<p>第35回</p> <p>① 放射線治療施設の部屋名称（案）について</p> <p>② 更衣室の跡地利用について（当直室・宿直室・NICU・GCU）</p> <p>③ その他 次期豊橋市民病院総合情報システム構築工程表</p>
2016年2月15日	<p>第36回</p> <p>① レストラン・職員食堂運営事業者募集プロポーザルの審査結果について</p> <p>② その他 平成28年度 診療報酬改定について（主な新規項目・変更） 豊橋市職員活動表彰（T-EMSエコアクションコンテスト表彰） 病院PR広告 中日新聞「LINKED」 ～シアワセをつなぐ仕事～</p>
2016年2月22日	<p>第37回</p> <p>① 平成28年度機能評価係数Ⅱ及び（データ／病床数）比について</p> <p>② 紹介状なしの大病院受診時の定額負担の導入について</p> <p>③ 初診患者の受付時間の変更について</p> <p>④ 診療棟の跡地利用について</p> <p>⑤ その他 施設基準等にかかる適時調査の結果について（通知） 入院患者付添許可書の作成について（指摘事項の改善） 病棟におけるテレビ付床頭台及びコインランドリーの入替について 特別高圧受変電設備の整備による停電及び電気設備の点検について 新専門医制度に関する講演会の開催について</p>
2016年2月29日	<p>第38回</p> <p>① 平成28年1月分 病院事業収支活動状況（報告）</p> <p>② 平成28年度 職員必携について</p> <p>③ その他 施設基準等にかかる適時調査の結果について（通知） 外来患者用ファイルの変更について（お知らせ）</p>
2016年3月7日	<p>第39回</p> <p>① 施設基準等適時調査の指摘事項に対する改善報告書について</p> <p>② その他 がんピアサポートについて</p>
2016年3月14日	<p>第40回</p> <p>① 病棟でのPHS等の運用について</p> <p>② その他 理容室廃止に伴う訪問理美容の受入について 各臨床指標について 医療・看護必要度の評価合計について</p>

2016年3月28日	<p>第41回</p> <p>① 平成28年2月分 病院事業活動収支（速報版）</p> <p>② 平成28年度院内常設委員会（案）について</p> <p>③ その他</p> <p>平成28年度 病棟及び科別病床数</p> <p>医療職の昇格・異動（平成28年4月1日）について</p> <p>メンター指導医、専任指導医について</p>
------------	---

2. 不正防止対策委員会

【未開催】

3. 運営会議

日付	内容等
2015年4月7日	<p>2015年度第1回</p> <p>① 平成27年2月分病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 提案箱（2月21日～3月20日）の集約</p>
2015年5月12日	<p>第2回</p> <p>① 平成27年3月分病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 提案箱（3月21日～4月21日）の集約</p>
2015年6月2日	<p>第3回</p> <p>① 平成27年4月分病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 提案箱（4月22日～5月22日）の集約</p>
2015年7月7日	<p>第4回</p> <p>① 平成27年5月分病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 提案箱（5月23日～6月23日）の集約</p>
2015年8月11日	<p>第5回</p> <p>① 平成27年6月分病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 提案箱（6月24日～7月17日）の集約</p>
2015年9月1日	<p>第6回</p> <p>① 平成27年7月分病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 提案箱（7月18日～8月18日）の集約</p>
2015年10月6日	<p>第7回</p> <p>① 平成27年8月分病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 提案箱（8月19日～9月18日）の集約</p>
2015年11月10日	<p>第8回</p> <p>① 平成27年9月分病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 提案箱（9月19日～10月20日）の集約</p>
2015年12月1日	<p>第9回</p> <p>① 平成27年10月分病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 提案箱（9月19日～10月20日、10月21日～11月20日）の集約</p>
2016年1月5日	<p>第10回</p> <p>① 平成27年11月分病院事業収支及び活動状況（報告）</p> <p>② 提案箱（11月21日～12月15日）の集約</p>

2016年2月2日	第11回 ① 平成27年12月分病院事業収支及び活動状況（報告） ② 提案箱（12月16日～1月22日）の集約
2016年3月1日	第12回 ① 平成28年1月分病院事業収支及び活動状況（報告） ② 提案箱（1月23日～2月23日）の集約

4. 倫理委員会

日付	内容等
2015年10月1日	2015年度第1回 ① 劣勢栄養障害型先天性表皮水疱症患児の皮膚に対するモルヒネゲル塗布承認
2015年11月12日	第2回 ① 婦人科悪性腫瘍手術におけるセンチネルリンパ節同定、生検法臨床研究倫理審査委員会へ ② 汎子宮頸部摘出術（腹腔鏡下、ロボット支援下、開腹）臨床研究倫理審査委員会へ

5. 臨床研究倫理審査委員会

日付	内容等
2015年5月14日	2015年度第1回 ① 腹膜透析患者における、新たな腹膜灌流用紫外線照射器の腹膜炎発生予防効果に関する研究 <承認> ② 再発および難治の成人急性リンパ芽球性白血病に対するクロファラビン、エトポシド、シクロホスファミド併用化学療法（CLEC療法）の第I/II相試験（JALSG RR-ALL214） <承認>
2015年7月16日	第2回 ① プラチナ抵抗性再発・再燃 Mullerian carcinoma（上皮性卵巣癌、原発性卵管癌、腹膜癌）におけるリポソーム化ドキソルビシン 50mg/m ² に対する40mg/m ² のランダム化第III相比較試験 <承認> ② RAS遺伝子（KRAS/NRAS遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対するmFOLFOX6+ベバシズマブ併用療法とmFOLFOX6+パニツプマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第III相無作為化比較試験 <承認> ③ RAS遺伝子（KRAS/NRAS遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対するmFOLFOX6+ベバシズマブ併用療法とmFOLFOX6+パニツプマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第III相無作為化比較試験における治療感受性、予後予測因子の探索的研究 <承認> ④ 既治療の進行・再発非小細胞肺癌に対するドセキタキセルとnab-パクリタキセルのランダム化比較第III相試験 <承認>
2015年11月12日	第3回 ① 小児ホジキンリンパ腫に対するFDG-PET検査による初期治療反応性判定を用いた治療法の効果を確認する第II相試験 <承認> ② 標準的化学療法を行なった進行期小児リンパ芽球性リンパ腫の予後因子探索を主目的とした多施設共同臨床試験 JPLSG-ALB-NHL-14 <承認>

2016年1月21日	<p>第4回</p> <p>① 難治性消化管 GVHD に対する経口ベクロメタゾンの有効性の検討 ＜承認＞</p> <p>② 子宮頸癌 I、II A 期に対する腹腔鏡下子宮頸部摘出術の有用性と安全性を検討する臨床研究＜修正のうえ承認＞</p> <p>③ ダ・ヴィンチ Si 手術システムを用いたロボット支援腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の有用性と安全性を検討する臨床研究 ＜修正のうえ承認＞</p>
------------	--

5-1. 臨床研究事前倫理審査会

日付	内容等
2015年4月22日	<p>2015年度第1回</p> <p>① 擦式アルコール性手指消毒剤による手袋の上からの手指消毒効果に関する検討 ＜付議不要＞</p> <p>② 腹膜透析患者における、新たな腹膜灌流用紫外線照射器の腹膜炎発生予防効果に関する研究 ＜倫理審査委員会の審査に付す＞</p> <p>③ 進行期神経芽腫における多次元フローサイトメトリー法及びリアルタイムPCR法による微小残存病変（MRD）モニタリングの確立と骨髄転移に関与する分子の探索研究 ＜承認＞</p> <p>④ 日本小児白血病リンパ腫研究グループにおける小児血液腫瘍性疾患を対象とした前方視的疫学研究 ＜承認＞</p> <p>⑤ 再発および難治の成人急性リンパ芽球性白血病に対するクロファラビン、エトポシド、シクロホスファミド併用化学療法（CLEC療法）の第I/II相試験（JALSG RR-ALL214） ＜倫理審査委員会の審査に付す＞</p>
2015年7月9日	<p>第2回</p> <p>① プラチナ抵抗性再発・再燃 Mullerian carcinoma（上皮性卵巣癌、原発性卵管癌、腹膜癌）におけるリポソーム化ドキシソルビシン 50mg/m² に対する 40mg/m² のランダム化第III相比較試験 ＜倫理審査委員会の審査に付す＞</p> <p>② FIGO 進行期第III期-IV期の上皮性卵巣癌・卵管癌、原発性腹膜癌に対する初回治療としての標準的なプラチナ併用化学療法+ベバシズマブ同時併用に続くベバシズマブ単独継続投与例の前向き観察研究 ＜承認＞</p> <p>③ 非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン、パクリタキセル併用療法とカルボプラチン、ペメトレキセド併用療法の有効性と安全性を検討する後ろ向き多施設共同研究 ＜承認＞</p> <p>④ RAS 遺伝子（KRAS/NRAS 遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対する mFOLFOX6+ベバシズマブ併用療法と mFOLFOX6+パニツブマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第III相無作為化比較試験 ＜倫理審査委員会の審査に付す＞</p> <p>⑤ RAS 遺伝子（KRAS/NRAS 遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対する mFOLFOX6+ベバシズマブ併用療法と mFOLFOX6+パニツブマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第III相無作為化比較試験における治療感受性、予後予測因子の探索的研究 ＜倫理審査委員会の審査に付す＞</p> <p>⑥ 日本における透析患者の治療方法と患者の予後についての調査「J-DOPPS(第6期調査)」 ＜承認＞</p> <p>⑦ 既治療の進行・再発非小細胞肺癌に対するドセキタキセルと nab-パクリタキセルのランダム化比較第III相試験 ＜倫理審査委員会の審査に付す＞</p>

2015年7月29日	<p>第3回</p> <p>① 心不全 Frailty の予後予測妥当性と心臓リハビリテーション効果に関する研究 <承認></p>
2015年9月2日	<p>第4回</p> <p>① 日本骨髄バンクにおける検体保存事業 <承認></p> <p>② 染色体又は遺伝子に変化を伴う疾患群の包括的遺伝子診断システムの構築 <承認></p> <p>③ 白血球除去療法 (LCAP) を施行した潰瘍性大腸炎患者の予後およびその因子に関する多施設共同レトロスペクティブ観察研究 <承認></p> <p>④ 成人急性リンパ芽球性白血病におけるトランスクリプトーム解析 (JALSG ALL2020-EWS) <承認></p> <p>⑤ 非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン、パクリタキセル併用療法とカルボプラチン、ペメトレキセド併用療法の有効性と安全性を検討する後ろ向き多施設共同研究 (変更申請) <承認></p>
2015年10月1日	<p>第5回</p> <p>① ダウン症候群の児への初期対応に関するアンケート調査 <承認></p>
2015年10月28日	<p>第6回</p> <p>① 小児ホジキンリンパ腫に対する FDG-PET 検査による初期治療反応性判定を用いた治療法の効果を確認する第Ⅱ相試験」<倫理審査委員会の審査に付す></p> <p>② 標準的化学療法を行なった進行期小児リンパ芽球性リンパ腫の予後因子探索を主目的とした多施設共同臨床試験 JPLSG-ALB-NHL-14 <倫理審査委員会の審査に付す></p> <p>③ 臍頭十二指腸切除術における慢性肝障害の影響に対する研究 <承認></p> <p>④ 子宮頸癌放射線治療成績 <承認></p>
2015年12月2日	<p>第7回</p> <p>① 症例登録システムシステムを用いた腹腔鏡下肝切除術の安全性に関する検討～前向き多施設共同研究～ <承認></p> <p>② 大規模前向き肺炎コホートにおける急性腎障害 (AKI: acute kidney injury) 発症と予後に関するサブ解析研究 <承認></p> <p>③ 極低出生体重児における出生早期のカルニチン動態及びベレスタットナトリウム投与前後のカルニチン動態の検討 <取り下げ></p>
2016年1月6日	<p>第8回</p> <p>① 卵巣明細胞腺癌の臨床的解析 <承認></p> <p>② 腹膜透析患者の合併症とその対策に関する臨床調査研究 <承認></p> <p>③ 早先天性中枢性肺胞低換気症候群 (CCHS) に関する臨床像調査 <承認></p> <p>④ 子宮頸癌 I、II A 期に対する腹腔鏡下子宮頸部摘出術の有用性と安全性を検討する臨床研究 <倫理審査委員会の審査に付す></p> <p>⑤ ダ・ヴィンチ Si 手術システムを用いたロボット支援腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の有用性と安全性を検討する臨床研究 <倫理審査委員会の審査に付す></p> <p>⑥ 膝部骨粗鬆症の関節リウマチ (RA) における人工膝関節 (TKA) の長期予後調査 <承認></p>

2016年2月3日	<p>第9回</p> <p>① 日本人患者における慢性腎臓病の実態調査 <承認></p> <p>② 小児服薬補助パンフレットの有用性 <承認></p> <p>③ 悪性リンパ腫患者の自己末梢血幹細胞採取におけるエトポシド、シタラビン併用療法（EC療法）の有効性 <承認></p> <p>④ 血液癌と固形癌の同じ発症例における治療成績の検討 <承認></p> <p>⑤ 全国肺癌登録症例：2010年肺癌手術症例に対する登録研究 <承認></p> <p>⑥ 収縮脳が保持された心不全（Heart failure with Preserved Ejection Fraction: HFPEF）患者を対象としたトルバプタンの短期および長期投与の有用性の検討－多施設共同、ランダム化、非盲検試験－ <倫理審査委員会の審査に付す></p> <p>⑦ 経口薬による標準的治療法にデキサメタゾン鼓室内投与法を併用した顔面神経麻痺の治療の有効性と安全性の検討 <倫理審査委員会の審査に付す></p> <p>⑧ 非弁膜症性心房細動患者の急性脳梗塞/TIAにおけるリバーロキサバンの投与開始時期に関する観察研究 <承認></p>
-----------	---

6. 接遇委員会

日付	内容等
2015年12月1日	<p>2015年度第1回</p> <p>① 接遇研修について</p>
2016年3月1日	<p>第2回</p> <p>① 平成28年度接遇目標について</p>

6-1. 患者満足度調査検討会

日付	内容等
2015年5月21日	<p>2015年度第1回</p> <p>① 2014年度 患者満足度調査結果による今後の課題</p> <p>② 基本的な考え方について</p> <p>③ 調査スケジュールについて</p> <p>④ 調査項目について</p> <p><入院患者への調査>平成27年7月6日～22日（17日間）</p> <p><外来患者への調査>平成27年7月6日～10日（5日間）</p>

7. 災害対策検討委員会・DMAT運営部会

日付	内容等
2015年11月10日	<p>2015年度第1回災害対策検討委員会</p> <p>① 平成27年度地震・災害対策訓練について</p> <p>② 地震・災害対策訓練打ち合わせ会</p>
2015年5月19日	<p>第7回DMAT運営部会</p> <p>① 会議・研修等状況、今後の予定</p> <p>② 日本DMATインストラクター設定要件の改正について</p> <p>③ 平成27年度愛知県・豊橋市総合防災訓練への参加について</p> <p>④ 第6回愛知三河メディカルラリーについて（DVD）</p> <p>⑤ その他</p>

2015年7月14日	第8回DMAT運営部会 ① 会議・研修等状況、今後の予定 ② その他
2015年9月8日	第9回DMAT運営部会 ① 会議・研修等状況、今後の予定 ② その他
2015年11月17日	第10回DMAT運営部会 ① 会議・研修等状況、今後の予定 ② PHSについて ③ 広域災害救急医療情報システム（EMIS）平成27年度機能改善について ④ その他
2016年1月12日	第11回DMAT運営部会 ① 会議・研修等状況、今後の予定 ② PHSについて
2016年3月8日	第12回DMAT運営部会 ① 会議・研修等状況、今後の予定 ② 局地災害におけるDMAT調整本部の設置・運用手順 ③ 平成28年度総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練

8. 年報編集委員会

日付	内容等
2015年5月1日	2015年度第1回 ① 病院年報第24巻（2014年版）の編集方針について ② 2014年版作成スケジュール（案） ③ 病院年報第24巻（2014年版）の原稿依頼（案）について ④ 年報編集委員名簿 ⑤ その他

9. 広報紙編集委員会

日付	内容等
2015年5月12日	第5回 ① 青竹第65号の編集について
2015年8月14日	第6回 ① 青竹第66号の編集について
2015年11月5日	第7回 ① 青竹第67号の編集について
2016年2月4日	第8回 ① 青竹第68号の編集について

10. 院内感染対策委員会

[定期報告事項]

MRSA検出状況

MRSA病棟別・材料別一覧 感染症情報 監視 耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）（月・基幹定点）

病原体サーベイランス報告〔メチシリン耐性黄色ブドウ球菌：MRSA〕

耐性菌 一覧表（ESBL等）

感染症情報 インフルエンザウイルス抗原検査 ※シーズン中のみ報告

日付	内容等
2015年4月21日	第235回 ① 職員健康外来 平成26年度実績 ② EPI-Net 報告書 2014/4/1～2015/3/31 ③ 十二指腸内視鏡による多剤耐性菌の伝播について ④ 抗菌薬コリスチンの国内販売について
2015年5月19日	第236回 ① QI事業結果報告（H25）における予防的抗菌薬の投与状況について
2015年6月16日	第237回 ① 中東呼吸器症候群（MERS）の対応について ② QI事業結果報告（H25）における予防的抗菌薬の投与状況について ③ コリスチンの運用（案）について
2015年7月21日	第238回 ① 相互訪問評価結果について ② ヒビスコールフォーム製造終了への対応 ③ オルドレブ点滴静注用150mg（コリスチン）の採用と運用について ④ 西病棟9階におけるESBL産生菌について ⑤ 一類感染症等への感染が疑われる患者が発生した場合における情報管理の徹底について
2015年8月18日	第239回 ① 平成27年度 第1回 院内感染対策講習会 ② Live on Nutrition Seminar
2015年9月15日	第240回 ① 血液培養ボトル セーフティホルダーの採用について
2015年10月20日	第241回 ① 平成27年度 第1回 院内感染対策講習会 伝達講習について ② 感染防止対策地域連携加算の連携施設相互訪問評価について（加算1対加算1） ③ 滅菌製品出荷停止と回収について ④ インフルエンザについて
2015年11月17日	第242回 ① 第3期 ICT ラウンド報告（別紙資料有り）
2015年12月15日	第243回 ① 院内インフルエンザワクチン接種状況（2015-16シーズン） ② 新生児医療センターについて ③ 院内結核曝露事例について ④ HIV曝露後内服薬について ⑤ 血液浄化センタースタッフに対する感染管理講習について
2016年1月19日	第244回 ① 新生児医療センターについて ② 入院患者における入院時・外泊時・外出時の健康状況確認について

2016年2月16日	<p>第 245 回</p> <p>① 東海北陸厚生局適時調査を受けて</p> <p>② 新生児医療センターについて</p> <p>③ 医療監視（保健所の立入検査）の指示事項について</p> <p>④ 平成 27 年度 第 2 回 院内感染対策講習会について</p> <p>⑤ 抗菌薬使用届出システムの不具合について</p>
2016年3月15日	<p>第 246 回</p> <p>① 妊娠合併結核患者の受入れについて</p> <p>② 生食シリンジの払い出しについて</p> <p>③ 平成 27 年度 第 2 回 院内感染対策講習会</p> <p>④ インフルエンザサーベイランスについて</p> <p>⑤ 血液浄化業務に対する感染対策講習「透析患者と慢性 B 型肝炎」開催報告 次年度院内感染対策委員会について</p>

11. 脳死判定委員会

【未開催】

12. 救命救急委員会

日付	内容等
2015年5月19日	<p>第 118 回</p> <p>① 平成 26 年度救命救急センター患者取扱状況</p> <p>② ヘリポート使用記録</p> <p>③ 内科輪番当番表</p> <p>④ 救急外来での血液培養検査の取り扱いについて</p> <p>⑤ 血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖の投与プロトコール</p> <p>⑥ ゴールデンウィーク入院患者数</p>
2015年7月14日	<p>第 119 回</p> <p>① 平成 27 年度救命救急センター患者取扱状況</p> <p>② ヘリポート使用記録</p> <p>③ 内科輪番当番表</p> <p>④ コードブルー連絡票</p>
2015年9月8日	<p>第 120 回</p> <p>① 平成 27 年度救命救急センター患者取扱状況</p> <p>② ヘリポート使用記録</p> <p>③ 内科輪番当番表</p> <p>④ コードブルー連絡票</p>
2015年11月17日	<p>第 121 回</p> <p>① 平成 27 年度救命救急センター患者取扱状況</p> <p>② ヘリポート使用記録</p> <p>③ 内科輪番当番表</p> <p>④ コードブルー連絡票</p>
2016年1月12日	<p>第 122 回</p> <p>① 平成 27 年度救命救急センター患者取扱状況</p> <p>② ヘリポート使用記録</p> <p>③ 内科輪番当番表</p> <p>④ コードブルー連絡票</p> <p>⑤ その他</p>

2016年3月8日	第123回 ① 平成27年度救命救急センター患者取扱状況 ② ヘリポート使用記録 ③ 内科輪番当番表 ④ コードブルー連絡票 ⑤ その他
-----------	---

13. 集中治療室運営委員会

日付	内容等
2015年5月19日	第21回 ① 2015年度西病棟3階患者統計 ② その他
2015年7月14日	第22回 ① 2015年度西病棟3階患者統計 ② その他
2015年9月8日	第23回 ① 2015年度西病棟3階患者統計 ② その他
2015年11月17日	第24回 ① 2015年度西病棟3階患者統計 ② その他
2016年1月12日	第25回 ① 2015年度西病棟3階患者統計 ② その他
2016年3月8日	第26回 ① 2015年度西病棟3階患者統計 ② その他

14. 診療材料選定委員会

日付	内容等
2015年5月25日	2015年度第1回 ① シュアプラグAD輸液セット (テルモ) ② ヒューバープラス (メディコン)
2015年9月7日	第2回 ① ウェルフォーム (丸石製薬) ② P Iウルトラタッチ (サラヤ) P Iインディケーターアンダーグローブ (サラヤ)
2015年10月19日	第3回 ① トレフューザー化学療法用 (東レ・メディカル)
2015年11月9日	第4回 ① 自家培養軟骨 ジャック (ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング)

15. 手術センター運営委員会

日付	内容等
2015年4月27日	2015年度第1回 ① 平成26年度 第12回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について（年間手術件数、3月手術件数等） ③ 手術センター予定表について ④ 医療用電源設備の点検結果について ⑤ 手術室3番内ダヴィンチ用電源設備工事について ⑥ 更衣室内の噴霧処理について ⑦ その他
2015年5月25日	第2回 ① 平成27年度 第1回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について（4月手術件数等） ③ 超緊急帝王切開術施行場所の検討状況について ④ 医療用CO ₂ ボンベの使用状況について ⑤ 平成27年度手術センター運営委員会委員について ⑥ その他
2015年6月22日	第3回 ① 平成27年度 第2回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について（5月手術件数等） ③ 外注器械、材料の取扱いについて ④ ロッカーの配置替えについて ⑤ その他
2015年7月27日	第4回 ① 平成27年度 第3回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について（6月手術件数等） ③ 手術室超緊急手術枠（案）について ④ ロッカーの使用状況調査について ⑤ その他
2015年8月24日	第5回 ① 平成27年度 第4回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について（7月手術件数等） ③ ロッカーの使用状況調査について ④ 手術室超緊急手術枠について ⑤ その他
2015年9月28日	第6回 ① 平成27年度 第5回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について（8月手術件数等） ③ 更衣室内害虫駆除について ④ 手袋の試用について ⑤ 手術室 不要枠の提出について（平成28年1月～3月分） ⑥ その他
2015年10月26日	第7回 ① 平成27年度 第6回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について（9月手術件数等） ③ 手術室緊急枠について（平成28年1月～3月分） ④ 時間外手術について ⑤ 一部滅菌製品の自主回収及び出荷停止について ⑥ その他

2015年11月30日	<p>第8回</p> <p>① 平成27年度 第7回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（10月手術件数等）</p> <p>③ 手術室内生体情報モニタの設置スケジュールについて</p> <p>④ 手術用手袋について</p> <p>⑤ 年末年始の手術制限と申込みについて</p> <p>⑥ その他</p>
2015年12月28日	<p>第9回</p> <p>① 平成27年度 第8回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（11月手術件数等）</p> <p>③ ダヴィンチ手術実績報告について</p> <p>④ タイムアウト修正（案）について</p> <p>⑤ 手術室緊急枠について</p> <p>⑥ その他</p>
2016年1月25日	<p>第10回</p> <p>① 平成27年度 第9回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（12月手術件数等）</p> <p>③ 手術室緊急枠について</p> <p>④ その他</p>
2016年2月22日	<p>第11回</p> <p>① 平成27年度 第10回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（1月手術件数等）</p> <p>③ 手術室ワックス剥離清掃について</p> <p>④ 手術室床シート修繕について</p> <p>⑤ MRI検査時における体内クリップ等の取扱いについて</p> <p>⑥ 消毒薬の変更について</p> <p>⑦ その他</p>
2016年3月28日	<p>第12回</p> <p>① 平成27年度 第11回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（2月手術件数等）</p> <p>③ 講演会のお知らせについて</p> <p>④ ドレーンサンプリングについて</p> <p>⑤ その他</p>

16. 医療器械・備品機種選定委員会

日付	内容等
2015年4月6日	2015年度第1回 超音波診断装置 (放射線技術室)
2015年8月17日	第2回 3次元眼底像撮影装置 1式 (眼科)
2015年8月24日	第3回 ハイビジョン内視鏡システム 1式 (女性内視鏡外科)
2015年9月28日	第4回 手術用顕微鏡 1式 (整形外科)
2015年10月5日	第5回 PET-CT装置 1式 (放射線科・放射線技術室) 治療計画用CT装置 1式 (放射線科・放射線技術室) Cアーム型X線透視装置(ラルス用) 1式 (放射線科・放射線技術室) Cアーム型X線透視装置(テレビ室) 1式 (放射線科・放射線技術室) SPECT-CT装置 1式 (放射線科・放射線技術室)
2015年10月19日	第6回 患者監視装置 3台 (麻酔科)

17. 図書委員会

日付	内容等
2015年8月14日	2015年度第1回 ① 平成26年度決算報告について ② 平成27年度予算の執行状況について ③ 平成28年度予算について ④ 購読雑誌の変更について ⑤ 雑誌の廃棄について

18. 研修委員会

日付	内容等
2015年7月1日	2015年度第1回 ① 研修委員会名簿について ② オリエンテーション評価について ③ 東海北陸地区臨床研修病院合同説明会について(報告) ④ 研修医の評価について ⑤ 平成25年度卒研修医(修了者)の評価集計について ⑥ 病院説明会について
2015年9月30日	第2回 ① 研修医の評価について ② 医学部学生見学におけるアンケート集計について ③ その他

2015年11月4日	第3回 ① 研修医の評価について ② マッチング結果について ③ ローテート（必須）について ④ メンター制度・マンツーマン指導導入について ⑤ その他
------------	---

19. 研修管理委員会

日付	内容等
2016年3月9日	2015年度第1回 ① 平成26年卒 研修医（2年次研修医）について ② 平成27年卒 研修医（1年次研修医）について ③ 平成25年卒 高田医師の研修修了について ④ 平成28年卒 採用予定研修医について ⑤ 平成28年卒 研修管理委員会開催日程について ⑥ 平成28年度研修プログラムについて ⑦ 専攻医プログラムについて

20. 安全衛生委員会（労働安全）

日付	内容等
2015年4月23日	2015年度第1回 ① 平成27年度市民病院安全衛生管理体制について ② 4月の実施状況について ③ 5月の実施目標について ④ 平成26年度事業及び活動報告 ⑤ 平成27年度交通事故削減目標について ⑥ 交通事故撲滅キャンペーンについて ⑦ その他（災害発生状況等）
2015年5月28日	第2回 ① 5月の実施状況について ② 6月の実施目標について ③ 平成26年度事業及び活動報告（未報告分） ④ 全国安全週間に伴う交通安全標語募集について ⑤ 無事故無違反推進キャンペーン参加について ⑥ その他（災害発生状況等）
2015年6月25日	第3回 ① 6月の実施状況について ② 7月の実施目標について ③ 労働基準監督署への報告書について ④ 交通安全標語優秀作品の選考について ⑤ 労働基準監督署への健康診断結果報告について ⑥ その他（災害発生状況等）

2015年7月23日	<p>第4回</p> <p>① 7月の実施状況について</p> <p>② 8月の実施目標について</p> <p>③ 院内インフルエンザワクチン接種対象者について</p> <p>④ 針刺し等事故防止の啓発について</p> <p>⑤ ストレスチェック実施について</p> <p>⑥ その他（災害発生状況等）</p>
2015年8月27日	<p>第5回</p> <p>① 8月の実施状況について</p> <p>② 9月の実施目標について</p> <p>③ 9月安全衛生委員会開催日の変更について</p> <p>④ 肝機能検査における有所見者率について</p> <p>⑤ ストレスチェック実施について</p> <p>⑥ その他（災害発生状況等）</p>
2015年9月17日	<p>第6回</p> <p>① 9月の実施状況について</p> <p>② 10月の実施目標について</p> <p>③ 院内インフルエンザワクチン接種募集について</p> <p>④ ストレスチェック実施について</p> <p>⑤ 交通事故多発に伴う交通安全啓発活動について</p> <p>⑥ その他（災害発生状況等）</p>
2015年10月22日	<p>第7回</p> <p>① 10月の実施状況について</p> <p>② 11月の実施目標について</p> <p>③ 作業環境測定結果報告について</p> <p>④ ストレスチェック実施について</p> <p>⑤ その他（災害発生状況等）</p>
2015年11月26日	<p>第8回</p> <p>① 11月の実施状況について</p> <p>② 12月の実施目標について</p> <p>③ 結核菌感染検査におけるハイリスク部署対象者について</p> <p>④ ストレスチェック実施について</p> <p>⑤ 院内交通安全講座について</p> <p>⑥ その他（災害発生状況等）</p>
2015年12月24日	<p>第9回</p> <p>① 12月の実施状況について</p> <p>② 1月の実施目標について</p> <p>③ 針刺し事例検討について</p> <p>④ 院内インフルエンザワクチン接種状況報告について</p> <p>⑤ ストレスチェック実施について</p> <p>⑥ その他（災害発生状況等）</p>
2016年1月28日	<p>第10回</p> <p>① 1月の実施状況について</p> <p>② 2月の実施目標について</p> <p>③ 労働基準監督署への健康診断結果報告について</p> <p>④ ストレスチェックについて</p> <p>⑤ 健康講座について</p> <p>⑥ 病気休暇等の掲載内容について</p> <p>⑦ その他（災害発生状況等）</p>

2016年2月25日	第11回 ① 2月の実施状況について ② 3月の実施目標について ③ 病気休暇等の掲載内容について ④ 病院近郊における交通事故・違反多発に伴う安全運転啓発について ⑤ その他（災害発生状況等）
2016年3月17日	第12回 ① 3月の実施状況について ② 平成28年度委員会年間計画について ③ 4月の実施目標について ④ 安全衛生委員会検討方法について ⑤ その他（災害発生状況等）

21. 教育・研究委員会

【未実施】

22. 省エネルギー推進委員会

日付	内容等
2015年7月17日	2015年度第1回 ① 平成26年度のエネルギー使用量報告 ② 省エネの取組みの実績について ③ 今年度の省エネ取組みについて

23. 情報セキュリティ委員会

日付	内容等
2015年5月25日	第21回 ① 2015年度情報セキュリティポリシー強化支援業務スケジュールについて ② 情報セキュリティポリシー実施手順書の改定案について
2015年12月21日	第22回 ① 管理者向け情報セキュリティ研修 ② 2015年度情報セキュリティ監査について ③ FAXの誤送信について ④ ランサムウェアについて
2016年3月18日	第23回 ① 2015年度情報セキュリティ内部監査報告 ② 2015年度次期病院総合情報システムに向けた現状分析報告 ③ 2015年度情報セキュリティインシデント報告 ④ 診療情報遠隔参照システム概要について

情報セキュリティ研修の実施（全8回開催）

日付	内容等
2015年6月18日	第1回 13:30～14:30 受講者 168人
2015年6月18日	第2回 17:30～18:30 受講者 152人
2015年6月19日	第3回 13:30～14:30 受講者 174人
2015年6月19日	第4回 17:30～18:30 受講者 133人
2015年7月21日	第5回 13:30～14:30 受講者 107人
2015年7月21日	第6回 17:30～18:30 受講者 117人
2015年7月22日	第7回 13:30～14:30 受講者 126人
2015年7月22日	第8回 17:30～18:30 受講者 118人
	合計 1,095人

24. 医療情報委員会

日付	内容等
2015年6月19日	2015年度第1回 ① 今年度開発について ② 診療予約の設定変更について
2015年9月29日	第2回 ① 病院ホームページのトップページ等デザイン変更について ② 豊橋市民病院診療録等の電子保存に関する運用規定等の追加・修正について

24-1. 診療記録管理部会

日付	内容等
2015年6月18日	2015年度第1回 ① 平成27年度第1回診療記録監査の結果報告について ② 入院時記録の見直しについて ③ 紙カルテの廃棄状況について
2015年10月21日	第2回 ① 平成27年度第2回診療記録監査の結果報告について ② 入院診療計画書の改善について ③ 紙カルテ廃棄の進捗状況及び今後の廃棄計画について
2016年2月8日	第3回 ① 退院時サマリ事務確定後の修正についてのルール化について ② 診療記録の記載の原則について
2016年3月17日	第4回 ① 平成27年度第3回診療記録監査の結果報告について ② 平成28年度以降の診療記録監査実施要領について ③ 診療記録の記載・管理に関する規約の作成について ④ 平成28年度カルテ廃棄に伴うカルテ取り置き調査について

24-2. 医師事務作業補助業務検討部会

【未実施】

25. がん診療委員会

日付	内容等
2016年3月4日	第8回 ① ピアサポート事業について ② 今後のがん診療委員会について がん診療委員会教育部会において、院内・院外の医療関係者等を対象に、「豊橋がん診療フォーラム」を開催。

平成27年度豊橋がん診療フォーラム

日付	内容等	参加人数
2015年5月21日	第47回 ① 小児血液がん領域における臨床研究のデータマネジメント ② 「決められない」がん患者・家族を支える緩和ケア	68人
2015年7月16日	第48回 ① 当院におけるPDCAサイクル～化学療法によるHBV再活性化対策～ ② 放射線治療の進歩と粒子線の役割	62人
2015年9月15日	第49回 ① 当院におけるCT Colonographyの現状 ② 生存期間40か月を目指した切除不能大腸癌治療における後方ライン治療の位置づけ	75人
2015年11月19日	第50回 ① 病理検査室における遺伝子検査の現状と展望 ② 副作用マネジメントにおける当院の取り組み	56人
2016年1月14日	第51回 ① 乳癌術後の肩関節可動域について ② 乳房再建術について	84人
2016年3月17日	第52回 ① 研究報告 ② 実臨床データでの前立腺がんに対する薬物療法の考察	72人
		参加人数計 417人

26. 保険診療委員会・DPC コーディング委員会

日付	内容等
2015年5月20日	第128回 ① 査定状況について ② その他 ・指定難病の拡充について < D P C コーディング委員会 > ③ D P C 請求状況について
2015年7月15日	第129回 ① 査定状況について ② その他 ・手術・処置の休日・時間外・深夜加算1について < D P C コーディング委員会 > ③ D P C 請求状況について
2015年9月16日	第130回 ① 査定状況について ② その他 ・入院診療計画書の作成率の状況 ・1患者1傷病名の登録を目指して（案） < D P C コーディング委員会 > ③ D P C 請求状況について
2015年11月18日	第131回 ① 査定状況について ② その他 ・レセプト点検時の主病名の登録について < D P C コーディング委員会 > ③ D P C 請求状況について
2016年2月17日	第132回 ① 査定状況について ② その他 ・レセプト点検時の主病名登録の依頼について ・保険診療に関する講習会の開催について < D P C コーディング委員会 > ③ D P C 請求状況について
2016年3月16日	第133回 ① 査定状況について ② その他 ・処方上の注意について ・病名登録について ・2016年度診療報酬改定に伴うシステム改修について ・医療機関別係数について（Ⅱ群の指定） < D P C コーディング委員会 > ③ D P C 請求状況について

27. クリニカル・パス委員会

日付	内容等
2015年6月30日	第18回 ① パスの整理・実施状況について ② 『ブチルスコポラミン注』のパス登録状況について ③ 抗生剤の登録状況について ④ その他

28. 健康診断事業運営委員会

【未開催】

29. 患者総合支援センター医療福祉相談部門運営委員会

日付	内容等
2015年4月9日	2015年度第1回 ① 平成26年度業務報告 ② 転院先医療機関の空床状況 ③ 虐待対策委員会より
2015年6月11日	第2回 ① センター設備について ② 在宅支援勉強会再開について ③ 精神・身体合併症連携推進事業の課題
2015年8月13日	第3回 ① 介護保険説明会について ② サマーセミナーについて ③ 虐待対策委員会の現状
2015年10月7日	第4回 ① サマーセミナーの報告 ② 介護保険説明会の報告 ③ 次年度の精神・身体合併症連携事業について
2015年12月10日	第5回 ① 病棟担当制の導入について ② 患者総合支援センターだよりについて ③ 次年度の精神・身体合併症連携事業の運用について
2016年2月25日	第6回 ① 運営委員会要綱の改正について ② ウィンターセミナー報告 ③ 診療報酬改定について

30. 児童虐待対策委員会（27.7～虐待対策委員会に変更）

日付	内容等
2015年6月18日	2015年度第1回 ① 平成26年度虐待通告実績について ② 講演会の開催について ③ 虐待対策委員会の再編について
2015年11月11日	第2回 ① 平成27年度上半期虐待通告実績について ② 院内マニュアルの変更について ③ 講演会（児童、成人）の開催日程等について

31. 退院調整検討委員会

長期入院患者カンファレンス、病棟ラウンド 12回開催

32. 呼吸療法運営委員会

日付	内容等
2015年6月3日	第9回 ① 今年度の委員会名簿とRSTチーム名簿について ② 呼吸療法ケアチーム運営要領（案）について ③ 呼吸ケアチーム加算算定実績について ④ 昨年度の活動状況について（人工呼吸器使用状況、RST活動報告） ⑤ 今年度の活動状況について
2016年3月7日	第10回 ① 今年度の活動内容報告（RST活動報告、人工呼吸器使用状況） ② 呼吸ケアチーム加算算定実績について ③ 来年度に向けた呼吸療法委員会及びRSTの目標

33. 医療安全管理委員会・リスクマネジメント部会

日付	内容等
2015年4月2日	2015年度第1回 ① 2015年度委員会委員について ② 2015年2月分インシデント報告について ③ 2014年度重点目標の達成度調査について ④ 2015年度年間計画について ⑤ 医療安全管理の動向について
2015年5月7日	第2回 ① 2015年3月分インシデント報告について ② 2014年度インシデント年間集計について ③ 2015年度重点目標について ④ 2015年度院内安全ラウンドについて ⑤ 医療安全管理の動向について

2015年6月4日	第3回 ① 2015年4月分インシデント報告について ② リスクマネジメント講習会（薬剤）・放射線技術室との合同開催について ③ 医療安全管理の動向について
2015年7月2日	第4回 ① 2015年5月分インシデント報告について ② リスクマネジメント講習会（薬剤）・放射線技術室との合同開催について ③ 医療安全管理の動向について
2015年8月6日	第5回 ① 2015年6月分インシデント報告について ② 医療安全講習会の開催について ③ 医療安全管理の動向について
2015年9月3日	第6回 ① 2015年7月分インシデント報告について ② リスクマネジメント講習会（医療機器）の開催について ③ 医療安全管理の動向について
2015年10月1日	第7回 ① 2015年8月分インシデント報告について ② リスクマネジメント講習会（医療機器）の開催について ③ 医療安全管理の動向について
2015年11月5日	第8回 ① 2015年9月分インシデント報告について ② 2015年度上半期（4月～9月）インシデント集計について ③ リスクマネジメント講習会（医療機器）について ④ 内部監査について ⑤ 医療安全に関する標語の一次審査について ⑥ 医療安全管理の動向について
2015年12月3日	第9回 ① 2015年10月分インシデント報告について ② 2015年度内部監査の結果について ③ 医療安全に関する標語の二次審査について ④ 医療安全管理の動向について
2016年1月7日	第10回 ① 2015年11月分インシデント報告について ② 2015年度フォローアップ監査について ③ 医療安全管理の動向について
2016年2月4日	第11回 ① 2015年12月分インシデント報告について ② 医療安全管理の動向について ③ 2015年度フォローアップ監査の結果について
2016年3月3日	第12回 ① 2016年1月分インシデント報告について ② 医療安全管理の動向について

医療安全研修会の実施

日付	内容等	受講者
2015年7月9日	リスクマネジメント講習会（薬剤・放射線）	148人
2015年7月14日	リスクマネジメント講習会（薬剤）	100人
2015年8月25日	医療安全講習会	152人
2015年8月26日	医療安全講習会	75人
2015年11月27日	リスクマネジメント講習会（医療機器・放射線）	116人
2015年11月30日	リスクマネジメント講習会（医療機器）	93人
2015年12月8日	リスクマネジメント講習会（医療機器）	71人
2016年3月15日	医療安全講習会	75人
2016年3月15日	医療安全講習会	164人

34. 医療機器安全管理委員会（透析機器安全管理部会）

日付	内容等
2016年3月9日	2015年度第1回医療機器安全管理委員会 ① 平成27年度医療機器研修実施報告 ② 平成27年度医療機器保守実施報告 ③ 平成27年度AED使用件数報告 ④ 平成28年度医療機器研修・保守管理計画案について ⑤ 単回使用機器の再滅菌申請件数確認 ⑦ その他、報告事項
(2015年9月2日)	2015年度第1回透析機器安全管理部会（血液浄化センター） ① 透析液水質管理・細菌検査報告（2015年度上半期） ② 透析機器管理報告 ③ 透析機器管理・水質管理に関する報告、計画案 ④ その他 血液浄化センター臨床工学より
(2016年3月16日)	第2回透析機器安全管理部会（血液浄化センター） ① 透析液水質管理・細菌検査報告（2015年度下半期） ② 透析機器管理報告 ③ 透析機器管理・水質管理に関する予定報告（2016年度計画） ④ 次年度更新機器、廃棄機器計画 ⑤ オンラインHDFの導入検討

35. 栄養管理委員会

日付	内容等
2015年5月27日	第21回 ① 平成27年度栄養管理委員会名簿について ② 平成26年度食事アンケートの結果について ③ 病院給食改善会議、検討項目集計について ④ 病院給食改善について
2016年2月3日	第22回 ① 平成27年度患者満足度調査（入院中の食事）の結果について ② 平成27年度食事アンケート調査について ③ 病院給食改善会議、検討項目集計について

36. NST運営委員会

日付	内容等
2015年5月13日	第29回 ① 平成27年度NST運営委員会名簿について ② 平成26年度NST活動実績について ③ 栄養管理計画書について ④ 栄養サポートチーム加算について ⑤ 平成27年度NST教育カリキュラムの実施について ⑥ NST年間計画について
2016年3月2日	第30回 ① 栄養管理計画書について ② 栄養サポートチーム加算について ③ NST教育カリキュラムの実施について

NST定期教育講演会

日付	内容等
2015年5月20日	第116回 臨床検査値の見方について 講師 小島 克枝 (中央臨床検査室) NST回診依頼について 講師 山田 恭子 (看護局)
2015年6月17日	第117回 当院の輸液製剤について 講師 坂部 米治 (薬局) 当院の患者食について 講師 藤田 克宣 (栄養管理室)
2015年9月28日	第118回 高齢者医療におけるフレイルと栄養の問題 講師 葛谷 雅文 (名古屋大学医学部附属病院)
2015年10月28日	第119回 嚥下の評価と治療について 講師 小澤泰次郎 (耳鼻いんこう科部長)
2015年11月18日	第120回 緩和ケア病棟におけるNST活動とアロマセラピー応用の可能性 講師 前川 ゆか (藤田保健衛生大学七栗サナトリウム)
2016年1月20日	第121回 「穂の国食輪会」活動報告 講師 田中 克典 (豊川市民病院) 「I (あい) スケール」の作成から運用へ 講師 漆原 真姫 (やわたメディカルセンター)
2016年2月17日	第122回 褥瘡と栄養 講師 藤田 克宣 (栄養管理室) スキンケア、褥瘡処置方法 講師 鈴木 雅恵 (皮膚・排泄ケア認定看護師)
2016年3月16日	第123回 今年度の学会発表及び院内勉強会の報告について 講師 柴田 佳久 (肛門外科部長兼一般外科第三部長) 藤田 克宣 (栄養管理室)

37. 褥瘡対策委員会

日付	内容等
2015年6月10日	第28回 ① 褥瘡対策委員会要綱（案）及び委員について ② 褥瘡対策チーム運営要領（案）及び褥瘡対策チームメンバーについて ③ 昨年度の活動状況について ・平成26年度褥瘡に関するデータ ・平成26年度の体圧分散寝具・マットレスのデータ及びハイリスク患者ケア加算算定件数 ④ 今年度の活動計画について ⑤ その他 ・弾性ストッキング サンプルテスト終了後のアンケート結果 ・体圧分散マットレス専用使用の評価
2016年2月29日	第29回 ① 今年度の褥瘡発生・治療の実績について ・今年度の褥瘡発生状況 ・診療計画書作成状況と褥瘡ハイリスク対応状況 ・体圧分散寝具について ・医療機器関連圧迫創傷について ② 褥瘡対策チーム活動のまとめについて ③ 来年度に向けた褥瘡対策の目標について ・褥瘡発生件数を減少させるための取り組み ④ その他 ・東海北陸厚生局による適時調査の結果と問題点

38. 薬事委員会

日付	内容等
2015年5月27日	2015年度第1回 ① 前回議事録について報告 ② 試用薬品4品目について審議 ③ 試用薬品12品目について審議 ④ 変更薬品について審議 ⑤ 試用薬品の延長について審議 ⑥ 後発医薬品への変更について審議 ⑦ その他
2015年6月24日	臨時 ① 試用薬品5品目について審議 ② 変更薬品について審議 ③ 後発医薬品への変更について審議 ④ その他
2015年8月26日	第2回 ① 前回議事録について報告 ② 採用薬品47品目について審議 ③ 試用薬品12品目について審議 ④ 変更薬品について審議 ⑤ 中止薬品について審議 ⑥ その他

2015年9月30日	臨時 ① 試用薬品2品目について審議 ② 変更薬品について審議 ③ 後発医薬品への変更について審議 ④ その他
2015年11月25日	第3回 ① 前回議事録について報告 ② 試用薬品3品目について審議 ③ 試用薬品11品目について審議 ④ 変更薬品について審議 ⑤ 中止薬品について審議 ⑥ 試用薬品の延長について審議 ⑦ その他
2016年1月27日	臨時 ① 試用薬品3品目について審議 ② 変更薬品について審議 ③ 後発医薬品への変更について審議 ④ その他
2016年2月24日	第4回 ① 前回議事録について報告 ② 新規採用薬品24品目について審議 ③ 新規試用薬品8品目について審議 ④ 変更薬品について審議 ⑤ 中止薬品について審議 ⑥ その他
2016年3月23日	臨時 ① 変更薬品について審議 ② 後発医薬品への変更について審議 ③ その他

39. 治験審査委員会

日付	内容等
2015年5月27日	2015年度第1回 ① 前回議事録について報告 ② 平成26年度 治験・フェイズIV実施状況の報告 ③ 治験の審査 ④ 実施中の治験の安全性について審議 ⑤ 重篤な有害事象に関する報告 ⑥ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議 ⑦ 治験の迅速審査について報告 ⑧ 製造販売後調査の迅速審査について報告 ⑨ その他

2015年6月24日	<p>第2回</p> <p>① 前回議事録について報告</p> <p>② 治験の審査</p> <p>③ 実施中の治験の安全性について審議</p> <p>④ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</p> <p>⑤ 治験実施状況について審議</p> <p>⑥ 治験の開発中止等について報告</p> <p>⑦ 製造販売後調査の迅速審査について報告</p> <p>⑧ その他</p>
2015年8月26日	<p>第3回</p> <p>① 前回議事録について報告</p> <p>② 治験の審査</p> <p>③ 実施中の治験の安全性について審議</p> <p>④ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</p> <p>⑤ 治験実施状況について審議</p> <p>⑥ 治験の迅速審査について報告</p> <p>⑦ 製造販売後調査の迅速審査について報告</p>
2015年9月30日	<p>第4回</p> <p>① 前回議事録について報告</p> <p>② 治験の審査</p> <p>③ 実施中の治験の安全性について審議</p> <p>④ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</p> <p>⑤ 治験実施状況について審議</p> <p>⑥ 製造販売後調査の迅速審査について報告</p>
2015年11月25日	<p>第5回</p> <p>① 前回議事録について報告</p> <p>② 実施中の治験の安全性について審議</p> <p>③ 重篤な有害事象に関する報告</p> <p>④ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</p> <p>⑤ 治験実施状況について審議</p> <p>⑥ 治験の迅速審査について報告</p> <p>⑦ 製造販売後調査の迅速審査について報告</p>
2016年1月27日	<p>第6回</p> <p>① 前回議事録について報告</p> <p>② 実施中の治験の安全性について審議</p> <p>③ 重篤な有害事象に関する報告</p> <p>④ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</p> <p>⑤ 治験実施状況について審議</p> <p>⑥ 治験の迅速審査について報告</p> <p>⑦ 治験の開発中止等について報告</p> <p>⑧ 治験のその他について報告</p> <p>⑨ 製造販売後調査の迅速審査について報告</p>
2016年2月24日	<p>第7回</p> <p>① 前回議事録について報告</p> <p>② 実施中の治験の安全性について審議</p> <p>③ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</p> <p>④ 治験の終了について報告</p> <p>⑤ 治験の迅速審査について報告</p> <p>⑥ 製造販売後調査の迅速審査について報告</p>

2016年3月23日	<p>第8回</p> <p>① 前回議事録について報告</p> <p>② 実施中の治験の安全性について審議</p> <p>③ 重篤な有害事象に関する報告</p> <p>④ 緊急の危険を回避するための逸脱に関する報告</p> <p>⑤ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</p> <p>⑥ 治験実施状況について審議</p> <p>⑦ 治験の迅速審査について報告</p> <p>⑧ 製造販売後調査の迅速審査について報告</p>
------------	--

40. 輸血療法委員会

日付	内容等
2015年4月14日	<p>第124回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管理料</p> <p>③ 廃棄率集計報告</p> <p>④ 血液製剤の使用量、廃棄量の年次推移</p> <p>⑤ 輸血副作用集計報告</p> <p>⑥ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例</p> <p>⑦ クリオプレシピテート使用状況</p> <p>⑧ 血液製剤の廃棄について</p> <p>⑨ 自己血予定患者の感染症検査について</p> <p>⑩ 委員の確認について</p> <p>⑪ アルブミン5%製剤の変更点について</p> <p>⑫ 大型連休中の血液製剤の供給について</p> <p>⑬ その他</p>
2015年6月9日	<p>第125回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管理料</p> <p>③ 廃棄率集計報告</p> <p>④ 輸血副作用集計報告</p> <p>⑤ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例</p> <p>⑥ クリオプレシピテート使用状況</p> <p>⑦ クリオプレシピテート「A型」の運用について</p> <p>⑧ 「非血縁者間骨髄採取施設・移植診療科の認定申請」施設訪問について</p> <p>⑨ I&A申請進捗状況</p> <p>⑩ 骨髄移植等で血液型が変わった患者の輸血依頼について</p> <p>⑪ その他</p>
2015年8月18日	<p>第126回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管理料</p> <p>③ 廃棄率集計報告</p> <p>④ 輸血副作用集計報告</p> <p>⑤ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例</p> <p>⑥ クリオプレシピテート使用状況</p> <p>⑦ AB型新鮮凍結血漿について</p> <p>⑧ I&Aについて</p> <p>⑨ 委員の追加について</p> <p>⑩ アルブミン製剤について</p> <p>⑪ その他</p>

2015年10月13日	<p>第 127 回</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 前回議事録の確認 ② RBC、FFP、ALB の使用量推移と輸血管管理料 ③ 廃棄率集計報告 ④ 輸血副作用集計報告 ⑤ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例 ⑥ クリオプレシピテート使用状況 ⑦ 輸血関係インシデント報告 ⑧ 献血アルブミン移行進捗状況 ⑨ I&A について ⑩ 輸血療法監査チームについて ⑪ その他
2015年12月 8 日	<p>第 128 回</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 前回議事録の確認 ② RBC、FFP、ALB の使用量推移と輸血管管理料 ③ 廃棄率集計報告 ④ 輸血副作用集計報告 ⑤ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例 ⑥ クリオプレシピテート使用状況 ⑦ 輸血関係インシデント報告 ⑧ 献血アルブミン移行進捗状況 ⑨ 輸血用製剤の払い出しについて ⑩ I&A について ⑪ その他
2016年 2 月 9 日	<p>第 129 回</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 前回議事録の確認 ② RBC、FFP、ALB の使用量推移と輸血管管理料 ③ 廃棄率集計報告 ④ 輸血副作用集計報告 ⑤ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例 ⑥ クリオプレシピテート使用状況 ⑦ 手術センター RBC 使用状況 ⑧ 赤血球抗原情報検索システムの利用について ⑨ 献血アルブミン移行進捗状況 ⑩ 輸血用製剤の払い出しについて ⑪ その他

41. 臨床検査連絡委員会

日 付	内容等
2015年 7 月30日	<p>第 44 回</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 要綱の改訂について ② 検査実施状況について ③ 2015 年度機器等更新について ④ 2015 年度新規業務について ⑤ 2015 年度増大業務について ⑥ 自費検査登録申請について ⑦ 研究用検体超低温フリーザーの運用について ⑧ 検査値チェック（パニック値報告）の運用変更について ⑨ その他

42. 剖検・CPC 委員会

日付	内容等
2015年10月29日	2015 年度第 1 回 ① 平成 26 年度解剖数について ② その他

43. 放射線技術室連絡委員会

日付	内容等
2015年9月9日	第 15 回 ① 委員会要綱と平成 27 年度委員会名簿について ② 平成 27 年度高額放射線機器の予算執行状況 ③ C アーム型 X 線透視撮影装置推薦機種について ④ 平成 28 年度の放射線機器の要求について ⑤ その他

44. リハビリテーションセンター運営委員会

【未開催】

45. 放射線安全委員会

日付	内容等
2015年6月2日	2015 年度第 1 回 ① 平成 27 年度放射線安全委員について ② 平成 26 年度従事者登録と教育および健康診断の実施状況報告 ③ 平成 26 年度管理状況報告書の提出について ④ 平成 27 年度保管線源の登録について ⑤ 豊橋市民病院放射線障害予防規定の変更について ⑥ 医療被ばく低減施設認定申請について ⑦ その他

46. PET 診療放射線安全委員会

日付	内容等
2015年6月2日	2015 年度第 1 回 ① 安全管理規程、運用規則、委員の承認について ② その他

47. 医療ガス安全・管理委員会

日付	内容等
2015年5月22日	2015年度第1回 ① 平成27年度医療ガス安全管理委員会委員について ② 医療ガス設備修繕予定について ③ 医療ガス設備点検委託業者と報告書処理について ④ 放射線治療施設等整備工事に関する医療ガス工事について ⑤ その他
2016年3月11日	第2回 ① 平成27年度医療ガス設備保守点検の結果について 放射線治療施設整備に伴う医療ガスの工事について

48. 豊橋市医師会・豊橋市民病院病診連携協議会

【V 診療業務概要、活動報告 患者総合支援センターに記載】

49. 地域医療支援委員会

日付	内容等
2015年5月21日	2015年度第1回 ① 地域医療支援病院の取り組み状況について ・平成26年度紹介率・逆紹介率の状況 ・平成26年度の地域連携登録医の状況 ・平成26年度の地域連携登録医による共同利用等の状況 ・平成27年度地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修計画 ・平成26年の地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修実績 ② その他
2015年8月20日	第2回 ① 地域医療支援病院の取り組み状況について ・平成27年度紹介率・逆紹介率の状況 ・平成27年度の地域連携登録医の状況 ・平成27年度の地域連携登録医による共同利用等の状況 ・平成27年度の研修実績・計画について ② 各委員所属団体からの情報提供事項について ③ 講演会 手術支援ロボット「ダヴィンチ」によるがん治療
2015年11月26日	第3回 ① 地域医療支援病院の取り組み状況について ・平成27年度紹介率・逆紹介率の状況 ・平成27年度の地域連携登録医の状況 ・平成27年度の地域連携登録医による共同利用等の状況 ・平成27年度の研修実績・計画について ② 各委員所属団体からの情報提供事項について

2016年2月25日	<p>第4回</p> <p>① 地域医療支援病院の取り組み状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度紹介率・逆紹介率の状況 ・平成27年度の地域連携登録医の状況 ・平成27年度の地域連携登録医による共同利用等の状況 ・平成27年度の研修実績・計画について <p>② 各委員所属団体からの情報提供事項について</p> <p>③ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度からの選定療養費について ・次年度の委員選出について
------------	---

50. 総合周産期母子医療センター運営委員会

日付	内容等
2015年4月24日	<p>2015年度第1回</p> <p>① 委員会設置要綱及び委員名簿</p> <p>② 2014年度総合周産期母子医療センター活動状況</p> <p>③ 症例検討</p> <p>④ その他（バースセンター症例、その他）</p>
2015年8月28日	<p>第2回</p> <p>① 2015年4月～7月度総合周産期母子医療センター活動状況</p> <p>② 症例検討</p> <p>③ その他（バースセンター症例）</p>
2015年12月18日	<p>第3回</p> <p>① 2015年4月～10月度総合周産期母子医療センター活動状況</p> <p>② 症例検討</p> <p>③ その他（バースセンター症例）</p>

51. 認知症対策委員会

日付	内容等
2015年4月14日	<p>2015年度第1回</p> <p>① 認知症対策委員会の設置について</p> <p>② 平成26年度「認知症対応病院モデル事業」</p> <p>③ 平成27年度の事業計画について</p> <p>④ その他</p>
2015年9月29日	<p>第2回</p> <p>① 院内デイケアについて</p> <p>② 認知症サポートチームの活動状況について</p> <p>③ その他</p>

52. 豊橋市民病院院外処方連絡協議会

日付	内容等
2016年3月14日	2015年度第1回 ① 前回議事録について報告 ② 調剤過誤について ③ 後発医薬品について ④ 薬薬連携について ⑤ その他

編集後記

病院年報第25巻(2015)では、前年度の年報作成で課題が明らかとなった一次診療情報の精度の向上に努めた。具体的には各科で診療された疾患の分類に、国際的な疾病統計分類であるICD-10コードが付けられるようになった。このためには、主病名チェックを徹底し、いわゆる.9コードを減らすなど医事課の協力が不可欠であった。データの抽出整理にはドクタークラークのCDチームの存在が欠かせなかった。これまで医師が負っていた仕事を補助したのであるが、本来は診療記録管理の業務である。年報作成にあたっての医師の負担は軽減されたが、診療技術局、看護局、事務局の負担はなお大きい。

来年度からも一次診療情報の精度をあげて、その二次利用の質を高めていく。病院年報は年度ごとの一次診療情報の整理であり、この知識を生かす知恵が生まれてくることを期待する。今年から表紙のデザインを変更した。当院が所蔵する約120点の貴重な絵画を順次紹介していく予定である。

年報編集委員会委員長 杉浦 勇

編集委員

平成28年4月1日

区分	職名	氏名
委員長	副院長 兼医局血液・腫瘍内科第一部長 兼輸血・細胞治療センター長 兼外来治療センター長 兼卒後臨床研修センター長	杉浦 勇
編集委員	循環器内科第二部長	成瀬 賢伸
編集委員	副院長 兼医局消化器内科第一部長 兼感染症管理センター長 兼入院支援センター長	浦野 文博
編集委員	医局 一般外科第三部長	吉原 基
編集委員	医局 小児科第二部長	伊藤 剛
編集委員	医局 女性内視鏡外科部長	梅村 康太
編集委員	診療技術局 放射線技術室長補佐 兼医療安全管理室長補佐	平田 政和
編集委員	診療技術局 中央臨床検査室長補佐 兼医療安全管理室長補佐	三ツ矢 康乃
編集委員	薬局 次長補佐	菰田 容子
編集委員	看護局 人事科長	間瀬 有奈
編集委員	事務局 管理課主幹	中野 浩二
編集委員	事務局 医事課長補佐	武田 有祐
編集委員	事務局 医療情報課長補佐	沼田 敏明
事務局	医療情報課企画推進グループ主査	原瀬 正敏
事務局	医療情報課企画推進グループ	倉知 弥生
事務局	医療情報課企画推進グループ	都築 磨美子

豊橋市民愛市憲章

わたくしたち豊橋市民は

1. 心をあわせ美しい町をつくりましょう
1. よく働き豊かな町をつくりましょう
1. 愛情をもちあたたかい町をつくりましょう
1. きまりを守り明るい町をつくりましょう
1. 教養をたかめ文化の町をつくりましょう

中村正義（なかむら・まさよし） 1924-1977
《夕陽》 1949年 131.0 × 259.0cm 絹本着色
豊橋市民病院蔵

愛知県豊橋市に生まれる。豊橋市立商業学校を病気のため中退。1946年、日本画家中村岳陵の画塾〈蒼野社〉に入門し、日展を舞台に活躍する。同展で二度の特選を受賞し、審査員を務めるなど前途を嘱望されたが、自由な創作表現を求めて61年に日展を脱退。その後は日展時代の穏やかな作風から一転し、ポンドや蛍光塗料等を使用した激しい作風へと変わっていった。74年、同郷の星野眞吾らと〈^{ひとひと}人人会〉を結成。77年、52歳で死去。88年に神奈川県川崎市の自宅に「中村正義の美術館」が開館。《夕陽》は正義が25歳の時に豊橋市の田園風景を描いたもので、第5回日展に入選した。

病院年報 第25巻

平成 28(2016)年 11 月 発刊

発 刊：豊橋市民病院

〒441-8570

豊橋市青竹町字八間西50番地

TEL (0532) 33-6111 (代表) FAX (0532) 33-6177

編 集：豊橋市民病院年報編集委員会

印 刷：有限会社 伊藤印刷



豊橋市民病院

〒441-8570 豊橋市青竹町字八間西50番地

TEL 〈0532〉 33-6111

FAX 〈0532〉 33-6177

インターネットホームページ

<http://www.municipal-hospital.toyohashi.aichi.jp/>